

# 砂 行 遺 跡

【第2分冊】

2000

財団法人 岐阜県文化財保護センター

す 砂      ぎょう 行      遺      跡

【第2分冊】

2000

財団法人 岐阜県文化財保護センター

## 本文目次 (第2分冊)

第6章 自然科学分析	1
第1節 住居跡の焼成年代推定	(パレオ・ラボ 藤根 久) … 1
第2節 砂行遺跡の花粉化石群集	(パレオ・ラボ 新山雅広) … 9
第3節 砂行遺跡の竪穴住居跡出土炭化材の樹種同定	(パレオ・ラボ 植田弥生) … 15
第4節 弥生後期～古墳中期土器の胎土材料	(パレオ・ラボ 藤根・今村美智子) … 25
第5節 砂行火葬墓出土の火葬人骨	(杉原麻記・成瀬) … 43
第7章 考察	45
第1節 砂行遺跡における住居形態と集落形態	(成瀬) … 45
第2節 砂行遺跡における土器の在地色	(成瀬) … 53
第3節 出土石器の考察	(鈴木) … 63
第4節 砂行1号古墳出土鏡と雄之尾3号古墳出土鏡について	(成瀬) … 67
第5節 砂行遺跡における後期群集墳の形成と終末	(成瀬) … 70

遺物観察表

図版

## 挿 図 目 次

<p>図303 Shibuya (1980) による地磁気永年変化曲線 ..... 4</p> <p>図304 A 8号住居1 Na 5の段階交流消磁測定結果 ..... 5</p> <p>図305 E 1号住居Na 5の段階交流消磁測定結果 ..... 6</p> <p>図306 住居跡の残留磁化方向と地磁気永年変化曲線 (Shibuya, 1980) の一部 ..... 8</p> <p>図307 試料採取地点 (SDD01 B北壁) のセクション図 ..... 9</p> <p>図308 SDD01 B (北壁) の花粉化石分布図 ..... 12</p> <p>図309 産出した花粉化石 ..... 14</p> <p>図310 砂行遺跡の竪穴住居跡 (SBA12) 出土炭化材の産状と同定樹種 ..... 20</p> <p>図311 砂行遺跡の竪穴住居跡 (SBA26) 出土炭化材の産状と同定樹種 ..... 20</p> <p>図312 砂行遺跡の竪穴住居跡 (SBA30) 出土炭化材の産状と同定樹種 ..... 21</p> <p>図313 砂行遺跡の竪穴住居跡 (SBA34) 出土炭化材の産状と同定樹種 ..... 21</p> <p>図314 砂行遺跡の竪穴住居跡 (SBA36) 出土炭化材</p>	<p>の産状と同定樹種 ..... 22</p> <p>図315 砂行遺跡の竪穴住居跡 (SBC05) 出土炭化材の産状と同定樹種 ..... 22</p> <p>図316 砂行遺跡の竪穴住居跡 (SBC12) 出土炭化材の産状と同定樹種 ..... 23</p> <p>図317 砂行遺跡の竪穴住居跡 (SBC24) 出土炭化材の産状と同定樹種 ..... 23</p> <p>図318 砂行遺跡の竪穴住居跡 (SBE01) 出土炭化材の産状と同定樹種 ..... 24</p> <p>図319 土器胎土中の粒子組成図 ..... 37</p> <p>図320 伊勢—三河湾周辺の地層分布図 ..... 40</p> <p>図321 土器胎土中の砂粒顕微鏡写真 ..... 41</p> <p>図322 粘土試料中の微化石類顕微鏡写真 ..... 42</p> <p>図323 II期集落小支群分布図 ..... 49</p> <p>図324 罌A 1期集成 ..... 59</p> <p>図325 罌A 2期集成 ..... 60</p> <p>図326 糸直文系の鉢及び赤褐色器古集成 ..... 61</p> <p>図327 在地系土器の変遷 ..... 62</p> <p>図328 雉之尾3号古墳出土鏡略図 ..... 68</p>
---	---

## 表 目 次

<p>表17 残留磁化測定による焼成年代推定 ..... 3</p> <p>表18 住居焼土の残留磁化測定結果と統計計算結果 ..... 7</p> <p>表19 花粉化石一覧表 ..... 11</p> <p>表20 砂行遺跡の竪穴住居跡出土炭化材の樹種同定 ..... 19</p> <p>表21 砂行遺跡の竪穴住居跡ごとの出土炭化材の樹種 ..... 19</p> <p>表22 土器胎土中の粒子組成一覧表 (その1) ..... 35</p> <p>表22 土器胎土中の粒子組成一覧表 (その2) ..... 36</p> <p>表23 土器胎土中の粘土と砂粒の特徴 ..... 38</p> <p>表24 時期別の土器材料粘土と砂粒組成 ..... 39</p> <p>表25 A区竪穴住居跡観察表 ..... 47</p> <p>表26 C区竪穴住居跡観察表 ..... 47</p> <p>表27 E区竪穴住居跡観察表 ..... 47</p> <p>表28 小支群毎の住居数の変遷 ..... 50</p> <p>表29 小支群の拠点住居・単拠点住居数の変遷 ..... 51</p> <p>表30 砂行遺跡における石器組成 ..... 64</p> <p>表31 住居跡出土石器機能の変遷 ..... 65</p> <p>表32 砂行大溝出土石器機能の変遷 ..... 66</p> <p>表33 A区住居跡出土土器観察表 ..... 77~82</p> <p>表34 C区住居跡出土土器観察表 ..... 82~86</p> <p>表35 E区住居跡出土土器観察表 ..... 86・87</p> <p>表36 A区水場遺構出土土器観察表 ..... 87</p> <p>表37 砂行大溝出土土器観察表 ..... 87~98</p> <p>表38 砂行2・3号古墳出土土器観察表 ..... 98</p> <p>表39 砂行大冨塚出土土器観察表 ..... 99</p>	<p>表40 砂行遺跡包含層出土土器観察表 ..... 99~103</p> <p>表41 A区水場遺構出土木製品観察表 ..... 103</p> <p>表42 砂行大溝出土木製品観察表 ..... 103・104</p> <p>表43 住居跡出土金属製品観察表 ..... 104</p> <p>表44 砂行1号古墳出土金属製品観察表 ..... 104</p> <p>表45 砂行2号古墳出土鉄製刀子観察表 ..... 104</p> <p>表46 砂行2号古墳出土鉄釘観察表 ..... 104</p> <p>表47 包含層出土銅類・鉄類観察表 ..... 105</p> <p>表48 包含層出土骨管観察表 ..... 105</p> <p>表49 包含層出土貨幣観察表 ..... 105</p> <p>表50 石鏃計測・観察表 ..... 107・108</p> <p>表51 磨製石鏃計測・観察表 ..... 109</p> <p>表52 石槍計測・観察表 ..... 109</p> <p>表53 有舌突頭器計測表 ..... 109</p> <p>表54 ナイフ形石器計測表 ..... 109</p> <p>表55 石鏃計測・観察表 ..... 109</p> <p>表56 スクレイパー類 (つまみ部付きスクレイパー) 計測・観察表 ..... 110</p> <p>表57 スクレイパー類 (削器) 計測・観察表 ..... 110</p> <p>表58 スクレイパー類 (播器1) 計測・観察表(1) ..... 110</p> <p style="padding-left: 2em;">スクレイパー類 (播器1) 計測・観察表(2) ..... 111</p> <p>表59 スクレイパー類 (播器II) 計測・観察表 ..... 111</p> <p>表60 スクレイパー類 (播器III) 計測・観察表 ..... 111</p> <p>表61 スクレイパー類 (ノッチドスクレイパー) 計測・観察表 ..... 111</p>
--	--

表62	スクレイパー類(複合スクレイパー)計測・観察表	111
表63	へら形石器計測表	111
表64	楔形石器計測・観察表	111
表65	打製石斧計測・観察表(1)	112
	打製石斧計測・観察表(2)	113
表66	磨製石斧計測・観察表	113
表67	粗製石器計測・観察表	113
表68	有肩扇状石器計測・観察表	113
表69	石核計測・観察表	114
表70	打欠石錘計測・観察表(1)	114
	打欠石錘計測・観察表(2)	115
	打欠石錘計測・観察表(3)	116
	打欠石錘計測・観察表(4)	117
表71	切目石錘計測・観察表	117

表72	凹・敲・叩・磨石類計測・観察表(1)	117
	凹・敲・叩・磨石類計測・観察表(2)	118
	凹・敲・叩・磨石類計測・観察表(3)	119
	凹・敲・叩・磨石類計測・観察表(4)	120
	凹・敲・叩・磨石類計測・観察表(5)	121
	凹・敲・叩・磨石類計測・観察表(6)	122
	凹・敲・叩・磨石類計測・観察表(7)	123
表73	石皿計測・観察表	124
表74	礫石計測・観察表(1)	124
	礫石計測・観察表(2)	125
表75	石棒計測表	126
表76	勾玉計測表	126
表77	有孔円盤計測表	126
表78	異形部分磨製石器計測表	126
表79	I期土器観察表	127

## 写真図版

図版1	砂行遺跡全景、砂行遺跡東側の遺構群
図版2	遺跡西側に展開する谷底平野(砂行1号古墳から)、砂行大溝作業風景(中央上は砂行1号古墳)
図版3	SBA26付近、SBA35付近
図版4	A区・C区の住居跡密集集、右手前からSBA22・SBA07・SBA12・SBA08・SBC02
図版5	SBA01、SBA03、SBA10、SBA11、SBA13
図版6	SBA12・SBA08、SBA15
図版7	手前からSBA15・SBA35・SBA26・SBC19、SBA19、SBA23、SBA28、SBA31
図版8	SBA26、SBA26
図版9	SBA26 遺物出土状況、SBA26遺物出土状況
図版10	SBA30周辺、SBA30
図版11	SBA33、SBA33土器出土状況、SBA32、SBA34、SBA39
図版12	SBC19付近、SBC01
図版13	SBC02、SBC03
図版14	手前からSBC05・SBC17・SBC06、SBC10、SBC12、SBC14、SBC12遺物出土状況
図版15	右からSBC16・SBC31・SBC27、SBC19、SBC23、SBC24、SBC25
図版16	SBC30、SBC33、SBC34、SBC35、SBC37
図版17	SBC37内、SBC37竈
図版18	SBC37内 SK 5、SBC38
図版19	SBE01周辺、SBE01周辺
図版20	SBE01、SBE01炭化材出土状況、SBE01遺物出土状況、SBE01破鏡出土状況
図版21	SBE03、SBE03竈、SBE04、SBE04磨製石鉄出土状況、SBE05、SBE07、SBE08、SBE08地床が
図版22	SHA01、水場遺構
図版23	砂行1号古墳調査前、砂行1号古墳調査後
図版24	砂行1号古墳全景、砂行1号古墳から北を望む

図版25	砂行1号古墳から西を望む、砂行1号古墳から南を望む
図版26	砂行1号古墳西側葎石、砂行1号古墳北東側葎石
図版27	砂行1号古墳第5列区画石列付近、砂行1号古墳第5列区画石列
図版28	砂行1号古墳第6列区画石列、砂行1号古墳第16列区画石列付近
図版29	砂行1号古墳造り出し部、砂行1号古墳造り出し部東くびれ部
図版30	砂行1号古墳墳頂部盗掘坑、砂行1号古墳墳頂部盗掘坑断面
図版31	砂行1号古墳西側墳丘断面、砂行1号古墳東側墳丘断面
図版32	砂行1号古墳第2主体部掘削前、砂行1号古墳第2主体部掘削後
図版33	砂行1号古墳第2主体部銅鏡出土状況、砂行1号古墳第2主体部出土銅鏡
図版34	砂行大溝掘削前、掘削途中の砂行大溝
図版35	砂行大溝全景、砂行大溝(手前)と砂行1号古墳(上中央)
図版36	掘削途中の砂行大溝湧水点、Ⅲ期砂行大溝湧水点
図版37	砂行大溝上流部、砂行大溝N区
図版38	砂行大溝湧水点付近の石敷き、砂行大溝湧水点脇の立石
図版39	掘削後の砂行大溝N区、砂行大溝N区遺物出土状況、砂行大溝Nベルト・Aベルト、砂行大溝Bベルト、砂行大溝Dベルト、砂行大溝Eベルト
図版40	砂行大溝屈折点現状施設(上流から)、砂行大溝屈折点現状施設(下流から)、砂行大溝N区 SE 1、砂行大溝A区 SE 3、SDD11、SDD11断面、砂行大溝下流部、砂行大溝左岸瓦粘土採掘坑群
図版41	砂行大溝B区03層遺物出土状況、砂行大溝

- 屈折点右岸04層遺物出土状況、砂行大溝E区掘出状況
- 図版42 砂行2号古墳調査前、砂行2号古墳調査後
- 図版43 砂行2号古墳全景、砂行2号古墳横穴式石室、砂行2号古墳奥壁、砂行2号古墳玄室遺物出土状況、砂行2号古墳玄門部人骨・遺物出土状況、砂行2号古墳東側壁裏構造
- 図版44 砂行3号古墳全景、砂行3号古墳調査前、砂行3号古墳横穴式石室、砂行4号古墳全景、砂行4号古墳横穴式石室
- 図版45 砂行5号古墳全景、砂行5号古墳横穴式石室
- 図版46 検出当初の砂行火葬墓、砂行火葬墓全景
- 図版47 砂行火葬墓全景、砂行火葬墓石組み、砂行火葬墓閉塞石除去後
- 図版48 砂行火葬墓石組み、砂行火葬墓閉塞石除去後の蔵骨器
- 図版49 D区中世水田(東から)、D区中世水田(北から)、D区中世水田(西から)、SKE15、SKE17
- 図版50 住居跡出土土器(1)
- 図版51 住居跡出土土器(2)
- 図版52 住居跡出土土器(3)
- 図版53 住居跡出土土器(4)
- 図版54 住居跡出土土器(5)
- 図版55 住居跡出土土器(6)
- 図版56 住居跡出土土器(7)
- 図版57 住居跡出土土器(8)
- 図版58 住居跡出土土器(9)
- 図版59 住居跡出土土器00
- 図版60 住居跡出土土器01・水場遺構出土土器
- 図版61 住居跡出土土器02
- 図版62 住居跡出土土器03
- 図版63 住居跡出土土器04
- 図版64 住居跡出土土器05・破鏡
- 図版65 砂行1号古墳第2主体部出土銅鏡(1)
- 図版66 砂行1号古墳第2主体部出土銅鏡(2)
- 図版67 砂行1号古墳出土鉄製品
- 図版68 砂行大溝出土土器(1)
- 図版69 砂行大溝出土土器(2)
- 図版70 砂行大溝出土土器(3)
- 図版71 砂行大溝出土土器(4)
- 図版72 砂行大溝出土土器(5)
- 図版73 砂行大溝出土土器(6)
- 図版74 砂行大溝出土土器(7)
- 図版75 砂行大溝出土土器(8)
- 図版76 砂行大溝出土土器(9)
- 図版77 砂行大溝出土土器00
- 図版78 砂行大溝出土土器01
- 図版79 砂行大溝出土土器02
- 図版80 砂行大溝出土土器03
- 図版81 砂行大溝出土土器04
- 図版82 砂行大溝出土土製品(1)
- 図版83 砂行大溝出土木製品(2)
- 図版84 砂行大溝出土木製品(3)
- 図版85 砂行大溝出土木製品(4)
- 図版86 砂行2・3号古墳出土遺物
- 図版87 砂行火葬墓・包含層出土金属製品・包含層出土土器(1)
- 図版88 包含層出土土器(2)
- 図版89 包含層出土土器(3)
- 図版90 包含層出土土器(4)
- 図版91 包含層出土土器(5)
- 図版92 包含層出土金属製品
- 図版93 住居跡出土土器(1)
- 図版94 住居跡出土土器(2)
- 図版95 住居跡出土土器(3)
- 図版96 住居跡出土土器(4)
- 図版97 砂行大溝出土土器(101・02層)
- 図版98 砂行大溝出土土器(203層(1))
- 図版99 砂行大溝出土土器(303層(2))
- 図版100 砂行大溝出土土器(404層(1))
- 図版101 砂行大溝出土土器(504層(2))
- 図版102 砂行大溝出土土器(605層)
- 図版103 砂行大溝出土土器(706層)
- 図版104 包含層出土土器(1)
- 図版105 包含層出土土器(2)
- 図版106 包含層出土土器(3)
- 図版107 包含層出土土器(4)
- 図版108 包含層出土土器(5)
- 図版109 包含層出土土器(6)
- 図版110 包含層出土土器(7)
- 図版111 包含層出土土器(8)
- 図版112 包含層出土I期の土器
- 図版113 砂行大溝D区03層出土桃核
- 図版114 砂行火葬墓出土人骨(一部)
- 図版115 砂行遺跡の竪穴住居跡出土炭化材(1)
- 図版116 砂行遺跡の竪穴住居跡出土炭化材(2)
- 図版117 砂行遺跡の竪穴住居跡出土炭化材(3)

## 第6章 自然科学分析

### 第1節 住居炉跡の焼成年代推定

藤根 久 (パレオ・ラボ)

#### 1. はじめに

砂行遺跡は、丘陵斜面に営まれた弥生時代終わり頃、及び古墳時代中期の住居跡群、縄文時代から古墳時代中期にかけての大溝、尾根上に構築された古墳などからなる遺跡である。ここでは、住居炉跡焼土の熱残留磁化を測定し、その磁化方向から焼成年代を推定した。

#### 2. 考古地磁気年代推定の原理

地球上には地磁気が存在するために、磁石は北を指す。この地磁気は、その方向と強度（全磁力）によって表される。方向は、真北からの角度である偏角（Declination）と水平面からの角度である伏角（Inclination）によって表す。磁気コンパスが北として示す方向（磁北）は、真北からずれており、この間の角度が偏角である。また、磁針をその重心で支え磁南北と平行な鉛直面内で自由に回転できるようにすると、北半球では磁針のN極が水平面より下方を指す。この時の傾斜角が伏角である。現在、この付近の偏角は約6.99°、伏角は約48.94°、全磁力（水平分力）は約30699.9（nT）である（理科年表、1993；いずれも1990年値）。これら地磁気の三要素（偏角・伏角・全磁力）は、観測する地点によって異なった値になる。全世界の地磁気三要素の観測データの解析から、現在の地磁気の分布は、地球の中心に棒磁石を置いた時にできる磁場分布に近似される。また、こうした地磁気は時間の経過とともに変化し、ある地点で観測される偏角や伏角あるいは全磁力の値も時代とともに変化する。この地磁気の変動を地磁気永年変化と呼んでいる。

過去の地磁気の様子は、高温に焼かれた窯跡や炉跡などの焼土、地表近くで高温から固結した火山岩あるいは堆積物などの残留磁化測定から知ることができる。大半の物質は、ある磁場中に置かれると磁気を帯びるが、強磁性鉱物（磁鉄鉱など）はこの磁場が取り除かれた後でも磁気が残る。これが残留磁化である。考古地磁気では、焼土の残留磁化（熱残留磁化）が、焼かれた当時の地磁気の方角を記録していることを利用する。こうした地磁気の化石を調べた結果、地磁気の方角は少しづつではあるが変化しており、その変化は地域によって違っていることが分かっている。過去2,000年については、西南日本の窯跡や炉跡の焼土の熱残留磁化測定から、その変化が詳しく調べられている（広岡、1977; Shibuya, 1980；図303）。また、湖や浅海の堆積物の堆積残留磁化を測定し、過去11,500年間の地磁気変化曲線も求められている（Hyodo ほか、1993）。

年代のよく分かっている窯跡焼土や火山岩の熱残留磁化測定あるいは堆積物の堆積残留磁化から地磁気永年変化曲線が得られると、逆に年代の確かでない遺跡焼土などの残留磁化測定を行い、先の地磁気永年変化曲線と比較することによって、その焼成時の年代が推定できる。また、年代が推定されている窯跡焼土などについても、土器編年とは違った方法で焼成時の年代を推定できることから、さらに科学的な裏付けを得ることができる。この年代推定法が考古地磁気による年代推定法である。た

だし、この方法は、 $^{14}\text{C}$ 年代測定法などの他の絶対年代測定法のように、測定結果単独で年代を決定する方法ではない。すなわち、焼土の熱残留磁化測定から得られる偏角および伏角の値からは複数の年代値が推定されるが、いずれを採用するかは、土器等の年代が参考となる。

### 3. 試料採取と残留磁化測定

考古地磁気による年代推定は、a) 測定用試料の採取および整形、b) 残留磁化測定および統計計算を行い、c) 地磁気永年変化曲線との比較を行い、焼成時の年代を推定した。なお、試料の磁化保持力や焼成以後の二次的な残留磁化の有無などを確認するために、段階交流消磁も行った。

採取した試料は、A 8号住居（弥生時代後期、山中式後期）が焼土20試料、E 1号住居（古墳時代初頭、廻間I式）が焼土21試料である（表18）。

#### a. 測定用試料の採取および整形

試料は、炉跡焼土面の複数箇所において、①一辺約4cmの立方体試料を取り出すため、ヘラあるいは瓦用ハンマーなどを用いて、対象とする部分（良く焼けた部分）の周囲に溝を掘る。②薄く滑いた石膏を試料全体にかけ、試料表面を補強する。③やや堅め（練りハミガキ程度）の石膏を試料上面にかけ、すばやく一辺5cmの正方形のアルミ板を押し付け、石膏が固まるまで放置する。④石膏が固まった後、アルミ板を剥し、この面の最大傾斜の方位および傾斜角を磁気コンパス（考古地磁気用に改良したクリノメータ）で測定し、方位を記録すると同時に、この面に方位を示すマークと番号を記入する。⑤試料を握り起こした後、試料の底面に石膏をつけて補強し持ち帰る。⑥持ち帰った試料は、ダイヤモンド・カッターを用いて一辺3.5cm・厚さ1.5cm程度の立方体に切断する。この際切断面が崩れないように、一面ごとに石膏を塗って補強し、熱残留磁化測定用試料とした。

#### b. 段階交流消磁、熱残留磁化測定および統計計算の結果

熱残留磁化測定は、リング・コア型スピナー磁力計（SMM-85：柳夏原技研製）を用いて測定した。磁化保持力の様子や放棄された後の二次的な磁化の有無を確認するため、任意1試料（ともにNo 5）について交流消磁装置（DEM-8601：柳夏原技研製）を用いて段階的に消磁し、その都度スピナー磁力計を用いて残留磁化を測定した（図304および図305）。その結果、試料の磁化強度は $10^{-2}$ ～ $10^{-3}\text{emu}$ と非常に強い。また、磁化保持力については、NRM（自然残留磁化）に対する75 Oe（エルステッド）の相対強度は、A 8号No 5が約83%と強く、E 1号No 5が約44.3%である（b. 残留磁化の相対強度）。また、磁化方向は、いずれも中心に向かって直線的に変化し、安定した方向を記録している（c. ジターベルト図）。

このように75 Oeで消磁した際の残留磁化方向は、焼成時の磁化方向として問題がないことが判明した。このことから、これ以外の段階交流消磁を行っていない試料についても75 Oe 消磁した後に残留磁化を測定し、各試料の磁化方向とした。

複数試料の測定から得た偏角(Di)、伏角(Ii)を用いて、Fisher(1953)の統計法により平均値(Dm, Im)を求めた。計算した結果は、非常に誤差の小さい値となった(表18)。なお、偏角あるいは伏角のいずれかが計算値から10度以上外れた試料は、その試料を統計計算から除外した(表18)。

求めた熱残留磁化方向は、真北を基準とする座標に対する数値に補正する。偏角は、建設省国土地理院の1990.0年の磁気偏角近似式から計算した $6.99^{\circ}W$ を使用した。その結果は、Shibuya (1980) による地磁気変化曲線とともにプロットした。図中測定点に示した楕円は、フッシャー (1953) の95%信頼角より算定した偏角および伏角の各誤差から作成したものである。

### c. 焼成年代の推定

図306iに、Shibuya (1980) による地磁気永年変化曲線とともに各住居跡焼土の磁化方向を示した。各跡の磁化方向を示す中心点およびその誤差楕円は、200-300年間および1300-1400年間の永年変化曲線に隣接する。最も近い曲線に対し移動した場合、それぞれ2点の年代値が推定できる。このうち各住居跡から出土する土器の型式から、A 8号住居跡が $210^{+25}_{-20}$ 年、E 1号住居が $205^{+20}_{-10}$ 年が有力である (推定年代のうちアンダーラインで示した年代)。

表17 残留磁化測定による焼成年代推定

遺構	土器編年	考古地磁気推定年代 (A. D.)
A 8号住居	廻間I式	<u><math>210^{+25}_{-20}</math></u> 年、 $1,280 \pm 25$ 年
E 1号住居	廻間I式	<u><math>205^{+20}_{-10}</math></u> 年、 $1,285 \pm 20$ 年

### 引用文献

- Fisher, R. A. (1953) Dispersion on a sphere. Proc. Roy. Soc. London, A, 217, 295-305.  
 Hyodo, M., C. Itota and K. Yasukawa (1993) Geomagnetic Secular Variation Reconstructed from Magnetizations of Wide-Diameter Cores of Holocene Sediments in Japan, J. Geomag. Geoelectr., 45, 669-696  
 理科年表 (1993) 国立天文台編、丸善、952 P  
 Shibuya, H. (1980) Geomagnetic secular variation in Southwest Japan for the past 2,000years by means of archaeomagnetism. 大阪大学基礎工学部修士論文、54 P

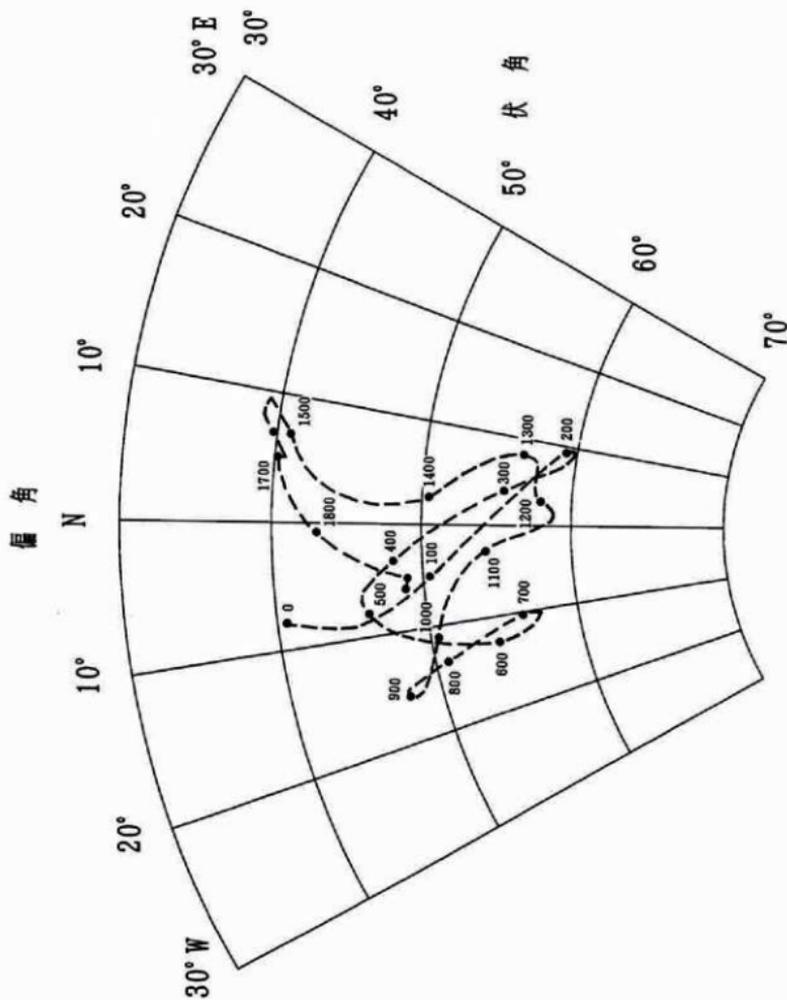
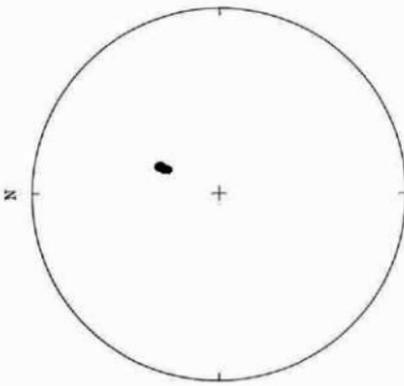
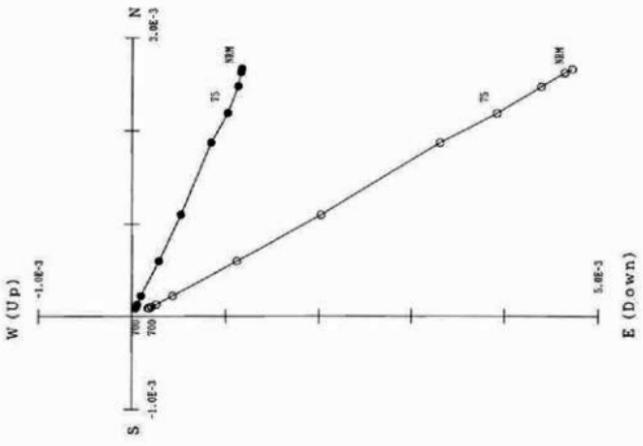


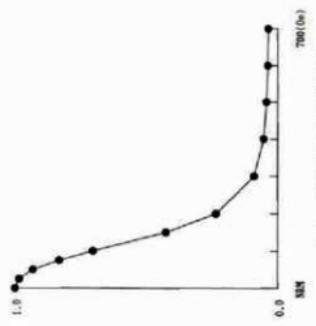
图303 Shibuya (1986) による地磁気年変化曲線



●：下向き ○：上向き  
 [ a. シュミット・ネット投影図 ]

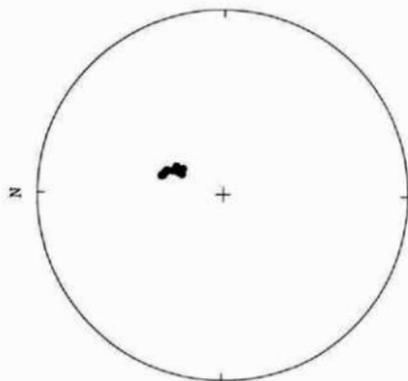


標形表 → ●：N-S-E-W ○：N-S-Up-Down  
 測値レベル (Oe) : NM-25-50 75-100-150-200-300-400-500-600-700  
 [ c. シターベルト図 (単位: emu) ]

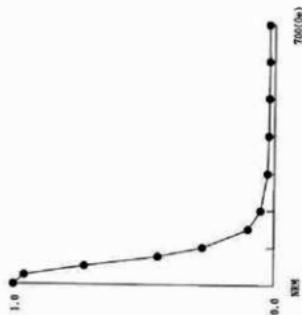


[ b. 残留磁化の相対強度 ]

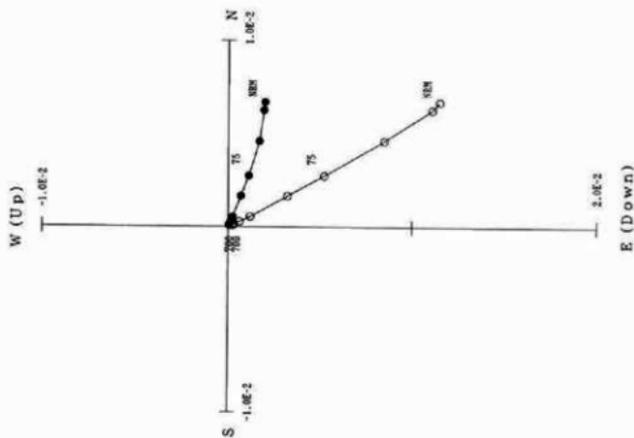
図304 A 8号住居 1 No.5の段階交流消磁測定結果



●: PM# O: L#時  
 【 a. シュミット・ネット投影図 】



【 b. 残留磁化の相対強度 】



相対磁場 → ●: N-S-E-W O: N-S-Up-Down  
 消磁レベル (0e) : 30k-25-50-75-100-150-200-300-400-500-600-700

【 c. ジャーベルト図 (単位: e mu) 】

図305 E1号住屋No.5の段階的消磁測定結果

表18 住居焼土の残留磁化測定結果と統計計算結果 (偏角補正前)

遺構名	試料No.	偏角(° E)	伏角(°)	強度( $\times 10^{-3}$ emu)	備考	統計処理項目	統計値
A B号住居 75 On消磁	1	15.4	56.3	0.681		試料数 (n)	18
	2	25.1	54.2	3.210		平均偏角 $I_m$ (° E)	21.09
	3	18.0	58.6	4.890			
	4	14.6	55.8	2.760		平均伏角 $D_m$ (°)	59.35
	5	25.0	58.4	4.600	段階交流消磁		
	6	104.1	55.1	1.580	計算から除外	誤差角 $\delta D$ (°)	2.77
	7	19.9	58.4	0.672			
	8	21.3	55.9	4.050		誤差角 $\delta I$ (°)	1.41
	9	21.4	58.3	4.490			
	10	2.5	66.7	2.630	計算から除外	信頼度計数 (k)	599.96
	11	21.9	62.4	0.502			
	12	19.3	61.3	0.118		平均磁化強度 ( $\times 10^{-3}$ emu)	3.23
	13	17.2	59.4	0.254			
	14	23.8	61.2	1.580			
	15	25.4	59.3	4.000			
	16	21.1	59.8	4.170			
	17	25.7	59.8	12.400			
	18	18.7	62.0	8.780			
	19	29.4	63.2	0.702			
	20	17.5	63.0	0.353			
	21						
E 1号住居 75 On消磁	1	28.2	60.9	5.610			
	2	23.4	59.7	7.130		平均偏角 $I_m$ (° E)	22.72
	3	22.8	58.4	16.000			
	4	20.5	59.0	22.600		平均伏角 $D_m$ (°)	58.60
	5	22.1	60.3	5.990	段階交流消磁		
	6	22.1	58.6	22.800		誤差角 $\delta D$ (°)	1.59
	7	24.7	58.5	14.300			
	8	20.1	55.1	10.200		誤差角 $\delta I$ (°)	0.83
	9	26.8	59.7	7.660			
	10	21.8	57.4	36.000		信頼度計数 (k)	1457.94
	11	23.2	57.6	29.800			
	12	21.4	59.3	2.040		平均磁化強度 ( $\times 10^{-3}$ emu)	15.52
	13	19.3	56.2	6.220			
	14	19.3	58.3	4.200			
	15	22.3	61.0	5.300			
	16	27.3	59.6	25.400			
	17	25.6	59.9	31.200			
	18	21.8	58.2	16.500			
	19	19.1	59.7	5.170			
	20	23.3	57.5	16.700			
	21	23.1	55.2	35.000			

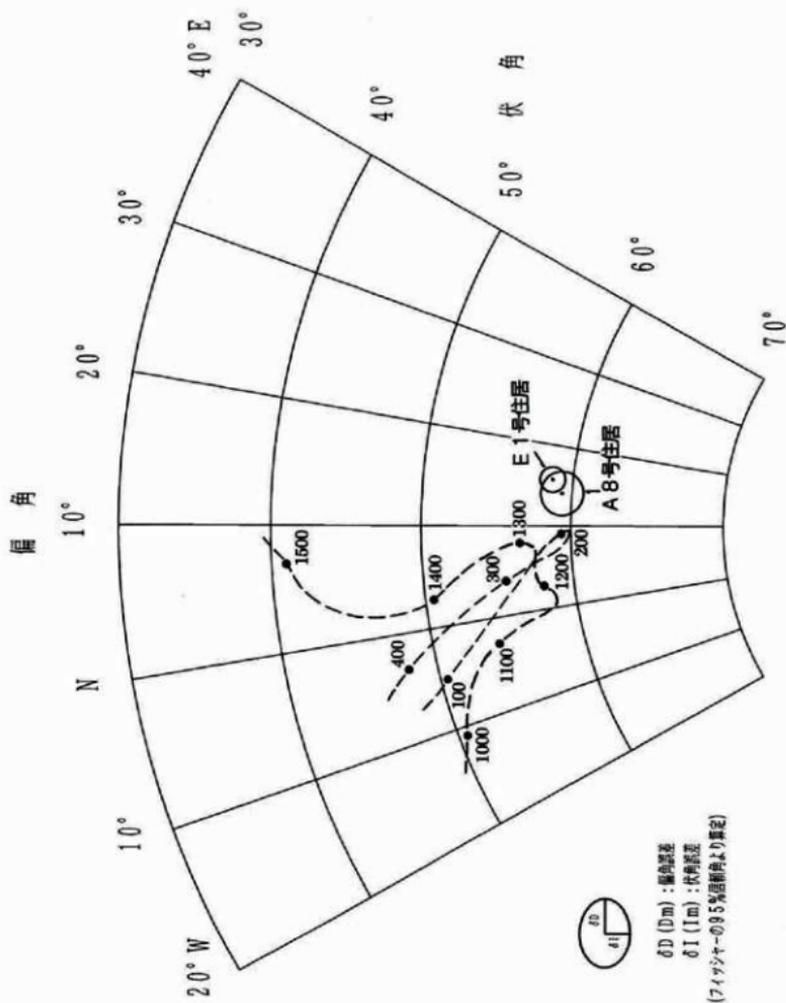


図305 住居炉跡の残留磁化方向と地磁気永年変化曲線 (Shibuya, 1980) の一部

## 第2節 砂行遺跡の花粉化石群集

新山雅広 (パレオ・ラボ)

### 1. はじめに

砂行遺跡は、岐阜県関市下右知に所在する。本遺跡では、5世紀代の祭祀跡、造り出し付き円墳、奈良時代の火葬墓、弥生時代終わり頃の竪穴住居跡などの多数の遺構が確認されている。ここでは、水辺の祭祀が行われたと考えられる大溝 (SDD01) の堆積物を用いて花粉化石群集の検討を行い、遺跡周辺の植生変遷を明らかにすることを試みた。

### 2. 試料と方法

花粉化石群集の検討は、大溝 (SDD01) Bベルトより採取された試料1～7の計7試料について行った。以下に各試料について記載する。

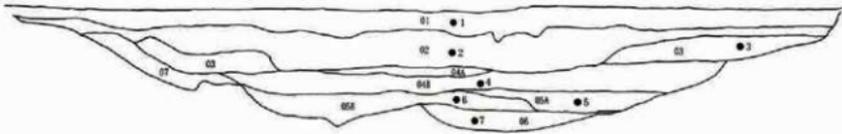


図307 試料採取地点 (SDD01B北壁) のセクション図

試料1 (01層)：小礫混じり暗褐色シルト。01層は、出土遺物 (山茶碗) から中世の水田耕作土層と考えられている。

試料2 (02層)：小礫混じり黒褐色粘土で植物遺体が混じる。02層は、流木片を多量に含み、時代については、6世紀以降と考えられている。

試料3 (03層)：小礫混じり黒褐色粘土質シルトで植物遺体が混じる。03層は、出土遺物 (須恵器を多く含む) から古墳時代中期 (5世紀後半) と考えられている。

試料4 (04b層)：黒褐色粘土混じり細粒砂。04b層は、 $\phi 5 \sim 20\text{mm}$ の砂岩礫を少量含み、流木片も含む。時代については、出土遺物 (山中～廻間式土器片を多く含む) から弥生時代終わり頃と考えられている。

試料5 (05a層)：黒色砂混じり粘土で植物遺体が混じる。05a層は、木本遺体を多く含み、砂岩小礫を少し含む。時代については、弥生時代と考えられている。

試料6 (05b層)：黒褐色砂。05b層は、流木片や $\phi$ 約10～50mmの砂岩礫を多く含み ( $\phi$ 約10mm礫が主体)、時代については、弥生時代以前と考えられている。

試料7 (06層)：褐灰色粘土混じり砂。06層は、 $\phi 10 \sim 50\text{mm}$ の砂岩礫を多く含み、出土遺物から縄文時代草創期～前期と考えられている。

花粉化石の抽出は、試料約2～4g程度を10%水酸化カリウム処理 (湯煎約15分) による粒子分離、

傾斜法による粗粒砂除去、フッ化水素酸処理(約30分)による珪酸塩鉱物などの溶解、アセトリシス処理(水酢酸による脱水、濃硫酸1に対して無水酢酸9の混液で湯煎約5分)の順に物理・化学的処理を施すことにより行った。なお、フッ化水素酸処理後、全ての試料において重液分離(臭化亜鉛を比重2.15に調整)による有機物の濃集を行った。プレバート作成は、残渣を蒸留水で適量に希釈し、十分に攪はんした後マイクロピペットで取り、グリセリンで封入した。検査は、プレバート全面を走査し、その間に出現した全ての種類について、樹木花粉の産出個数が十分な試料は樹木花粉総数が200個以上になるまで同定・計数した。その計数結果をもとに、樹木花粉総数が100個以上の試料については、樹木花粉は樹木花粉総数を基数とし、草本花粉およびシダ植物胞子は花粉・胞子総数を基数として、各分類群の出現率を百分率で算出した。ただし、クワ科、バラ科、マメ科は樹木と草本のいずれをも含む分類群であるが、区別が困難なため、ここでは便宜的に草本花粉に含めた。なお、複数の分類群をハイフンで結んだものは分類群間の区別が困難なものである。

### 3. 花粉化石群集の記載

同定された分類群数は、樹木花粉30、草本花粉19、形態分類で示したシダ植物胞子2である。砂行遺跡の花粉化石群集は、その種構成や各分類群の出現率によって下位より5つの花粉化石群集帯を設定することができる。

I帯(試料7): 樹木花粉の占める割合は、約82%と高率である。その中で、クリ属が約32%と最も高率で出現し、次いでイチイ科—イヌガヤ科—ヒノキ科が約26%で出現する。他に、コナラ亜属、アカガシ亜属、シイノキ属が10%前後で出現する。草本花粉では、便宜的に草本花粉に含めたマメ科が約14%とやや突出した出現をする。他に、イネ科、セリ科、ヨモギ属が低率で出現する。

II帯(試料6): 樹木花粉の占める割合は、約82%と高率である。その中で、コナラ亜属(約28%)、ハンノキ属(約26%)が急増し、高率を占める。アカガシ亜属もやや増加し、約15%と比較的目立つ。I帯で比較的高率を占めていたイチイ科—イヌガヤ科—ヒノキ科は、本帯でも比較的目立つものの、約12%と大幅に出現率を下げた。他に、クリ属、シイノキ属、エノキ属—ムクノキ属などが出現するが、クリ属、シイノキ属はI帯に比べ激減する。草本花粉では、便宜的に草本花粉に含めたマメ科が目立ち、イネ科、クワ科、ヨモギ属が低率で出現する。

III帯(試料4、5): 十分な樹木花粉が産出せず、花粉化石分布図として表せなかった。樹木花粉では、スギ属、ハンノキ属、コナラ亜属、アカガシ亜属、シイノキ属などが、草本花粉では、イネ科、マメ科、ヨモギ属などが僅かに産出した。

IV帯(試料2、3): 樹木花粉の占める割合は、約81~89%と高率である。その中で、ハンノキ属が約39~41%と最も高率で出現し、次いでクリ属(約14~17%)、コナラ亜属(約11~12%)が出現する。他に、アカガシ亜属(約6~9%)、シイノキ属(約5~7%)もやや目立つ。I、II帯で比較的高率な目立っていたイチイ科—イヌガヤ科—ヒノキ科は、更に出現率を下げ、大幅に減少する。草本花粉では、イネ科が約4~10%とやや目立ち、カヤヅグサ科、マメ科、ヨモギ属などが低率で出現する。

V帯(試料1): 樹木花粉の占める割合は、約54%と下位帯に比べて低率となる。その中で、IV帯に比べると大幅に減少するが、ハンノキ属が約19%と最も高率で出現する。次いでIV帯に比べて増加し

表19 花粉化石一覽表

和名	学名	1	2	3	4	5	6	7
<b>樹木</b>								
モミ属	<i>Abies</i>	4	1	3	-	-	-	-
ツガ属	<i>Tsuga</i>	-	-	1	-	-	1	-
マツ属税理管束亜属	<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	6	6	9	-	-	4	-
マツ属(不明)	<i>Pinus</i> (Unknown)	3	-	6	-	-	1	1
コウヤマキ属	<i>Sciadopitys</i>	9	2	5	-	-	2	1
スギ属	<i>Cryptomeria</i>	10	9	11	1	3	2	2
イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	T. - C.	12	8	6	1	-	17	32
クルミ属	<i>Juglans</i>	2	-	-	-	-	-	-
サウワグミ属-クルミ属	<i>Pterocarya-Juglans</i>	-	-	1	-	-	-	1
クマシデ属-アサダ属	<i>Carpinus - Ostrya</i>	5	1	2	-	-	-	1
カバノキ属	<i>Betula</i>	3	3	-	1	-	-	1
ハンノキ属	<i>Alnus</i>	42	90	95	2	3	37	6
ブナ属	<i>Fagus</i>	12	7	2	-	-	4	2
コナラ属コナラ亜属	<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	22	27	28	1	3	40	10
コナラ属アカガシ亜属	<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	37	20	15	1	5	22	11
クリ属	<i>Castanea</i>	12	30	41	1	-	4	40
シイノキ属	<i>Castanopsis</i>	31	11	17	1	2	2	14
ニレ属-クヤキ属	<i>Ulmus - Zelkova</i>	5	1	1	-	-	1	1
エノキ属-ムクノキ属	<i>Celtis-Aphananthe</i>	1	-	-	-	-	3	-
ヤドリキ属	<i>Viscum</i>	-	1	-	-	-	-	-
サンショウ属	<i>Zanthoxylum</i>	1	-	-	-	-	-	-
キハダ属	<i>Phellodendron</i>	1	-	-	-	-	-	-
ユズリハ属	<i>Daphniphyllum</i>	1	-	-	-	-	-	-
ウルシ属	<i>Rhus</i>	-	1	-	-	-	-	-
モチノキ属	<i>Ilex</i>	-	-	2	-	-	-	-
カエデ属	<i>Acer</i>	-	-	-	-	1	1	-
トチノキ属	<i>Aesculus</i>	1	1	1	-	-	1	-
ヒサカキ属近似種	cf. <i>Eurya</i>	1	-	-	-	-	1	-
ウコギ科	Araliaceae	-	1	-	-	-	-	-
ハイノキ属	<i>Symplocos</i>	-	-	-	-	-	-	1
<b>草本</b>								
オモダカ属	<i>Sagittaria</i>	4	-	-	-	-	-	-
イネ科	Gramineae	111	10	31	2	-	7	2
カヤツリグサ科	Cyperaceae	13	1	2	1	-	-	-
ミズアオイ属	<i>Monochoris</i>	1	1	-	-	-	-	-
クワ科	Moraceae	3	-	-	1	-	1	-
他のタデ属	other Polygonum	-	1	-	-	-	-	-
ナデシコ科	Caryophyllaceae	1	-	-	-	-	-	-
アヅラナ科	Cruciferae	9	-	-	-	-	-	-
バラ科	Rosaceae	1	-	-	-	-	-	-
ノズキ属	<i>Dunbaria</i>	1	-	-	-	-	-	-
他のマメ科	other Leguminosae	4	2	4	4	5	14	21
セリ科	Umbelliferae	1	-	4	1	-	-	2
ナス属	<i>Solanum</i>	-	-	1	-	-	-	-
ヤエムグラ属-アカネ属	<i>Galium - Rubia</i>	-	1	-	-	-	-	-
オミナエシ属	<i>Patrinia</i>	1	-	-	-	-	-	-
ホタルブクロ属-ツリガネニンジン属	<i>Campanula - Adenophora</i>	-	1	-	-	-	-	-
ヨモギ属	<i>Artemisia</i>	14	7	7	1	1	1	1
他のキク亜科	other Tubuliflorae	3	-	1	-	-	-	-
タンポポ科	Liguliflorae	4	1	-	-	-	-	-
<b>シダ植物</b>								
単葉型胞子	Monolete spore	10	1	8	1	-	9	1
三葉型胞子	Trilete spore	7	-	1	-	-	-	-
<b>樹木花粉</b>								
樹木花粉	Arboreal pollen	221	220	246	9	17	143	124
草本花粉	Nonarboreal pollen	171	25	50	10	6	23	26
シダ植物胞子	Spores	17	1	9	1	0	9	1
花粉・胞子総数	Total Pollen & Spores	409	246	305	20	23	175	151
<b>不明花粉</b>								
不明花粉	Unknown pollen	9	4	9	4	1	14	8

たアカガシ亜属(約17%)、シイノキ属(約14%)が出現する。コナラ亜属(約10%)、クリ属(約5%)もやや目立つが、出現率を下げている。本帯ではIV帯と異なり、落葉のコナラ亜属、クリ属よりも常緑のアカガシ亜属、シイノキ属の方が高率となる。草本花粉では、イネ科が約27%と比較的高率であり、カヤツリグサ科、アブラナ科、ヨモギ属などが約2～3%で出現する。他に、オモダカ属、ミズアオイ属といった水生植物も1%未満の低率で出現する。

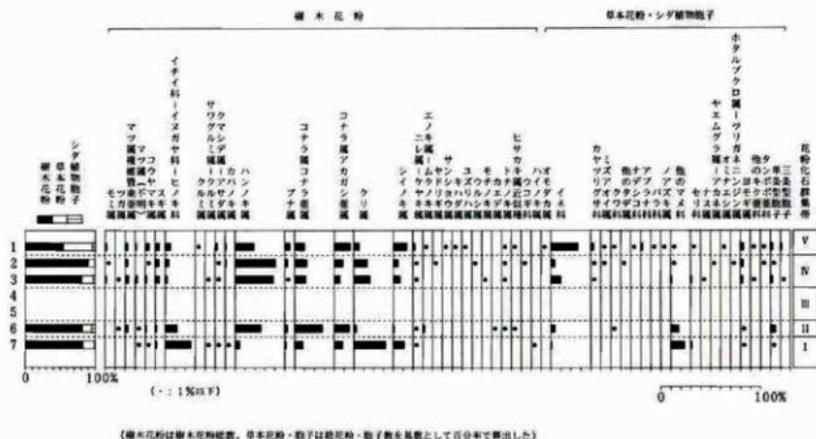


図308 SDD01B (北壁)の花粉化石分布図

#### 4. 考察

##### [縄文時代草創期～前期の古植生 (I帯)]

遺跡周辺の丘陵部や微高地では、針葉樹のイチイ科—イヌガヤ科—ヒノキ科を主とし、落葉樹のコナラ亜属、クリ属、常緑樹のアカガシ亜属、シイノキ属などを混じえた森林が成立しており、低地部ではハンノキ属湿地林が成立していた。また、低地部にいたる丘陵斜面にはサワグサミ属—クルミ属などが生育していた。クリ属はI帯で特に多産しており、上位帯でも比較的目立った出現傾向を示しているが、このクリ属は、広域に散布しにくい虫媒花であり、遺跡周辺で広い林分を形成していたというよりも遺跡付近で多く生育していた可能性が考えられる。

##### [弥生時代の古植生 (II帯)]

周辺の丘陵部や微高地では、コナラ亜属を主とし、アカガシ亜属、イチイ科—イヌガヤ科—ヒノキ科などを混じえた森林が成立しており、低地部ではハンノキ属湿地林が林分を拡大して成立していたものと考えられる。斜面部には、カエデ属、トチノキ属なども生育していた。弥生時代には、縄文時代草創期～前期に優占していたものと思われるイチイ科—イヌガヤ科—ヒノキ科は林分を狭め、コナラ亜属、アカガシ亜属が増加して優勢になったものと考えられる。

##### [古墳時代中期 (5世紀後半)～6世紀以降の古植生 (IV帯)]

周辺の丘陵部や微高地では、コナラ亜属、クリ属といった落葉樹が優勢な森林が成立しており、ア

カガシ亜属、シイノキ属といった常緑樹も混っていた。低地部では、ハンノキ属湿地林が更に林分を拡大し、斜面部にはサワグルミ属—クルミ属、トチノキ属などが生育していた。これら森林には、ヤドリギ属といったつる植物が絡みついてきた。この時期は、縄文時代～弥生時代にかけて比較的広い林分を形成していたことが予想されるイチイ科—イヌガヤ科—ヒノキ科は、かなり林分を狭めたものと思われる。

#### [中世の古植生 (V帯)]

周辺の丘陵部や微高地では、アカガシ亜属、シイノキ属といった常緑樹が優勢な森林が成立しており、コナラ亜属、クリ属といった落葉樹は、幾分林分を狭めたものと思われる。低地部では依然として、ハンノキ属湿地林が成立していたが、林分を狭めたものと思われる。斜面部には、トチノキ属なども生育していた。一方、遺跡付近では、水田稲作が開始されたものと考えられる。これは、V帯では、イネ科が比較的高率であり、水田において普通にみられるオモダカ属、ミズアオイ属といったいわゆる水田雑草が随伴し、付近で水田稲作が行われていた可能性が高いことを示すからである。このことは、01層が水田耕作土層であることを支持する結果でもある。ハンノキ属湿地林の減少は、こうした水田稲作に関連した低地部の開発により、湿地林が伐採されたことが原因の1つとして考えられる。

## 5. おわりに

花粉化石群集からみた砂行遺跡周辺の植生変遷は、次のようであったと予想された。縄文時代草創期～前期には、イチイ科—イヌガヤ科—ヒノキ科を主とした森林が成立しており、遺跡付近には、クリ属が多く生育していた可能性が考えられた。弥生時代には、コナラ亜属を主とした森林が成立しており、低地部ではハンノキ属湿地林が広い林分を形成していた。古墳時代中期(5世紀後半)～6世紀以降には、コナラ亜属、クリ属といった落葉樹が優勢な森林が成立しており、低地部ではハンノキ属湿地林が広い林分を形成していた。中世には、アカガシ亜属、シイノキ属といった常緑樹が優勢な森林が成立しており、遺跡付近では、水田稲作が開始されるようになった。

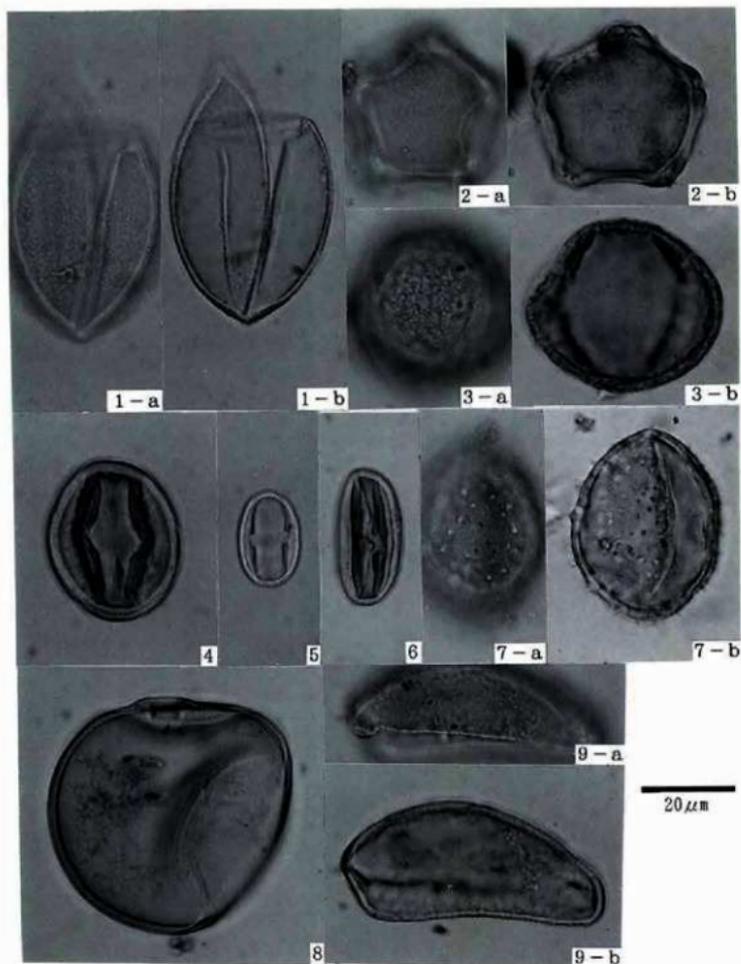


図309 産出した花粉化石

- 1 : イチイ科—イヌガヤ科—ヒノキ科, 試料 6, PAL. MN 1092
- 2 : ハンノキ属, 試料 2, PAL. MN 1094
- 3 : コナラ属コナラ亜属, 試料 6, PAL. MN 1093
- 4 : コナラ属アカガシ亜属, 試料 1, PAL. MN 1095
- 5 : クリ属, 試料 7, PAL. MN 1091
- 6 : シノキ属, 試料 1, PAL. MN 1096
- 7 : オモダカ属, 試料 1, PAL. MN 1098
- 8 : イネ科, 試料 1, PAL. MN 1097
- 9 : ミズアオイ属, 試料 1, PAL. MN 1099

### 第3節 砂行遺跡の竪穴住居跡出土炭化材の樹種同定

植田弥生 (パレオ・ラボ)

#### 1. はじめに

関市下有知砂行地区に所在する当遺跡の9軒の焼失竪穴住居跡から出土した炭化材の樹種同定結果を報告する。竪穴住居群は標高80m前後の急斜面から発掘され、廻りI式の土器を伴うことから弥生時代末期の限られた時期に営まれていた。当遺跡周辺では住居跡から出土した炭化材調査の資料はあまりない。従って当遺跡の調査結果は、当時期の住居材にはどのような樹種を利用していたのか、また周辺にはどのような森林が生育していたのかなど、炭化材樹種から周辺の森林環境の一端と樹種利用を知る貴重な資料となる。

#### 2. 炭化材樹種同定の方法

まず、炭化材の横断面(木口)を手で割り実体顕微鏡で分類群のおよその目安をつける。アカガシ亜属・コナラ節・クヌギ節・クリは横断面の管孔配列が特徴的であり実体顕微鏡下での観察で同定可能であるが、それ以外の分類群については3方向の破断面(横断面・接線断面・放射断面)を走査電子顕微鏡で観察し同定を決定する。またコナラ節やクヌギ節などでも、年輪幅の狭いぬか目や逆に年輪幅の広い試料などは実体顕微鏡下では誤同定の恐れがあるので、このような試料については走査電子顕微鏡で確認した。走査電子顕微鏡用の試料は、3断面を5mm角以下の大きさに整え、直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し、その周囲に導電性ペーストを塗る。試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡(日本電子製 JSM-T100型)で観察と写真撮影を行った。

残りの炭化材試料は、岐阜県文化財保護センターに保管されている。

#### 3. 結果

樹種同定結果を表20に示し、表21には各軒から出土した樹種の試料数を示した。各竪穴住居の出土炭化材は産状が記録され試料番号を付けて取り上げられている(図310~318)。

SBA12の3試料はクスノキ科(C7)、イヌエンジュ(C2)、広葉樹(C6)であった。SBA26の7試料は、スギ(C35)とクリ(C47)が各1点、シノキ属が5点(C2、C12、C15、C29、C45)であった。SBA30はシノキ属2点(C2、C6)と広葉樹(C9)である。SBA34の2試料はクリ(C2、C7)であった。SBA36の3試料はすべてツブラジイ(C2、C5、C13)である。SBC05はコナラ節(C1)、クリ(C3)、シノキ属(C7)であった。SBC12はシノキ属(C4)とツブラジイ(C4)であり、SBC24の3試料はすべてクヌギ節(C1、C2、C10)である。SBE01は針葉樹(C1)、スギ(C2)、クリ(C6)、ツブラジイ(C33)、シノキ属(C43)であった。

以下に同定の根拠とした材構造の観察結果を記載し、図版に写真を掲載した。ただし組織の保存状況が悪く針葉樹または広葉樹であることまでしか判らなかつた試料については記載しなかつた。

##### 1) スギ *Cryptomeria japonica* D. Don スギ科 図版115 1a-1c. (SBA26 C35)

仮道管・放射系細胞・樹脂細胞からなる針葉樹材である。分野壁孔は大きく、孔口は水平に大きく開いたスギ型で、1分野に2個が横に並び配列している。炭化材では炭化していない材とは分野壁孔

の見え方がややことなり、スギとヒノキ属の識別が難しい場合があるので春材部の分野壁孔を多く観察するようにした。そして分野壁孔の開孔の広さやその長径の軸の方向や傾きで識別している。ヒノキ属のヒノキは孔口が細長いレンズ状でその長径の軸は垂直またはやや斜めに傾き、サワラはヒノキより孔口が広くその長軸は斜めに傾く。スギは大きな楕円形の孔口でその長軸はほぼ水平に近く、当試料ではこのような特徴の分野壁孔が多く観察された。当試料の晩材部の量が少い点ではヒノキ属に類似するが、天然のスギでは晩材部の量が少ないものが見られる。このような観察から当試料はスギと同定した。

スギは本州以南の暖帯から温帯下部の湿気のある谷間に生育する常緑高木である。材はやや軽軟で加工は容易である。

2) コナラ属コナラ亜属コナラ節 *Quercus*, subgen. *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 図版115 2a.-2c. (SBC05 C1)

年輪の始めに中型の管孔が近接して1~2層配列し、晩材部では薄壁・角形の小型の管孔が火炎状・放射方向に配列し、接線状・網状の柔組織が顕著な環孔材である。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、内腔にチロースがある。放射組織はほぼ同性、単列のものと集合状のものがあり、道管との壁孔は櫛状である。

コナラ節は暖帯から温帯に生育する落葉高木でカシワ・ミズナラ・コナラ・ナラガシワがある。材は加工はややしにくく乾燥すると割れや狂いが出やすい欠点があるが、人里近くに普通の樹種で利用度は高い。

3) コナラ属コナラ亜属クヌギ節 *Q.* subgen. *Quercus* sect. *Cerris* ブナ科 図版115 3a.-3c. (SBC24 C1)

年輪の始めに大型の管孔が近接して1~3層配列し、その後小型・厚壁の管孔が単独で放射方向に配列し、接線状・網状の柔組織が顕著な環孔材である。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、チロースがある。放射組織はほぼ同性、単列のものと集合状のものがあり、道管との壁孔は櫛状である。

クヌギ節は暖帯から温帯に生育する落葉高木でそのうちのクヌギとアベマキが属する。いずれの種も山林や二次林に普通である。材は重厚で割裂性が良い。

4) クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 図版116 4a.-4c. (SBA26 C47)

年輪の始めに中型~大型の管孔が密に配列し除々に径を減じてゆき、晩材部では非常に小型の管孔が火炎状に配列し、接線状柔組織が顕著な環孔材である。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は単一、内腔にはチロースがある。放射組織は単列同性、道管との壁孔は孔口が大きい。

北海道西南部以南の暖帯から温帯下部の山野に普通の落葉高木である。材は加工はやや困難であるが狂いが少なく粘り・耐朽性にすぐれている。

5) シイノキ属 *Castanopsis* ブナ科 図版116 5a.-5c. (SBC05 C7)

年輪の始めに孔口が丸い中型の管孔が間隔を開けて数層配列し、晩材部では非常に小型の管孔が火炎状に配列する環孔材である。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、内腔にはチロースがある。放射組織はほぼ同性で単列のみである。接線状柔組織が顕著である。年輪始めの管孔が間隔を開けて配置していることから、クリとは異なりシイノキ属であることが判る。

6) ツブラジイ *Castanopsis cuspidata* Schottky ブナ科 図版116 6a.-6c. (SBA12 C5)

年輪の始めに孔口が楕円形の中型の管孔が間隔をあけて配列し徐々に径を減じ、晩材部では小型の管孔が火炎状に配列する環孔材である。接線状柔組織が顕著である。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一である。放射組織はほぼ同性、単列のものとは緩く集合した幅の狭い放射組織があることから、シノキ属のツブラジイと同定した。

シノキ属は暖帯に生育する常緑広葉樹である。関東以西・四国・九州に分布するツブラジイ（コジイ）と、本州の福島県と新潟県佐渡以南・四国・九州に分布するスダジイがある。材構造からスダジイは樹心部に限り集合放射組織が現れることがあり、ツブラジイは樹心以外でも現れる点で識別している。樹心部を持たない試料で集合放射組織が見られなかった場合は、シノキ属までの同定に留めている。

#### 7) クスノキ科 Lauraceae 図版117 7a.-7c. (SBA12 C 7)

やや小型の管孔が単独または2～3個が放射方向に複合し分布する散孔材である。年輪界で管孔の径は減少する。道管の穿孔は、単一である。放射組織は異性、2細胞幅、上下端に大きく膨らんだ油細胞があり、道管との壁孔は大きく交互状に配列する。管孔が大きく油細胞が多いクスノキやタブノキなど以外で、管孔が小型のクスノキ科の材であるがこれらは組織が類似しており識別は困難である。

クスノキ科は主に暖帯から温帯下部に分布する主に常緑性の高木または低木であるが、クロモジ属やハマビワ属には落葉性の樹種が含まれる。

8) イヌエンジュ *Maackia amurensis* Rupr. et Maxim. subsp. *burgeri* (Maxim.) Kitamura マメ科 図版117 8a.-8c. (SBA12 C 2)

年輪の始めに大型の管孔が配列し徐々に径を減じ、晩材部では非常に小型から極めて小型の管孔が塊状や集合帯となり接線状・斜状に配列し年輪界に沿ってもこの集合帯が分布する環孔材である。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、小道管にらせん肥厚がある。放射組織はほぼ同性、1～3細胞幅である。木部柔組織の層階状配列は確認できなかったが、おもに横断面の管孔配列の特徴からイヌエンジュと同定した。

イヌエンジュは北海道から中部地方の温帯の川原や山地の林縁に生育する落葉高木である。材はやや重硬で強度もあり、芯材は耐朽性が高い。

#### 4. まとめ

9軒の竪穴住居跡から出土した炭化材からは、針葉樹のスギ、落葉広葉樹のコナラ節・クスギ節・クリ・イヌエンジュ、常緑広葉樹のシノキ属とツブラジイ、そして常緑性と落葉性の両方を含み材構造からは類別できないクスノキ科が検出された。各住居の検出樹種にはかたよりやばらつきがみられたが、これは各遺構の同定試料数が2～7点と少なかったためとも考えられる。また各遺構ごとの同定試料が少ないので、1軒の使用材の樹種の全体像も見えにくい。しかし9軒から出土した樹種を総合して見ると、シノキ属が最も多く、次にクリが多い。シノキ属と同属のツブラジイを合わせると全試料の半数を占め、またシノキ属またはツブラジイが検出された竪穴住居数も半数以上の6軒であった。このような結果から、ツブラジイを含めたシノキ属が最も多く使用されていた傾向が明らかに見られた。そして、このほかにも針葉樹のスギと、クリ・コナラ節・クスギ節など複数の広葉樹材が使用されていたことが明らかになった。これらの樹種は、建築材として発掘事例の多い樹種で

あることや、当遺跡の炭化材出土産状からも、竪穴住居の建築材であった可能性が高い。

当地域一帯のこの時期に相当する竪穴住居跡から出土した炭化材の樹種報告と比較検討してみた。また当遺跡の南西部の長良川扇状地に立地する堀田城之内遺跡（岐阜市）の古墳時代前期の焼失竪穴住居跡から出土した炭化材の樹種は、クリとシイノキ属とイネ科であった(植田、1997)。クリとシイノキ属は当遺跡からも出土しかつ出土数の多かった樹種であり、樹種利用に類似性が見られる。また当遺跡の南東部の美濃加茂市の丘陵地に立地する尾崎遺跡の弥生時代中期と後期の住居建築材はクヌギ節とクリが多く、ほかにニレ属・アカガシ亜属・トチノキ・ササ類が報告されている。ここではシイノキ属は検出されていないが同じ常緑性のアカガシ亜属が出土しており、当遺跡でもやや出土数の多かったクリとクヌギ節が多い。尾崎遺跡と当遺跡の優占樹種はやや異なるが、樹種構成はおおよそ類似していた。これらの結果から、当地域一帯では弥生時代中期から古墳時代初頭の竪穴住居の建築材には、シイノキ属やアカガシ亜属の照葉樹と複数の落葉広葉樹が使われ落葉広葉樹では特にクリとクヌギ節の使用が目立つようである。

当遺跡では溝の堆積物の花粉分析が行われている。弥生時代～古墳時代に相当する時期からは、上記の遺跡から出土した炭化材に対応するクヌギ節を含むコナラ亜属、アカガシ亜属、クリ、シイノキ属が比較的多く出土しており、これらが周辺に多く生育している住居材に利用されたと考えられる。

#### 引用文献

- 藤根 久 1993「尾崎遺跡住居址出土炭化材の樹種」135-138「尾崎遺跡」財団法人岐阜県文化財保護センター  
 植田弥生 1997「竪穴住居から出土した炭化材の樹種」125-126「堀田城之内遺跡」財団法人岐阜県文化財保護センター

表20 砂行遺跡の竪穴住居跡出土炭化材の樹種同定

遺構・試料No	樹種	共存土器形式
SBA12 C 2	イヌエンジュ	廻間Ⅰ
SBA12 C 6	広葉樹	廻間Ⅰ
SBA12 C 7	クスノキ科	廻間Ⅰ
SBA26 C 2	シイノキ属	廻間Ⅰ
SBA26 C12	シイノキ属	廻間Ⅰ
SBA26 C15	シイノキ属	廻間Ⅰ
SBA26 C29	シイノキ属	廻間Ⅰ
SBA26 C35	スギ	廻間Ⅰ
SBA26 C45	シイノキ属	廻間Ⅰ
SBA26 C47	クリ	廻間Ⅰ
SBA30 C 2	シイノキ属	廻間Ⅰ
SBA30 C 6	シイノキ属	廻間Ⅰ
SBA30 C 9	広葉樹	廻間Ⅰ
SBA34 C 2	クリ	廻間Ⅰ
SBA34 C 7	クリ	廻間Ⅰ
SBA36 C 2	ツブラジイ	廻間Ⅰ
SBA36 C 5	ツブラジイ	廻間Ⅰ
SBA36 C13	ツブラジイ	廻間Ⅰ
SBC05 C 1	コナラ節	廻間Ⅰ
SBC05 C 3	クリ	廻間Ⅰ
SBC05 C 7	シイノキ属	廻間Ⅰ
SBC12 C 3	ツブラジイ	廻間Ⅰ
SBC12 C 4	シイノキ属	廻間Ⅰ
SBC24 C 1	クスギ節	廻間Ⅰ
SBC24 C 2	クスギ節	廻間Ⅰ
SBC24 C10	クスギ節	廻間Ⅰ
SBE01 C 1	針葉樹	廻間Ⅰ
SBE01 C 2	スギ	廻間Ⅰ
SBE01 C 6	クリ	廻間Ⅰ
SBE01 C33	ツブラジイ	廻間Ⅰ
SBE01 C43	シイノキ属	廻間Ⅰ

表21 砂行遺跡の竪穴住居跡ごとの出土炭化材の樹種

樹種	SBA12	SBA26	SBA30	SBA34	SBA36	SBC05	SBC12	SBC24	SBE01	計
スギ		1							1	2
針葉樹									1	1
コナラ節						1				1
クスギ節								3		3
クリ		1		2		1			1	5
シイノキ属		5	2			1	1		1	10
ツブラジイ					3		1		1	5
クスノキ科	1									1
イヌエンジュ	1									1
広葉樹	1		1							2
合計	3	7	3	2	3	3	2	3	5	31



図310 砂行遺跡の竪穴住居跡 (SBA12) 出土炭化材の産状と同定樹種

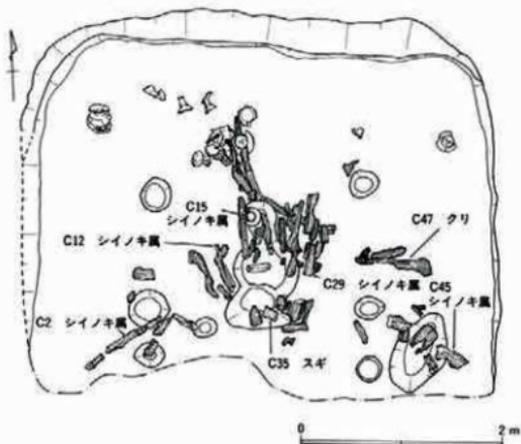


図311 砂行遺跡の竪穴住居跡 (SBA26) 出土炭化材の産状と同定樹種

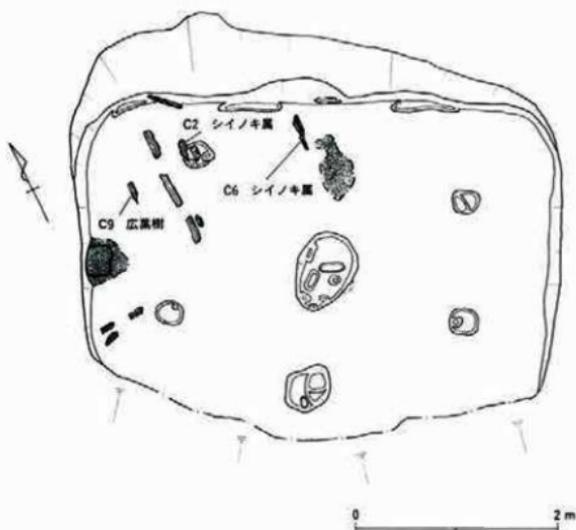


図312 砂行遺跡の竪穴住居跡 (SBA30) 出土炭化材の産状と同定樹種



図313 砂行遺跡の竪穴住居跡 (SBA34) 出土炭化材の産状と同定樹種

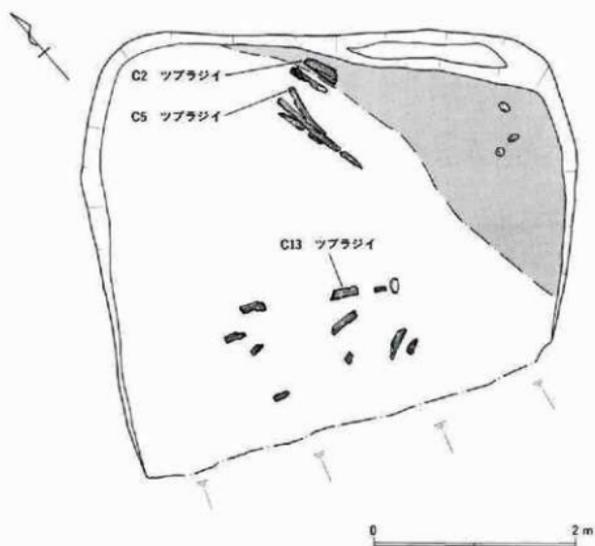


図314 砂行遺跡の竪穴住居跡 (SBA36) 出土炭化材の産状と同定樹種

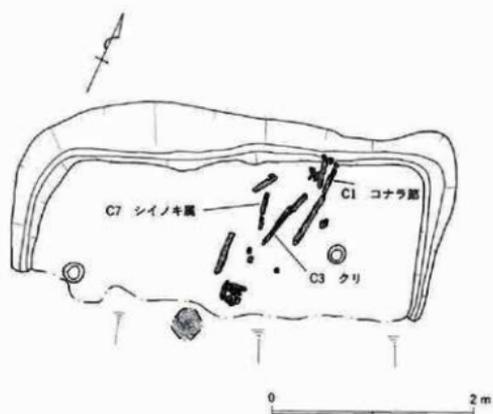


図315 砂行遺跡の竪穴住居跡 (SBC05) 出土炭化材の産状と同定樹種

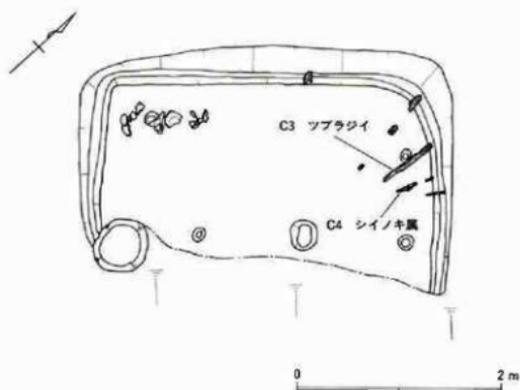


図316 砂行遺跡の竪穴住居跡 (SBC12) 出土炭化材の産状と同定樹種

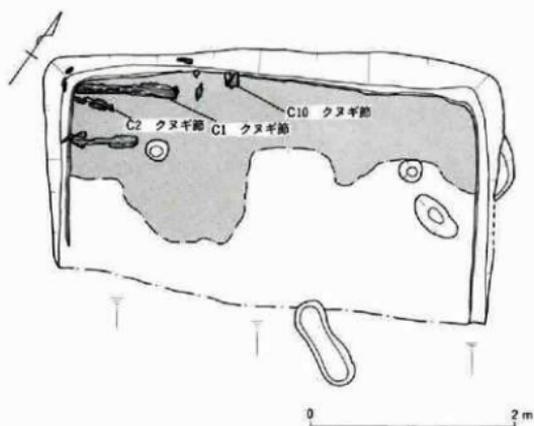


図317 砂行遺跡の竪穴住居跡 (SBC24) 出土炭化材の産状と同定樹種

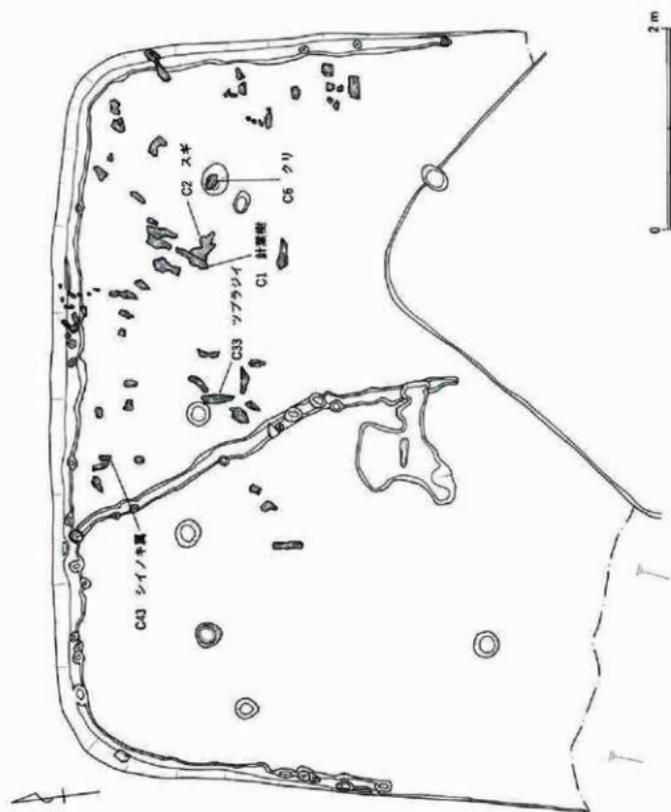


図318 砂行遺跡の壁穴住居跡 (SBE01) 出土炭化材の産状と面定相種

## 第4節 弥生後期～古墳中期土器の胎土材料

藤根 久・今村美智子 (パレオ・ラボ)

### 1. はじめに

砂行遺跡では、山中式・廻間Ⅰ式・宇田式の土器を伴った住居跡や大溝が検出された。これらの土器は、壺・甕・鉢・高杯・器台などから構成され、在地系はもとより尾張低地部系などの土器が含まれている。

土器胎土は、粘土と砂粒などの混和材から構成されるが、その様子は肉眼観察によりある程度識別されるものの、粘土の種類やミクロ的な構成物は顕微鏡観察によらなければならない。最近では、胎土中に含まれる珪藻化石や骨針化石などの記載により、粘土の種類について知ることができ、混和材の種類も砂粒のほか火山灰や灰質物などが混入されていることが分かってきた(車崎ほか、1996)。

こうした土器胎土の材料を調べることは、土器の形態や文様とともに土器の構成要素として重要な事柄と考えられ、土器材料の種類そのものほか材料から見た製作技法や土器の製作地の情報などについても知ることができる。

ここでは、住居跡や大溝などの遺構から検出された土器を対象に、土器の薄片を作成し、顕微鏡による観察・記載を行い、土器胎土の材料について検討した。

### 2. 方法と記載

ここでは、土器の薄片を作成し偏光顕微鏡による観察による方法を行った。土器試料は、13住居跡および大溝から出土した壺8試料、甕19試料、鉢5試料、高杯15試料、器台3試料の合計50試料を対象とした。土器は、次の手順に従って偏光顕微鏡観察用の薄片(プレバラート)を作成した。なお、試料は、面積約6cm<sup>2</sup>程度(2×3cm)を使用した。

(1)試料は、始めに岩石カッターなどで整形し、恒温乾燥機により乾燥した。全体にエポキシ系樹脂を含浸させ固化処理を行った。これをスライドガラスに接着した後、精密岩石薄片作製機を用いて平面を作成し、同様にしてその平面の固化処理を行った。

(2)さらに、研磨機およびガラス板を用いて研磨し、平面を作成した後スライドガラスに接着した。

(3)その後、精密岩石薄片作製機を用いて切断し、ガラス板などを用いて研磨し、厚さ0.02mm前後の薄片を作成した。仕上げとして、研磨剤を含ませた布板上で琢磨し、コーティング剤を塗布した。

各薄片試料は、偏光顕微鏡下300倍で分類群ごとに同定・計数する。同定・計数は、100 $\mu$ m格子目盛を用いて任意の位置における約50 $\mu$ m(0.05mm)以上の鉱物や複合鉱物類(岩石片)あるいは微化石類(50 $\mu$ m前後)を対象とし、微化石類と石英・長石類以外の粒子が約100個以上になるまで行った。また、この計数とは別に薄片全面について、微化石類(珪藻化石、骨針化石、胞子化石)や大型粒子などの特徴についても観察・記載した。

### 3. 分類群の記載

細礫～砂サイズ以下の粒子を偏光顕微鏡により同定する場合、粒子が細粒であるため同定が困難である場合が多い。特に、岩石片については、岩石片中に含まれる鉱物数がきわめて少ないため、岩石

名を決定することが事実上不可能である場合が多い。ここでは岩石名を付けず、岩石片を構成する鉱物や構造的な特徴に基づいて分類する(菱田ほか、1993)。なお、胎土の特徴を抽出するために、鉱物や岩石片以外の生物起源の粒子(微化石類)も同時に計数した。ここで採用した各分類群の記載とその特徴などは以下の通りである。なお、各鉱物の光学的性質についてはその記述を省略する。

#### [放射虫化石]

放射虫は、放射仮足類に属する海生浮遊性原生動物で、その骨格は硫酸ストロンチウムまたは珪酸からなる。放射虫化石は、海生浮遊生珪藻化石とともに外洋性堆積物中によく見られる。

#### [骨針化石]

海綿動物の骨格を形成する小さな珪質、石灰質の骨片で、細い管状や針状などを呈する。海綿動物は、多くは海産であるが、淡水産としても日本において23種ほどが知られ、湖や池あるいは川の水底に横たわる木や貝殻などに付着して生育する。

#### [珪藻化石]

珪酸質の殻をもつ微小な藻類で、その大きさは10~数百 $\mu\text{m}$ 程度である。珪藻は海水域から淡水域に広く分布し、個々の種類によって特定の生息環境をもつ。最近では、小杉(1988)や安藤(1990)によって環境指標種群が設定され、具体的な環境復原が行われている。ここでは、種あるいは属が同定できるものについて珪藻化石(淡水種)と分類し、同定できないものは珪藻化石(?)とした。なお、各胎土中の珪藻化石の詳細については、計数外の特徴とともに記載した。

#### [植物珪酸体化石]

植物の細胞組織を充填する非晶質含水珪酸体であり、大きさは種類によっても異なり、主に約10~50 $\mu\text{m}$ 前後である。一般的にプラント・オパールとも呼ばれ、イネ科草本、スゲ、シダ、トクサ、コケ類などに存在することが知られている。ファン型や壺鈴型あるいは棒状などがあるが、ここでは大型のファン型と棒状を対象とした。

#### [胞子化石]

胞子状粒子は、珪酸質と思われる直径10~30 $\mu\text{m}$ 程度の小型無色透明の球状粒子である。これらは、水成堆積中で多く見られるが、土壌中にも含まれる。

#### [石英・長石類]

石英あるいは長石類は、いずれも無色透明の鉱物である。長石類のうち後述する双晶などのように光学的特徴をもたないものは石英と区別するのが困難である場合が多く一括して扱う。なお、石英・長石類(雲母)は、黄色などの細粒雲母類が包含される石英または長石類である。

#### [長石類]

長石は大きく斜長石とカリ長石に分類される。斜長石は、双晶(主として平行な縞)を示すものと累帯構造(同心円状の縞)を示すものに細分される(これらの縞は組成の違いを反映している)。カリ長石は、細かい葉片状の結晶を含むもの(パーサイト構造)と格子状構造(微斜長石構造)を示すものに分類される。また、ミルメカイトは斜長石と虫食い状石英との連晶(微文象構造という)である。累帯構造を示す斜長石は、火山岩中の結晶(斑晶)の斜長石にみられることが多い。パーサイト構造を示すカリ長石はカコウ岩などの $\text{SiO}_2\%$ の多い深成岩や低温でできた泥質・砂質の変成岩などに産する。

ミルメカイトあるいは文象岩は火成岩が固結する過程の晩期に生じると考えられている。これら以外の斜長石は、火成岩、堆積岩、変成岩に普通に産する。

#### 〔雲母類〕

一般的には黒雲母が多く、黒色から暗褐色で風化すると金色から白色になる。形は板状で、へき開（規則正しい割れ目）にそって板状には割られ易い。薄片上では長柱状や層状に見える場合が多い。カコウ岩などのSiO<sub>2</sub>%の多い火成岩に普遍的に産し、泥質、砂質の変成岩および堆積岩にも含まれる。なお、雲母類のみが複合した粒子を複合雲母類とした。

#### 〔輝石類〕

主として斜方輝石と単斜輝石とがある。斜方輝石（主に紫蘇輝石）は、肉眼的にビールびんのような淡褐色および淡緑色などの色を呈し、形は長柱状である。SiO<sub>2</sub>%が少ない深成岩、SiO<sub>2</sub>%が中間あるいは少ない火山岩、ホルンフェルスなど的高温で生じた変成岩に産する。単斜輝石（主に普通輝石）は、肉眼的に緑色から淡緑色を呈し、柱状である。主としてSiO<sub>2</sub>%が中間から少ない火山岩によく見られ、SiO<sub>2</sub>%の最も少ない火成岩や変成岩中にも含まれる。

#### 〔角閃石〕

主として普通角閃石であり、色は黒色から黒緑色で、薄片上では黄色から緑褐色などである。形は細長く平たい長柱状である。閃緑岩のようなSiO<sub>2</sub>%が中間的な深成岩をはじめ火成岩や変成岩などに産する。

#### 〔ガラス〕

透明の非結晶の物質で、電球のガラス破片のような薄くて湾曲したガラス（バブル・ウォール型）や小さな泡をたくさんもつガラス（軽石型）などがある。主に火山の噴火により噴出された噴出物と考える。なお、濁ガラスは、非晶質でやや濁りのあるガラスで、火山岩類などにも見られる。

#### 〔複合鉱物類〕

構成する鉱物が石英あるいは長石以外に重鉱物を伴う粒子で、雲母類を伴う粒子は複合鉱物類（含雲母類）、輝石類を伴う粒子を複合鉱物類（含輝石類）、角閃石類を伴う粒子を複合鉱物類（角閃石類）とした。

#### 〔珽晶質・完晶質〕

珽晶質は珽晶（鉱物の結晶）状の部分と石基状のガラス質の部分か明瞭に確認できるものをいう。完晶質は、ほとんどが結晶からなり石基の部分が見られないか、ごくわずかのものをいう。発泡珽晶質は、石基状のガラス質の部分に発泡した穴を伴うものである。これらの珽晶質、完晶質の粒子は主として玄武岩、安山岩、デイサイト、流紋岩などの火山岩類を起源とする可能性が高い。

#### 〔凝灰岩質〕

非晶質でモザイクな文様構造を示し、石英・長石類やガラスなどが含まれるものをいう。火山砕屑物が固化したもので、起源となる火山によって鉱物組成が変化する。

#### 〔複合石英類〕

複合石英類は石英の集合している粒子で、基質（マトリックス）の部分をもたないものである。個々の石英粒子の粒径は粗粒なものから細粒なものまで様々である。ここでは、便宜的に個々の石英粒子の粒径が約0.01mm未満のものを微細、0.01～0.05mmのものを小型、0.05～0.1mmのものを中型、0.1mm

以上のものを大型と分類した。また、等粒で小型の長石あるいは石英が複合した粒子は、複合石英類（等粒）として分類した。この複合石英類（等粒）は、ホルンフェルスなどで見られる粒子と考える。

#### 【砂岩質・泥岩質】

石英、長石類、岩片類などの粒子が集合し、それらに基質の部分をもつもので、含まれる粒子の大きさが約0.06mm以上のものを砂岩質とし、約0.06mm未満のものを泥岩質とする。

#### 【不透明・不明】

下方ポーラーのみ、直交ポーラーのいずれにおいても不透明なものや、変質して鉱物あるいは岩石片として同定不可能な粒子を不明とする。

### 4. 各胎土の特徴および計数の結果

胎土中の粒子組成は、任意の位置での粒子を分類群別に計数した(表22)。また、計数されない微化石類や鉱物・岩石片を記載するために、プレパラート全面を精査・観察した。以下では、粒度分布や0.1mm前後以上の鉱物・岩石片の砂粒組成あるいは計数も含めた微化石類などの記載を示す。なお、不等号は、概略の量比を示し、二重不等号は極端に多い場合を示す。

No.1：70～250 $\mu$ mが多い（最大粒径750 $\mu$ m）。石英・長石類>ガラス質>複合石英類（微細）、砂岩質、カリ長石（パーサイト）、複合石英類、凝灰岩質、単斜輝石、珪藻化石（淡水種 *Eunotia biareofera*、*Ennotia* 属、*Pinnularia* 属、*Diploneis* 属、不明種）、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石多産

No.2：120～700 $\mu$ mが多い（最大粒径2.2mm）。複合石英類（微細）>石英・長石類>複合石英類、ガラス質、角閃石類、凝灰岩質、植物珪酸体化石

No.3：120～220 $\mu$ mが多い（最大粒径1.2mm）。石英・長石類>複合石英類（微細）、砂岩質、凝灰岩質、カリ長石（微斜長石）、ガラス質、ジルコン、植物珪酸体化石

No.4：400 $\mu$ m～1.4mmが多い（最大粒径2.8mm）。複合石英類（微細）>石英・長石類>凝灰岩質>複合石英類、ガラス質、ジルコン、角閃石類、珪藻化石（沼沢湿地付着生指標種群 *Eunotia pectinalis* var. *undulata*、淡水種 *Ennotia* 属）、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石

No.5：120～600 $\mu$ mが多い（最大粒径900 $\mu$ m）。石英・長石類>複合石英類（微細）>ガラス質>斜長石（双晶）、珪質質、斜長石（累帯構造）、凝灰岩質、斜方輝石、珪藻化石（沼沢湿地付着生指標種群 *Cymbella aspera*、湖沼浮遊生指標種群 *Melosira ambigua*、淡水種 *Eunotia biareofera* 多産、*Ennotia* 属多産、*Diploneis* 属、*Cymbella* 属、*Pinnularia* 属、不明種）、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石

No.6：300 $\mu$ m～1.1mmが多い（最大粒径1.2mm）。石英・長石類>珪質質>複合石英類（微細）>複合石英類、砂岩質、ガラス質、凝灰岩質、カリ長石（パーサイト）、角閃石類、放射虫化石（1固体）、珪藻化石（陸域指標種群 *Pinnularia subcapitata*）、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石

No.7：110～700 $\mu$ mが多い（最大粒径4.6mm）。石英・長石類>複合石英類（微細）>複合石英類、ガラス質、ジルコン、凝灰岩質、珪藻化石（沼沢湿地付着生指標種群 *Eunotia pectinalis* var. *undulata*、陸域指標種群 *Hantzschia amphioxys*、淡水種 *Pinnularia* 属、*Ennotia* 属、不明種）、胞子化石、植物珪酸体化石

No.8：90～500 $\mu$ mが多い（最大粒径1.4mm）。石英・長石類>複合石英類（微細）、凝灰岩質、複合石英

類、ガラス質、珪藻化石（陸域指標種群 *Hantzschia amphioxys*）、植物珪酸体化石

No.9：100～300 $\mu\text{m}$ が多い（最大粒径400 $\mu\text{m}$ ）。石英・長石類＜複合石英類（微細）、複合石英類、ガラス質、凝灰岩質、角閃石類、ジルコン、珪藻化石（淡水種 *Eunotia* 属、不明種）、骨針化石、植物珪酸体化石

No.10：100～500 $\mu\text{m}$ が多く、全体的に細粒（最大粒径750 $\mu\text{m}$ ）。石英・長石類＜複合石英類（微細）、ガラス質、複合石英類、凝灰岩質、角閃石類、斜長石（双晶）、珪藻化石（淡水種 *Cymbella* 属）、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石

No.11：80 $\mu\text{m}$ ～1.0mmが多い（最大粒径4.0mm）。石英・長石類＜複合石英類（微細）＞複合石英類、砂岩質、[凝灰岩質]、角閃石類、単斜輝石、ジルコン、植物珪酸体化石少、植物遺体

No.12：100～400 $\mu\text{m}$ が多く、全体的に細粒（最大粒径1.5mm）。石英・長石類＜複合石英類（微細）＞砂岩質、ガラス質、凝灰岩質、珪藻化石（淡水種 *Pinnularia* 属、不明種）、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石多産

No.13：110～500 $\mu\text{m}$ が多い（最大粒径1.2mm）。石英・長石類＜複合石英類（微細）、ガラス質、凝灰岩質、斜方輝石、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石、植物遺体

No.14：150～750 $\mu\text{m}$ が多い（最大粒径3.0mm）。複合石英類（微細）＞石英・長石類＜複合石英類、砂岩質、ガラス質、カリ長石（パーサイト）、凝灰岩質、ジルコン、植物珪酸体化石

No.15：100～400 $\mu\text{m}$ が多い（最大粒径1.5mm）。石英・長石類＜複合石英類（微細）＞複合石英類、ガラス質、斜長石（双晶）、凝灰岩質、珪藻化石（不明種）、骨針化石、植物珪酸体化石、植物遺体

No.16：100～300 $\mu\text{m}$ が多い（最大粒径400 $\mu\text{m}$ ）。石英・長石類＜複合石英類（微細）、ガラス質、凝灰岩質、角閃石類、カリ長石（パーサイト）、ジルコン、胞子化石、植物珪酸体化石

No.17：100～700 $\mu\text{m}$ が多い（最大粒径2.2mm）。石英・長石類＜複合石英類（微細）＞複合石英類、凝灰岩質、角閃石類、斜長石（双晶）、ジルコン、[ガラス質]、植物珪酸体化石

No.18：100～700 $\mu\text{m}$ が多い（最大粒径3.4mm）。石英・長石類＜複合石英類（微細）＞凝灰岩質、ガラス質、ザクロ石類、珪藻化石（不明種）、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石、植物遺体

No.19：70～400 $\mu\text{m}$ が多い（最大粒径1.3mm）。石英・長石類＜複合石英類（微細）＞複合石英類、ガラス質、ジルコン、骨針化石、植物珪酸体化石

No.20：80～300 $\mu\text{m}$ が多い（最大粒径1.7mm）。石英・長石類＜複合石英類（微細）＞複合石英類、ガラス質、砂岩質、凝灰岩質、角閃石類、植物珪酸体化石

No.21：100～900 $\mu\text{m}$ が多い（最大粒径2.1mm）。石英・長石類＜複合石英類（微細）＞複合石英類、ガラス質、凝灰岩質、斜長石（双晶）、胞子化石、植物珪酸体化石

No.22：100～600 $\mu\text{m}$ が多い（最大粒径1.1mm）。石英・長石類＜複合石英類（微細）＞複合石英類＜ガラス質、凝灰岩質、ジルコン、珪藻化石（淡水種 *Cymbella* 属、不明種）、植物珪酸体化石、植物遺体

No.23：120～750 $\mu\text{m}$ が多い（最大粒径3.0mm）。石英・長石類＜複合石英類（微細）＞凝灰岩質、カリ長石（パーサイト）、斜長石（双晶）、ガラス質、斜方輝石、珪藻化石（陸域指標種群 *Hantzschia amphioxys*）植物珪酸体化石

No.24：120 $\mu\text{m}$ ～1.0mm前後が多い（最大粒径4.2mm）。石英・長石類＜複合石英類（微細）＞砂岩質、複合石英類、ガラス質、凝灰岩質、単斜輝石、角閃石類、珪藻化石（淡水種 *Eunotia* 属、陸域指標種群

*Hantzschia amphioxys*)、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石

No25: 120~300 $\mu\text{m}$ が多い(最大粒径2.1mm)。石英・長石類)複合石英類(微細) > カリ長石(バーサイト)、角閃石類、凝灰岩質、ジルコン、[ガラス質]、植物遺体、植物珪酸体化石

No26: 110~350 $\mu\text{m}$ が多い(最大粒径600 $\mu\text{m}$ )。石英・長石類)複合石英類(微細) > ガラス質、斑晶質、凝灰岩質、斜方輝石、珪藻化石(淡水種 *Eunotia* 属、不明種)、骨針化石多産、胞子化石、植物珪酸体化石

No27: 150 $\mu\text{m}$ ~1.5mmが多い(最大粒径2.7mm)。石英・長石類)砂岩質)複合石英類(微細)、ガラス質、変質斑晶質、複合石英類、凝灰岩質、斜方輝石、珪藻化石(淡水種 *Eunotia biareofera*、不明種)、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石、植物遺体

No28: 150 $\mu\text{m}$ ~1.4mmが多い(最大粒径2.0mm)。石英・長石類)複合石英類(微細) > 砂岩質、複合石英類、凝灰岩質、[ガラス質]、珪藻化石(不明種)、植物珪酸体化石

No29: 100 $\mu\text{m}$ ~1.0mm前後が多い(最大粒径2.4mm)。複合石英類(微細) > 砂岩質)石英・長石類、変質斑晶質、ガラス質、角閃石類、珪藻化石(陸域指標種群 *Hantzschia amphioxys*)、植物珪酸体化石

No30: 100~250 $\mu\text{m}$ が多く非常に細粒(最大粒径450 $\mu\text{m}$ )。石英・長石類)複合石英類(微細)、凝灰岩質、[ガラス質]、ジルコン、植物珪酸体化石

No31: 150~600 $\mu\text{m}$ が多い(最大粒径1.7mm)。石英・長石類)複合石英類(微細) > 複合石英類、ガラス質、角閃石類、ザクロ石類、斜長石(双晶)、珪藻化石(不明種)、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石

No32: 110~700 $\mu\text{m}$ が多い(最大粒径2.3mm)。石英・長石類)複合石英類)複合石英類(微細) > 角閃石類、ガラス質、ザクロ石類、斜長石(双晶)、斜方輝石、珪藻化石(不明種)、骨針化石、植物珪酸体化石

No33: 150~750 $\mu\text{m}$ が多い(最大粒径2.2mm)。石英・長石類)複合石英類)複合石英類(微細) > 角閃石類、ガラス質、ザクロ石類、斜長石(双晶)、珪藻化石(淡水種 *Eunotia biareofera*、*Eunotia* 属、*Cymbella* 属、不明種)、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石、植物遺体

No34: 120~750 $\mu\text{m}$ が多い(最大粒径1.2mm)。石英・長石類)複合石英類)複合石英類(微細) > ガラス質、角閃石類、ジルコン、ザクロ石類、斜長石(双晶)、珪藻化石(淡水種 *Eunotia* 属、不明種)、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石、植物珪酸体化石塊

No35: 100~400 $\mu\text{m}$ が多い(最大粒径1.3mm)。石英・長石類)複合石英類(微細) > 複合石英類、ガラス質、角閃石類、[凝灰岩質]、植物珪酸体化石

No36: 130~700 $\mu\text{m}$ が多い(最大粒径2.0mm)。石英・長石類)複合石英類(微細) > 複合石英類、ガラス質、凝灰岩質、植物珪酸体化石

No37: 150~400 $\mu\text{m}$ が多い(最大粒径650 $\mu\text{m}$ )。石英・長石類)複合石英類(微細) > 斜長石(双晶)、複合石英類、ガラス質、斜方輝石、凝灰岩質、珪藻化石(淡水種 *Eunotia* 属)、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石

No38: 100~700 $\mu\text{m}$ が多い(最大粒径1.7mm)。複合石英類(微細) > 砂岩質)石英・長石類、複合石英類、ガラス質、斑晶質、角閃石類、胞子化石、植物珪酸体化石

No39: 110~160 $\mu\text{m}$ が多い(最大粒径800 $\mu\text{m}$ )。石英・長石類)複合石英類(微細)、凝灰岩質、ジルコン、

## [ガラス質]、植物珪酸体化石

No40: 120～500 $\mu\text{m}$ が多い(最大粒径600 $\mu\text{m}$ )。石英・長石類)複合石英類、複合石英類(微細)、ガラス質、カリ長石(微斜長石)、凝灰岩質、ジルコン、珪藻化石(淡水種 *Cyclotella comta*、不明種)、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石

No41: 120～500 $\mu\text{m}$ が多い(最大粒径2.6mm)。石英・長石類)複合石英類(微細)、複合石英類、凝灰岩質、ガラス質、角閃石類、単斜輝石、珪藻化石(淡水種 *Pinnularia* 属)、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石、植物遺体

No42: 120～220 $\mu\text{m}$ 、1mmが多い(最大粒径2.1mm)。石英・長石類)複合石英類(微細)、凝灰岩質、ガラス質、複合石英類、角閃石類、珪藻化石(淡水種 *Eunotia biareofera*、*Eunotia* 属、不明種)、骨針化石、植物珪酸体化石多産

No43: 130～800 $\mu\text{m}$ が多い(最大粒径2.0mm)。複合石英類(微細)砂岩質)石英・長石類、複合石英類、凝灰岩質、ガラス質、単斜輝石、角閃石類、珪藻化石(淡水種 *Pinnularia* 属、*Surirella* 属、*Eunotia* 属、不明種)、胞子化石、植物珪酸体化石、植物遺体

No44: 80～300 $\mu\text{m}$ が多い(最大粒径3.0mm)。ガラス質)石英・長石類)複合石英類(微細)、複合石英類、紋岩、珪藻化石(湖沼浮遊生指標種群 *Melosira granulata* 多産、沼沢湿地付着生指標種群 *Eunotia praerupta* var. *bidens*、*Neidium iridis*、淡水種 *Melosira distans*、*Eunotia monodon*、*Eunotia biareofera*、*Eunotia* 属、*Pinnularia* 属、不明種)、骨針化石多産、胞子化石、植物珪酸体化石

No45: 150～750 $\mu\text{m}$ が多い(最大粒径800 $\mu\text{m}$ )。石英・長石類)複合石英類(微細)珪品質)複合石英類)斜長石(双晶)、ガラス質、ジルコン、斜方輝石、珪藻化石(海水泥質干潟指標種群 *Nitzschia cocconeiformis* 多い、*Diploneis smithii*、内湾指標性種群 *Melosira sulcata*、海水藻場指標種群 *Cocconeis scutellum*、海水種 *Coccinodiscus* 属/*Thalassiosira* 属、*Denticulopsis* 属、不明種)、骨針化石多産、胞子化石、植物珪酸体化石、稲穎

No46: 150～750 $\mu\text{m}$ 前後が多い(最大粒径1.6mm)。石英・長石類)複合石英類)複合石英類(微細)、斜長石(双晶)、角閃石類、斑晶質、完晶質、片理複合石英類、砂岩質、凝灰岩質、骨針化石、植物珪酸体化石、稲穎

No47: 150 $\mu\text{m}$ ～1.2mmが多い(最大粒径1.8mm)。石英・長石類)複合石英類(微細)砂岩質、凝灰岩質、角閃石類、[ガラス質]、珪藻化石(沼沢湿地付着生指標種群 *Stauroneis phoenicenteron*)、胞子化石、植物珪酸体化石、植物遺体

No48: 100～750 $\mu\text{m}$ が多い(最大粒径1.9mm)。石英・長石類)複合石英類)複合石英類(微細)斜長石(双晶)、ガラス質、斑晶質、凝灰岩質、角閃石類、ジルコン、珪藻化石(不明種)、骨針化石、胞子化石、植物珪酸体化石

No49: 110～500 $\mu\text{m}$ が多い(最大粒径5.0mm)。石英・長石類)複合石英類(微細)、砂岩質、斜長石(双晶)、斜方輝石、ジルコン、複合石英類、[ガラス質、凝灰岩質]、植物珪酸体化石

No50: 150～400 $\mu\text{m}$ が多い(最大粒径600 $\mu\text{m}$ )。石英・長石類)複合石英類(微細)複合石英類、斜長石(双晶)、凝灰岩質、ジルコン、角閃石類、[ガラス質]、植物珪酸体化石、植物遺体

## 5. 微化石類による粘土の分類

検討した土器胎土中には、その薄片全面の観察から珪藻化石や骨針化石などが検出された。これら微化石類の大きさは、珪藻化石が10～数100 $\mu\text{m}$ （実際観察される珪藻化石は大きいもので150 $\mu\text{m}$ 程度）、放散虫化石が数百 $\mu\text{m}$ 、骨針化石が10～100 $\mu\text{m}$ 前後である（植物珪酸体化石が10～50 $\mu\text{m}$ 前後）。一方、碎屑性堆積物の粒度は、粘土が約3.9 $\mu\text{m}$ 以下、シルトが約3.9～62.5 $\mu\text{m}$ 、砂が62.5 $\mu\text{m}$ ～2mmである（地学団体研究会・地学事典編集委員会編、1981）。このことから、植物珪酸体化石を除いた微化石類は輪胎土の材料となる粘土中に含まれるものと考えられ、その粘土の起源を知るのに有効な指標になると考える。なお、植物珪酸体化石は、堆積物中に含まれていること、製作場では灰質が多く混入する可能性が高いなど、他の微化石類のように粘土の起源を指標する可能性は低いと思われる。

土器胎土は、微化石類により、a) 外洋成粘土を用いた胎土、b) 海水干潟成粘土を用いた胎土、c) 淡水成粘土を用いた胎土、d) 水成粘土を用いた胎土、e) その他の粘土を用いた胎土、に分類される。以下では、分類される胎土についてその特徴を述べる。

## a) 外洋成粘土を用いた胎土 (No.6)

この胎土中には、1固体であるが放散虫化石が含まれていた。また、骨針化石も含まれていた。こうしたことから、外洋成粘土層あるいはこれらが地層が分布する地域の粘土を使用したものと考えられる。

## b) 海水干潟成粘土を用いた胎土 (No.45)

この胎土中には、海水泥質干潟指標種群 *Nitzschia cocconeiformis* や *Diploneia smithii* が特徴的に多く含まれ、他に内湾指標性種群 *Melosira sulcata*、海水藻場指標種群 *Cocconeis scutellum* なども含まれていた。こうしたことから、泥質干潟成の粘土を用いて作られた土器と考えられる。

## c) 淡水成粘土を用いた胎土 (No.1, No.4, No.5, No.7, No.9, No.10, No.12, No.22, No.24, No.26, No.27, No.33, No.34, No.37, No.39, No.41～43, No.44, No.47; 19試料)

これらの胎土中には、淡水種珪藻化石や骨針化石が含まれていた。このことから、淡水域で堆積した粘土と考えられる。このうち、No.5の高杯は沼沢湿地指標種群などの珪藻化石が多量に含まれていた。また、No.44の甕胎土中には湖沼浮遊生指標種群の珪藻化石などが多量に含まれていた。これらは、具体的にこうした環境において堆積した粘土である。なお、表23中の粘土の種類は、淡水種の珪藻化石が少ないことから（淡水成）とした。

## d) 水成粘土を用いた胎土 (No.13, No.15, No.18, No.19, No.28, No.31, No.32, No.46, No.48; 9試料)

これらの胎土中には、不明種珪藻化石や骨針化石が含まれていた。珪藻化石は、破片であるためその堆積環境は不明である。このことから、これらは水成環境で堆積した粘土と考えられる。

## e) その他の胎土 (No.2, No.3, No.8, No.11, No.14, No.16, No.17, No.20, No.21, No.23, No.25, No.29, No.30, No.35, No.36, No.38, No.40, No.49, No.50; 19試料)

これらの胎土中からは、水成堆積を指標する微化石類は見当たらなかった。

## 6. 砂粒組成による分類

ここで設定した複合鉱物類は、構成する鉱物種や構造的特徴から設定した分類群であるが、地域を特徴づける源岩とは直接対比できない。このため、各胎土中の鉱物、岩石粒子の岩石学的特徴は、地質学的状況に一義的に対応しない。

ここでは、比較的大型の砂粒について起源岩石の推定を行った(表24)。岩石の推定は、泥岩質や砂岩質あるいは複合石英類(微細)が堆積岩類、複合石英類(大型)や複合鉱物類(含輝石類・含角閃石類・含雲母類)が深成岩類、凝灰岩質が凝灰岩類、斑晶質が火山岩類、片理複合石英類が片岩類、ガラスがテフラ(火山噴出物)である。

これらは、起源岩石の種類および組み合わせによりA群～E群に分類した。ただし、ガラスからなるテフラは分類には考慮していない。

A群は、堆積岩類を主体として深成岩類や凝灰岩類から構成される。さらに、深成岩類を含まない組成(A<sub>1</sub>群)と含む組成(A<sub>2</sub>群)に細分した。B群は、A群の組成以外に火山岩類を明瞭に含む組成である。さらに、深成岩類を含まない組成(B<sub>1</sub>群)と含む組成(B<sub>2</sub>群)、片岩を含む組成(B<sub>3</sub>群)に細分した。C群は、堆積岩類と深成岩類から構成され、凝灰岩類や火山岩類などは含まない組成である。D群は、堆積岩類と深成岩類および火山岩類から構成される組成である。E群は、堆積岩類から構成される組成である。なお、No29の宇田式高杯には褐色火山岩類がわずかに含まれている。

砂粒の分類では、A群に分類される胎土は38試料、B群に分類される胎土が5試料、C群に分類される胎土が5試料、D群に分類される胎土が1試料、E群に分類される胎土が1試料である。

## 7. 考察

住居跡や大溝から出土した弥生後期及び古墳中期の土器材料は、粘土が外洋成粘土・干潟成粘土・淡水成粘土・水成粘土・その他粘土に分類され、砂粒組成が堆積岩類を主体として深成岩類と凝灰岩類からなるA群・このA群の組成に火山岩類を含むB群・深成岩類と堆積岩類から構成されるC群・堆積岩類と深成岩類および火山岩類から構成され凝灰岩類を含まないD群・堆積岩類のみからなるE群に分類された。

砂行遺跡から出土した土器は、粘土の種類では微化石類が少ない淡水成粘土や水成粘土あるいはその他粘土が多く、これらは砂粒組成において凝灰岩類を含むA群またはB群の組成からなることが分かった。これらの土器には、考古学的な観察により在地とされる土器が含まれているが、これらの特徴が在地要素と予想される。遺跡が立地する地域は、地質学的に中生代那比ユニット(ジュラ紀中期～白亜紀再前期)の塊状砂岩および砂岩泥岩互層からなる(藤根、1998:図320)。遺跡の位置する谷内では、これら基盤層が泥化した良質の粘土が堆積しており、谷頭付近では奈良時代の砂行古窯跡が成立している。ここで調べた土器胎土中のA群やB群などの組成がこの基盤組成を反映しているかどうかは今後調査する必要がある。なお、A群やB群に特徴的な凝灰岩類は、東側地域に分布する新第三紀前期中新統の瑞浪層群蜂屋累層などで特徴的に見られる組成である(吉田・藤田、1999)。なお、No.6の山中式甕のように放散虫化石を含む外洋成粘土で火山岩類の砂粒を含む胎土はこうした地域の

組成と調和的であると思われる。

No44の山中式甕は、湖沼浮遊生種群の珪藻化石を特徴的に含み、砂粒組成は堆積岩類および深成岩類からなるC群である。また、No5の山中式高杯は、沼沢湿地指標種群の珪藻化石を特徴的に含み、砂粒組成は火山岩類を含むB群である。さらに、No45の山中式甕は、海水泥質干潟指標種群の珪藻化石を特徴的に含み、砂粒組成は火山岩類を含むB群である。これらは、砂粒組成がA群あるいはB群の組成とは異なり、粘土の種類も異なることから、搬入品の可能性が高い。特に、No44は干潟成粘土を用いていることから、県内には分布しない地層である。なお、この干潟成粘土を用いた胎土は、東海地域に特徴的なパレススタイル壺の胎土材料と酷似している(藤根, 1998)。こうした材料となる粘土層は、第四紀後期更新統の熱田層および相当層の粘土層などが有力と考えられる。

No31~No34の宇田甕の胎土は、珪藻化石が貧弱である水成の粘土であるが、砂粒組成は深成岩類や堆積岩類からなるC群である。こうした特徴は、他地域から出土する宇田甕においても少なからず見られる特徴である(藤根, 1998)。この宇田甕は、特定域のかつ特定集団が製作した土器の可能性が考えられる。なお、現河川砂の調査では、このC群の砂粒組成は西側地域では鈴鹿川や員弁川において、東側地域では庄内川や天白川において見られる(藤根, 1998)。

## 8. その他の特徴

ここで調べた土器は、混和材の砂粒は比較的粗粒である土器が多い。ただし、No3・No9・No10・No12・No30では含まれる砂粒は細かい。

No1・No12・No27・No42の胎土中には、イネ科植物の葉身に形成される植物珪酸体の化石が多量に含まれている。この植物珪酸体は、イネ科植物を焼いた時にそのまま残ることから、焼いた時にできる灰質を除粘材として利用した可能性が考えられる(藤根, 1998)。なお、この植物珪酸体化石は、一般的にプラント・オパールと呼ばれ、稲作推定の土壌分析として利用される。

さらに、No38やNo44の胎土中には、テフラ起源と推定される火山ガラスが多量に含まれているが、これらガラスは混和材として意図的に混入されている可能性が考えられる。東海地域では、弥生後期のパレススタイル土器や加飾壺などにおいて見られる特徴でもある(藤根, 1998)。

## 引用文献

- 安藤一男(1990)「淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用」『東北地理』42、2、73-88  
 地学団体研究会・地学事典編集委員会編(1981)『増補改訂 地学事典』平凡社 1612P  
 菱田 量・車崎正彦・松本 完・藤根 久(1993)「岩石学的方法に基づく胎土分析について—弥生時代後期の土器を例にして—」『日本文化財科学会第10回大会研究発表要旨集』34-35  
 藤根 久(1998)「東海地域(伊勢—三河湾周辺)の弥生および古墳土器の材料」『第6回東海考古学フォーラム岐阜大会 土器・墓が語る』108-117  
 小杉正人(1988)「珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用」『第四紀研究』27、1-20  
 車崎正彦・松本 完・藤根 久・菱田 量・古橋美智子(1996) (39)「土器胎土の材料—粘土の起源を中心に—」『日本考古学協会第62回大会研究発表要旨』153-156

表22 土器胎土中の粒子組成一覽表 (その1)

分類群	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	
硬化石類																										
石英																										
長石																										
輝石																										
角閃石																										
雲母																										
珪石																										
燧石																										
煤屑																										
炭屑																										
鉄屑																										
銅屑																										
鉛屑																										
錫屑																										
銀屑																										
金屑																										
鉛																										
錫																										
銅																										
鉄																										
炭																										
煤																										
燧																										
石																										
土																										
砂																										
泥																										
灰																										
土																										
砂																										
泥																										
灰																										
土																										
砂																										
泥																										
灰																										
土																										
砂																										
泥																										
灰																										
土																										
砂																										
泥																										
灰																										
土																										
砂																										
泥																										
灰																										
土																										
砂																										
泥																										
灰																										
土																										
砂																										
泥																										
灰																										
土																										
砂																										
泥																										
灰																										
土																										
砂																										
泥																										
灰																										
土																										
砂																										
泥																										
灰																										
土																										
砂																										
泥																										
灰																										
土																										
砂																										
泥																										
灰																										
土																										
砂																										
泥																										
灰																										
土																										
砂																										
泥																										



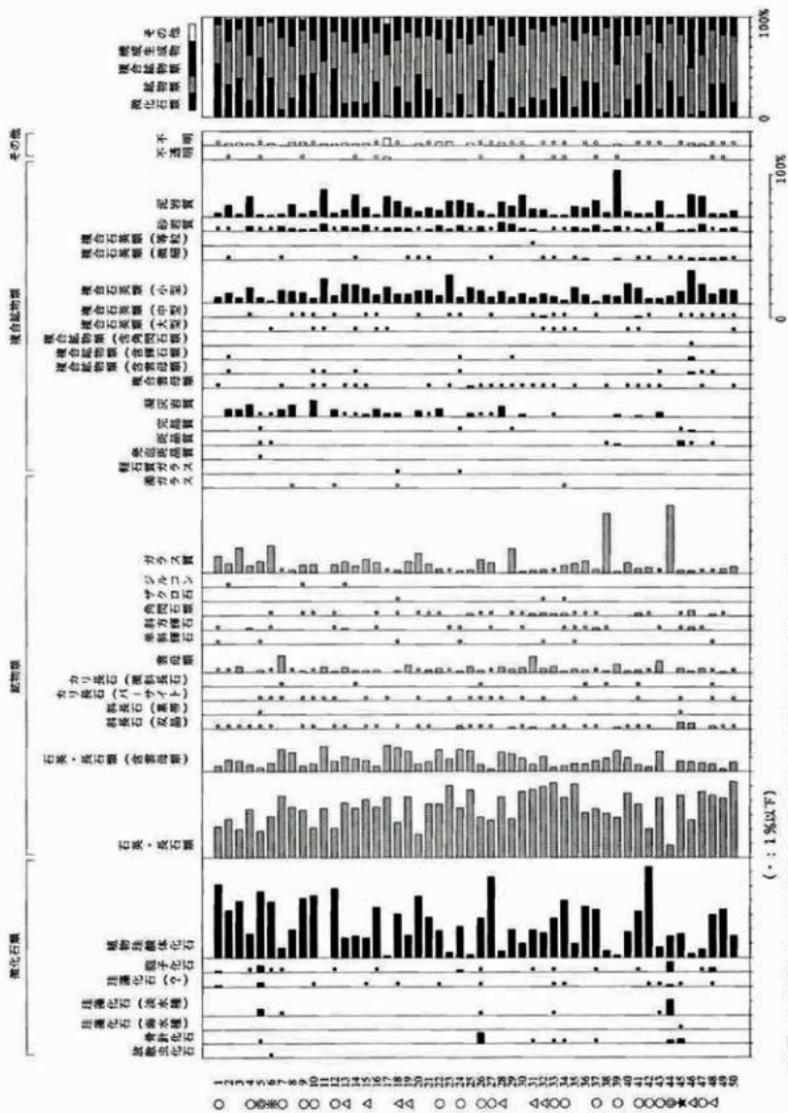


図319 土器胎土中の粒子組成図 (全分類群を基数とした百分率で表示)

【粘土の区分 (試料番号左)】  
 ※：平岡成粘土 (清水泥質干潟非腐性群緑藻化石の出現)  
 ☆：外洋成粘土 (笠懸虫化石などの出現)  
 ○：淡水成粘土 (沼沢湿地付着生指標群などの緑藻化石の出現) ○：淡水成粘土 (淡水種緑藻化石などの出現)  
 △：水成粘土 (不明種緑藻化石などの出現) 無：その他粘土 (酸化石類を含まない)

(・: 1%以下)



表24 時期別の土器材料粘土と砂粒組成

時期	器種	粘土の分類						砂粒の分類							
		外洋成	干潟成	沼沢地成	湖沼成	淡水成	水成	その他	合計	A.群	B.群	C.群	D.群	E.群	合計
山中式	壺		1			1	1		2	1	1				2
	甕	1			1				5	2	2	1			5
	鉢					1		1	2	2					2
	高杯			1				2	4	3	1				4
瀬田式	器台							2	2	2					2
	壺						1	5	6	6					6
	甕					2	2	4	8	7	1				8
	鉢					2		1	3	3					3
	高杯					5	1	1	7	7					7
	器台						1	1	1	1	1				1
松戸式	壺														
	甕														
	鉢														
	高杯							1	1			1			1
宇田式	器台														
	壺														
	甕					3	3		6	2		4			6
	鉢														
宇田式	高杯					1		2	3	2					1
	器台														
	合計	1	1	1	1	18	9	19	50	38	5	5	1	1	50



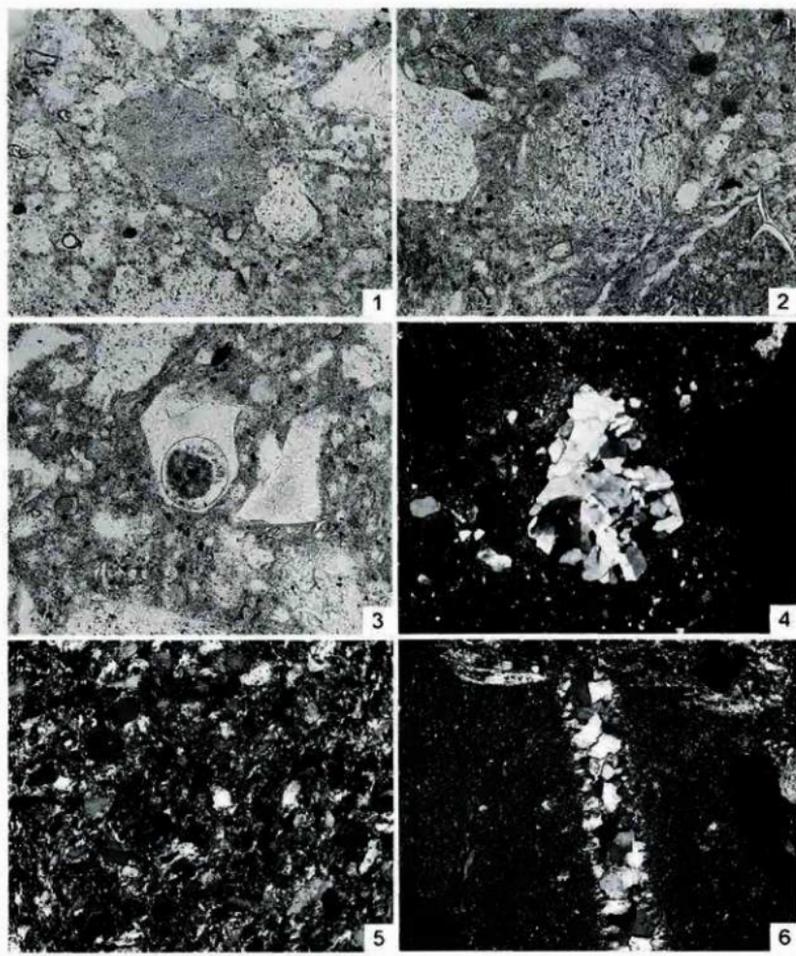


図321 土器胎土中の砂粒顕微鏡写真 (スケール: 250 $\mu$ m)

- |                       |                              |
|-----------------------|------------------------------|
| 1. 凝灰岩質 (開放ニコル) No. 6 | 2. 斑晶質 (直交ニコル) No. 6         |
| 3. ガラス質 (開放ニコル) No. 6 | 4. 複合石英類 (直交ニコル) No. 29      |
| 5. 砂岩質 (直交ニコル) No. 29 | 6. 複合石英類 (微細) (直交ニコル) No. 29 |

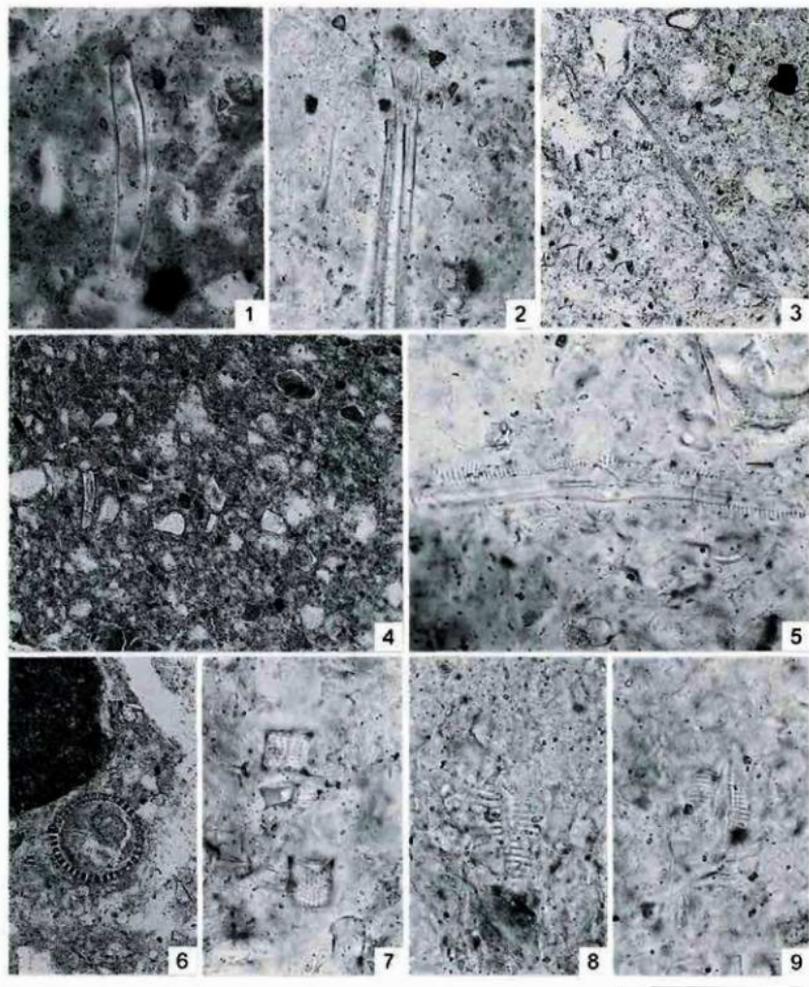


図322 粘土試料中の微化石類顕微鏡写真(スケール; 50 $\mu$ m)

1. 珪藻化石(沼沢湿地付着生指標種群 *Eumotia pectinalis* var. *undulata*) No.4    2. 珪藻化石(淡水種 *Eumotia biareofera*) No.5    3. 骨針化石No.1    4. 植物珪藻体化化石No.42    5. 珪藻化石(淡水種 *Cymbella* 属) No.44  
 6. 放散虫化石No.6    7. 珪藻化石(湖沼浮遊生指標種群 *Melosira granulata*) No.44    8. 珪藻化石(海水泥質干潟指標種群 *Nitzschia cocconeiformis*) No.45    9. 珪藻化石(海水泥質干潟指標種群 *Diploneis smithii*) No.45

## 第5節 砂行火葬墓出土の火葬人骨

### 1. はじめに

砂行火葬墓は、蔵骨器として用いられた須恵器の年代観から8世紀前半と推定され、岐阜県はもとより全国的にみても火葬の風習の導入期に当たるものと考えられる。今回出土した火葬墓及び埋納された火葬人骨は、遺存状態が良好であり古代における地方の墓制を復元する上で重要な資料であるといえる。ここでは、出土した火葬人骨の観察・分析を通して火葬及び被葬者の復元に迫りたいと考える。

### 2. 出土状況

火葬人骨は、容積3.65ℓの須恵器提瓶内に細片化して納められていた。提瓶の口縁部と蓋の一部が後世の耕作時に破損していたが、火葬人骨への影響はほとんど認められず、ほぼ埋納当初の状態を保っていると思われる。人骨片は、長さ55mm以下のもので、規則性なく無造作に提瓶の体部内約3分の2まで詰め込まれ、隙間には蓋が破損した後にいったと考えられる流入土とともに空隙が一部に認められる。側面に開けられた孔は、外部から砂岩の転石を用いて完全に塞がれており、ここから骨片が外部へ流出しているようなことはなかった。蔵骨器のおかれた床面下には排水を意図したと考えられる炭の層が敷かれており、これが火葬人骨の保存を助けたと推定される。

### 3. 出土火葬人骨の特徴

#### ①色調及び遺存状態

人骨は全体に灰白色を呈す。遺存状態は硬く良好であるが、歯はエナメル質が崩壊し、歯冠は失われている。総重量は2002.0gを測り、一体分の火葬人骨の重量 (Bass, William M; 1987) に満たない。細片を除いて641片が同定され、頭蓋骨178片、歯約10本、頸椎35片、鎖骨4片、肩甲骨9片、肋骨57片、腰椎16片、上腕骨11片、仙骨2片、寛骨12片、手根骨・中手骨及び指骨12片、大腸骨22片、脛骨6片、腓骨4片、足根骨・中足骨及び足指骨5片を確認し、胸骨・胸椎・尺骨・膝蓋骨は認められなかった。重視する部分はなく、1体分の埋葬と考えられる。

#### ②各部位の特徴 (図版114)

火葬及び火葬人骨の性格を特徴づける以下の各部位について、観察事項を記述したい。

##### ・頭蓋骨

多くの頭蓋骨片を確認したが、部位を同定できるものは少ない。ラムダ部に大きな縫合骨がある。この縫合骨の周りは鋸歯状の縫合が非常に明瞭であり、さほど高齢ではないであろう。後頭骨は、厚くない。

##### ・肩甲骨

部分的に確認された肩甲骨は、摩耗が全く始まっていない。年齢と共に薄くなる特徴を持つことから、この個体は比較的若いといえる。

##### ・鎖骨

間接接合は、完全に閉じている。そのことから、最低この個体は20歳以上であろうと思われる。

・腰椎

確認された腰椎は、まったく加齢現象が始まっていない。このことから、比較的若いと判断される。40歳以下であろう。

#### 4. まとめ

##### ①火葬温度の推定

色調が灰白色を呈すること、骨片が硬化していること、内部構造の微細構造がみられないこと、歯のエナメル質が崩壊し歯冠が失われていることから、火葬の温度は800℃前後と考えられる (Stewart TD; 1979)。

##### ②埋納部位の選択傾向

火葬人骨の同定部位は、ほぼ全身に及んでいるが、埋納された部位のうち頭蓋骨が178片で同定された骨片の28%を占め最も多い。また、歯においては前歯のみであり、奥歯はまったく含まれない。火葬を行った場所から骨片を拾う際に、若干の選択が行われたようである。また、人骨総重量が2002.0gと少なく、あるべきはずの部位が欠落していることから、すべての骨を納めたわけではないことがわかる。

##### ③火葬人骨の推定年齢

800℃前後の温度で火葬されることで、数%~20%ほどの収縮が起こることを勘案して、以下の諸点を指摘しうる。

- ・肩甲骨が薄くなり始めていないこと、及び腰椎の摩耗が始まっていないことから、比較的若い年齢と推定される。
- ・歯はすべて永久歯に生え替わっていることから、思春期は過ぎてしていると推定される。
- ・鎖骨が完全に閉じていることから、20歳以上と推定される。
- ・頭蓋骨三大縫合はまったく行われていないことから35歳以下と推定される。

##### ④火葬人骨の性別

火葬人骨の総重量から、性別を求める方法があるが (Bass, William M; 1987)、砂火葬墓の場合選別が行われており、比較的重量に達していない。また、性別を決定しうる部位が同定されず推定は困難であるが、唯一上腕骨の先端が36mmと小さく華奢なことから女性である可能性が高いといえる。

以上のように、砂火葬墓の主体者は、20歳前後~35歳前後の女性である可能性が高い。火葬は800℃ほどの温度で行われ、焼成後はすべての骨が拾われたのではなく主として頭骨を、また歯では前歯を選択して蔵骨器に納めている。骨を拾い上げる際の優先部位の存在は、思想的な背景があるものと予想されるが、類例の増加をまって今後検討を加えたい。

#### 参考文献

Stewart, TD; 1979 Burned Bones. in "Essentials of Forensic Anthropology"

Bass, William M; 1987 Humann Osteology

## 第7章 考 察

### 第1節 砂行遺跡における住居形態と集落形態

#### はじめに

砂行遺跡では、広範囲に調査を展開した結果、66軒の竪穴式住居跡を検出した。それらは、極めて特異な立地条件にあり、なかでも弥生時代終末期（砂行遺跡Ⅱ期）に属する住居は急斜面に群を形成して造営されており、その結果として特殊な住居形態・集落形態を採る。

美濃地域では、このような地形に全面調査が及ばなかったこと及び、集落の存在が予想し得なかったことが重なって、これまで全く認識されていなかった集落遺跡といえる。今回の調査も同様な認識のもとに開始し、幸いにも古墳群の面的調査を展開した結果、急斜面集落の検出を可能にした。以来、本遺跡の事例に基づいて急斜面集落の存在に注意が払われるようになり、関市内では深橋前遺跡・南青柳遺跡、富加町では後平遺跡において同様な急斜面集落が検出され、類例が増殖しつつある。

ここでは、砂行遺跡の住居形態に認められる特徴を明らかにするとともに、集落の変遷・消長を考え、濃尾平野北縁山間地域に認められつつある急斜面集落の特徴を明らかにしておきたい。

なお、対象とするのは弥生時代終末期（Ⅱ期）の住居・集落を中心とするが、比較対象として古墳時代中期（Ⅲ期）の住居・集落も扱いたい。

#### 1 住居の形態について

本遺跡66軒の竪穴式住居跡が立地する斜面の傾斜度は、平均で25%<sup>\*)</sup>である。床面の流失や後世の改変によって斜面の傾斜度も変化している可能性があるが、例えば破壊の少ないSBA33では傾斜度34.4%を測り、極めて急な斜面に立地するといえる。その結果、①住居の方位、②住居の平面形、③山間周溝に特色が表れる。以下にⅡ期の住居の形態を、この3つの視点から考えてみたい。

##### ①住居の方位

竪穴式住居の方位は、山側の壁面を等高線に対して平行になるように設定されており、複雑に等高線が屈曲する本遺跡では様々な方向を向くことになる。山側壁面を等高線に沿わせるのは、両側壁を左右対称にすることで上屋構造の安定を図り、また均整のとれた形状にすることを優先したためと考えられ、合理的な方位といえる。

##### ②住居の平面形

等高線に沿って方形の住居掘り方を掘削するため、住居の幅<sup>\*)</sup>は比較的広くとることができるが、住居の奥行きには限界が生じる。後述するように、谷側の床面は掘削排水によって確保するが、人為的な整地土であるため安定が悪く岩盤を掘り抜いた床面と比較すると大きな強度の差が生じる。従って、立地が急斜面であればそれだけ住居の奥行きが取りづらくなり、床面積の確保のために平面形は等高線の方に長い長方形を採らざるを得ないと考えられる。本遺跡では、住居の奥行きを確認できる事例が少ないが、SBA30・SBA33・SBA34など、残存状態が比較的良好なA区の急斜面に立地する住居の多くが長方形を採る。その一方、比較的傾斜度が緩い場所には正方形を呈する住居も存在することから、必ずしも長方形を志向したのではなく、立地による制約がなければより床面積が広い正方形にするようである。長方形と正方形の違いは、おおそ平均傾斜度を境に区分され、25%以上の急

な傾斜では長方形、25%未満では正方形を採る傾向にある。

### ③山側周溝

急斜面に立地する住居の場合、山側からの浸水や流土による埋没を防ぐ目的で山側周溝を設けるものが存在する。本遺跡では9軒の住居に伴うことを確認したが、本来はさらに多くの住居に設けられていた可能性が高い。しかし、残存状態が比較的良好で急斜面に立地するにも関わらず、山側周溝を伴わない事例がみられ、全てに共通した特徴とはいえない。ちなみに、確実に山側周溝を伴わないのは、SBA23・SBA34など幅3mほどの住居であり、住居の規模に関係する可能性もある。

### 2 住居掘り方掘削と床面の形成方法

Ⅱ期竪穴住居の掘り方は、急斜面において水平な床面を形成するために山側を極めて深く掘削する。本遺跡で最も深いものは、SBA33の95cmであり、他にも残存状態の良好なSBA30では90cm、小型の住居であるSBA34でも75cmの深さがある。全住居の山側壁面高の平均は46cmであるが、本来は少なくとも70cmを越える深さであった可能性が高い。

これだけの深さを掘削すると、大半の住居はⅥ層（地山）の粘質土を掘り抜いて砂岩の岩盤に達する。しかしそこで掘削は終了せずに、さらに岩盤をも深く掘り抜き、山側には砂岩の岩肌をそのまま床面とした部分が形成される。

山側を深く掘削した結果、多量の掘り抜き排土が谷側に積まれることになるが、これは谷側に向かって床面を広く確保するのに用いられる。急斜面に立地する場合、住居の床面積の確保は、先述したように長方形に幅を広く取ることと、掘り抜き排土を利用することで行われるのである。なお、山側周溝が掘削される住居では、その排土も利用されたとも考えられるが、さらに浸水を防止するために山側周溝と住居掘り方との間に周堤状に盛り込まれた可能性もある。

山側床面が岩盤を掘り抜くと、山からくだる地下水は山側壁面の岩盤と粘質土の境から住居内に浸入することになる。それを防ぐ手だての一つが山側周溝の掘削であるが、住居内ではさらに壁溝が排水の役割を担った可能性が高い。それは、本遺跡で検出した壁溝は住居を全周することは希で、多くは砂岩の岩盤部分のみに施される。浸透性に欠ける砂岩では排水施設を要するが、谷側の掘り抜き排土による床面ではその必要がないことが原因と考えられる。壁溝の主目的は板壁を立てるための布掘りと考えられ、本遺跡でも同様であるが、あわせて排水機能を持たせたと推定される。

急斜面の住居掘り方の山側が極めて深い一方で、当然の結果として谷側の壁面は極めて浅くなる。谷側の壁面をかくろうじて検出したSBA33・SBA34・SBC02では、床面からの高さは10cm前後を測るのみである。住居の入口の明瞭な痕跡は認められなかったが、段差が最も少ない谷側部分に設けられた可能性が高い。住居の掘り抜き排土は、床面形成に用いられるだけでなく、住居入口に連続する道の役割を果たした可能性もあろう。

このように、砂行遺跡における竪穴住居跡には、特殊な立地環境に積極的に適応した様々な痕跡が認められる。等高線に平行した住居の方位・長方形の平面形・山側周溝の掘削・山側壁の深い掘削と掘削排土の利用・排水機能を兼ねた壁溝など、すべてが急斜面に立地することに起因して、互いに深く連動した技法・施設であるといえよう。

なお、このような掘削方法や形態を採るのは、前提として基盤が砂岩でなければならない。隣接する丘陵には硬いチャート基盤が認められるが、そこには成立し得ない集落である。



### 3 住居の選地と小支群の設定

砂行遺跡では、少なくとも200年の時間差をもつ、二つの異なる時代の集落を検出した。弥生時代終末期のⅡ期集落と、古墳時代中期のⅢ期集落がそれで、その間をつなぐ住居跡・遺物は全く検出されていない。二つの造営主体は、関連がないと考えて良いであろう。

しかし、Ⅱ期とⅢ期の住居の立地で共通するのは、尾根の東向き斜面を選地する傾向である。本遺跡のある丘陵は南西に向かって3本の尾根が派生するが、それらの尾根の西向き斜面に立地するのは15軒であるのに対し、残りの51軒は東向き斜面である。これは、西からの強風を避けるために風裏となる東向き斜面を選地した結果と考えられる。発掘調査を行った1年余りの期間でも、年間を通して西からの強風に悩まされることが度々あり、また平安時代の白瓷窯である砂行古窯は引きを強くするために西風が谷を回廊のように通って突き当たる斜面を選地している。おそらくⅡ期・Ⅲ期においても状況は同様であったと思われる。

Ⅱ期とⅢ期とで大きく異なるのは、住居の高度である。Ⅲ期に属する住居9軒の海拔の平均は74.77mであるのに対し、Ⅱ期に属する53軒の平均は81.03mで、Ⅱ期の住居で最も高所に位置するSBC25は88.7mを測る。生活用水として利用したであろう砂行大溝や水場遺構は海拔70~74mであり、Ⅱ期の集落は生活には不便な立地といわざるを得ない。本遺跡の場合、海拔80mを超えるような住居はⅡ期に属するといえる。しかし、Ⅱ期の住居の全てが高所を選んでいるわけではなく、例えば本遺跡で最も規模の大きいSBE01では73.31mの低位に立地し、Ⅲ期の住居と変化はない。Ⅱ期の住居の選地は、低位から高位まで広い範囲に及ぶのに対して、Ⅲ期は低位に集中すると捉えた方が妥当であろう。

Ⅱ期住居の立地に高低差が激しいのは、西風を避けつつ狭い東向き斜面を選ぶ傾向にあり、さらに生活用水確保のために湧水点に近い場所に集中する傾向にあるため、集落を造営するだけの空間が充分ではなく、狭い良好な条件の場所を有効に利用するために段をなして帯状に群を形成しているためである。帯状の群はそれぞれ等高線に沿う方向に形成されており、段と段の間には住居の空白帯が存在する。

水平方向の帯状の群とは別に、垂直方向にも3カ所の湧水点（西の砂行大溝、中央の水場遺構、東側の谷）を囲むように扇状に集中する群を認めることができる。この3群の境は尾根の稜線で、やはり住居の空白帯が存在する。

以上の水平方向と垂直方向の2つの視点で小支群に区分を行うと、以下ようになる。なお、湧水点と尾根稜線による区分（垂直方向の区分）を大区分として西支群（砂行大溝周辺）・中央支群（水場遺構周辺）・東支群（東側の谷周辺）とし、支群毎に水平方向に小支群を細分した（図323）。

#### ①西支群

西支群は、海拔77m以下の低位の1段のみからなる12軒の群であるが、破壊されたE区の尾根には上位に段を形成していた可能性が高い。現存する段を「西支群第1段」とする。

#### ②中央支群

以下のように4つの小支群に細分できる。

- ・中央支群第1段：西支群から連続する海拔77m以下の低位の段で、4軒が認められる。
- ・中央支群第2段：第1段との間に高低差約3mの空白帯を置いて、海拔80~81mの極めて狭い範囲に3軒が認められる。

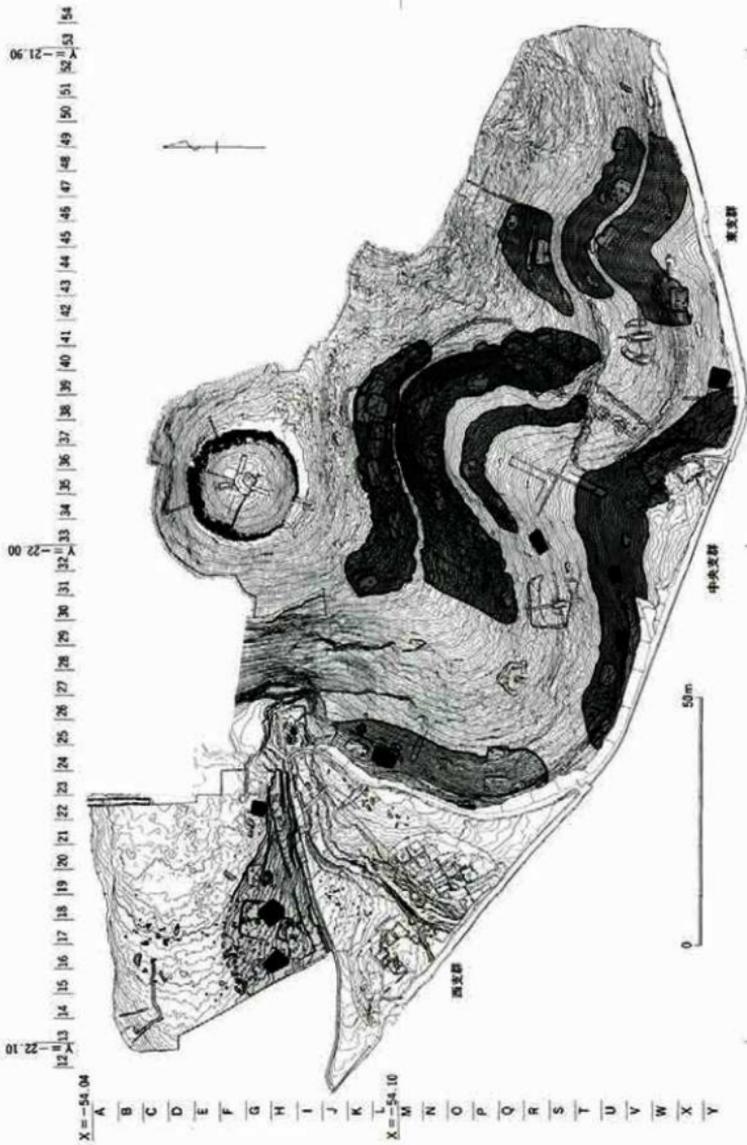


図323 II期黒海小支群分布図

- ・中央支群第3段：第2段との間に高低差約1mの空白帯を置いて海拔82～84mの範囲に12軒が認められる。
- ・中央支群第4段：第3段との間に高低差約1mの急傾斜空白帯を置いて海拔85m以上に13軒が認められる。

### ③東支群

以下のように3つの小支群に細分できる。

- ・東支群第1段：中央支群第2段から連続する海拔81m以下の範囲に3軒が認められる。
- ・東支群第2段：中央支群の第2段と第3段の間の空白帯にあたり、海拔81～82mの範囲に3軒が認められる。
- ・東支群第3段：中央支群第3段にはば対応する海拔83m以上の範囲で、3軒が認められる。

このように段をなして小支群が形成されるのは、前述した住居掘り方の掘削方法と連動していると考えられる。山側の壁面を等高線に平行するように設定し、掘削排土を谷間に積み上げて床面を確保するとともに、住居入口とそれに接続する道を設けるために上下段小支群は互いに空白帯を確保せざるを得ない。また同時に水平方向に住居間を結ぶ道が連なる可能性が高く、同一の道を共有する小集団のまとまりを示唆するものである。

## 4 集落の変遷と小支群形成過程

II期の竪穴住居は、出土土器の編年観と遺構の切り合い関係とから4つの小時期に区分した。砂行遺跡全体では、II-1期が7軒、II-2期が4軒、II-3期が10軒、II-4期が15軒となる。これらの変遷を各支群の各段で以下の表に示した。

表28 小支群毎の住居数の変遷

小支群	II 期					合 計
	1 期	2 期	3 期	4 期	不 明	
西支群第1段	2	1	1	2	6	12
中央支群第1段	0	0	1	1	2	4
中央支群第2段	0	1	0	1	1	3
中央支群第3段	2	0	3	4	3	12
中央支群第4段	2	2	3	4	2	13
東支群第1段	1	0	0	1	1	3
東支群第2段	0	0	2	0	1	3
東支群第3段	0	0	0	2	1	3
合 計	7	4	10	15	17	53

集落全体では、II-2期に特定できる住居数がやや少ないが、時期が降るに従って増加する傾向にある。その増加傾向を引き起こしているのは、新たな小支群が造営されるようになるからで、1期から4期までほぼ連続と住居を営むのは4つの小支群にすぎず、中央支群第1・2段、東支群第2・3段ではII-2期以降、とりわけII-3期以降に造営が開始される新興の小支群といえる。旧来の4つの小支群は、住居数に大きな増減は認められず、ほぼ一定軒数で推移する。つまり、時期によって

小支群を転々と不規則に移動するのではなく、前述したように同一の道を共有する小集団は一定の小支群を居住域としたことを示すものと考えられる。上記の表が示す数字は、同一の小集団、おそらく同一家族体が、3軒前後の竪穴住居をもつ集団であったことを示唆しているのかもしれない。しかし、低位の小支群には破壊された住居跡が確実に存在するし、小時期区分ができないものも数多くあることから、具体的な小集団の軒数は明らかにできない。

旧来の4つの小支群には、大型の竪穴住居が拠点的に存在する傾向にある。本遺跡では住居の幅によってのみ規模の比較が可能であるが、幅5m以上の住居が7軒認められる。これらは集落全体においても拠点住居と考えられるが、これが旧来の小支群に集中するのである。さらに4.5m以上の準拠点住居を加えると、その傾向は一層明らかになる(表29)。

表29 小支群の拠点住居・準拠点住居数の変遷

小支群	II 期					合 計
	1 期	2 期	3 期	4 期	不 明	
西支群第1段(旧来)	0	0	1	1	1	3
中央支群第1段(新興)	0	0	0	0	0	0
中央支群第2段(新興)	0	0	0	0	0	0
中央支群第3段(旧来)	0	0	1	2	0	3
中央支群第4段(旧来)	1	2	1	0	1	5
東支群第1段(旧来)	0	0	0	1	1	2
東支群第2段(新興)	0	0	1	0	0	1
東支群第3段(新興)	0	0	0	1	0	1
合計	1	2	4	5	3	15

砂行遺跡の集落は、集落造営当初からの旧来の小支群に拠点住居を構えて、その家族体は同一段上を占有し続け、新興の家族体は比較的小規模な住居で新たな小支群を形成するようである。

II-4期にピークを迎えたこの集落は、同時に突如として終焉する。その時期は、遼間編年のI式3段階に併行する。それ以降5世紀になるまでこの地には人の痕跡は一切認められないが、この長期に渡る集落の断絶の背景については、現在進められつつある周辺遺跡の調査研究に委ねたい。

## 5 「砂行型急斜面集落」

以上に記した砂行遺跡に認められるII期の住居及び集落の特色をまとめると、以下のようになる。

### (1) 住居形態

- ・砂岩基盤の急斜面に立地する。
- ・急斜面に立地するため、住居の山側壁面を等高線と平行に設定する。
- ・床面積確保のために住居の幅を広く取り、長方形を呈する住居が認められる。
- ・山側からの浸水・埋没を防ぐために比較的大型の住居には山側周溝を設ける。
- ・住居の掘り方は山側を極めて深く掘削して水平な床面を確保するとともに、掘削排土を谷側に積み上げて床面積を広くする。
- ・砂岩の岩盤を掘り抜いた掘り方には、排水機能を兼ねた壁溝が巡る。

## (2) 集落形態

- ・集落は、西風を避けて湧水点を囲む位置に支群を形成する。
- ・各支群には、水平方向に段をなすように帯状に連なる小支群が認められる。
- ・小支群が水平方向に段をなすように連なるのは、竪穴住居掘り方の掘削及び床面確保の方法と連動し、さらに道を共有する小集団が存在する可能性が高い。
- ・小集団には、集落形成当初から存在する旧来の拠点的小集団と、形成過程の後半以降に現れる新興の小集団とが認められ、住居の規模などで前者が後者に対して相対的に優位な位置を占める。

以上の特徴をもつ集落は、美濃地域では前述したように極めて特殊であり、また砂行遺跡での検出を契機として類例が面的に増加しつつあることから、「砂行型急斜面集落」と仮称したい。

本遺跡では、II-1期(山中式5段階～週間I式0段階併行)に成立する。周辺で本遺跡に先行する弥生時代後期の集落としては重竹遺跡が知られ、これは長良川低位河岸段丘上に立地することから推定して、砂行型急斜面集落の成立は砂行遺跡の集落成立期とほぼ同時期と考えられる<sup>33)</sup>。

砂行遺跡に先行する集落の立地が平坦地であるのに対して、弥生時代終末期にどのような契機で形成に際して制約の多い砂行型急斜面集落が成立したのか。その背景としては、山間地域に関わる生産背景の存在や防衛機能を備えるなど社会的・政治的背景などが想定しうるであろうが、成立要因を特定できるような明確な痕跡は今回の調査では認められなかった。今後の周辺遺跡の調査に期待したいが、いずれにしても、階層分化が激しく進行したであろう古墳時代直前における、時代を画する変化の渦の中で、山間地域に表出した特殊な集落と位置づけられよう。

## 注

- 1) 傾斜度は、竪穴住居周辺の地形で測り、百分率で示す。
- 2) 第4章第1節と同様、等高線に平行する住居の長さを「住居の幅」とし、等高線に直行する住居の長さを「住居の奥行き」とする。
- 3) 砂行型急斜面集落の終焉の時期は、隣接する南青柳遺跡の事例から、現在のところ本遺跡よりやや降り、週間I式4段階と考える。

## 第2節 砂行遺跡における土器の在地色

### はじめに

砂行遺跡では、山中式後期から廻間I式前半期にかけての、美濃地域の内陸・山間地域としては比較的良好的な土器資料が得られた。高坏や壺など多くの器種は、尾張低地部や西濃地域からの影響が色濃く認められたり、他地域からの搬入品と考えられるものであるが、甕・鉢及び器台の中には、当地域の独自色として捉えられるものがある。山中式から廻間I式にかけての条痕文系の甕（甕A1類・A2類）及び鉢（鉢B・D類の一部）と器台（器台A類の一部）、廻間I式期の口縁部が長く外傾する平底甕（甕C類・D類）がそれである。以下、これらの土器の特色を記したい。

### 1 条痕文系の甕

従来、弥生中期に美濃内陸・山間地域で出現する櫛条痕による条痕文系土器は、弥生後期初頭を最後に終焉すると考えられていた（紅村1980、石黒1999）。しかし当遺跡では、弥生後期後半以降、最終期の条痕文系土器の存在を確かめることができた。本稿で「甕A1類」・「甕A2類」に分類したものがそれで、前者を典型的な形態とし、後者はその変容形態と考えられる。ともに、細密な櫛条痕を施すことを最大の特徴とする。なお、条痕原体は、笹のような細い竹管<sup>21)</sup>を糸で簾状につなぎ合わせた簾状工具を用いている可能性が高いが<sup>22)</sup>、ここでは「櫛条痕」の名称を用いる。

#### ・甕A1類（図324）

器形：頸部を緩やかに曲線的に屈曲させて、体部との境を不明瞭とし、口縁部は長く外反させる。口縁端部はわずかに面を形成する。体部最大径は口縁径より小さいか又は同じで、底部は平底である。

成形：底部から1～2cmほど立ち上げた擬口縁部をユビオサエ後ナデによって形成し、乾燥後に底部側面積上法（深澤1985・1991）に類する手法を用いて外傾接合する。なお、底部外面には布目圧痕が認められる。

調整：内外面ともに、横方向のハケ調整を行った後、特に口縁部は丁寧な横ナデ調整を施す。櫛条痕による調整・施文は、ハケ及びナデによって器壁が整えられた後に施される。すなわち、最終調整の段階で工具をハケから櫛に持ち替えており、器壁の調整を意図したのではなく、条痕としての施文を意図したものと考えられる。体部外面は、口縁端部から底部方向及び、底部から口縁に向かう2方向で、縦方向の櫛条痕を全面に施す。口縁端部に形成された面には、斜め方向に櫛条痕が入れられ、口縁内面には櫛による列点文が巡る。

色調：内外面ともに、明赤褐色（5YR5/6～5YR5/8）及び、赤褐色（5YR4/6～5YR4/8）を呈し、同時期の甕（B・C・D類など）と明確に区分できる。

胎土：肉眼観察では、1～3mm角の砂粒を多く含む。胎土分析（第6章第4節）では、淡水成で砂粒組成では凝灰岩類を含む地系の粘土を用いることが知れる。

#### ・甕A2類（図325）

器形：頸部や口縁部の特徴は、甕A1類と同様であるが、肩部に張りがあり、体部最大径が口縁部径を凌駕する。底部は平底である。

成形：甕A1類と同様に、擬口縁部が底部直上に見られ、甕A1類と同一の手法を用いている。底部外面には、布目瓦痕にかわって葉脈痕がのこる資料（SBA33出土1157）も認められるが、甕A2類のすべてにあてはまるかどうかは不明である。甕A1類に比べ、口頸部の器壁が厚く重量感がある。

調整：甕A1類と同様、内外面ともに横ハケ後横ナデ調整を行った後に外面に縦方向の櫛条痕を施す。口縁端部及び口縁部内面の施文においては、甕A1類と異なる。口縁端部は、櫛条痕ではなく棒状の工具による刻み目を施すものが見られ、口縁部内面の文様帯は、波状文やその簡略化された横線文、または無文となるものも存在する。また、頸部に櫛条痕による横線文を縦方向の櫛条痕の後に巡らせる事例（SBA33出土1157）もある。

色調及び胎土：甕A1類と同様である。

## 2 条痕文系の受口状口縁鉢（図326）

弥生中期以降の美濃地域を中心に見られる条痕文系土器には、明確な器種分化が認められないとされてきた。しかし、当道跡では、甕A1類・A2類に併行する時期に、条痕文系甕の色彩が強く見られる鉢が存在する。確認できる個体数は9個体（口縁部から体部片7個体・底部片2個体）を数えるのみであるが、口縁部の形態は周辺地域からの影響、特に受口状口縁の影響を強く受けていると考えられるものである。口縁部の形態変化を中心に行った本稿の分類では、条痕文系のそれらを一つの類型として抽出することはできなかった。条痕文系ではない鉢との違いは口縁部の形態からでは分別が不可能であるためである。換言すれば、本来条痕文系の器種組成に存在しなかったがために、周辺地域の特に受口状口縁の鉢を、条痕文系の手法を加えて写し取ったものといえよう。

以下に、それらの特色を記したい。

器形：条痕文系の甕と同様に、頸部は緩やかに屈曲する点を共通とするが、口縁部の形態は受口状口縁を基調とする。しかし、受口の形態は一樣ではなく、また「く」の字状に外反させるものも存在する。受口状口縁を原形としつつも、様々な変化があるようである。また、体部最大径と口縁部径との関係も一樣ではない。底部は、良好な接合資料が得られなかったが、布目瓦痕の認められる平底の鉢底部が確認されており、これに連接するものと考えられる。

成形：甕A1類と同様の、底部の直上に底部側面積上法に類する手法の痕跡を明瞭にのこす擬口縁部が認められ、条痕文系の甕と同様の積み上げ手法を採用している。

調整：内外面ともにハケ調整を施した後に、特に口縁部を丁寧に横ナデする。その後の調整・施文方法は個体によって異なるが、櫛条痕による調整は甕のように器壁外面の全面には及ばず、部分的に施される。例えば、SBA01出土の1006の鉢は、口縁端部にへら状工具による刻み目を施し、その直下の口縁部外面に同様な工具による列点文を巡らせており、口縁部には櫛条痕は認められない。それに対して頸部からは工具を持ちかえており、頸部には7条の櫛による横線文を、その直下に同様な工具による列点文を巡らせる。そして体部中段にのみ縦方向の櫛条痕を施している。頸部の横線文とその下の列点文は、周辺地域の鉢にも見られる施文であるが、体部中段の櫛条痕は、ハケ調整の後に施文として施しており、条痕文系の甕の外面調整と共通する。頸部横線文下の列点文に櫛を用いることも、櫛条痕と連動した施文の可能性がある。条痕文系の鉢として抽出した頸部列点文は、個体数7点のうち6点が櫛による列点文で、残る1点は櫛による波状文であり、条痕文系甕の口縁部内面文様

帯と共通するからである。

色調・胎土：条痕文系の甕と同様である。条痕文系鉢の抽出に際しては、主としてこの色調・胎土を指標とした。

### 3 赤褐色の器台 (図326)

尾張北部から美濃地域にかけては、器台は小型壺との組み合わせではなく、煮沸具としての鉢とセット関係にある。在地において条痕文系の鉢を作る場合、部品としての器台も同時に製作した可能性は高い。

砂行遺跡出土の器台の大多数は、濃尾平野に通用のふい黄褐色を呈するが、上述した条痕文系土器と同様の色調を呈するものが存在する。本稿の分類では、器台A類に含まれ、赤褐色を呈するものである。条痕の痕跡は一切認められないが、上記の理由から抽出しておきたい。抽出し得た個体数は、住居跡及び砂行大溝からの9個体である。

器形：基部は太く、受け部は外反しながら立ち上がり、深みのあるものになっている。脚部は基部から緩やかに外傾して、裾部で大きく外反させる。口縁端部・脚端部は、面を形成する。

成形：器台A類を含めた他の資料との差違は認められない。

調整：内外面ともにハケ調整後に丁寧なナデを行い、受け部内外面及び脚部外面を縦方向のミガキ調整で仕上げる。

その他：脚部の透かし孔は、3方向の円形で、赤褐色器台以外のA類のものより大型(直径1.5cm前後、最大1.7cm)である。縦ミガキ調整が施される外面及び受け部内面に、赤彩を施す事例もある(1331・1358)。

### 4 長く外傾する口縁部をもつ平底甕

本稿で、甕C類・甕D類としたものは、濃尾平野低地部の同時代(山中式後半期～廻間I式前半期)資料と比べると、口縁端部の形状や施工方法・調整技法で共通する点が認められるが、頸部が緩やかに屈曲する点、口縁部が長い点、平底である点で大きく異なる。これらは、甕B類・E類・G類といった周辺地域からの影響を部分的に受け入れながらも、器形そのものは甕A類の流れを引くものと考えられる。擬口縁部による底部成形技法・縦方向の輪条痕による仕上げ・底部外面の布目圧痕または葉脈痕・赤褐色の色調など、条痕文系甕の特徴はまったく見られず、条痕文系土器の範疇には含め得ないが、その痕跡をのこす在地色の強い甕といえよう。

### 5 在地系土器の変遷

甕A1類は、主として砂行大溝出土の資料であり、住居跡などからの一括性の高い良好な資料は得られなかった。周辺の遺跡を見渡すと、関市重竹遺跡出土の類例が弥生後期初頭とされ(石黒1999)、美濃加茂市野笹遺跡 SB04出土の類例は山中式5段階の一括性の高いものである<sup>33)</sup>。本稿の時期区分ではII-1期と一部重なり、弥生後期初頭から廻間I式0段階前後までの時期幅が考えられる。

重竹遺跡出土資料は、口縁部径が体部最大径を大きく上回るのに対し、当遺跡出土資料には肩部の張り強く、口縁部径と同等のものが認められる。器形の変化としては、口縁部の外反が鈍くなり、

肩部の張りが強くなる方向へ向かうと考えられる。

甕A2類は、住居跡(SBA33・SBA35・SBC29)出土資料ではII-4期に限られるが、内面に列点文・波状文の施文が巡る砂行大溝(1559・1560・1561)・包含層(1821・1822)出土の資料は古い要素を残すものであり、II-3期以前で、一部甕A1類と併行するものと考えたい。甕A2類の終末期であるII-4期は、尾張低地部の編年では廻間I式2段階ないし3段階に併行すると推定され、条痕文系甕の最終期の年代がこの資料によって大きく降ることになる。

器形の変化としては、甕A1類からの継続で、肩部の張りがさらに強くなる傾向にある。橋条痕による施文・調整は、口縁内面の波状文・横線文から無文へ、口縁端部の刻み目状の施文からへら状工具による刻み目へ、外面縦条痕に加えて頭部横線文の施文などへと変化が認められる。甕A2類のこのような変化の背景には、周辺地域からの新しい施文要素や器形の導入があるものと考えられる。

条痕文系の受口状口縁鉢は、時期を確定できるのは、II-4期の住居跡(SBA01・SBC29)出土資料に限られる。しかし、砂行大溝出土のものには、口縁部が短く外傾して段をもつ鉢A類(1515・1522)が認められ、古い様相を呈することから、すでにII-1期には甕から分化していると考えられる。変化の傾向は一律ではなく、周辺地域からの影響によって様々である。

赤褐色の器台は、形態が器台A類に限定されており、II-1期ないしII-2期に位置づけられる。条痕文系の鉢との良好なセット関係は、住居跡出土資料では得られなかったが、条痕文系鉢A類と組み合うものと考えられる。器台B類に赤褐色のものが見られないことから、器台B類で占められるII-4期には消滅している可能性が高い。煮沸具として条痕文系甕から分化した当初においてのみ製作されたものであろう。II-3・4期には、大量に流通している器台B類を借用したものと考えられる。従って、存続期間が短期間であるため、変化の傾向はつかめない。

長く外傾する口縁部をもつ平底甕は、SBA15などの住居跡資料でII-1期にすでに認められることから、山中式5段階を前後する時期に成立していると考えられる。当遺跡ではそれ以降II-4期まで認められるが、美濃市古村遺跡・甚盤洞遺跡では廻間I式3段階の類例が知られ(高木1998)、廻間I式後半段階まで存続するものと考えられる。当遺跡では、II期の全期間に渡って安定して存在するものであり、さらに条痕文系の甕(甕A1・A2類)よりも絶対量は極めて多い。長期に渡り、しかも当遺跡の主要な煮沸具であり、さらにおそらく当地域で生産された在地のものであるにも関わらず、口縁部や頭部の形状・施文方法に一定の流れは見出せない。その背景には、周辺地域からの様々な影響の受容が考えられよう。

当地域における条痕文系土器・及びその痕跡は、初期のS字甕<sup>9)</sup>を受け入れることなく連続として継続するが、S字甕B類の時期に至り、その広範囲にわたる流通によって完全に消滅するものと考えられる。

以上の在地系土器の変遷を示したのが、図327である。

## 6 在地系土器の分布

甕A1類は、当遺跡の他に、関市重竹遺跡、美濃加茂市野笹遺跡、美濃加茂市為岡遺跡、加茂郡八百津町南森遺跡で知られる。甕A2類は、当遺跡の他には現在のところ類例は見あたらない。条痕文系の鉢及び赤褐色器台は、美濃加茂市野笹遺跡及び、為岡遺跡に類例がある。甕C類・D類は、美濃

市古村遺跡・碁盤洞遺跡、美濃加茂市尾崎遺跡で認められる他に、福井県でも類例が知られるようである<sup>80)</sup>。

以上は、調査事例が極めて少ない上に、管見した類例を列挙したにすぎないが、おおよそ長良川中流域の美濃市・関市から、木曾川中流域の美濃加茂市・八百津町に至る内陸・山間地域に限られると見ることができる。それは、弥生時代中期以来の棚による条痕文系土器の中心地でもある。

ただし、C類・D類の長く外傾する口縁部をもつ平底甕は、長良川中流域に顕著に偏り、木曾川中流域では主体とならず、小地域による多様化が認められる。また、長良川をさかのぼって分水嶺を越えた福井県側の山間地域でも同様な平底甕が認められており、山越えて同一の分布圏を形成していたと考えられる。砂行遺跡での主たる生産背景が何であったかは今回の調査範囲では確定し得なかったが、山越えの分布圏を形成していることと遺跡の立地とから、水稻耕作に完全には依拠せず、山の資源を背景とした採集を背景とする可能性も念頭に置いて今後検討を加える必要もあろう<sup>81)</sup>。

#### おわりに

これまでに検討した在地系土器のうち、当遺跡に最も特徴的なものは、週間Ⅰ式2段階ないし3段階まで存続する棚条痕による条痕文系甕である。以下に、甕A1類から甕A2類に一貫した特徴を今一度まとめるとともに、その意義について若干触れておきたい。

- ①器形は、弥生前期水神平式系以来の口縁部が外反して頸部の屈曲が緩やかな「深鉢形」を呈する平底甕である。
- ②成形技法は、底部において特徴があり、擬口縁部を底部直上に形成して乾燥後に外傾接合（底部側面積上法）をするものである。これは、弥生中期のいわゆる「美濃型貝田町式」には認められない手法であり、その系譜は現在のところ不明である。
- ③調整・施文に用いられる条痕は、細密な櫛で、簾状工具の可能性が高い。美濃の弥生中期条痕文系甕には見られない新たな工具であり、②の擬口縁部と連動した手法である可能性もある。
- ④外面の条痕は、基本的に縦とする。弥生中期以前に見られる口頸部の水平方向の条痕や、体部の羽状条痕は認められない。
- ⑤器壁の色調は、明赤褐色～赤褐色を呈し、同時期の他系譜の甕と明確に区分できる。
- ⑥砂行遺跡の条痕文系土器は、その最終末に位置づけられる。その時期は、本稿のⅡ-4期で週間Ⅰ式2ないし3段階に併行する。
- ⑦当遺跡にみられる最後の条痕文系土器は、東日本の弥生時代最終末の様相を特色づける多様性が美濃内陸・山間地域で表出したものとして理解し得る。生産基盤そのものも齊一化されたものではなかった可能性がある。
- ⑧当地域は、条痕文の伝統を、S字甕B類の広域普及の時期まで保守する地域といえる。しかし、その伝統は地域内で閉塞したものではなく、条痕文系の受口状口縁部やそれに伴う器台にみられるように、周辺地域との交流の上で様々に変容する伝統といえよう。
- ⑨S字甕B類による多様性の払拭は、「砂行型急斜面集落」の終焉を意味する。砂行遺跡をはじめ周辺の同様な急斜面集落<sup>82)</sup>に週間Ⅱ式期の住居が展開しないのは、生産基盤の齊一化による居住域の移動があった可能性も考えられよう。

これまで述べてきた最後の条痕文系土器は、弥生時代最終末の地域相を考察する上で様々な問題を提起しているものと思われる。しかし、十分な考察をなし得たとはいえないし、ご指導いただいた多くの方々への期待に添うものでもない。今後、様々な角度から検討を加える必要があるが、その際のたたき台の一つに加えていただければ幸いである。また、今後の同様な事例の調査における問題意識の片隅に置いていただければ幸甚である。

末尾になりましたが、小稿をまとめるにあたり、特に、石川比呂志・石黒立人・岡田吉孝・千藤克彦・中村友博・深澤芳樹・藤田英博・松岡千年の各氏から有益なご指導・ご教示をいただきました。記して感謝の意を表する次第です。

#### 参考文献

- 石黒立人 1999 「弥生時代美濃地方とその特質」のその後—弥生時代における文化的多様性を如何に把握するか—『岐阜史学』第96号 岐阜史学会
- 紅村 弘 1980 「条痕弥生式土器の諸問題について」『岐阜県八百津町南森遺跡発掘調査報告』八百津町教育委員会
- 高木宏和 1998 「美濃中濃地域の古式土器編年試案について」『第6回東海考古学フォーラム岐阜大会 土器・墓が語る 美濃の独自性—弥生から古墳へ—』東海考古学フォーラム岐阜大会実行委員会
- 深澤芳樹 1985 「土器のかたち—畿内第1様式古・中段階について—」『紀要1』（財）東大阪市文化財協会
- 1991 「弥生土器の基部成形手法」『唐古 藤田三郎さん・中岡紅さん結婚記念』田原本唐古整理室OB会

#### 注

- 1) 口縁内面の鰐尾列点文には、半月状の痕跡も認められるが、これは半裁竹管ではなく、斜め方向からの浅い竹管による刺突の痕跡と考えられる。
- 2) 中村友博氏のご教示による。
- 3) 千藤克彦氏のご教示による。
- 4) S字罫0類及びA類をさす。これらは当地域に極わずかに客体として搬入されるが、それは多様性の一現象でしかない。
- 5) 赤澤徳明氏のご教示による。
- 6) 石黒立人氏のご教示による。
- 7) 調査の途中であるが、岡テクノハイランド造成予定地内の南青柳遺跡と深徳前遺跡が急斜面集落の様相を呈する。出土土器の時期は、砂行遺跡II期の後半に一部重なり、廻間1式4段階までのようである。S字罫は客体として極少量が認められるにとどまる。以上、当センター調査員の岡田吉孝氏・松岡千年氏のご教示による。

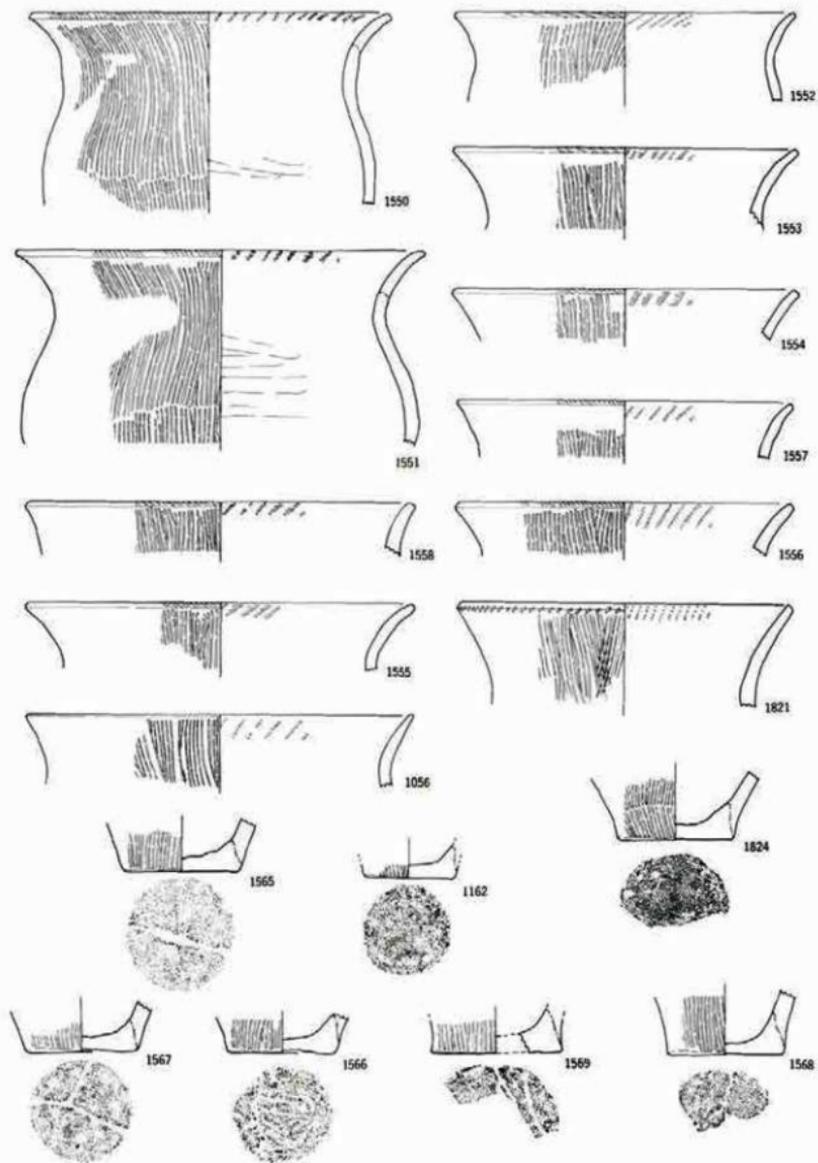


図324 変A1類集成 (1/3)

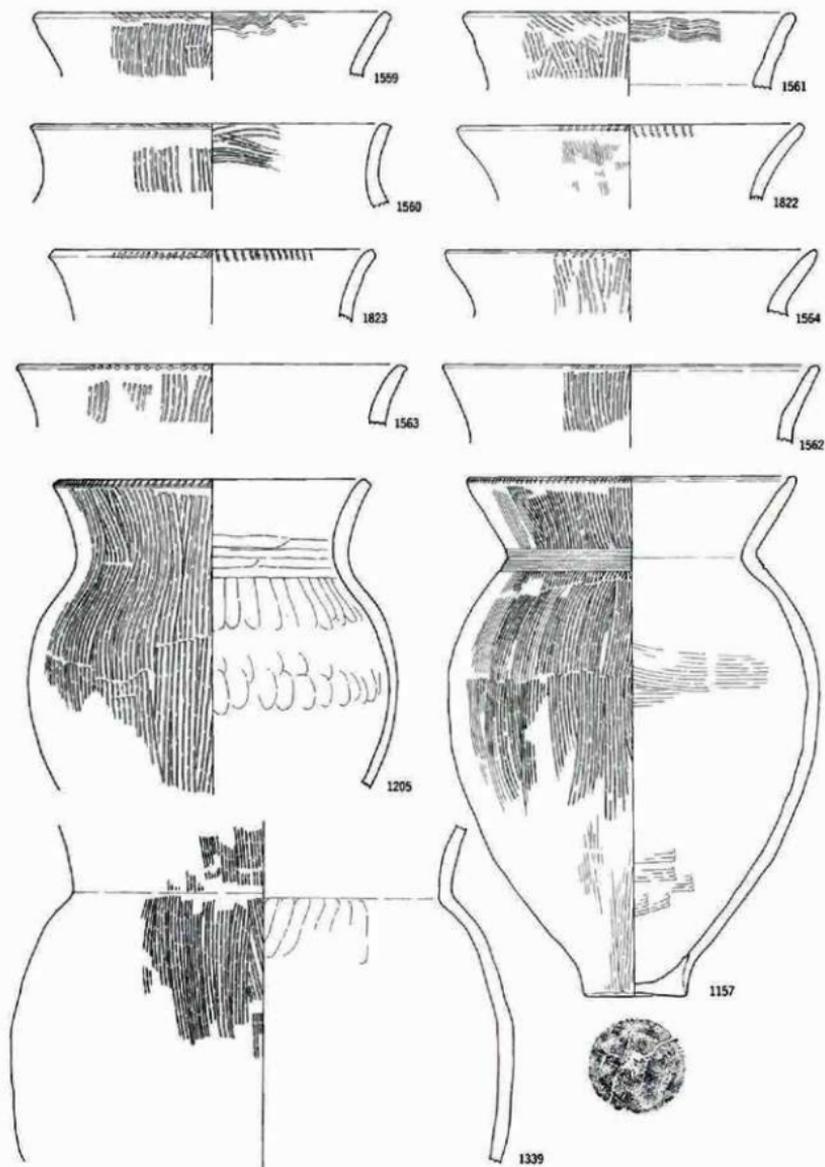


图325 甕A 2類集成 (1/3)

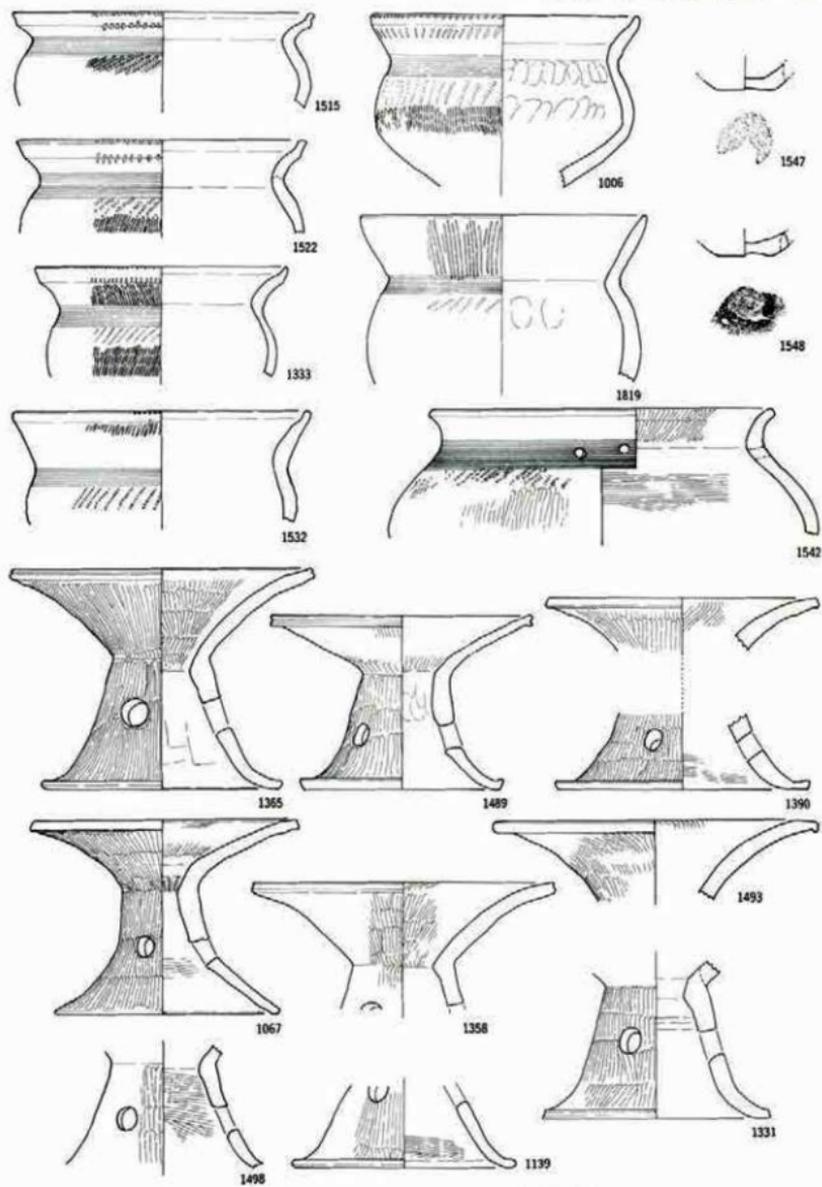


図326 条痕文系の鉢及び赤褐色器台集成 (1/3)

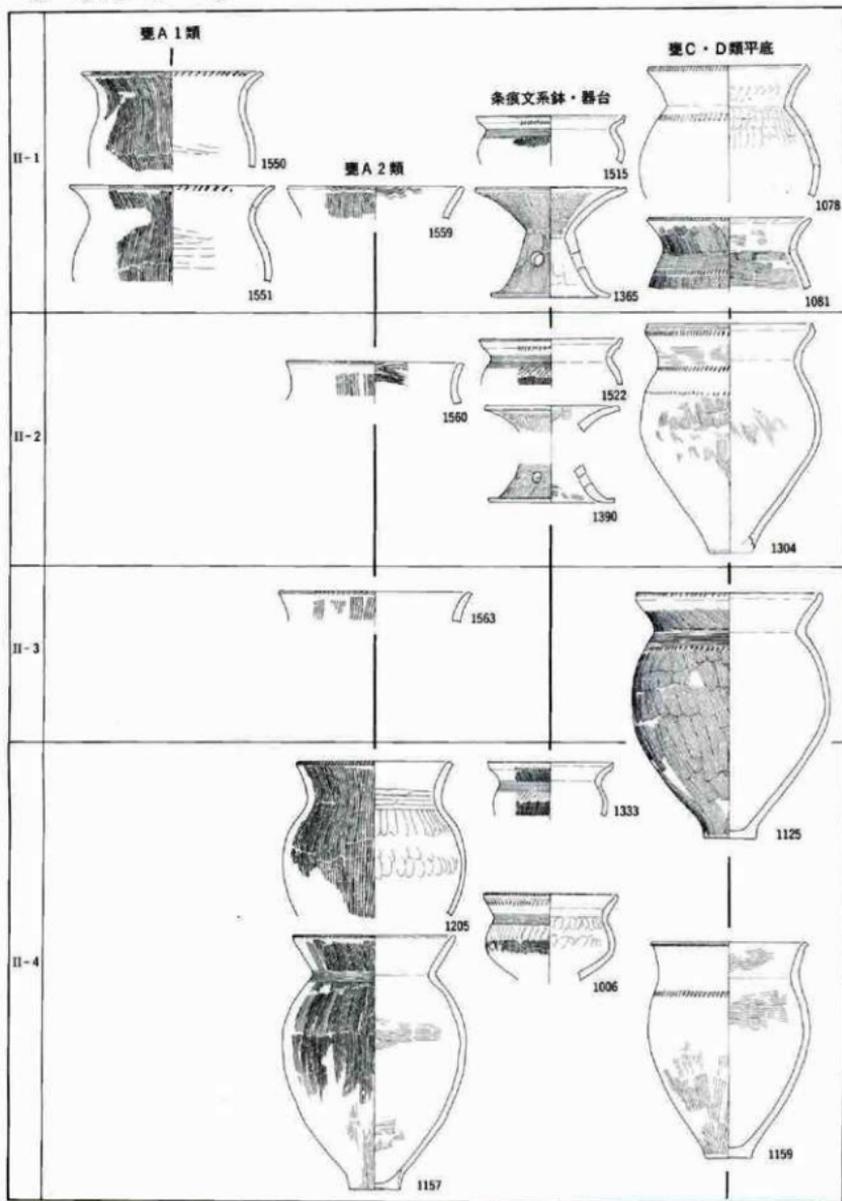


図327 在地系土器の変遷 (1/6)

### 第3節 出土石器の考察

今回の調査において、遺構・包含層から合わせて3,723点の石器類が出土した。以下、石材および製作方法、石器組成の順に概観していく。

石器製作に用いられた石材は、チャートをはじめ、砂岩、泥岩などの堆積岩や安山岩や流紋岩などの火成岩によって構成されている。それらの多くは在地の川原石を素材としているが、おそらく、古長良川の川原で奥美濃地方からの転石を採集したものであろう。石材別の出土剥片数では、チャートが数量的に他の石材を圧倒している（第1分冊表5参照）が、その多くは節理の入る粗雑なものである。砂岩・安山岩・流紋岩・流紋岩質凝灰岩は肌理の細かいものから粗いものまで多様であり、スクレイパーや打製石斧など用途に従ってそれらを使い分けている。しかし、これらの石材の出土剥片数は少ない。川原石という天然の素材、そして水の便に恵まれた場所での作業であったと推測される。搬入石材としての下呂石とサヌカイト、黒曜石は、在地の石材を補填するものである。下呂石の剥片には、丸みのある自然面を有するものが多い。サイズのりは小片ばかりで、最大のもので5cmほどであった。円礫の径を復元し得る資料は確認できなかった。サヌカイトも出土数はわずかであり、黒曜石にいたっては、製品は1点のみみられず小剥片が3点出土したにとどまった。

石器の製作方法にみられる特徴は、打製石斧や粗製刃器、スクレイパー類などの剥片石器において、背面に自然面を残す初期剥片を素材とするものが多くの割合を占めることである。その多くは横位に剥離する横長剥片を用いており、打製石斧では確認できるものだけで全体の43.8%を占める。この石器は、柄部分との着装を想定してパルプの厚みを減じるための加工を腹面に施す場合が多いが、なかには自然面のある背面を調整剥離することによって厚みを調整したのもみられる。打製石斧と似通った形態で、製作方法もほとんど変わらないという点では粗製刃器も同様であるが、二次調整を施さず一次剥片の鋭利な縁辺をそのまま利用しているものが多い。その形態は横刃型石器・打製石砲丁に類似するが、使用痕や刃部作出が明確でない。礫石器にみられる特徴は、長軸の端部に潰れが認められる打欠石錘が多いことである。これは、端部を打ち欠く際、手に持った製作ではなく、台となる石の上に置いての作業を想定させる。そのため両方の端部または片方の端部に潰れが生じたと思われる。長軸の両端部または片方の端部に潰れを有するものは、確認できるものだけで全体の30.3%を占めた。また、特異な製法として、粗製刃器の中に素材の砂岩礫から被熱によって一次剥片を得、鋭利な縁辺を刃部としたものが1点認められた。

砂行遺跡出土の石器器種を一覧にしたのが表30である。全体を概観すると、縄文時代の石器に弥生的な石器が付加された形をとっている。ということは、基本的に縄文時代以来の生業が継続されたことを示している。その中でも、敲石類や石皿などの根茎・堅果類の粉碎・製粉に用いた調理具が主体となっており、採集活動への依存度の高さをうかがうことができる。なかでも特徴的なのが、トチタキ石と思われる長さが6cmにも満たない小型軽量の敲石の存在である。砂行大溝から出土したトチやクルミには、その上下両端部に粉碎の際に生じた加撃と衝撃による痕跡が対になっているもの存在が認められた。そして、漁猟具、狩猟具の順でこれに続く。石錘は打欠石錘がほとんどで、切目石錘はごくわずかである。取穂具はわずかに存在するのみであった。

表30 砂行遺跡における石器組成

器 種	点 数	器 種	点 数
石鏃	119	ヘラ形石器	2
石鏃未製品	1	楔形石器	6
磨製石鏃	2	打製石斧	80
石槍	2	磨製石斧	2
有舌尖頭器	2	石核・剥片類	2,560
ナイフ形石器	1	RF	26
石錐	25	UF	80
スクレイパー類		打欠石鏃	178
・つまみ部付きスクレイパー	18	切目石鏃	3
・削器	20	凹・敲・叩・磨石類	422
・搔器I	20	石皿	22
・搔器II	1	砥石	92
・搔器III	2	石棒	4
・ノッチドスクレイパー	3	勾玉	1
・複合スクレイパー	1	有孔円盤	2
粗製刃器	24	異形部分磨製石器	1
有刺扇状石器	1	合 計	3,723

次に、住居跡出土石器に限定してⅡ・Ⅲ期の様相を示したのが表31である。全体に占める割合は、石器類の総出土量から未製品と石核・剥片類を差し引いたものを母数として算出した。なお、分類は機能別に細分し、Ⅰ期およびⅡ期の組成を比較した。

住居跡出土の石器は、Ⅱ期では敲石類や石皿といった調理具が全体の37%を占めたのが、Ⅲ期になると大きく減少する。水稻耕作に伴う石器とは明言できないが、収穫用の穂揃み具と思われる粗製刃器がⅡ期には存在する。しかし、全体に風化により使用痕ははっきりせず、コーングロス等の付着も確認できないため、その使用法や対象物は不明である。しかし、石庖丁的な形態をとるものもあり、収穫具としての使用が想定できる石器であり、磨製石庖丁の欠落を補完する石器と考えたい。ただ、打製の消耗品であるわりには出土比率が高くない。加工具Ⅰは、Ⅱ期では25%ほどであったのが、Ⅲ期には40%と比率が増大する。Ⅱ期に主体となったスクレイパー類はⅢ期に激減するが、RF・UFは存続し、ヘラ形石器が新たに加わっている。加工具Ⅱの砥石は、Ⅲ期の組成率がⅡ期に比べ倍増する。これらの多くは鉄器用の仕上げ砥石と思われる。伐採・加工具はⅡ・Ⅲ期ともまったくみられず、伐採に伴う開発の様相はみられない。これは、集落の生活が安定期に入ったことを示唆するものであろうか。それとも、伐採・加工具の鉄器化を示唆するものなのであろうか。石鏃は、Ⅱ・Ⅲ期ともほとんどが凹基無茎鏃であり、磨製石鏃はⅡ期に限定される。漁労具はⅢ期に消滅するが、Ⅱ期には自然流路に近い状態であった砂行大溝がⅢ期になって祭祀遺構へと性格を変え、漁労が不可能なほどに大きく改変されたことによると思われる。縄文系の石器といえる短冊形の打製石斧もⅢ期まで依然として受け継がれるが、丘陵上の生業のあり方を示すものである。また、剥片類の存在は、住居跡内で石器の製作が行われたことを示唆するものである。そして、Ⅲ期における出土総数の激減は、石器の製作活動の衰退を意味し、この時期において石器から鉄器への量的な変化が進行したことを示唆するものである。A区包含層から出土した鉄鏃や銅鏃がその移行を物語っている。しかし、打製石斧や調理具

表31 住居跡出土石器機能の変遷

機能別分類 (器種)	点数 (割合)		計
	II期(弥生時代後期)	III期(古墳時代中期)	
狩猟具・武器 (石鎌・石槍・有舌尖頭器・磨製石鎌)	22 (18.8%)	2 (13.3%)	24
漁労具 (打欠石鎌・切目石鎌)	6 (5.1%)	0	6
土掘具 (打製石斧)	3 (2.6%)	1 (6.7%)	4
除草具	0	0	0
収穫具 (粗製刃器)	6 (5.1%)	0	6
調理具 (敲石類・石皿)	37 (31.6%)	2 (13.3%)	39
伐採・加工具 (磨製石斧)	0	0	0
加工具I (石鎌・スクレイパー類・ヘラ形石器 楔形石器・RF・UF)	29 (24.8%)	6 (40.0%)	35
加工具II (砥石)	14 (12.0%)	4 (26.7%)	18
祭祀具	0	0	0
用途不明	0	0	0
合計	117	15	132

がこの時期まで残存するということは、生業をみる限りでは後進的な様相を示しているといえる。

砂行大溝出土の石器も、基本的には縄文時代以前の組成比率をIII期まで保ち、弥生的な石器は付加される程度という点では住居跡と同様の性格を有している(表32参照)。石器組成の変遷をみると、II期に大きな変化が生じ、穂摘み具としての粗製刃器や除草具としての有肩扇状石器という新たな器種を受容する。ただ、I期の収穫具(粗製刃器)およびII期の祭祀具(石棒)は、他の時期からの混入の可能性が高い。

全般に高い組成率を占めるのは調理具としての敲石類や石皿であり、植物獲得の主体が堅果類であったことがうかがわれる。縄文時代以来の採集生活の影響が強く残ったのは、砂行遺跡の立地が丘陵上であることによるものであろう。調理具は、弥生時代中期以前の占有率が7割以上に達するのは特筆され、II期には半減しつつも、ほとんど形状を変えずにIII期まで残る。

調理具に次いで、高い組成率をもつのが漁労具である。そのほとんどが打欠石鎌であり、切目石鎌はごくわずかである。打欠石鎌は、もじり網の鎌とも考えられるが、砂行大溝最下層には自然流路があり、中世の層からは土鎌が出土していることから、漁網鎌としての使用も考えられる。したがって、漁労を行っていた可能性は高いといえよう。

根茎類の獲得を反映する土掘具は、時期が下ってもその比率を保ち、III期においても依然9.7%を示している。

水稲耕作の開始は、これら既往の植物性食料の獲得活動の上に付加されたことを示唆する。砂行大溝からは、II期の層に導水溝が認められ、低位の水田へのかんがいを想定することができる。木製鎌の刃部や泥除け未製品等も出土していることから、水稲耕作が行われたことは明らかである。しかし、ごく少数の粗製刃器のみで、石器の器種や使用痕から水稲耕作を付けることはできない。

表32 砂行大溝出土石器機能の変遷

機能別分類	点数(割合)				
	I期(縄文時代以前)	I期(弥生時代中期以前)	II期(弥生時代後期)	III期(古墳時代中期)	合計
狩猟具・武器	5 (4.5%)	0	6 (3.3%)	8 (5.2%)	24 (4.3%)
漁労具	41 (36.6%)	10 (15.4%)	50 (27.3%)	28 (18.1%)	136 (25.0%)
土掘具	8 (7.1%)	4 (6.2%)	18 (9.8%)	15 (9.7%)	45 (7.7%)
除草具	0	0	1 (0.6%)	0	1 (0.2%)
取梗具	4 (3.6%)	0	4 (2.2%)	2 (1.3%)	10 (1.8%)
調理具	29 (25.9%)	48 (73.8%)	72 (39.3%)	10 (38.7%)	215 (39.6%)
伐採・加工具	1 (0.9%)	0	0	0	1 (0.2%)
加工具I	23 (20.5%)	0	18 (9.8%)	19 (12.3%)	68 (12.5%)
加工具II	1 (0.9%)	3 (4.6%)	13 (7.1%)	23 (14.8%)	44 (8.1%)
祭祀具	0	0	1 (0.6%)	0	3 (0.6%)
用途不明	0	0	0	0	0
合計	112	65	183	155	547

1例のみの出土であるが、有肩扇状石器も注目される。取りあえず除草具に含めたが、取梗具の可能性も否めない。土地開発や木製品の需要の高まりによって伐採具も必要であったに違いないが、磨製石斧はほとんどみられない。しかし、木製楸の基部や泥除け未製品、加工木片などには鉄製品による加工痕が認められ、磨製石斧類の欠落は鉄製品の普及とみることができよう。包含層出土ではあるが、II期のものとしてSBA15出土の磨製石楸と形態的によく似た鉄楸1点と銅楸1点が出土している。また、III-IV期の鉄楸1点の出土もある。さらに、III期のものとして砂行1号墳から出土した鉄製武器の断片および鉄小片がある。この他、SBA08のような岩盤を深く掘り抜くような大型で肉厚の打製石斧は認められないことや、礫石の豊富さは鉄製品の使用を間接的に裏付けるものである。

加工具Iの器種は、石錐・スクレイパー類・RF・UFに限られ、05層の時期を除きI期からIII期まで継続する。加工具IIの砥石は、I期からIII期にかけて徐々に増加しており、磨製石器の増加、または鉄器の普及が想定される。

以上、砂行遺跡の出土石器を概観したが、取梗具としての穂柄み具の認定や鉄製品の普及については推測の域を超えず、組成についても十分な母数を有しない中で、石器の製作および使用の傾向性を探ったにすぎない。そんな中で大胆な推測を試みるならば、砂行遺跡においては大陸系の文化要素を進んで受容しなかった後進的な地域であったといえそうである。水稲耕作へのウエイトのかけ方が軽く、その結果として狩猟、採集といった縄文以来の生業を継続したのではないかと考えられる。水稲可耕地や母村となる低地の集落の有無や、なぜ低地集落から離脱して丘陵上に生活地区を求めなければならなかったは依然不明であるが、砂行遺跡の石器を語るには「稲」と「鉄」が重要なキーワードとなることは間違いない。

## 第4節 砂行1号古墳出土鏡と雉之尾3号古墳出土鏡について

### はじめに

砂行1号古墳第2主体部から出土した変形神獸鏡は、愛媛県今治市所在の雉之尾3号古墳出土鏡と現在のところ最も様相が似る。ここでは、両鏡の比較を通して、砂行1号古墳出土鏡の性格の一端に触れてみたい。

### 1 雉之尾3号古墳の概要

雉之尾3号古墳は、愛媛県今治市桜井古国分に所在する1辺18~20mの方墳で、土砂採取に先立ち、昭和43年に発掘調査がなされている。

墳頂部には、南北方向に長辺をそろえて並列する2基の主体部が検出され、ともに粘土層を用いる。西側粘土層は長さ5.55m、北端幅1.33m、南端幅0.95mの掘り方に長さ4.85m、幅0.55mの木棺痕跡を、東側粘土層は長さ4.65m、北端幅1.03m、南端幅1.41mの掘り方に長さ4m最大幅0.5mの木棺痕跡をもつ。

遺物は、西側粘土層から鉄斧が、東側粘土層から鉄片と土師器が出土しているが、以下にとりあげた銅鏡は残念ながら土砂採取の時点で発見されたものであり、出土状況は不明である。

出土遺物、とりわけ粘土層内に鉄製農耕具を配置する点から判断して、古墳の年代は古墳時代前期末と推定される。

### 2 雉之尾3号古墳出土鏡 (図328)<sup>31)</sup>

数片に破砕し、外区約1/3が欠損している。直径10.5cmの仿製の変形神獸鏡とされ、鈕の直径1.7cm、浮線で円形に表現された鈕座の直径は2.1cmを測る。

内区主文部は、直径8mmの乳座をもつ4乳によって4分割され、乳の間に神像を4体配する。神像は頭部に渦状冠をもち、翼は基本的に2本の細線で表現されて冠の左右で渦をなす。神像の顔には目鼻口の表現が認められ、また衣の襟や裳の表現もある。神像の内2体(図328の上方と右側の神像)は、左手に盾を持つ。盾は把手のある裏面を表しつつ、上端と下端に鋸歯文を施したものである。図328の下方の神像は左手に盾のような器物を持つが、前2者とは形状が異なることと一部が欠損しているため盾であるかどうかは確認できない。図328の左側の神像には、盾の表現は認められないが、左手に細線で方形を組み合わせて表現した器物らしきものがあり、あるいは武器を表現したものかも知れない。獸形は、4つの乳の周りに表現された渦巻きなどで表されているものと考えられるが、象徴的であり具体的な部位の特定はできない。

内区外周部は、内区主文部との間に幅3mmの圏界を置いて幅6mm前後で巡り、外区との境を明瞭にする。内部には、基本的に数条の平行する細線を交互に方向をかえて配列している。

外区は、幅6mm程の凹帯の内部に渦文を連続させる。隣り合う渦文は基本的に回転方向を逆にしており、唐草文を意図した可能性がある。

## 3 両鏡の比較

砂行1号古墳鏡と雄之尾3号古墳鏡とは、圏界の有無、内区外周部の文様、及び外区文様帯内側の鋸歯文帯の有無では異なるが、共通点が極めて多いといえる。以下にそれを列記する。

- ①鏡径は、砂行1号古墳鏡がやや大きいが、鈕や孔の直径、及び内区外周部の直径はほぼ近似した数値である。
- ②鈕は円座を伴い、鈕孔の大きさもほぼ同一である。
- ③神像には満状冠が認められ、翼は基本的に2本の細線で表現する。
- ④神像の傍らに盾を表現する。
- ⑤盾以外にも、不明瞭ながら器財（武器）を表現する。
- ⑥獣形が不明瞭で、乳と細線で象徴的に表現する。
- ⑦外区の文様帯に独特な渦巻き文（唐草文）を表現する。

以上の共通点のうち、神像が武器を手にするという表現は、現在のところ全国でこの2例のみである<sup>20</sup>。両鏡は、非常に特殊なモチーフを選んでおり、またその他多くの共通点を考え合わせると、同一工人（集団）の作である可能性が極めて高いといえよう。

一方、両鏡で最も異なる点は、鏡背に描かれた文様の残存状態である。砂行1号古墳鏡の鈕孔の紐すれによる変形が物語るように、長期間に渡る使用の結果、鏡背の文様、特に神像の顔の表現は全く消え失せたのであろう。本来の鏤上りは、雄之尾3号古墳のようにシャープであったと推定される。雄之尾3号古墳鏡が製作後ほとんど古墳に埋納されたのに対し、砂行1号古墳鏡はおそらく1世紀前後に及ぶ伝生の後に納められたと考えられ、古墳に納められた年代の差が両鏡の文様の残存状態の違いをもたらしたと考えられる。

## おわりに

両鏡は、製作の前後関係は不明であるが、同一工人によって製作された可能性が高く、仿製鏡の流通又は配布を考える上で興味深い資料といえる。現在のところ遠く距離を隔てた2例が存在するのみであり、分布論を展開することはできないが、文様構成などが極めて特徴的であるだけに、今後の類例の増加に伴って分布の背後に様々な傾向を読みとることができる可能性をもつと思われる。

両鏡で最も個性的なのは、神像が武器を手にする、という点である。中国鏡の模倣を主流とする古墳時代前期の仿製鏡としては極めて特殊な事例といえ、また武器をモチーフとする点は、同時代における情勢を反映しているのかも知れない。

共通点の多い両鏡ではあるが、古墳に納められるまでの扱いは大きく異なり、砂行1号古墳鏡では長期に渡る使用の痕跡が認められる。稀少な威信財として伝世したのであろうか、当地域<sup>21</sup>は古墳出



図328 雄之尾3号古墳出土鏡略図(約1/2)

土の銅鏡が極めて少なく、分与された鏡そのものの絶対数も少なかったと考えられ、伝世させなければならなかった可能性もある。鏡ばかりでなく、後に活躍するムゲツ氏の本拠地と推定されるにもかかわらず、古墳時代前・中期の大型前方後円墳が存在しない地域であり、畿内政権との関係を考える上で砂行1号古墳鏡のような手ずれの進行した鏡は一つの視点になるのかもしれない<sup>44)</sup>。

砂行1号古墳出土鏡は、以上の他にも様々な方面から検討を加えるべき要素をそなえていると考えられるが、力不足から必ずしも正当な評価を与えることができなかった。今後の課題としたとともに、将来多くの方々の議論の渦中にこの鏡があることを望んでやまない。

#### 参考文献

- ・愛媛県史編さん委員会 1986『愛媛県史』資料編考古、愛媛県

#### 注

- 1) 図328は、写真からトレースした略測図であり、細部の表現は省略してある。
- 2) 群馬県八幡原古墳出土の符氣文鏡は、「人物(兵士)」が盾と刀を手にしており、文様構成も大きく異なることからここでは比較の対象から外した。
- 3) 関市・美濃市を中心とする長良川中流域の旧武儀郡域をさす。
- 4) 徳測の域を出ないが、大型前方後円墳を造営できなかったのではなく、造営しなかった地域と捉えられないであろうか。ムゲツ氏が中期古墳時代まで遡るかどうかは不明であるが、畿内政権に対してすこぶる従順な地方豪族であり、従順であるがゆえに前方後円墳に対して従属的な造り出し付き円墳をあえて造営した可能性がある。畿内政権は、支配体制の中に完全に取り込んだ地方豪族に対しては威信財の分与を積極的に行わなかったのではなかろうか。

## 第5節 砂行遺跡における後期群集墳の形成と終末

### はじめに

本遺跡からは、古墳時代後期に属する小型の古墳を6基検出した。この6基は、8世紀初頭前後から、短期間に極めて小規模な群集墳を形成し、火葬墓へと移行していくものである。これらは、美濃地域における古墳築造の終末年代と、火葬の開始時期、及び古墳から火葬への変遷を考える上で良好な資料と思われる。

以下には、美濃地域における古墳時代後期の中で、本古墳群がどのような位置にあるのかを考え、古墳の終末から火葬墓への変遷過程を記したい。

### 1 横穴式石室の特徴

古墳時代後期に属する本古墳群の調査で得られた情報で、最も充実しているのは内部主体として築造された横穴式石室である。6基の古墳の全てがこの埋葬施設を採るが、残存状態に差があり一様には比較できない。最も残存状態の良い2号古墳と5号古墳をとりあげて、美濃地域における本古墳群の位置を考えてみたい。その際、石室の規模・形態とともに、石室の築造技法を視点を置くことにする。

#### (1) 横穴式石室の規模と形態

砂行2号古墳の横穴式石室は、本古墳群内では最も大型の石室である。しかし、4m余りという全長は、美濃地域の各所に展開する群集墳のものと比較すると極めて小型といえる。この小型の横穴式石室で構成される点が、本古墳群の大きな特色の一つといえる。小規模石室の築造をみるのは、美濃地域では7世紀後半以降のことであり、時期を表す特色でもある。

石室の形態は、両側壁から内側に突出した玄門部によって玄室と羨道とを区分する両袖式の形状を採るが、平面的には玄室幅と羨道幅を基本的に同じにする形態であり、畿内系両袖式石室とは異なる。この形態の石室は、美濃地域では東美濃地域に6世紀後半頃にはじまり、7世紀になると美濃全域及び飛騨地域まで広範に展開するもので、東から西への流れで理解できる。東美濃地域には、土岐川・庄内川または矢作川を経て、おそらく西三河地域からの影響が存在したのであろうが、美濃・飛騨地域では群集墳の拠点墳となるような大型石室にも採用される点で独自性がある<sup>41)</sup>。

砂行2号古墳は、その流れの中で採用に至った一つであるが、大群集墳の中にあれば従属墳に位置づけられるべき規模の小型石室であり、例えば、岐阜市の西山古墳群の4号古墳を拠点墳としてそれに従属する位置にある5号古墳<sup>42)</sup>と同等またはそれ以下の石室である。しかし、砂行遺跡及びその周辺には2号古墳より優位な拠点墳とすべき古墳は存在せず、従属墳規模の石室が拠点墳の位置にある特殊な群構成といえよう。

2号古墳に従属するのは、さらに規模の小さい5号古墳である。玄室と羨道との区分は全く認められず、簡略化の進んだ無袖式ともいえる。形態差は拠点墳との格差をもたせるための措置とも考えられるが、5号古墳の場合はあまりにも小規模であるための結果と理解し得る。5号古墳のような石室では、もはや古墳築造に携わったであろう工人集団は必要なく、形は大きく変容しており、形態から系譜を辿ることはできない。

## (2) 石室の構築技法

美濃地域の横式石室の構築技法の特色は、側壁の積石技法に顕著に差が表れる。砂行2号古墳の場合は、側壁の壁体下段を長手積みで直立させ、上段は小口積みに変換してわずかに持送りを行って天井石を受ける技法である。この種の技法は、美濃地域では6世紀初頭に畿内系片袖式石室に伴って導入されたもので、6世紀後半以降には各地に展開する群集墳の形成で小型の従属墳に広く採用される。6世紀後半以降に築かれる拠点墳には畿内地域からの新たな技法が用いられて、技法の面からも拠点墳と従属墳とは格付けがなされる。2号古墳の技法は時期的に従属墳のそれにあたり、先述した規模からの位置づけと矛盾しない。

5号古墳では極めて小規模で簡略化が進んでおり、技法においても乱れが生じているとも考えられるが、2号古墳とは明らかに様相が異なる。石材の平面を壁面として立てて基底部を構成し、上段は小口積みに変換させるもので、美濃地域では2号古墳の技法とは別系譜に位置づけられる。6世紀中葉以降に、長良川・木曾川流域に散見される北部九州に系譜を求め得る技法であるが、6世紀後半以降には畿内系石室と組み合わせるなどして系譜関係が乱れて複雑化し、また類例が少ないこともあって実体が把握しがたい技法である。同一古墳群にありながら異なる技法をもつことは極めて希であり、その経緯は判断しがたい。しかし、2つの石室は互いに異なる技法ではあるが、ともに美濃地域の古墳時代後期に存在した技法を踏襲するものであり、築造時期が8世紀以降るとはいえ新たな技法の導入は認められず、後期古墳の範疇に入れるべきものと考えられる。

## 2 支群の設定と群集墳の形成過程

砂行遺跡は、西・中央・東に3つの尾根が南西に向かって突出する。この内中央の尾根に3・4・7・8号古墳が、東の尾根に2・5号古墳が、ちょうど弥生時代の集落の空白帯を選地するかのよう<sup>92</sup>に立地する。2つの尾根にはそれぞれ同一時期に同規模で同一技法に基づいて築造されたと考えられる2号古墳と3号古墳が、後期古墳の立地としては最も良好な南に面した斜面裾部に並列して占拠しており、この2つの古墳を核として周りに小規模古墳が取り巻くように存在する。このことから、砂行遺跡の群集墳は2号古墳と3号古墳を核とする支群に区分することが可能である。前者を「東支群」、後者を「中央支群」とし、以下には各支群の形成過程の復元を試みたい。

### (1) 東支群の形成過程

8世紀初頭前後に、2号古墳が東尾根先端部の南向き斜面に築造される。この古墳への初葬は、玄室内において従来の埋葬方法が採られる。初葬の後、さほど時を経ずに道葬が玄門部付近に行われるが、この時は鉄釘を用いて組み合わせた小型の木製容器に火葬人骨を納める方法に変換している。

5号古墳は、2号古墳の北東で、谷の底に築造される。古墳の立地としては条件が悪いが、小型古墳を造営するには十分な空間であるのかもしれない。南に入口を設けて正面とすることが一般的な終末式群集墳は、核となる古墳を南に造営した後、従属墳はその背後、すなわち北側に展開させる。その点において、5号古墳の立地は2号古墳に従属する位置にあるといえ、また古墳の規模もそれを表すものである。

5号古墳からは築造の時期を推定し得る遺物は出土していないため、2号古墳の造営との前後関係は明確ではない。しかし、従属墳の位置・規模であることから考えて、少なくとも2号古墳築造の後

に築かれたと推定される。問題は、2号古墳での火葬人骨追葬との前後関係である。5号古墳の石室からは、火葬人骨は全く検出されず、埋葬方法は通常の横穴式石室のものと同様であったと考えられるが、石室の法量は極めて小さく成人の埋葬は不可能であり、幼児などの埋葬に用いられた可能性が高い。火葬の痕跡がないことから判断して、5号古墳の築造は2号古墳の初葬と追葬の間に位置づけるのが妥当と思われる。

## (2) 中央支群の形成過程

2号古墳の築造とはほぼ同時に、3号古墳が中央尾根先端部の南向き斜面に築造される。この古墳は破壊が激しく、棺体配置や遺物配置を復元できるような状況ではなく、追葬の有無を確認できていない。2号古墳のように追葬としての火葬蔵骨器の埋納も確認できなかったが、火葬人骨の散乱が全く認められず、追葬が行われたとしても通常の埋葬方法のみによる可能性が高いと思われる。

中央尾根には、3号古墳の北西側背後の尾根上に4号古墳と8号古墳が、3号古墳の南側の谷に7号古墳が立地する。7号古墳の位置は3号古墳の正面にあたるが、立地としては従属的である。これら全ての石室規模は3号古墳を下回り、従属墳と判断される。

3号古墳に従属する3基の古墳の内、規模が最も大きく周溝を伴う4号古墳は、3号古墳に最も近接した時期の築造である可能性が高い。この石室も破壊が進行しており、棺体配置や追葬などを確認できないが、火葬人骨片を検出していること、石室規模は小規模ながらも成人の埋葬が不可能ではないことから判断して、初葬は通常の埋葬方法を採用、追葬に何らかの容器を用いた火葬人骨を納めたものと思われる。

7号・8号古墳は小規模石室で、東支群の5号古墳のような存在と考えられる。破壊が甚だしく埋葬方法の痕跡は全く認められないが、古墳の規模から判断して4号古墳と併行するかまたはそれ以降に営まれたものと考えられる。

## 3 古墳築造の終末と火葬墓

東支群では2号古墳の築造・初葬→5号古墳築造・埋葬→2号古墳火葬追葬の順で造営され、中央支群では3号古墳築造・初葬→4号古墳築造・初葬→7・8号古墳築造・埋葬→4号古墳火葬追葬の順で造営されたと考えられる。なお、3号古墳の追葬は、4号古墳の築造前後であろう。これらの一連の流れは、全て8世紀初頭の極めて短期間に展開したものである。

2つの支群は、ともに、①核となる古墳の築造、②従属する小規模古墳の築造、③火葬による追葬の順に展開し、その後には火葬墓の単独築造が加わる。火葬の導入時期である8世紀初頭には、古墳の築造は極めて小規模になるものの継続しており、また埋葬方法は大きく変化するが追葬という形で古墳は機能している。埋葬空間としての古墳は、砂行遺跡においては火葬墓の単独築造の開始によって終焉をむかえると考えられる。

砂行火葬墓は、用いられる蔵骨器の年代から後期古墳の終末と重なる。横穴式石室の技法と形態を踏襲した石組は、後期古墳の影響を色濃く残すものといえるが、もはや機能は大きく変化しており古墳の範疇に含め得ない。しかし、砂行火葬墓は年代及び立地において後期古墳群からの連続として造営されており、3号古墳を核とする支群が最後に尾根の上部に向かって展開した一つといえよう。

砂行遺跡における火葬墓は、遺構として確認した砂行火葬墓の他に2カ所に存在した可能性が高く、火葬墓も群をなしていたと考えられる。一つは、砂行火葬墓の東にくだる斜面（O35グリッド）に位置し、破壊された石組みの痕跡と火葬人骨を伴い、蔵骨器として須恵器短頸壺（1904）と蓋（1903）を用いたと推定されるものである。今一つは、2号古墳の立地する尾根上部から東側の谷に広く散布する須恵器環蓋（1895）と須恵器短頸壺（1915）で、火葬墓本体は完全に破壊されて存在しないが2個体は同様な散布状況を示しセットとして蔵骨器であった可能性が高い。ともに築造年代は、須恵器の年代観から8世紀前半と推定され、砂行火葬墓と近接した時期と考えられる。前者は砂行火葬墓とともに中央支群の、後者は東支群のそれぞれ最終期の展開と考えられる。

その後、8世紀後半以降の火葬の痕跡は全く認められなくなり、約半世紀に渡って古墳群および火葬墓群として展開したこの地は、墓域としての機能を失うことになる。

美濃地域の後期古墳の終末は、すべてが同様ではないであろうが、終末段階には古墳時代からの墓域を踏襲するなどして群内に古墳とは異なる新たな埋葬施設を設けて群をさらに展開させている可能性がある。新たな埋葬施設は地域によって異なるであろうが、砂行遺跡周辺の長良川中流域では火葬墓の造営が主体となったと思われる。この地における火葬導入の背景には、中央に出仕した地方豪族ムゲツ氏の存在が大きであろう。

#### 参考文献

- ・ 柄崎彰一 1985「西山4・5号墳」『岐阜市埋蔵文化財発掘調査報告書』岐阜市教育委員会
- ・ 成瀬正勝 1985「横穴式石室の型式と変遷—特に美濃地域の場合—」『岐阜史学』第79号、岐阜史学会

#### 注

- 1) 西三河地域では、大型石室は複室構造を採り、形態と規模は両地域で斉一性がない。群集墳の拠点墳にこの形態が採用されるのは、美濃地域では長良川流域以東に顕著で、西美濃地域では畿内系両袖式石室が優位にたつ。
- 2) 西山5号古墳は、全長4.9m、石室幅1m前後で、砂行2号古墳とはほぼ同規模である（柄崎1985）。

# 遺物觀察表

## 土器・木製品・金属製品観察表 凡例

- ・遺物番号は、本文・挿図・図版の中で用いた番号と一致する。
- ・出土地点は、住居・砂行大溝のみ略号を用いた。その内、砂行大溝では、「SDD01」の後に区名を付し、さらにハイフンの後に東岸(E)・中央(C)・西岸(W)の別を示した。
- ・層位は、遺構出土遺物ではアラビア数字で、包含層ではローマ数字で表した。遺構出土遺物の、例えば01層としたものは、本文・挿図の①層に対応する。
- ・土器の器種は、第3章第2節の分類に対応する。
- ・法量で、( )の無い数値は実測値である。( )の付いた数値は、土器では復元・推定した値を、木製品・金属製品では欠損する遺物の残存する値を表している。また、空覧は、計測不能であることを示す。金属製品の質量は、LIBROR600 (SHIMADZU 製 秤量600)を用いた。
- ・土器の法量の単位は、cmである。
- ・土器の口径は、口縁端部外側で測定した。
- ・土器の色調は、小川正忠・竹原秀雄1993『新版 標準土色帖』日本色研事業株式会社による。





観覧番号	出土地名	層位	器種	形				器名	出土	形状	色			発見時期	備考	図録番号	
				口	底	底径	底径				内	外	内				外
1009	SBA15	02	腰皿			18.40		ハナノ葉ナリ ヘナノナリ	全中径100前後 約45分厚	灰青 1YR7/2	灰青 7.5YR6/2	灰青 7.5YR6/2	灰青 7.5YR6/2	灰青 7.5YR6/2	内縁部厚4分	41	23
1009	SBA15	01	腰C			22.40		ナギ	灰	灰青 7.5YR6/2	灰青 7.5YR6/2	灰青 7.5YR6/2	灰青 7.5YR6/2	1009腰C厚4分	41	23	
1001	SBA15	02	腰D			19.20		ハナノ葉ナリ	全中径100前後 約45分厚	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	1009腰D厚4分 内縁部厚4分	41	33	
1002	SBA15	01	腰C			26.10		調整不明	全中径100前後 約45分厚	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	1009腰C厚4分	41	33	
1006	SBA15	02	腰平皿			15.40		ハナノ葉ナリ ヘナノナリ	全中径100前後 約45分厚	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	内縁部厚4分	41	33	
1004	ARA11	02	腰A浅皿			16.40		ナギ	灰	明灰青 5YR6/6	明灰青 5YR6/6	明灰青 5YR6/6	明灰青 5YR6/6	灰部全周 底縁部厚4分	41	33	
1005	SBA15	00	腰D1			113.40		1号ナギ	全中径100前後 約45分厚	灰青 10YR7/4	灰青 10YR7/4	灰青 10YR7/4	灰青 10YR7/4	1009腰D1厚4分	41	33	
1006	SBA15	03	腰皿1			14.40		1号ナギ	調整不明	灰青 10YR7/4	灰青 10YR7/4	灰青 10YR7/4	灰青 10YR7/4	1009腰D1厚4分	41	33	
1007	SBA15	02	腰A2			21.40		ハナノ葉ナリ	全中径100前後 約45分厚	灰青 7.5YR7/6	灰青 7.5YR7/6	灰青 7.5YR7/6	灰青 7.5YR7/6	1009腰D1厚4分	41	33	
1008	SBA15	02	腰皿1			13.10		1号ナギ	調整不明	灰青 10YR7/4	灰青 10YR7/4	灰青 10YR7/4	灰青 10YR7/4	1009腰D1厚4分	41	33	
1009	SBA15	02	腰皿浅皿			8.50		1号ナギ	調整不明	灰青 10YR7/4	灰青 10YR7/4	灰青 10YR7/4	灰青 10YR7/4	1009腰D1厚4分	41	33	
1000	SBA16	03	高FG			18.10	11.10	1号ナギ 調整不明	全中径100前後 約45分厚	灰青 7.5YR6/6	灰青 7.5YR6/6	灰青 7.5YR6/6	灰青 7.5YR6/6	1009腰D1厚4分	41	33	
1001	SBA16	02	高FG			22.10		1号ナギ 調整不明	全中径100前後 約45分厚	灰青 5YR6/6	灰青 5YR6/6	灰青 5YR6/6	灰青 5YR6/6	1009腰D1厚4分	41	33	
1002	SBA16	02	腰H			15.10		ハナノ葉ナリ 調整不明	全中径100前後 約45分厚	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	1009腰D1厚4分	41	33	
1003	SBA16	02	高平皿					1号ナギ	調整不明	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	1009腰D1厚4分	41	33	
1004	SBA16	02	高平皿			25.10		1号ナギ	調整不明	灰青 7.5YR6/6	灰青 7.5YR6/6	灰青 7.5YR6/6	灰青 7.5YR6/6	1009腰D1厚4分	41	33	
1005	SBA16	03	高FC					1号ナギ	調整不明	灰青 7.5YR6/6	灰青 7.5YR6/6	灰青 7.5YR6/6	灰青 7.5YR6/6	1009腰D1厚4分	41	33	
1006	SBA16	02	高平浅皿			11.10		1号ナギ 調整不明	全中径100前後 約45分厚	灰青 10YR7/4	灰青 10YR7/4	灰青 10YR7/4	灰青 10YR7/4	1009腰D1厚4分	41	33	
1007	SBA16	02	高平浅皿			12.40		1号ナギ 調整不明	全中径100前後 約45分厚	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	1009腰D1厚4分	41	33	
1009	SBA16	04	高平浅皿 高平浅皿			113.40		1号ナギ 調整不明	全中径100前後 約45分厚	灰青 7.5YR6/6	灰青 7.5YR6/6	灰青 7.5YR6/6	灰青 7.5YR6/6	1009腰D1厚4分	41	33	
1001	SBA16	02	腰白B			120.10		1号ナギ	調整不明	灰青 7.5YR6/6	灰青 7.5YR6/6	灰青 7.5YR6/6	灰青 7.5YR6/6	1009腰D1厚4分	41	33	
1100	SBA16	03	腰白B			116.10		1号ナギ	調整不明	灰青 7.5YR6/6	灰青 7.5YR6/6	灰青 7.5YR6/6	灰青 7.5YR6/6	1009腰D1厚4分	41	33	
1101	SBA16	02	高平浅皿 高平浅皿			119.40		1号ナギ 調整不明	全中径100前後 約45分厚	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	1009腰D1厚4分	41	33	
1102	SBA16	03	腰H			16.40		ナギ	調整不明	灰青 7.5YR7/6	灰青 7.5YR7/6	灰青 7.5YR7/6	灰青 7.5YR7/6	1009腰D1厚4分	41	33	
1103	SBA16	02	腰D1			112.10		調整不明	全中径100前後 約45分厚	灰青 10YR7/4	灰青 10YR7/4	灰青 10YR7/4	灰青 10YR7/4	1009腰D1厚4分	41	33	
1104	SBA16	03	腰D2			111.10		1号ナギ	調整不明	灰青 7.5YR6/6	灰青 7.5YR6/6	灰青 7.5YR6/6	灰青 7.5YR6/6	1009腰D1厚4分	41	33	
1105	SBA16	00	腰D1			19.40		1号ナギ	調整不明	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	1009腰D1厚4分	41	33	
1106	SBA16	05	腰皿1			18.10		1号ナギ	調整不明	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	1009腰D1厚4分	41	33	
1107	SBA16	01	腰A2			22.40		調整不明	全中径100前後 約45分厚	灰青 7.5YR7/6	灰青 7.5YR7/6	灰青 7.5YR7/6	灰青 7.5YR7/6	1009腰D1厚4分	41	33	
1108	SBA16	02	高平B			22.10		1号ナギ 調整不明	全中径100前後 約45分厚	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	1009腰D1厚4分	41	33	
1109	SBA16	02	高平C					調整不明	全中径100前後 約45分厚	灰青 10YR7/4	灰青 10YR7/4	灰青 10YR7/4	灰青 10YR7/4	1009腰D1厚4分	41	33	
1110	SBA16	00	高平H			116.40		1号ナギ	調整不明	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	1009腰D1厚4分	41	33	
1111	SBA16	02	腰白B					調整不明	全中径100前後 約45分厚	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	1009腰D1厚4分	41	33	
1112	SBA16	03	高平浅皿 高平浅皿			116.10		1号ナギ 調整不明	全中径100前後 約45分厚	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	1009腰D1厚4分	41	33	
1113	SBA16	00	腰平浅皿			6.70		1号ナギ	調整不明	灰青 7.5YR7/6	灰青 7.5YR7/6	灰青 7.5YR7/6	灰青 7.5YR7/6	1009腰D1厚4分	41	33	
1114	SBA17	03	高平C					調整不明	全中径100前後 約45分厚	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	1009腰D1厚4分	41	33	
1115	SBA22	02	高平C					調整不明	全中径100前後 約45分厚	灰青 10YR7/4	灰青 10YR7/4	灰青 10YR7/4	灰青 10YR7/4	1009腰D1厚4分	41	33	
1116	SBA27	02	高平浅皿			120.40		調整不明	全中径100前後 約45分厚	灰青 10YR7/4	灰青 10YR7/4	灰青 10YR7/4	灰青 10YR7/4	1009腰D1厚4分	41	33	
1117	SBA27	02	高平浅皿			120.40		調整不明	全中径100前後 約45分厚	灰青 10YR7/4	灰青 10YR7/4	灰青 10YR7/4	灰青 10YR7/4	1009腰D1厚4分	41	33	
1118	SBA26	01	高平A			128.10		1号ナギ	調整不明	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	1009腰D1厚4分	41	33	
1119	SAB28	03	高平B			121.10	22.10	1号ナギ	調整不明	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	灰青 10YR6/4	1009腰D1厚4分	41	33	
1120	SBA26	03	高平B1			22.10	14.10	1号ナギ	調整不明	灰青 7.5YR7/6	灰青 7.5YR7/6	灰青 7.5YR7/6	灰青 7.5YR7/6	1009腰D1厚4分	41	33	



遺物番号	出土地点	原産地	器種	造			量			調			型	装	主	現成	色			残片数	備考	図	尺
				口	径	底	径	底	径	底	径	底					径	底	径				
1160	SBA33	03	罎D	(14.3)	11.8	(3.2)	ハク	ナテ	黄	良好	洗灰焼 10YR7/4	赤イ黄焼 10YR7/5	赤イ黄焼 10YR7/5	(1)罎-底部1/2	付録表外部の 付録表	29	56						
1161	SBA33	03	罎D	(21.0)			ハク	ナテナテ	黄	良好	赤イ黄焼 10YR7/5	赤イ黄焼 10YR7/5	(1)罎1/3		29								
1162	SBA33	03	罎A底部		2.6		ハク	ナテナテ	黄	良好	赤イ黄焼 10YR7/5	赤イ黄焼 10YR7/5	底部全周	底部外面に付く 縦溝(1箇所)	29								
1163	SBA33	04	罎ナ底	(4.7)			ハク	ナテ	黄	良好	赤イ黄焼 10YR7/5	赤イ黄焼 10YR7/5	(1)罎1/2		29								
1164	SBA33	04	罎白部		7.2		ハク	ハク	黄	良好	赤イ黄焼 10YR7/5	赤イ黄焼 10YR7/5	白部全周		29	37							
1165	SBA33	04	罎白部		(6.6)		ハク	ナテ	黄	良好	赤イ黄焼 10YR7/5	赤イ黄焼 10YR7/5	白部1/4		29								
1166	SBA33	02	罎C		1.6		ナテ	ナテ	黄	良好	赤イ黄焼 10YR7/5	赤イ黄焼 10YR7/5	底部全周		29	57							
1167	SBA33	04	罎D 2	8.6	7.2	3.2	ナテ	ナテ	黄	良好	洗灰焼 10YR7/4	洗灰焼 10YR7/4	(1)罎1/3	罎口に直径2.6cm のホウと付く等 ホウあり	29	57							
1168	SBA33	04	罎D 2	(11.0)	22.6	(7.0)	ナテ	ハク	黄	良好	洗灰焼 10YR7/4	洗灰焼 10YR7/4	(1)罎1/2		29	57							
1169	SBA33	04	罎D 2	(12.0)	23.4	3.9	ナテ	ハク	黄	良好	洗灰焼 10YR7/4	洗灰焼 10YR7/4	(1)罎1/2		29	57							
1170	SBA33	02	罎B 1	(15.0)			ナテ	ナテ	黄	良好	洗灰焼 10YR7/4	洗灰焼 10YR7/4	(1)罎1/2	罎口に直径2.5cm のホウと付く等 ホウあり	29	57							
1171	SBA33	03	罎A 1	(20.4)			調整不明	調整不明	黄	良好	赤イ黄焼 10YR7/5	赤イ黄焼 10YR7/5	(1)罎1/3		29								
1172	SBA33	04	罎A		7.2		ハク	ナテ	黄	良好	赤イ黄焼 10YR7/5	赤イ黄焼 10YR7/5	罎口全周	罎口縁部にホウと 付く等ホウあり	29	57							
1173	SBA33	04	罎B		6.8		ナテ	ハク	黄	良好	赤イ黄焼 10YR7/5	赤イ黄焼 10YR7/5	底部全周		29								
1174	SBA33	01	土器 土器部	2.7	2.4	3.2	調整不明	調整不明	黄	良好	赤イ黄焼 10YR7/5	赤イ黄焼 10YR7/5	(1)罎1/3		29	57							
1175	SBA11	02	罎A	(20.0)			ナテ	ナテ	黄	良好	赤イ黄焼 10YR7/5	赤イ黄焼 10YR7/5	早期1/3		29								
1176	SBA11	03	罎A				調整不明	ナテ	黄	良好	赤イ黄焼 10YR7/5	赤イ黄焼 10YR7/5	罎口1/3	罎口縁部に1.0cm のホウと付く	29								
1177	SBA11	03	罎B	18.2			ナテ	ナテ	黄	良好	赤イ黄焼 10YR7/5	赤イ黄焼 10YR7/5	早期1/3		29	60							
1178	SBA11	03	罎A				ナテ	ナテ	黄	良好	赤イ黄焼 10YR7/5	赤イ黄焼 10YR7/5	底部全周	1.0x2.0mmの 孔	29								
1179	SBA11	03	罎B	(19.1)			調整不明	調整不明	黄	良好	赤イ黄焼 10YR7/5	赤イ黄焼 10YR7/5	(1)罎1/2	罎口縁部に直径 2.5cmのホウと付く 等ホウあり	29								
1180	SBA11	04	罎B	(17.2)			ナテ	調整不明	黄	良好	赤イ黄焼 10YR7/5	赤イ黄焼 10YR7/5	(1)罎1/3	罎口縁部に直径 2.5cmのホウと付く 等ホウあり	29								
1181	SBA11	03	罎B		(7.5)		ハク	調整不明	黄	良好	赤イ黄焼 10YR7/5	赤イ黄焼 10YR7/5	底部全周		29								
1182	SBA34	03	罎PC				ナテ	調整不明	黄	良好	赤イ黄焼 10YR7/5	赤イ黄焼 10YR7/5	底部全周		25								
1183	SBA34	03	罎PC				ナテ	不明	黄	良好	赤イ黄焼 10YR7/5	赤イ黄焼 10YR7/5	(1)罎1/2		25								
1184	SBA34	03	罎				ナテ	ナテ	黄	良好	赤イ黄焼 10YR7/5	赤イ黄焼 10YR7/5	罎口1/3		25								
1185	SBA33	03	罎A	(18.7)			ナテ	ナテ	黄	良好	赤イ黄焼 10YR7/5	赤イ黄焼 10YR7/5	罎口1/3		28								
1186	SBA33	01	罎A	(20.0)			ナテ	ナテ	黄	良好	赤イ黄焼 10YR7/5	赤イ黄焼 10YR7/5	罎口1/3		28								
1187	SBA33	03	罎A				不明	不明	黄	良好	赤イ黄焼 10YR7/5	赤イ黄焼 10YR7/5	罎口1/3		28								
1188	SBA33	02	罎A	(20.0)			不明	不明	黄	良好	赤イ黄焼 10YR7/5	赤イ黄焼 10YR7/5	罎口1/3		28								
1189	SBA33	02	罎A				ナテ	ナテ	黄	良好	赤イ黄焼 10YR7/5	赤イ黄焼 10YR7/5	罎口1/3		28								
1190	SBA33	03	罎A		18.0		ハク	ナテ	黄	良好	赤イ黄焼 10YR7/5	赤イ黄焼 10YR7/5	罎口1/2	罎口縁部に直径 3cmのホウと付く	28	58							
1191	SBA33	04	罎A				ナテ	ナテ	黄	良好	赤イ黄焼 10YR7/5	赤イ黄焼 10YR7/5	底部全周		28	58							
1192	SBA33	03	罎A		11.0		ナテ	ハク	黄	良好	赤イ黄焼 10YR7/5	赤イ黄焼 10YR7/5	(1)罎1/3		28	58							
1193	SBA33	02	罎A		12.0		ナテ	ナテ	黄	良好	赤イ黄焼 10YR7/5	赤イ黄焼 10YR7/5	罎口1/3		28								
1194	SBA33	03	罎A	(17.3)			ナテ	ナテ	黄	良好	赤イ黄焼 10YR7/5	赤イ黄焼 10YR7/5	(1)罎1/3		28								
1195	SBA33	02	罎A	(18.1)			ナテ	調整不明	黄	良好	赤イ黄焼 10YR7/5	赤イ黄焼 10YR7/5	(1)罎1/3		28								
1196	SBA33	03	罎A				ナテ	調整不明	黄	良好	赤イ黄焼 10YR7/5	赤イ黄焼 10YR7/5	罎口全周		28								
1197	SBA33	03	罎A				ナテ	調整不明	黄	良好	赤イ黄焼 10YR7/5	赤イ黄焼 10YR7/5	罎口全周		28								
1198	SBA33	03	罎A				ナテ	調整不明	黄	良好	赤イ黄焼 10YR7/5	赤イ黄焼 10YR7/5	罎口全周		28								
1199	SBA33	03	罎A		10.0		ナテ	ナテ	黄	良好	赤イ黄焼 10YR7/5	赤イ黄焼 10YR7/5	罎口全周	罎口縁部に直径 2.5cmのホウと付く 等ホウあり	28	58							







番号	品名	製法	原料	用途	形状	内面	加工	色			備考	図番			
								外	内	底					
1318	SDC24	02	磁石				中央部1-2cm角の砂状凹凸	良好	ニズイ磨 7.5YR7/3	黄灰 7.5YR6/1	黄灰 7.5YR6/1	黒線1/2	124		
1319	SDC24	02	磁石	(13.2)		ハヤ	中央部1cm角の砂状凹凸	良好	ニズイ磨 7.5YR6/4	黄灰 10YR6/3	黄灰 10YR6/2	黒線1/2	124		
1320	SDC24	02	磁石	(18.0)		ハヤ	中央部1-2cm角の砂状凹凸	良好	ニズイ磨 7.5YR7/6	黄灰 7.5YR6/6	黄灰 7.5YR6/6	10線1/2	124		
1321	SDC26	05	黄平皿	(6.7)		ハヤ	中央部1-2cm角の砂状凹凸	良好	黄灰 5YR5-6	黄灰 10YR7-6	黄灰 10YR7-6	黒線1/4	129		
1322	SDC27	01	高坪皿	(21.8)		1ゴキ	滑	良好	黄灰 10YR7/4	黄灰 10YR6/4	黄 10YR6/2/1	付線1/2	132		
1323	SDC28	02	高坪皿	33.3		1ゴキ	付線部中央部、砂状凹凸	良好	黄 10YR7/4	黄 10YR6/2	黄 N4/0	付線1/2、黒線1/2	1、3、3線3字丸	135 62	
1324	SDC28	01	鉢C	(17.6)		ハヤ	中央部1-2cm角の砂状凹凸	良好	黄 10YR7/6	黄 10YR6/1	黄 10YR6/1	10線-付線1/2	付線部中央部、砂状凹凸、付線部中央部、砂状凹凸	135 135	
1325	SDC28	02	鉢C	(19.0)		ハヤ	中央部1-2cm角の砂状凹凸	良好	ニズイ磨 10YR7/2	ニズイ磨 10YR7/2	ニズイ磨 10YR7/2	11線部1/4、黒線1/2	付線部中央部、砂状凹凸、付線部中央部、砂状凹凸	135 135	
1326	SDC28	02	黄平皿	(5.8)		ハヤ	中央部1-2cm角の砂状凹凸	良好	ニズイ磨 10YR7/4	ニズイ磨 10YR7/3	ニズイ磨 10YR7/4	付線-付線1/2	外面付付	135	
1327	SDC28	01	磁鉢底	3.5		1ゴキ	ハヤ	良好	黄 10YR6/2	黄 10YR6/1	黄 10YR7/1	付線中央部、付線1/2		135	
1328	SDC28	01	高坪皿			1ゴキ	1ゴキ	良好	黄 10YR7/6	黄 10YR6/6	黄 10YR6/6	付線1/4-黒線1/2	2、3、3線4字丸	132	
1329	SDC29	02	高坪皿	(21.4)		付線部中央部、砂状凹凸	付線部中央部、砂状凹凸	良好	ニズイ磨 10YR7/4	ニズイ磨 10YR7/4	黄 N4/0	付線1/2-黒線1/2	2、3、3線4字丸	132	
1330	SDC29	02	高坪皿	(26.8)		1ゴキ	滑	良好	黄 10YR7/4	黄 10YR6/4	黄 10YR6/3	付線中央部、付線部中央部	1、3、3線3字丸	132	
1331	SDC29	01	磁台A	33.3		1ゴキ	ナヤ	良好	黄 10YR6/6	黄 7.5YR7/8	黄 7.5YR7/8	黒線1/4全付	1、3、3線3字丸、付線部中央部、砂状凹凸、付線部中央部、砂状凹凸	132 63	
1332	SDC29	02	磁台B			付線部中央部、砂状凹凸	付線部中央部、砂状凹凸	良好	黄 10YR6/2	A黄 10YR6/3	黄 10YR6/2	付線中央部、付線1/4	付線1/2	132	
1333	SDC29	02	鉢B	(18.0)		ハヤ	中央部1-2cm角の砂状凹凸	良好	ニズイ磨 5YR6/4	ニズイ磨 5YR6/4	黄 5YR6/1	11線部-黒線1/2	付線部中央部、砂状凹凸、付線部中央部、砂状凹凸、付線部中央部、砂状凹凸	132	
1334	SDC29	02	鉢C	(18.8)		ナヤ	ハヤ	良好	黄 7.5YR6/6	ニズイ磨 10YR7/4	ニズイ磨 10YR7/4	11線部1/2、付線1/4	付線部中央部、砂状凹凸、付線部中央部、砂状凹凸、付線部中央部、砂状凹凸	132	
1335	SDC29	02	鉢C	(18.8)		ハヤ	中央部1-2cm角の砂状凹凸	良好	黄 10YR6/6	黄 10YR6/6	黄 10YR6/6	11線部1/2、黒線1/4	付線部中央部、砂状凹凸、付線部中央部、砂状凹凸、付線部中央部、砂状凹凸	132	
1336	SDC29	02	鉢C	(18.9)		ナヤ	ナヤ	良好	ニズイ磨 10YR7/3	ニズイ磨 10YR7/2	ニズイ磨 10YR7/2	11線部1/8	付線部中央部、砂状凹凸、付線部中央部、砂状凹凸	132	
1337	SDC29	02	鉢C	(16.9)		ハヤ	調整不明	良好	ニズイ磨 10YR7/3	ニズイ磨 10YR7/3	ニズイ磨 10YR7/3	11線-黒線1/2	外面付付、付線中央部、砂状凹凸	132	
1338	SDC29	02	黄平皿	5.0		ハヤ	中央部1-2cm角の砂状凹凸	良好	中央部 10YR6/4	黄 10YR6/1	黄 10YR6/1	付線1/2、黒線1/2	外面付付、付線中央部、砂状凹凸	138	
1339	SDC29	05	磁台A	15.0		ハヤ	中央部1-2cm角の砂状凹凸	良好	黄 5YR6/6	黄 5YR6/6	黄 7.5YR7/4	付線-付線1/2	外面付付	138	
1340	SDC29	01	高坪皿	3.2		調整不明	滑	良好	黄 7.5YR6/6	黄 7.5YR6/6	黄 10YR6/1	黒線中央部		138	
1341	SDC29	02	高坪皿	(17.1)		調整不明	ハヤ	良好	黄 7.5YR7/8	黄 7.5YR7/6	黄 7.5YR7/6	11線-黒線1/2		138	
1342	SDC31	02	高坪皿	(22.9)		1ゴキ	1ゴキ	良好	黄 10YR7/6	黄 10YR6/6	黄 10YR6/6	付線1/2		142	
1343	SDC31	02	高坪皿	(12.4)		調整不明	ナヤ	良好	ニズイ磨 10YR7/4	ニズイ磨 10YR7/4	ニズイ磨 10YR7/4	黒線1/8		142	
1344	SDC31	02	高坪皿	20.5	14.0	32.0	ナヤ	中央部1-2cm角の砂状凹凸	良好	黄 7.5YR7/6	黄 7.5YR6/6	黄 7.5YR6/6	付線1/2、黒線1/2	付線部中央部、砂状凹凸、付線部中央部、砂状凹凸	141 63
1345	SDC31	05	高坪皿	(21.3)		1ゴキ	1ゴキ	良好	黄 7.5YR4	黄 7.5YR4	黄 5Y/2	付線11線1/2		141	
1346	SDC31	05	高坪皿	(14.1)		1ゴキ	ナヤ	良好	ニズイ磨 7.5YR6/4	黄 7.5YR6/6	ニズイ磨 7.5YR5/4	黒線1/8		141	
1347	SDC31	05	高坪皿	2.4		調整不明	黄	良好	黄 10YR6/6	黄 10YR6/1	黄 10YR6/1	黒線中央部		141	
1348	SDC31	05	高坪皿			調整不明	黄	良好	黄 5Y/1	ニズイ磨 10YR6/1	ニズイ磨 10YR6/1	付線1/2、黒線1/2	付線部中央部、砂状凹凸、付線部中央部、砂状凹凸	141 63	
1349	SDC36	02	黄平皿	(11.3)	(4.3)		調整不明	良好	黄 5YR6/1	ニズイ磨 10YR7/2	ニズイ磨 10YR7/2	付線1/2、黒線1/2	付線部中央部、砂状凹凸、付線部中央部、砂状凹凸	141 63	
1350	SDC36	02	黄平皿	(17.4)		ハヤ	ハヤ	良好	中央部 7.5YR6/6	ニズイ磨 10YR7/2	ニズイ磨 10YR6/4	11線部1/8、付線1/2	外面付付	142	
1351	SDC36	02	黄平皿	11.2		ハヤ	中央部1-2cm角の砂状凹凸	良好	中央部 7.5YR7/6	黄 7.5YR7/6	黄 7.5YR7/6	付線中央部		142	
1352	SDC36	02	黄平皿	(9.8)		調整不明	黄	良好	中央部 7.5YR7/6	ニズイ磨 7.5YR6/2	ニズイ磨 7.5YR6/1	付線1/4	外面付付	142 63	
1353	SDC37	05	高坪皿	11.5	4.9		調整不明	良好	黄 N6/9	黄 7.5Y6/1	黄 N6/9	付線	付線部中央部、砂状凹凸、付線部中央部、砂状凹凸、付線部中央部、砂状凹凸	141 63	
1354	SDC37	05	高坪皿	(10.3)	(4.9)		調整不明	良好	黄 7.5Y6/2	黄 7.5Y7/2	黄 7.5Y3/3	付線部中央部、砂状凹凸、付線部中央部、砂状凹凸	付線部中央部、砂状凹凸、付線部中央部、砂状凹凸	141 63	



遺物番号	出土地点	器種	形 量 測 量			胎土	焼成	色 調			保存状態	備考	録取番号	
			口径	高さ	底径			外面	内面	断面				
1309	SRE04	01 高坏形器			113.7	1等土	赤	良好	黄褐色	黄褐色	灰白	100%	遺失・乱入?	171
1310	SRE04	01 器台A	186.0		114.0	1等土	赤	良好	黄褐色	黄褐色	灰白	100%	遺失・乱入?	171
1311	SRE04	01 器台B	189.2			1等土	赤	良好	黄褐色	黄褐色	灰白	100%	遺失・乱入?	171
1312	SRE02	01 高坏形器				1等土	赤	良好	黄褐色	黄褐色	灰白	100%	遺失・乱入?	171
1313	SRE06	01 高坏形器				1等土	赤	良好	黄褐色	黄褐色	灰白	100%	遺失・乱入?	171
1314	SRE07	01 高坏形器				1等土	赤	良好	黄褐色	黄褐色	灰白	100%	遺失・乱入?	171
1315	SRE07	01 高坏形器				1等土	赤	良好	黄褐色	黄褐色	灰白	100%	遺失・乱入?	171
1316	SRE07	01 高坏形器				1等土	赤	良好	黄褐色	黄褐色	灰白	100%	遺失・乱入?	171
1317	SRE06	01 高坏形器	255.0			1等土	赤	良好	黄褐色	黄褐色	灰白	100%	遺失・乱入?	171
1318	SRE04	01 器台A			115.1	1等土	赤	良好	黄褐色	黄褐色	灰白	100%	遺失・乱入?	171
1319	SRE08	02 高坏形器			115.1	1等土	赤	良好	黄褐色	黄褐色	灰白	100%	遺失・乱入?	171
1320	SRE06	01 高坏形器	155.7			1等土	赤	良好	黄褐色	黄褐色	灰白	100%	遺失・乱入?	171
1321	SRE06	01 高坏形器			121.1	1等土	赤	良好	黄褐色	黄褐色	灰白	100%	遺失・乱入?	171
1322	SRE06	01 高坏形器			119.1	1等土	赤	良好	黄褐色	黄褐色	灰白	100%	遺失・乱入?	171

表36 A区水場遺構出土土器観察表

遺物番号	出土地点	器種	形 量 測 量			胎土	焼成	色 調			保存状態	備考	録取番号	
			口径	高さ	底径			外面	内面	断面				
1323	本場遺構	01 高坏形器	186.2			1等土	赤	良好	黄褐色	黄褐色	灰白	100%	遺失・乱入?	171
1324	本場遺構	01 高坏形器			130.0	1等土	赤	良好	黄褐色	黄褐色	灰白	100%	遺失・乱入?	171
1325	本場遺構	01 高坏形器	155.0	72.0	88.8	1等土	赤	良好	黄褐色	黄褐色	灰白	100%	遺失・乱入?	171
1326	本場遺構	01 高坏形器	181.2			1等土	赤	良好	黄褐色	黄褐色	灰白	100%	遺失・乱入?	171
1327	本場遺構	01 高坏形器	178.0			1等土	赤	良好	黄褐色	黄褐色	灰白	100%	遺失・乱入?	171
1328	本場遺構	01 高坏形器	186.1			1等土	赤	良好	黄褐色	黄褐色	灰白	100%	遺失・乱入?	171
1329	本場遺構	01 高坏形器	190.0			1等土	赤	良好	黄褐色	黄褐色	灰白	100%	遺失・乱入?	171
1330	本場遺構	01 高坏形器	184.2			1等土	赤	良好	黄褐色	黄褐色	灰白	100%	遺失・乱入?	171

表37 砂行大溝出土土器観察表

遺物番号	出土地点	器種	形 量 測 量			胎土	焼成	色 調			保存状態	備考	録取番号	
			口径	高さ	底径			外面	内面	断面				
1331	SDD01C-W	04 高坏形器	75.0			1等土	赤	良好	黄褐色	黄褐色	灰白	100%	遺失・乱入?	171
1332	SDD01C-W SDD01D-E	04 高坏形器	121.0			1等土	赤	良好	黄褐色	黄褐色	灰白	100%	遺失・乱入?	171
1333	SDD01B SDD01C-W	04 高坏形器	125.0			1等土	赤	良好	黄褐色	黄褐色	灰白	100%	遺失・乱入?	171
1334	SDD01D-W SDD01D-E	04 高坏形器	127.0			1等土	赤	良好	黄褐色	黄褐色	灰白	100%	遺失・乱入?	171
1335	SDD01D-E	04 高坏形器	121.0			1等土	赤	良好	黄褐色	黄褐色	灰白	100%	遺失・乱入?	171
1336	SDD01C-W	04 高坏形器	122.0			1等土	赤	良好	黄褐色	黄褐色	灰白	100%	遺失・乱入?	171
1337	SDD01C-W	04 高坏形器	124.0			1等土	赤	良好	黄褐色	黄褐色	灰白	100%	遺失・乱入?	171
1338	SDD01B-W SDD01C	04 高坏形器	127.2			1等土	赤	良好	黄褐色	黄褐色	灰白	100%	遺失・乱入?	171

遺物番号	出土地・名	種別	品			調	整	動	主	状況	色			保存状態	備考	調査日
			口径	口径	口径						内面	外面	断面			
1419	SD01N-W SD01B SD01D	高圧A 厚板	125.3			1.0ギ	1.0ギ	黄	良好	焼戻 HYR1/1	ニオイ黄銅 10YR5/3	ニオイ黄銅 10YR5/3	厚板1/3	日経建設内務部 第2室	212	68
1420	SD01B C	高圧A 厚板	133.40			1.0ギ	1.0ギ	中々粗1~3mm 内の焼戻心付	良好	ニオイ黄銅 10YR5/3	ニオイ黄銅 10YR5/3	ニオイ黄銅 10YR5/3	厚板1/6		212	68
1421	SD01A	高圧A 厚板	125.4			1.0ギ	調整不明	中々粗1~2mmの 砂粒付	良好	ニオイ黄銅 10YR7/3	ニオイ黄銅 10YR7/3	焼戻 HYR1/1	厚板1/13		212	68
1422	SD01N C	高圧A 厚板	125.40			調整不明 ハヤ鉄ナシ	ナシ	黄	良好	ニオイ黄銅 10YR7/3	ニオイ黄銅 10YR7/3	ニオイ黄銅 10YR7/3	厚板1/4		212	68
1423	SD01B C	高圧A 厚板	116.9			1.0ギ	1.0ギ	黄	良好	焼戻 HYR1/1	黄銅 10YR5/4	浅黄銅 10YR6/4	厚板1/6		212	
1424	SD01D W	高圧A 厚板	125.39			1.0ギ	1.0ギ	黄	良好	焼戻 2.5Y7/2	2.5Y6/2	浅黄 2.5Y7/4	厚板1/7		212	68
1425	SD01B W	高圧A 厚板	122.1			1.0ギ	1.0ギ	黄	良好	ニオイ黄銅 10YR6/3	ニオイ黄銅 10YR6/3	ニオイ黄銅 10YR7/4	厚板1/16		212	
1426	SD01C W	高圧B 厚板	126.4			1.0ギ	1.0ギ	黄	良好	ニオイ黄銅 10YR6/3	ニオイ黄銅 10YR6/3	ニオイ黄銅 10YR7/3	厚板1/4		213	40
1427	SD01B B	高圧B 厚板	126.4			1.0ギ	1.0ギ	黄	良好	ニオイ黄銅 10YR6/3	焼黄銅 10YR6/2	ニオイ黄銅 10YR6/3	厚板1/6		213	69
1428	SD01A B	高圧B 厚板	122.40			1.0ギ	1.0ギ	黄	良好	ニオイ黄銅 10YR6/3	ニオイ黄銅 10YR6/3	焼黄銅 10YR6/2	厚板1/8	日経建設内務部 第2室	213	69
1429	SD01N W	高圧B 厚板	116.1			調整不明	調整不明	黄	良好	ニオイ黄銅 10YR5/4	浅黄銅 10YR6/3	焼戻 HYR1/1	厚板1/9	日経建設洗滌	213	69
1430	SD01B W	高圧C 厚板	123.23			1.0ギ	1.0ギ	黄	良好	ニオイ黄銅 10YR5/4	ニオイ黄銅 10YR5/4	ニオイ黄銅 10YR5/4	厚板1/4		213	69
1431	SD01B B	高圧C 厚板	128.11			1.0ギ	1.0ギ	黄	良好	ニオイ黄銅 10YR6/3	ニオイ黄銅 10YR6/3	焼戻 HYR1/1	厚板1/10		213	69
1432	SD01B B	高圧C 厚板	123.30			1.0ギ	1.0ギ	黄	良好	ニオイ黄銅 10YR6/3	ニオイ黄銅 10YR7/4	ニオイ黄銅 10YR7/4	厚板1/14	日経建設内務部 第2室	213	
1433	SD01A A	高圧C 厚板	124.21			1.0ギ	1.0ギ	黄	良好	焼黄銅 10YR6/4	ニオイ黄銅 10YR6/4	焼黄銅 10YR6/4	厚板1/8		213	
1434	SD01C C	高圧C 厚板	124.21			1.0ギ	1.0ギ	黄	良好	ニオイ黄銅 10YR6/4	ニオイ黄銅 10YR6/4	焼黄銅 10YR6/4	厚板1/4		213	69
1435	SD01B W	高圧C 厚板	124.21			1.0ギ	1.0ギ	黄	良好	ニオイ黄銅 10YR6/4	ニオイ黄銅 10YR6/4	焼黄銅 10YR6/4	厚板1/4		213	
1436	SD01D W	高圧C 厚板	126.0			1.0ギ	1.0ギ	黄	良好	ニオイ黄銅 10YR5/4	浅黄銅 10YR6/3	浅黄銅 10YR6/4	厚板1/6	日経建設内務部 第2室	213	
1437	SD01B B	高圧C 厚板	126.0			1.0ギ	調整不明	黄	良好	浅黄 2.5Y7/4	浅黄 2.5Y7/3	浅黄 2.5Y7/2	厚板全周 透心1.25mm		213	
1438	SD01B B	高圧C 厚板				調整不明	調整不明	中々粗1~2mmの 砂粒付	不良	ニオイ黄銅 10YR5/3	ニオイ黄銅 10YR5/3	浅黄銅 10YR6/4	厚板全周 透心1.3mm穿孔		213	
1439	SD01C C	高圧D 厚板		116.21		1.0ギ	1.0ギ	黄	良好	ニオイ黄銅 10YR7/4	ニオイ黄銅 10YR7/4	ニオイ黄銅 10YR7/4	厚板全周 透心1.3mm穿孔		213	70
1440	SD01B C	高圧D 厚板	116.21			調整不明	調整不明	黄	良好	焼戻 2.5Y7/2	浅黄 2.5Y7/2	浅黄 2.5Y7/3	厚板1/9		214	
1441	SD01C C	高圧D 厚板	116.21			1.0ギ	ナシ	黄	良好	ニオイ黄銅 10YR6/4	ニオイ黄銅 10YR6/4	焼戻 HYR1/1	厚板1/2		214	
1442	SD01C C	高圧E 厚板	12.8			1.0ギ	1.0ギ	黄	良好	ニオイ黄銅 10YR6/4	ニオイ黄銅 10YR5/4	浅黄 10YR5/3	厚板1/4		214	
1443	SD01C W SD01E C	高圧 厚板		115.1		1.0ギ	ハヤ鉄ナシ	黄	良好	ニオイ黄銅 10YR6/4	ニオイ黄銅 10YR6/4	ニオイ黄銅 10YR6/4	厚板112元角	透心1.3mm穿孔	214	70
1444	SD01N C	高圧 厚板				1.0ギ	ハヤ鉄ナシ	黄	良好	ニオイ黄銅 10YR6/3	ニオイ黄銅 10YR6/3	黄 10YR7/1	厚板全周 透心1mm	透心1.3mm穿孔	214	
1445	SD01C C	高圧 厚板				1.0ギ	ナシ	黄	良好	ニオイ黄 2.5Y6/2	ニオイ黄 2.5Y6/2	浅黄 2.5Y6/1	厚板全周 透心1mm	透心1.3mm穿孔	214	
1446	SD01C C	高圧 厚板				調整不明 焼黄銅ナシ	調整不明	黄	良好	浅黄銅 10YR6/4	浅黄銅 10YR6/4	焼戻 10YR5/1	厚板全周 透心1mm	透心1.3mm穿孔	214	
1447	SD01N C	高圧 厚板				1.0ギ	ナシ	黄	良好	浅黄 2.5Y6/3	浅黄 2.5Y6/4	浅黄 2.5Y2/1	厚板全周	透心1.12元角	214	
1448	SD01C C	高圧 厚板				調整不明	ナシ	黄	良好	ニオイ黄銅 10YR6/3	ニオイ黄銅 10YR7/3	焼戻 10YR5/1	厚板全周 透心1.25mm		214	
1449	SD01A W SD01B W SD01C W SD01C W	高圧 厚板	113.1			1.0ギ	ナシ	中々粗1~3mmの 砂粒付	良好	ニオイ黄銅 10YR5/3	ニオイ黄銅 10YR5/3	焼戻 HYR1/1	厚板1/3	日経建設洗滌	214	70
1450	SD01B C	高圧 厚板				1.0ギ	調整ナシ	黄	良好	ニオイ黄銅 10YR7/3	ニオイ黄銅 10YR7/3	ニオイ黄銅 10YR7/3	厚板全周	透心1.3mm穿孔	214	
1451	SD01B B	高圧 厚板		9.2		1.0ギ	ヤズリ	黄	良好	ニオイ黄 2.5Y6/4	ニオイ黄 10YR6/4	ニオイ黄 10YR6/4	厚板全周 透心1mm	透心1.3mm穿孔	214	
1452	SD01C W	高圧 厚板				1.0ギ	ナシ	黄	良好	ニオイ黄銅 10YR7/4	ニオイ黄銅 10YR7/3	ニオイ黄銅 10YR5/1	厚板全周		214	
1453	SD01B B	高圧 厚板		7.1		1.0ギ	ナシ	黄	良好	ニオイ黄銅 10YR7/3	浅黄銅 10YR6/2	焼戻 10YR5/1	厚板全周		214	
1454	SD01X X	高圧F 厚板		115.25		ナシ	ハヤ	中々粗1~2mmの 砂粒付	良好	ニオイ黄銅 10YR6/3	焼 10YR6/4	ニオイ黄銅 10YR7/3	厚板全周 透心1.12元角		214	70
1455	SD01C W SD01C W	高圧G 厚板	79.46	15.2	13.4	ナシ	調整ナシ 調整ナシ 調整ナシ	黄	良好	ニオイ黄銅 10YR7/3	ニオイ黄銅 10YR5/1	ニオイ黄銅 10YR5/3	厚板112元角 透心1mm		214	70
1456	SD01D W	高圧G 厚板				ナシ	ハヤ鉄ナシ	中々粗1~2mmの 砂粒付	不良	ニオイ黄銅 10YR5/1	ニオイ黄 2.5Y6/3	ニオイ黄 10YR7/3	厚板1/2		214	



遺物番号	出土地点	層	形	形				土	状況	測定			保存状態	備考	図	注	
				口徑	高さ	外径	内径			長さ	内径	厚さ					
1284	SD00C	04	器台A 文部	118.2					やや粗い1-2cm角砂状の土	良好	口径 7.5YR6/4	高さ 7.5YR6/4	底径 7.5YR7/4	全面1/6		216	
1493	SD01C	04	器台A 文部	116.2					やや粗い1-2cm角砂状の土	良好	口径 7.5YR6/4	高さ 7.5YR6/4	底径 7.5YR6/6	全面1/6		216	
1498	SD01N	03	器台A 文部	126.1					黄	良好	口径 10YR7/3	高さ 10YR7/3	底径 10YR6/3	全面1/6	114内外面磨光	216	
1497	SD01N C SD01A C SD01A C	04	器台A 文部	124.35					黄	良好	口径 10YR6/3	高さ 10YR6/3	底径 10YR6/3	全面1/6	114内外面磨光 文部	216	
1498	SD01B	05	器台A 文部						やや粗い1-2cm角砂状の土	良好	口径 10YR6/8	高さ 10YR6/8	底径 10YR6/3	全面1/6	114内外面磨光	216	
1499	SD01B	05	器台A 文部						やや粗い1-2cm角砂状の土	良好	口径 10YR6/2	高さ 10YR6/2	底径 10YR6/3	全面1/6	114内外面磨光	216	
1499	SD01C	02	器台A 文部						やや粗い1-2cm角砂状の土	良好	口径 10YR6/3	高さ 10YR6/3	底径 10YR6/3	全面1/6	114内外面磨光	216	
1500	SD01C	02	器台A 文部						やや粗い1-2cm角砂状の土	良好	口径 10YR6/3	高さ 10YR6/3	底径 10YR6/3	全面1/6	114内外面磨光	216	
1501	SD01B	05	器台A 文部						黄	良好	口径 10YR6/3	高さ 10YR6/3	底径 10YR6/3	全面1/6	114内外面磨光	216	
1502	SD01A	03	器台A 文部	112.40					黄	良好	口径 10YR6/3	高さ 10YR6/3	底径 10YR6/3	全面1/6	114内外面磨光	216	
1503	SD01A	04	器台A 文部						やや粗い1-2cm角砂状の土	良好	口径 10YR6/3	高さ 10YR6/3	底径 10YR6/3	全面1/6	114内外面磨光	216	
1504	SD01C	04	器台B 1	22.4	16.9	16.8	1.7		やや粗い1-2cm角砂状の土	良好	口径 10YR6/3	高さ 10YR6/3	底径 10YR6/3	全面1/6	114内外面磨光	216	
1505	SD01A C SD01B	04	器台B 1	18.3	12.9	13.0	1.7		やや粗い1-2cm角砂状の土	良好	口径 10YR6/3	高さ 10YR6/3	底径 10YR6/3	全面1/6	114内外面磨光	216	
1506	SD01C	04	器台B 2	31.3	13.7	12.3	1.7		やや粗い1-2cm角砂状の土	良好	口径 10YR6/3	高さ 10YR6/3	底径 10YR6/3	全面1/6	114内外面磨光	216	
1507	SD01C	04	器台B 2	31.8					黄	良好	口径 10YR6/2	高さ 10YR6/2	底径 10YR6/2	全面1/6	114内外面磨光	216	
1508	SD01B C SD01C	04	器台B 2	22.2					やや粗い1-2cm角砂状の土	良好	口径 10YR6/3	高さ 10YR6/3	底径 10YR6/3	全面1/6	114内外面磨光	216	
1509	SD01B	04	器台B 2	19.0					やや粗い1cm角砂状の土	良好	口径 10YR6/3	高さ 10YR6/3	底径 10YR6/3	全面1/6	114内外面磨光	216	
1510	SD01B C SD01C	04	器台B 1	114.3					黄	良好	口径 10YR6/3	高さ 10YR6/3	底径 10YR6/3	全面1/6	114内外面磨光	216	
1511	SD01D	04	器台B 2						黄	良好	口径 10YR6/3	高さ 10YR6/3	底径 10YR6/3	全面1/6	114内外面磨光	216	
1512	SD00C	04	器台B 2						やや粗い1-2cm角砂状の土	良好	口径 7.5YR6/4	高さ 10YR6/3	底径 10YR6/3	全面1/6	114内外面磨光	216	
1513	SD01B C SD01B	04	器台B 2	121.2					黄	良好	口径 10YR6/3	高さ 10YR6/3	底径 10YR6/3	全面1/6	114内外面磨光	216	
1514	SD01B C SD01B C SD01B C	04	器台A	115.0					黄	良好	口径 10YR6/3	高さ 10YR6/3	底径 10YR6/3	全面1/6	114内外面磨光 114内外面磨光 文部	216	
1515	SD01A C SD01B C SD01B C	04	器台A	127.0					やや粗い1-1cm角砂状の土	良好	口径 7.5YR6/2	高さ 7.5YR6/3	底径 7.5YR6/3	全面1/6	114内外面磨光 114内外面磨光 文部	216	
1516	SD01C	04	器台A	113.0					黄	良好	口径 10YR6/4	高さ 10YR6/3	底径 10YR6/3	全面1/6	114内外面磨光 文部	216	
1517	SD01B	04	器台A	113.0					黄	良好	口径 10YR6/4	高さ 10YR6/4	底径 10YR6/3	全面1/6	114内外面磨光 文部	216	
1518	SD01B	04	器台A	114.1					やや粗い1-3cm角砂状の土	良好	口径 10YR6/2	高さ 10YR6/3	底径 10YR6/3	全面1/6	114内外面磨光 文部	216	
1519	SD00C	03	器台A	114.2					やや粗い1-1cm角砂状の土	良好	口径 10YR6/2	高さ 10YR6/3	底径 10YR6/3	全面1/6	114内外面磨光 文部	216	
1520	SD01N	03	器台A	117.0					やや粗い1-2cm角砂状の土	良好	口径 10YR6/2	高さ 10YR6/2	底径 10YR6/3	全面1/6	114内外面磨光 文部	216	
1521	SD00C	04	器台A						黄	良好	口径 10YR6/4	高さ 10YR6/4	底径 10YR6/3	全面1/6	114内外面磨光	216	
1522	SD01B C	04	器台A	117.0					黄	良好	口径 10YR6/3	高さ 10YR6/3	底径 10YR6/3	全面1/6	114内外面磨光 文部	216	
1523	SD01E	04	器台A	115.1					黄	良好	口径 10YR6/2	高さ 10YR6/2	底径 10YR6/3	全面1/6	114内外面磨光 文部	216	
1524	SD01A C SD01C C SD01C C	04	器台A	115.4					黄	良好	口径 10YR6/3	高さ 10YR6/3	底径 10YR6/3	全面1/6	114内外面磨光	216	
1525	SD00A	03	器台A	119.2					やや粗い1-3cm角砂状の土	良好	口径 10YR6/2	高さ 10YR6/2	底径 10YR6/3	全面1/6	114内外面磨光 文部	216	
1526	SD01B C SD01B C	04	器台A	116.3					やや粗い1-2cm角砂状の土	良好	口径 7.5YR6/2	高さ 7.5YR6/2	底径 7.5YR6/3	全面1/6	114内外面磨光 文部	216	
1527	SD01N C SD01B C SD01D C	03	器台B	126.0					黄	良好	口径 10YR6/3	高さ 10YR6/3	底径 10YR6/3	全面1/6	114内外面磨光 文部	216	
1528	SD01B C SD01C C SD01D C	04	器台B	126.0					黄	良好	口径 10YR6/2	高さ 10YR6/3	底径 10YR6/3	全面1/6	114内外面磨光 文部	216	

調査番号	出土地点	層位	器種	器 形			出土	色			現在状態	備 考	図 録
				口徑	底径	高さ		外	内	底			
1329	SD0019	Ⅱ	鉢	17.30			ナテ	ナテ	赤褐色 内面赤褐色	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	11線直線部 点文、外周直線部	219
1330	SD0019	Ⅱ	鉢	17.40			1.5ヤテ	11線部ナテ 縁部ナテ	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	11線直線部 点文、外周直線部	219
1331	SD0019	Ⅱ	鉢	22.00			1.5ヤテ	赤	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	11線直線部 点文、外周直線部	219
1332	SD0019	Ⅱ	鉢	17.40			ナテ	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	11線直線部 点文、外周直線部	219 72
1333	SD0019	Ⅱ	鉢	18.30			ハヤ直ナテ	ハヤ直ナテ	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	11線直線部 点文、外周直線部	219
1334	SD0019	Ⅱ	鉢	14.40			ナテ	ナテ	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	11線直線部 点文、外周直線部	219
1335	SD0019	Ⅱ	鉢	18.40			ナテ	ナテ	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	11線直線部 点文、外周直線部	219
1336	SD0019	Ⅱ	鉢	24.80			1.5ヤテ	11線部ナテ 縁部ナテ	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	11線直線部 点文、外周直線部	219
1337	SD0019	Ⅱ	鉢	21.10			ナテ	ナテ	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	11線直線部 点文、外周直線部	219
1338	SD0019	Ⅱ	鉢	22.10			1.5ヤテ	ナテ	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	11線直線部 点文、外周直線部	219
1339	SD0019	Ⅱ	鉢	21.30			1.5ヤテ	ナテ	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	11線直線部 点文、外周直線部	219
1340	SD0019	Ⅱ	鉢	21.20			ハヤ直ナテ	ハヤ直ナテ	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	11線直線部 点文、外周直線部	219
1341	SD0019	Ⅱ	鉢	11.30			11線部ハヤ 縁部ナテ	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	11線直線部 点文、外周直線部	219
1342	SD0019	Ⅱ	鉢	20.20			1.5ヤテ	11線部ナテ 縁部ナテ	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	11線直線部 点文、外周直線部	219 72
1343	SD0019	Ⅱ	鉢	17.40			ナテ	ナテ	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	11線直線部 点文、外周直線部	219
1344	SD0019	Ⅱ	鉢	11.30	7.9	13.0	11線部ナテ 縁部ナテ	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	11線直線部 点文、外周直線部	219
1345	SD0019	Ⅱ	鉢	14.10			ナテ	ナテ	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	11線直線部 点文、外周直線部	219
1346	SD0019	Ⅱ	鉢	3.40			ナテ	ナテ	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	11線直線部 点文、外周直線部	219
1347	SD0019	Ⅱ	鉢	12.30	不明		ナテ	ナテ	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	11線直線部 点文、外周直線部	219 72
1348	SD0019	Ⅱ	鉢	12.00	不明		ナテ	ナテ	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	11線直線部 点文、外周直線部	219 72
1349	SD0019	Ⅱ	鉢	12.70			ナテ	赤	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	11線直線部 点文、外周直線部	219
1350	SD0019	Ⅱ	鉢	21.40			ハヤ直ナテ 縁部ナテ	ハヤ直ナテ	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	11線直線部 点文、外周直線部	219 72
1351	SD0019	Ⅱ	鉢	24.10			ハヤ直ナテ 縁部ナテ	ハヤ直ナテ	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	11線直線部 点文、外周直線部	219 72
1352	SD0019	Ⅱ	鉢	19.80			ハヤ直ナテ	赤	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	11線直線部 点文、外周直線部	219 72
1353	SD0019	Ⅱ	鉢	20.20			ハヤ直ナテ 縁部ナテ	ハヤ直ナテ	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	11線直線部 点文、外周直線部	219 72
1354	SD0019	Ⅱ	鉢	20.40			ハヤ直ナテ 縁部ナテ	赤	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	11線直線部 点文、外周直線部	219 72
1355	SD0019	Ⅱ	鉢	22.30			ハヤ直ナテ 縁部ナテ	ハヤ直ナテ	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	11線直線部 点文、外周直線部	219 72
1356	SD0019	Ⅱ	鉢	18.40			ハヤ直ナテ 縁部ナテ	ハヤ直ナテ	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	11線直線部 点文、外周直線部	219 72
1357	SD0019	Ⅱ	鉢	18.40			ハヤ直ナテ 縁部ナテ	ハヤ直ナテ	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	11線直線部 点文、外周直線部	219 72
1358	SD0019	Ⅱ	鉢	22.00			ハヤ直ナテ 縁部ナテ	赤	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	赤褐色 赤褐色	11線直線部 点文、外周直線部	219 72

遺物番号	出土地点	層位	器種	法		量		調		整	出土	品				現在状態	備考	録取No	
				口徑	底径	底径	外径	内径	底径			内径	底径	内径	底径				内径
SDD01B-W																			
1559	SDD01B-W	03	甌A 2	23.80					ハニイデナ	ハニイデナ	赤	良好	表底 10YR2/1	ハニイデ底 10YR2/6	底面 10YR2/1	口縁部1/3	口縁部破損品目注 表底、口縁内面赤 褐色、外底面付着	219	74
1560	SDD01B-W	03	甌A 2	27.20					ハニイデナ	ハニイデナ	赤	やや劣	ハニイデ底 10YR2/4	ハニイデ底 10YR2/4	底面 10YR2/1	口縁部1/4	口縁部破損品目注 表底、口縁内面赤 褐色、外底面付着	219	75
1561	SDD06A	03	甌A 2	19.30					ハニイデナ	ハニイデナ	赤	良好	明黄底 10YR2/6	明黄底 10YR2/6	底面 10YR2/1	口縁部1/4	口縁部破損品目注 表底、口縁内面赤 褐色、外底面付着	219	74
1562	SDD01C	03	甌A 2	11.30					ハニイデナ	ハニイデナ	赤	やや劣	ハニイデ底 10YR2/4	ハニイデ底 10YR2/4	底面 10YR2/1	口縁部1/3	口縁部破損品目注 表底、口縁内面赤 褐色	219	74
1563	SDD01B-W	04	甌A 2	23.80					ハニイデナ	ハニイデナ	赤	良好	明赤底 5YR2/6	底 5YR2/6	底 5YR2/6	口縁1/4	口縁部破損品目注 口縁内面赤文、外 底面付着	220	74
1564	SDD01B-W	04	甌A 2	22.80					ハニイデナ	ハニイデナ	赤	良好	ハニイデ底 10YR2/4	ハニイデ底 10YR2/3	ハニイデ底 10YR2/3	口縁部1/6	口縁部破損品目注 口縁内面赤文、外 底面付着	220	74
1565	SDD01N-C	03	甌A 底面		6.8				ハニイデナ	ナテ	赤	良好	ハニイデ底 7.5YR2/4	ハニイデ底 7.5YR2/1	底面 7.5YR2/1	底面全部	底面赤目互肌、底 面付着	220	74
1566	SDD01N-C	04	甌A 底面		6.1				ハニイデナ	ナテ	赤	良好	明赤底 2.5YR2/7	オリーブ底 2.5Y4/7	ハニイデ底 7.5YR2/3	底面全部	底面赤目互肌、底 面付着	220	75
1567	SDD01N-C	03	甌A 底面		6.3				ハニイデナ	ナテ	赤	良好	ハニイデ底 10YR2/4	ハニイデ底 7.5YR2/4	底面 7.5YR2/1	底面全部	底面赤目互肌、底 面付着	220	75
1568	SDD01D-C	03	甌A 底面		16.90				ハニイデナ	ナテ	赤	良好	ハニイデ底 10YR2/4	ハニイデ底 10YR2/4	底面 10YR2/1	底面1/3	底面赤目互肌、底 面付着	220	75
1569	SDD01B-W	03	甌A		17.7				ハニイデナ	ナテ	赤	良好	底面 N3/0	底面 N3/0	底面 10YR2/1	底面1/3	底面赤目互肌、底 面付着	220	75
1570	SDD01B-W	03	甌B		18.30				ハニイデナ	ナテ、脚底 ナテ	赤	良好	ハニイデ底 10YR2/3	ハニイデ底 10YR2/3	底面 10YR2/1	口縁部1/2	底面赤目互肌、底 面付着	220	75
1571	SDD01B-W	04	甌B		18.3				口縁部ハ ニイデナ、底面ハ ニイデナ、脚底ハ ニイデナ	ナテ、脚底 ナテ	赤	良好	浅黄底 10YR2/4	ハニイデ底 10YR2/3	ハニイデ底 10YR2/3	口縁部1/2	底面赤目互肌、底 面付着	220	75
1572	SDD01C	04	甌B		14.50				ナテ	ナテ	赤	良好	底面 10YR2/1	底面 10YR2/2	底面 10YR2/2	口縁部1/4	口縁部破損品目注 外底面付着	220	75
1573	SDD01C	04	甌B		14.7				ナテ	ハニイデナ	赤	良好	底面 N3/0	ハニイデ底 10YR2/3	ハニイデ底 10YR2/3	口縁部1/5	外底面付着	220	75
1574	SDD01B-W	04	甌B		16.1				ハニイデナ	ナテ	赤	良好	底面 N3/0	ハニイデ底 10YR2/3	底面 7.5YR2/6	口縁部1/5	外底面付着	220	75
1575	SDD01C	04	甌C		21.1				口縁部ハ ニイデナ、底面ハ ニイデナ	ナテ	赤	良好	底面 7.5YR2/6	明黄底 10YR2/6	ハニイデ底 10YR2/4	口縁部1/2	口縁部破損品目注 底面赤目互肌、底 面付着	220	75
1576	SDD01B-W	04	甌C		22.30				口縁部ハ ニイデナ、底面ハ ニイデナ	ナテ	赤	良好	ハニイデ底 10YR2/3	ハニイデ底 10YR2/3	ハニイデ底 10YR2/4	口縁部1/3	口縁部破損品目注 外底面付着	220	75
1577	SDD01B-W	04	甌C		22.3				ハニイデナ	ハニイデナ	赤	良好	ハニイデ底 10YR2/3	ハニイデ底 10YR2/3	ハニイデ底 10YR2/4	口縁部1/3	口縁部破損品目注 口縁内面赤文、外 底面付着	220	75
1578	SDD01B-W	04	甌C		22.80				ハニイデナ	ナテ	赤	良好	ハニイデ底 10YR2/3	ハニイデ底 10YR2/3	明黄底 10YR2/6	口縁部1/6	口縁部破損品目注 口縁内面赤文、外 底面付着	221	75
1579	SDD01C	04	甌C		13.50				ハニイデナ	ナテ	赤	良好	ハニイデ底 10YR2/3	ハニイデ底 10YR2/3	底面 10YR2/1	口縁部1/4	外底面付着、口縁 部破損品目注	221	75
1580	SDD01B-W	04	甌D		23.60				ハニイデナ	ハニイデナ	赤	良好	浅黄底 10YR2/4	浅黄底 10YR2/4	底面 10YR2/1	口縁部1/4	口縁部破損品目注 底面赤目互肌、外 底面付着	221	75
1581	SDD01C	03	甌D		28.4				ハニイデナ	ハニイデナ	赤	良好	ハニイデ底 7.5YR2/4	底 7.5YR2/6	底 7.5YR2/6	口縁部1/4	外底面付着	221	75
1582	SDD01C	03	甌D		26.2				ハニイデナ	ハニイデナ	赤	良好	ハニイデ底 7.5YR2/3	ハニイデ底 7.5YR2/4	ハニイデ底 7.5YR2/4	口縁部1/5		221	75
1583	SDD01B-W	04	甌D		28.20				口縁部ハ ニイデナ、脚底ハ ニイデナ	ハニイデナ	赤	良好	ハニイデ底 10YR2/3	ハニイデ底 10YR2/3	ハニイデ底 10YR2/3	口縁部1/3	外底面付着	221	75
1584	SDD01B-W	04	甌D		23.20				ハニイデナ	ハニイデナ	赤	良好	ハニイデ底 10YR2/4	ハニイデ底 10YR2/4	ハニイデ底 10YR2/3	口縁部1/4		221	75
1585	SDD01B-W	04	甌CD底 面						ハニイデナ	ハニイデナ	赤	良好	底面 10YR2/3	ハニイデ底 10YR2/3	ハニイデ底 10YR2/3	底面1/4	底面赤目互肌、外 底面付着	221	75
1586	SDD01B-W	04	甌CD底 面						ハニイデナ	ナテ	赤	良好	ハニイデ底 7.5YR2/4	底 7.5YR2/6	ハニイデ底 10YR2/4	底面1/6	底面赤目互肌、外 底面付着	221	75
1587	SDD01B-W	04	甌CD底 面						ハニイデナ	ナテ	赤	良好	底面 7.5YR2/4	底 7.5YR2/6	底 7.5YR2/1	底面1/5	底面赤目互肌、外 底面付着	221	75
1588	SDD01B-W	04	甌底		27.50				ハニイデナ	ナテ	赤	良好	ハニイデ底 10YR2/3	底面 10YR2/6	底面 10YR2/2	口縁部1/2	口縁部破損品目注 外底面付着、口 縁部赤目互肌	221	76



観望日時	山名	時刻	方位	望遠鏡		観察対象	観察方法	観察結果			備考	備考			
				口径	倍率			動物	植物	鳥類					
1636	SD01B	04	東山	(12.1)		11種動物 ナマ、体長 ナマ	11種動物 ナマ、体長 ナマ	雲	良好	7.5YR1/2	7.5YR1/2	7.5YR1/2	11種動物-照度1/7	外部観察者	225
1637	SD01B	03	東山	(10.2)		11種動物 ナマ、体長 ナマ	11種動物 ナマ、体長 ナマ	雲	良好	改良機 10YR1/2	雲 7.5YR1/2	雲 7.5YR1/2	11種動物		225
1638	SD00B	03	東山	(10.4)		11種動物 ナマ、体長 ナマ	11種動物 ナマ、体長 ナマ	雲	良好	10YR1/1	ニアノ雲 10YR1/2	ニアノ雲 10YR1/2	11種動物	外部観察者	225
1639	SD01B	04	東山	(12.0)		11種動物 ナマ、体長 ナマ	11種動物 ナマ、体長 ナマ	雲	良好	7.5YR1/2	ニアノ雲 7.5YR1/2	改良機 10YR1/2	11種動物		225
1640	SD01C SD00C	04	東山	(10.0)		11種動物 ナマ、体長 ナマ	11種動物 ナマ、体長 ナマ	雲	良好	ニアノ雲 10YR1/2	ニアノ雲 10YR1/2	改良機 10YR1/2	11種動物	11種動物観察者	225
1641	SD00C	04	東山	(10.0)		11種動物 ナマ、体長 ナマ	11種動物 ナマ、体長 ナマ	雲	良好	ニアノ雲 10YR1/2	ニアノ雲 10YR1/2	ニアノ雲 10YR1/2	11種動物		225
1642	SD01B	04	東山	(10.3)		11種動物 ナマ、体長 ナマ	11種動物 ナマ、体長 ナマ	雲	良好	改良機 10YR1/2	改良機 10YR1/2	改良機 10YR1/2	11種動物		225
1643	SD00B	04	東山	(12.4)		11種動物 ナマ	11種動物 ナマ	雲	良好	ニアノ雲 10YR1/2	ニアノ雲 10YR1/2	雲 7.5YR1/2	11種動物		225
1644	SD01B	04	東山	(10.3)		11種動物 ナマ、体長 ナマ	11種動物 ナマ、体長 ナマ	雲	良好	改良機 10YR1/2	ニアノ雲 10YR1/2	改良機 10YR1/2	11種動物	外部観察者	225
1645	SD00C	03	東山	(10.0)		11種動物 ナマ、体長 ナマ	11種動物 ナマ、体長 ナマ	雲	良好	改良機 10YR1/2	改良機 10YR1/2	改良機 10YR1/2	11種動物	外部観察者	225
1646	SD00C	03	東山	(10.0)		11種動物 ナマ、体長 ナマ	11種動物 ナマ、体長 ナマ	雲	良好	改良機 10YR1/2	改良機 10YR1/2	改良機 10YR1/2	11種動物	外部観察者	225
1647	SD01B	04	東山	(12.1)		11種動物 ナマ、体長 ナマ	11種動物 ナマ、体長 ナマ	雲	良好	改良機 10YR1/2	改良機 10YR1/2	改良機 10YR1/2	11種動物		225
1648	SD01B W	04	東山	(12.2)		11種動物 ナマ、体長 ナマ	11種動物 ナマ、体長 ナマ	雲	良好	改良機 10YR1/2	改良機 10YR1/2	改良機 10YR1/2	11種動物	外部観察者	225
1649	SD01A W	03	東山	(12.0)		11種動物 ナマ、体長 ナマ	11種動物 ナマ、体長 ナマ	雲	良好	改良機 10YR1/2	改良機 10YR1/2	改良機 10YR1/2	11種動物	外部観察者	225
1650	SD00C	03	東山	(10.4)		11種動物 ナマ、体長 ナマ	11種動物 ナマ、体長 ナマ	雲	良好	改良機 10YR1/2	改良機 10YR1/2	改良機 10YR1/2	11種動物	外部観察者	225
1651	SD01C W	04	東山	(12.0)	(12.0)	11種動物 ナマ、体長 ナマ	11種動物 ナマ、体長 ナマ	雲	良好	改良機 10YR1/2	改良機 10YR1/2	改良機 10YR1/2	11種動物-照度1/7	外部観察者	224
1652	SD00C	04	東山	(10.0)		ナマ	ナマ	雲	良好	ニアノ雲 10YR1/2	ニアノ雲 10YR1/2	ニアノ雲 10YR1/2	11種動物		225
1653	SD01B W	04	東山	(10.0)		11種動物 ナマ、体長 ナマ	11種動物 ナマ、体長 ナマ	雲	良好	改良機 10YR1/2	改良機 10YR1/2	改良機 10YR1/2	11種動物		225
1654	SD00C	03	東山	(10.1)		11種動物 ナマ、体長 ナマ	11種動物 ナマ、体長 ナマ	雲	良好	ニアノ雲 10YR1/2	ニアノ雲 10YR1/2	ニアノ雲 10YR1/2	11種動物		224
1655	SD00B	04	東山	(11.4)		11種動物 ナマ、体長 ナマ	11種動物 ナマ、体長 ナマ	雲	良好	改良機 10YR1/2	改良機 10YR1/2	改良機 10YR1/2	11種動物		224
1656	SD00C	04	東山	(11.2)		11種動物 ナマ、体長 ナマ	11種動物 ナマ、体長 ナマ	雲	良好	改良機 10YR1/2	改良機 10YR1/2	改良機 10YR1/2	11種動物	外部観察者	224
1657	SD01D	04	東山	(10.0)		11種動物 ナマ、体長 ナマ	11種動物 ナマ、体長 ナマ	雲	良好	改良機 10YR1/2	改良機 10YR1/2	改良機 10YR1/2	11種動物	外部観察者	225
1658	SD00C	03	東山	(10.0)		11種動物 ナマ、体長 ナマ	11種動物 ナマ、体長 ナマ	雲	良好	改良機 10YR1/2	改良機 10YR1/2	改良機 10YR1/2	11種動物		225
1659	SD01C SD01B	04	東山	(12.0)		11種動物 ナマ、体長 ナマ	11種動物 ナマ、体長 ナマ	雲	良好	改良機 10YR1/2	改良機 10YR1/2	改良機 10YR1/2	11種動物	外部観察者	225
1660	SD01A W	04	東山	(10.2)		11種動物 ナマ、体長 ナマ	11種動物 ナマ、体長 ナマ	雲	良好	改良機 10YR1/2	改良機 10YR1/2	改良機 10YR1/2	11種動物	外部観察者	225
1661	SD01A SD01A	04	東山	(10.0)		11種動物 ナマ、体長 ナマ	11種動物 ナマ、体長 ナマ	雲	良好	改良機 10YR1/2	改良機 10YR1/2	改良機 10YR1/2	11種動物	外部観察者	225
1662	SD01C W	04	東山	(10.0)		11種動物 ナマ、体長 ナマ	11種動物 ナマ、体長 ナマ	雲	良好	改良機 10YR1/2	改良機 10YR1/2	改良機 10YR1/2	11種動物	外部観察者	225
1663	SD01C SD01D SD01D	04	東山	(10.0)		11種動物 ナマ、体長 ナマ	11種動物 ナマ、体長 ナマ	雲	良好	改良機 10YR1/2	改良機 10YR1/2	改良機 10YR1/2	11種動物	外部観察者	225

遺物番号	出土地	器種	形			土質	色			保存状態	備考	編年
			口徑	底径	高さ		外	内	底			
1864	SD01C W	壺A1	18.8	12.3	8.8	灰褐色				1/3埋没	1/3埋没	27
1865	SD01A C	壺A1	17.6			灰褐色				1/3埋没	1/3埋没	27
1866	SD01B W	壺A2	26.8			灰褐色				1/3埋没	1/3埋没	27
1867	SD01C W	壺A2	23.8			灰褐色				1/3埋没	1/3埋没	27
1868	SD01B W	壺A2	18.3			灰褐色				1/3埋没	1/3埋没	27
1869	SD01C W	壺A				灰褐色				1/3埋没	1/3埋没	27
1870	SD01A C	壺A				灰褐色				1/3埋没	1/3埋没	27
1871	SD01C W	壺A				灰褐色				1/3埋没	1/3埋没	27
1872	SD01C W	壺A				灰褐色				1/3埋没	1/3埋没	27
1873	SD01B W	壺B1	25.4			灰褐色				1/3埋没	1/3埋没	27
1874	SD01C W	壺B1	18.4			灰褐色				1/3埋没	1/3埋没	27
1875	SD01C W	壺B1	18.4			灰褐色				1/3埋没	1/3埋没	27
1876	SD01C W	壺B1	11.4			灰褐色				1/3埋没	1/3埋没	27
1877	SD01B W	壺B1	18.2			灰褐色				1/3埋没	1/3埋没	27
1878	SD01C W	壺B1	18.8			灰褐色				1/3埋没	1/3埋没	27
1879	SD01C W	壺B1	18.3			灰褐色				1/3埋没	1/3埋没	27
1880	SD01C W	壺B1	15.8			灰褐色				1/3埋没	1/3埋没	27
1881	SD01C W	壺B1	15.8			灰褐色				1/3埋没	1/3埋没	27
1882	SD01C W	壺B1	16.2			灰褐色				1/3埋没	1/3埋没	27
1883	SD01C W	壺B1	18.6			灰褐色				1/3埋没	1/3埋没	27
1884	SD01A C	壺B1	18.1			灰褐色				1/3埋没	1/3埋没	27
1885	SD01C W	壺B1	18.1			灰褐色				1/3埋没	1/3埋没	27
1886	SD01B W	壺B1	18.1			灰褐色				1/3埋没	1/3埋没	27
1887	SD01C W	壺B1	18.1			灰褐色				1/3埋没	1/3埋没	27
1888	SD01C W	壺B1	18.1			灰褐色				1/3埋没	1/3埋没	27
1889	SD01C W	壺B1	18.1			灰褐色				1/3埋没	1/3埋没	27
1890	SD01C W	壺B1	18.1			灰褐色				1/3埋没	1/3埋没	27
1891	SD01C W	壺B1	18.1			灰褐色				1/3埋没	1/3埋没	27
1892	SD01C W	壺B1	18.1			灰褐色				1/3埋没	1/3埋没	27
1893	SD01C W	壺B1	18.1			灰褐色				1/3埋没	1/3埋没	27
1894	SD01C W	壺B1	18.1			灰褐色				1/3埋没	1/3埋没	27
1895	SD01C W	壺B1	18.1			灰褐色				1/3埋没	1/3埋没	27
1896	SD01C W	壺B1	18.1			灰褐色				1/3埋没	1/3埋没	27
1897	SD01C W	壺B1	18.1			灰褐色				1/3埋没	1/3埋没	27
1898	SD01C W	壺B1	18.1			灰褐色				1/3埋没	1/3埋没	27
1899	SD01C W	壺B1	18.1			灰褐色				1/3埋没	1/3埋没	27
1900	SD01C W	壺B1	18.1			灰褐色				1/3埋没	1/3埋没	27

観物 番号	出土地点	層位	器種	目録			形状			加工	色			備考	図 番	
				口径	高さ	底径	外径	内径	底径		外面	内面	底面			
1803	SDD01N C SDD01C	03	甕				ハナ狭1ダ タ	ハナ狭1ダ タ	今中朝日-2m内 砂粒5%含ま	良好	ニズイ黄 10YR5/9	ニズイ粉 7.5YR7/4	黄泥 7.5YR1/1	11層目(2)・体底	体底外表面付着	221
1804	SDD01A W SDD01B C	04	甕				調整不明	口縁部ハ ナ・体底ナ	黄	良好	ニズイ黄泥 10YR5/10	黄泥 10YR5/1	黄泥 10YR4/1	11層目(4)	体底溝縁2段・ 底穴2段	222
1805	SDD01C C SDD01C W	04	甕				調整不明	ハナ狭ナ	今中朝日-2m 内砂粒5%含ま	良好	ニズイ黄泥 10YR5/11	ニズイ黄泥 10YR5/3	ニズイ黄泥 10YR5/3	11層目(4)	体底溝縁2段・ 底穴2段	223
1806	SDD01C C SDD01C	04	甕				ナギキ	ナギ	黄	良好	ニズイ黄泥 10YR5/4	黄泥 10YR5/1	黄泥 10YR3/1	体底付	体底文・底穴文・ 底穴文	224
1807	SDD01E E	04	甕				調整不明	ナギ	黄	良好	黄泥 10YR5/2	黄泥 10YR5/2	黄泥 10YR5/2	体底付		225
1808	SDD01C W	04	甕 底面		14.0		1ダキ	ハナ	黄	良好	黄泥 7.5Y/4	ナギ 5Y3/1	ナギ 5Y2/1	底面(3)		226
1809	SDD01B W SDD01B	04	甕 底面		6.6		調整不明	ハナ	黄	良好	黄泥 10YR5/2	黄泥 2.5Y/3	黄泥 7.5Y/1	底面全周		228
1810	SDD01C W	04	甕 底面		6.5		1ダキ	ハナ	黄	良好	黄泥 10YR5/2	黄泥 2.5Y/3	黄泥 7.5Y/1	底面全周		228
1811	SDD01B W	03	甕 底面		9.1		1ダキ	ハナ	黄	良好	ニズイ黄泥 10YR5/4	ニズイ黄泥 10YR5/3	ニズイ黄泥 10YR5/3	底面(1)・ 底面(2)		228
1812	SDD01C E	03	甕 底面		16.2		調整不明	1ダキ	黄	良好	黄泥 2.5Y/3	黄泥 2.5Y/3	黄泥 5Y3/1	底面(2)		228
1813	SDD01C W	04	甕 底面		11.2		ハナ狭1ダ タ	調整不明	黄	良好	ニズイ黄泥 10YR5/4	ニズイ黄泥 10YR5/4	ニズイ黄泥 10YR5/3	底面全周		228
1814	SDD01B W	04	甕 底面		9.2		1ダキ	ハナ	黄	やや劣 化	ニズイ黄泥 10YR5/3	ニズイ黄泥 10YR5/3	黄泥 10YR5/3	底面全周		228
1815	SDD01N C SDD01E	03	甕 底面		5.1		ナギ	ナギ	黄	良好	黄泥 10YR5/6	ニズイ黄泥 10YR5/4	ニズイ黄泥 10YR5/4	底面全周・体底(1)	体底付着	228
1816	SDD01B W	04	甕 底面		16.3		1ダキ	1ダキ	黄	良好	ニズイ黄泥 10YR5/4	ニズイ黄泥 10YR5/3	黄泥 10YR4/1	11層目(3)	外周全周	228
1817	SDD01N C	03	C1	18.0			1ダキ 調整不明		黄	良好	黄泥 10YR5/2	ニズイ黄泥 10YR5/2	ニズイ黄泥 10YR5/2	11層目(3)	11層目内周縁部	228
1818	SDD01A SDD01C W	04	C				1ダキ	調整不明	黄	良好	黄泥 7.5YR/6	黄泥 7.5YR/1	黄泥 10YR5/6	11層目全周・体底(1)	内面付着・体底 溝に2層付着	228・27
1819	SDD01A SDD01C W	04	C				1ダキ	調整不明	黄	良好	黄泥 10YR5/2	黄泥 10YR4/1	黄泥 10YR4/1	体底全周	内面付着	228・27
1820	SDD01B W SDD01C	04	C1	15.0	21.3	3.0	口縁部1ダ キ・体底ハ ナ・体底ナ	口縁部1ダ キ・体底ハ ナ・体底ナ	黄	良好	ニズイ黄泥 10YR5/3	黄泥 10YR4/1	黄泥 10YR4/1	11層目	11層目全周・体底 溝に2層付着・体底 溝に2層付着・体底 溝に2層付着	228・27
1821	SDD01C W	04	C2	9.3			1ダキ	口縁部ナ ギ・体底ナ ギ	今中朝日-2m内 砂粒5%含ま	良好	黄泥 2.5Y/3	ニズイ黄泥 10YR5/3	黄泥 2.5Y/4	11層目(1)・体底 溝(1)		228
1822	SDD01B W	04	C2	16.4			1ダキ	1ダキ	黄	良好	ニズイ黄泥 10YR5/4	ニズイ黄泥 10YR5/4	ニズイ黄泥 10YR5/4	11層目(1)		228
1823	SDD01C W	04	C2	19.0			1ダキ	1ダキ	黄	良好	黄泥 10YR5/9	黄泥 10YR5/3	黄泥 10YR4/1	11層目・体底(1)	体底全周・底に 付着	228
1824	SDD01A C SDD01A	04	D1	19.2			1ダキ・ナ ギ	1ダキ・ナ ギ	今中朝日-2m 内砂粒5%含ま	良好	ニズイ黄泥 10YR5/3	ニズイ黄泥 10YR5/3	黄泥 10YR4/1	11層目(2)・体底 溝(2)	体底及び口縁部 内外表面・底に付 着	229・28
1825	SDD01A C SDD01B	04	D1	8.0			1ダキ	口縁部ナ ギ・体底ナ ギ	黄	良好	ニズイ黄泥 10YR5/1	黄泥 10YR5/2	黄泥 10YR3/1	11層目全周・体底		229・28
1826	SDD01N C	03	D1	7.7			1ダキ	口縁部1ダ キ・体底ナ	黄	良好	黄泥 10YR5/3	黄泥 10YR5/3	黄泥 10YR5/3	11層目(1)		229
1827	SDD01C W	03	D1	8.0			1ダキ	1ダキ	黄	良好	黄泥 2.5Y/3	黄泥 2.5Y/3	黄泥 2.5Y/3	11層目(1)	口縁外周縁部	229
1828	SDD01B W SDD01B C	04	D1	16.0			1ダキ	口縁部ナ ギ・体底ナ	黄	良好	ニズイ黄泥 10YR5/3	ニズイ黄泥 10YR5/3	ニズイ黄泥 10YR5/3	11層目(1)	口縁外周縁部 底穴	229
1829	SDD01B W SDD01C	04	D1	17.0			1ダキ	1ダキ	黄	良好	黄泥 10YR5/3	黄泥 10YR5/1	黄泥 10YR5/3	11層目(1)・体底 溝(1)		229
1830	SDD01C W	04	D1	17.1			1ダキ	ナギ	黄	良好	黄泥 10YR5/3	黄泥 10YR5/1	黄泥 10YR5/3	11層目(1)		229
1831	SDD01C W	04	D1	17.1			1ダキ	ナギ	黄	良好	黄泥 10YR5/3	黄泥 10YR5/1	黄泥 10YR5/3	11層目(1)		229
1832	SDD01C W	04	D1	110.0			1ダキ	1ダキ	黄	良好	ニズイ粉 7.5YR2/4	黄泥 7.5YR5/1	黄泥 7.5YR5/1	11層目(1)	口縁外周縁部	229
1833	SDD01C W	04	D2	111.0			1ダキ	口縁部ナ ギ・体底ナ	黄	良好	ニズイ粉 7.5YR2/4	黄泥 7.5YR5/1	黄泥 7.5YR5/1	11層目(1)	口縁外周縁部・ 体底溝縁3層・ 底穴全周	229
1834	SDD01B W	04	D2	113.1			ナギ	ナギ	今中朝日-2m内 砂粒5%含ま	良好	ニズイ黄泥 10YR5/3	ニズイ黄泥 10YR5/3	ニズイ黄泥 10YR5/3	11層目(1)・体底 溝(1)	口縁外周縁部 体底溝縁3層・ 底穴全周	229・28
1835	SDD01B W	04	D2	111.0			1ダキ	1ダキ	黄	良好	ニズイ粉 7.5YR3/3	ニズイ粉 7.5YR3/3	黄泥 7.5YR4/1	11層目(1)		229
1836	SDD01C W	04	D2	17.1			1ダキ	1ダキ	黄	良好	ニズイ粉 7.5YR3/3	ニズイ粉 7.5YR3/3	黄泥 7.5YR4/1	11層目(1)	口縁外周縁部(1)・ 口縁内周縁部(2)	229

器物番号	出土地点	器種	出 土 形 状			胎土	色 澤			残存状況	備考	図録番号			
			口径	底径	高さ		内 面	外 面	裏 面						
1726	SD011C SDD018E	04 甕D2	11.81			土色赤	土色赤・体部 黒・底面ナメ	黒	良好	アゾイ黄褐色 7.5YR6/4	アゾイ黄褐色 7.5YR6/3	黒 7.5YR6/1	口縁・体部1/4	口縁外周黒線3条	229
1727	SD011C -W	04 甕D2	9.31			土色赤	土色赤	黒	良好	アゾイ黄褐色 10YR6/7	アゾイ黄褐色 10YR6/4	黒 10YR6/1	口縁部1/2		230
1728	SDD018E	04 甕D2		16.11		土色赤	口縁部土色赤・体部ナメ	黒	良好	アゾイ黄褐色 10YR6/7	アゾイ黄褐色 10YR6/3	黒 10YR6/1	口縁部1/4	口縁外周黒線3条、口縁内周黒線1条	229
1729	SDD018E	04 甕D2	16.63			土色赤	口縁部土色赤・体部ナメ	黒	良好	アゾイ黄褐色 10YR6/7	アゾイ黄褐色 10YR6/3	黒 10YR6/1	口縁部1/4		229
1730	SD011C	04 甕E	19.23	8.1	2.2		口縁部土色赤・体部土色赤・底面ナメ	黒	良好	アゾイ黄褐色 7.5YR6/4	黒 7.5YR6/3	黒 7.5YR6/1	口縁部1/4	体部底面	229
1731	SDD011C	04 甕E	22.4				口縁部ナメ	黒	良好	アゾイ黄褐色 10YR6/7	アゾイ黄褐色 10YR6/3	アゾイ黄褐色 10YR6/1	口縁部4/5		229
1732	SD011E	04 甕E					口縁部土色赤・体部土色赤・底面ナメ	黒	良好	アゾイ黄褐色 7.5YR6/7	アゾイ黄褐色 7.5YR6/3	黒 10YR6/1	体部1/2		229
1733	SDD01A	05 甕E	16.53				口縁部土色赤・体部土色赤	黒	良好	アゾイ黄褐色 10YR6/7	アゾイ黄褐色 10YR6/3	黒 10YR6/1	体部1/5		229
1734	SDD01C	05 甕E	18.00				口縁部土色赤・体部土色赤	黒	良好	灰青黄 10YR6/2	灰青黄 10YR6/3	灰青 10YR6/4	口縁部1/3		229
1735	SDD01C	05 甕E					土色赤	黒	良好	灰青 7.5YR6/3	灰青 7.5YR6/2	灰青 7.5YR6/1	体部1/2		229
1736	SDD01E	05 甕E	11.25				口縁部土色赤・体部土色赤	黒	良好	アゾイ黄褐色 10YR6/7	アゾイ黄褐色 10YR6/3	アゾイ黄褐色 10YR6/1	口縁部1/6		229
1737	SDD01A -W	04 ニュニテ 土器					土色赤	黒	良好	アゾイ黄褐色 10YR6/7	アゾイ黄褐色 10YR6/3	黒 10YR6/1	体部1/2		230
1738	SDD01E	05 ニュニテ 土器		3.1		土色赤	土色赤	黒	良好	アゾイ黄褐色 7.5YR6/6	アゾイ黄褐色 10YR6/4	アゾイ黄褐色 10YR6/1	体部1/2		229
1739	SDD01A	05 ニュニテ 土器		13.30		土色赤	土色赤	黒	良好	アゾイ黄褐色 10YR6/7	黒 10YR6/3	黒 10YR6/1	体部1/2		230
1740	SDD01E -W	05 甕E					口縁部土色赤・体部土色赤	黒	良好	灰青黄 10YR6/2	アゾイ黄褐色 10YR6/3	アゾイ黄褐色 10YR6/1	口縁部1/2	外面底面	229
1741	SDD01C	05 土器片 陶磁片					黒	黒	良好	アゾイ黄褐色 10YR6/7	アゾイ黄褐色 10YR6/3	黒 10YR6/1	断面1/2	断面として成形	230
1742	SDD01E	05 甕E	13.21	13.20			口縁部土色赤・体部土色赤・底面ナメ	黒	良好	アゾイ黄褐色 10YR6/7	アゾイ黄褐色 10YR6/3	黒 10YR6/1	口縁部1/2	口縁外周黒線1条	229
1743	SDD01C	05 甕E	13.21	4.1			口縁部土色赤・体部土色赤・底面ナメ	黒	良好	灰青 5YR7/1	灰青 5YR7/2	灰青 5YR7/3	口縁部1/2	口縁外周黒線1条	229
1744	SDD01F	05 甕E	12.21	4.8			口縁部土色赤・体部土色赤・底面ナメ	黒	良好	灰青 5YR7/1	灰青 5YR7/2	灰青 5YR7/3	口縁部1/2	口縁外周黒線1条	229
1745	SDD01C	05 甕E	13.18	14.25			口縁部土色赤・体部土色赤・底面ナメ	黒	良好	灰青 5YR7/1	灰青 5YR7/2	灰青 5YR7/3	口縁部1/2	口縁外周黒線1条	229
1746	SDD01C SDD01E SDD01F -W	05 甕E	13.71	4.3			口縁部土色赤・体部土色赤・底面ナメ	黒	良好	灰青 10YR6/7	アゾイ黄褐色 10YR6/3	アゾイ黄褐色 10YR6/1	口縁部1/2	口縁外周黒線1条	229
1747	SDD01E -C	05 甕E	12.71	14.81			口縁部土色赤・体部土色赤・底面ナメ	黒	不全	灰青 5YR6/1	アゾイ黄褐色 10YR6/3	灰青 10YR6/1	口縁部1/2	口縁外周黒線1条	229
1748	SDD01E SDD01A	05 甕E	13.25	15.21			口縁部土色赤・体部土色赤・底面ナメ	黒	良好	灰青 10Y6/3	灰青 10Y6/1	灰青 10Y6/1	口縁部1/2	口縁外周黒線1条	229
1749	SDD01F	05 甕E					口縁部土色赤・体部土色赤・底面ナメ	黒	良好	灰青 2.5Y7/1	灰青 2.5Y6/2	灰青 2.5Y7/1	口縁部1/4	口縁外周黒線1条	229
1750	SDD01F	05 甕E					口縁部土色赤・体部土色赤・底面ナメ	黒	良好	灰青 10YR6/2	灰青 10YR6/1	灰青 10YR6/1	口縁部1/4	口縁外周黒線1条	229
1751	SDD01D SDD01D SDD01E	05 甕E					口縁部土色赤・体部土色赤・底面ナメ	黒	良好	灰青 10YR7/7	灰青 10YR7/1	灰青 10YR7/1	口縁部1/2	口縁外周黒線1条	229
1752	SDD01F	05 甕E	11.31	5.6			口縁部土色赤・体部土色赤・底面ナメ	黒	良好	灰青 10YR6/1	灰青 10YR6/1	灰青 10YR6/1	口縁部1/4	口縁外周黒線1条	229
1753	SDD01C SDD01C	05 甕E		4.9			口縁部土色赤・体部土色赤・底面ナメ	黒	良好	灰青 10Y6/1	灰青 N7/5	灰青 N7/5	口縁部1/2	口縁外周黒線1条	229
1754	SDD01E SDD01C	05 甕E	16.8	4.9			口縁部土色赤・体部土色赤・底面ナメ	黒	良好	灰青 10Y6/1	灰青 10Y6/1	灰青 10Y6/1	口縁部1/2	口縁外周黒線1条	229
1755	SDD01D	05 甕E					口縁部土色赤・体部土色赤・底面ナメ	黒	良好	灰 N5/5	灰 N5/5	アゾイ黄褐色 2.5Y7/1	口縁部1/2	口縁外周黒線1条	229



表39 砂行火葬墓出土土器観察表

遺跡番号	出土場所	器種	法			型		胎土	胎色	胎質	胎厚	胎面	色			現存状態	備考	種別	数量
			口	底	底	底	底						底	底	底				
1786	砂行火葬墓	高杯状盆	16.9	4.1								灰黄色 10YR6/1	灰黄色 10YR6/1	灰黄色 10YR6/1	片断数12点	→ 7点観察済	27	82	
1787	砂行火葬墓	高杯状盆	14.3	27.0								灰黄色 10YR7/2	灰黄色 10YR7/2	灰黄色 10YR7/2	片断数12点	他施設発掘品互換 → 7点観察済	27	82	

表40 砂行遺跡包含層出土土器観察表

遺跡番号	出土場所	器種	法			型		胎土	胎色	胎質	胎厚	胎面	色			現存状態	備考	種別	数量				
			口	底	底	底	底						底	底	底					底			
1781	M06	瓶	高杯状	131.80								1.75	1.75	灰	片断	アゾ子黄褐色 10YR7/3	灰黄色 10YR6/3	灰黄色 10YR6/3	片断1/17	27	81		
1781	M36	瓶	高杯状									調整不明	灰	片断	アゾ子黄褐色 10YR7/3	灰黄色 10YR6/3	灰黄色 10YR6/3	片断1/14	27	81			
1781	A39	瓶	高杯状	128.80								1.75	1.75	灰	片断	アゾ子黄褐色 10YR7/3	灰黄色 10YR6/3	灰黄色 10YR6/3	片断1/104/8	27	81		
1781	P36-Q36-A39	IV 高杯状	127.33									1.75	1.75	灰	片断	アゾ子黄褐色 10YR7/3	灰黄色 10YR6/3	灰黄色 10YR6/3	片断1/2	片断片断数観察済 → 2点	27	81	
1780	U11	瓶	高杯状	123.90								1.75	1.75	灰	片断	アゾ子黄褐色 10YR7/3	灰黄色 10YR6/3	灰黄色 10YR6/3	片断1/36	27	81		
1784	P56	瓶	高杯状	116.90								1.75	1.75	灰	片断	灰黄色 10YR6/3	灰黄色 10YR6/3	灰黄色 10YR6/3	片断1/5	1片断片断数観察済 → 2点	27	81	
1780	M18	瓶	高杯状	122.40								1.75	調整不明	灰	片断	灰黄色 10YR6/3	灰黄色 10YR6/3	灰黄色 10YR6/3	片断1/2	片断片断数観察済 → 2点	27	81	
1784	N26	瓶	高杯状	122.80								1.75	調整不明	灰	片断	アゾ子黄褐色 10YR7/3	灰黄色 10YR6/3	灰黄色 10YR6/3	1/104/18	1片断片断数観察済 → 2点	27	81	
1780	M42	瓶	高杯状	113.20								1.75	1.75	灰	片断	アゾ子黄褐色 10YR7/3	灰黄色 10YR6/3	灰黄色 10YR6/3	片断1/2	中央部1→5cm厚 約4.2g	片断1/2片断数観察済 → 2点	27	81
1780	M20	瓶	高杯状									1.75	1.75	灰	片断	灰黄色 10YR6/3	灰黄色 10YR6/3	灰黄色 10YR6/3	1/2	27	81		
1784	N20	瓶	高杯状	96.20								1.75	1.75	灰	片断	アゾ子黄褐色 10YR7/3	灰黄色 10YR6/3	灰黄色 10YR6/3	片断1/2	27	81		
1782	A109	IV 高杯状										1.75	調整不明	灰	片断	灰黄色 10YR6/3	灰黄色 10YR6/3	灰黄色 10YR6/3	片断数不明	27	81		
1781	P58	IV 高杯状										1.75	調整不明	灰	片断	アゾ子黄褐色 10YR7/3	灰黄色 10YR6/3	灰黄色 10YR6/3	片断1/2	1.6g, 3.0g, 3.7g	27	81	
1784	A106	IV 高杯状										1.75	調整不明	灰	片断	灰黄色 10YR6/3	灰黄色 10YR6/3	灰黄色 10YR6/3	片断1/2	1.6g, 3.0g, 3.7g	27	81	
1784	N20	瓶	高杯状									1.75	調整不明	灰	片断	アゾ子黄褐色 10YR7/3	灰黄色 10YR6/3	灰黄色 10YR6/3	片断1/2片断数観察済 → 2点	1.6g, 3.0g, 3.7g	27	81	
1784	N26	瓶	高杯状									1.75	調整不明	灰	片断	アゾ子黄褐色 10YR7/3	灰黄色 10YR6/3	灰黄色 10YR6/3	片断1/2	1.6g, 3.0g, 3.7g	27	81	
1787	N18	瓶	高杯状									1.75	調整不明	灰	片断	アゾ子黄褐色 10YR7/3	灰黄色 10YR6/3	灰黄色 10YR6/3	片断1/2	1.6g, 3.0g, 3.7g	27	81	
1787	N18	瓶	高杯状									1.75	調整不明	灰	片断	アゾ子黄褐色 10YR7/3	灰黄色 10YR6/3	灰黄色 10YR6/3	片断1/2	1.6g, 3.0g, 3.7g	27	81	
1784	M38	瓶	高杯状									1.75	調整不明	灰	片断	アゾ子黄褐色 10YR7/3	灰黄色 10YR6/3	灰黄色 10YR6/3	片断1/2	1.6g, 3.0g, 3.7g	27	81	
1801	P12	IV 高杯状	133.8	31.8	39.0	1.75	1.75	灰	片断	アゾ子黄褐色 10YR7/3	灰黄色 10YR6/3	灰黄色 10YR6/3	片断1/2	1.6g, 3.0g, 3.7g	27	81							
1802	N30-M19	瓶	高杯状									1.75	調整不明	灰	片断	アゾ子黄褐色 10YR7/3	灰黄色 10YR6/3	灰黄色 10YR6/3	片断1/2	片断片断数観察済 → 2点	1.6g, 3.0g, 3.7g	27	81
1802	M18	瓶	高杯状									1.75	調整不明	灰	片断	アゾ子黄褐色 10YR7/3	灰黄色 10YR6/3	灰黄色 10YR6/3	片断1/2	片断片断数観察済 → 2点	1.6g, 3.0g, 3.7g	27	81
1804	M36	瓶	高杯状									1.75	調整不明	灰	片断	アゾ子黄褐色 10YR7/3	灰黄色 10YR6/3	灰黄色 10YR6/3	片断1/2	片断片断数観察済 → 2点	1.6g, 3.0g, 3.7g	27	81
1802	N20	瓶	高杯状									1.75	調整不明	灰	片断	アゾ子黄褐色 10YR7/3	灰黄色 10YR6/3	灰黄色 10YR6/3	片断1/2	片断片断数観察済 → 2点	1.6g, 3.0g, 3.7g	27	81
1802	A107	IV 高杯状										1.75	調整不明	灰	片断	アゾ子黄褐色 10YR7/3	灰黄色 10YR6/3	灰黄色 10YR6/3	片断1/2	片断片断数観察済 → 2点	1.6g, 3.0g, 3.7g	27	81
1802	M08	IV 高杯状	118.80	15.1	13.4	調整不明	調整不明	灰	片断	灰黄色 10YR6/3	灰黄色 10YR6/3	灰黄色 10YR6/3	片断1/2	片断片断数観察済 → 2点	1.6g, 3.0g, 3.7g	27	81						
1801	M36	瓶	高杯状									1.75	調整不明	灰	片断	アゾ子黄褐色 10YR7/3	灰黄色 10YR6/3	灰黄色 10YR6/3	片断1/2	片断片断数観察済 → 2点	1.6g, 3.0g, 3.7g	27	81
1801	P58	IV 高杯状	118.8									1.75	調整不明	灰	片断	アゾ子黄褐色 10YR7/3	灰黄色 10YR6/3	灰黄色 10YR6/3	片断1/2	片断片断数観察済 → 2点	1.6g, 3.0g, 3.7g	27	81
1801	P58	IV 高杯状	118.8									1.75	調整不明	灰	片断	アゾ子黄褐色 10YR7/3	灰黄色 10YR6/3	灰黄色 10YR6/3	片断1/2	片断片断数観察済 → 2点	1.6g, 3.0g, 3.7g	27	81
1811	M36	瓶	高杯状									1.75	調整不明	灰	片断	アゾ子黄褐色 10YR7/3	灰黄色 10YR6/3	灰黄色 10YR6/3	片断1/2	片断片断数観察済 → 2点	1.6g, 3.0g, 3.7g	27	81
1812	M38	瓶	高杯状									1.75	調整不明	灰	片断	アゾ子黄褐色 10YR7/3	灰黄色 10YR6/3	灰黄色 10YR6/3	片断1/2	片断片断数観察済 → 2点	1.6g, 3.0g, 3.7g	27	81
1812	A107	IV 高杯状	126.20	10.1	14.4	調整不明	調整不明	灰	片断	アゾ子黄褐色 10YR7/3	灰黄色 10YR6/3	灰黄色 10YR6/3	片断1/2	片断片断数観察済 → 2点	1.6g, 3.0g, 3.7g	27	81						



調査番号	出土地点	器種	用途	器型				胎土	色				保存状態	備考	
				口部	胎体	底	内面		外	内	底	裏			
1852	U65	皿	飯皿	(16.7)	ナテ	ハテ	ハテ	中～細粒1-2mm内 砂粒少量含む	良好	灰青褐色 10YR7/2	灰青褐色 10YR7/2	灰青褐色 10YR7/2	13線磁器/12	283	
1853	R45	皿	土師製の 器	(24.2)	板ナテ	ナテ	板		良好	黄褐色 5YR6/6	黄褐色 5YR7/6	黄褐色 5YR6/1	13線磁器/4	13線磁器片(小)	283
1854	V44	IV	土師製の 器	(26.2)	ハナクエリ	ナテ	板		良好	黄褐色 5YR7/6	黄褐色 5YR6/1	黄褐色 5YR6/1	13線磁器/8		283
1855	K21-M29- P22	III	楽A 1	(16.3)	調整不明	調整不明		中～細 粒	良好	黄褐色 5YR6/4	黄褐色 5YR6/6	黄褐色 5YR6/6	13線磁器/4	13線磁器片(小)	283
1856	N29	IV	楽A 2	19.1	1ナテ	1ナテ	板		良好	黄褐色 10YR7/4	黄褐色 10YR7/4	灰白 10YR7/2	13線全周	内外面赤褐色、口縁 内面赤褐色、土師 製、灰白、黄褐色 片点文	283, 89
1857	N21-N28- N38	IV	楽A 2	(18.2)	1ナテ	調整不明	板		良好	黄褐色 10YR7/6	黄褐色 10YR6/8	灰白 10YR7/1	13線/3	13線内面赤褐色、土 師製、黄褐色、赤 褐色片点文	283
1858	V44	IV	楽A 2	(18.3)	ハナクエリ	ナテ	板		良好	黄褐色 10YR6/6	黄褐色 10YR6/6	黄褐色 10YR6/4	13線磁器/7		283
1859	O28-O39	IV	楽A 3	(17.8)	1ナテ	ナテ	板		良好	黄褐色 10YR6/4	黄褐色 10YR6/4	灰 10YR7/1	13線磁器/4	13線内面赤褐色、土 師製、赤褐色片点文	283, 89
1860	H19	IV	楽A		ナテ	ナテ	板		良好	黄褐色 7.5YR6/4	灰 5Y9	赤褐色 10YR7/1	13線/4	体部上下に、黄褐色 片点文、赤褐色 片点文	283
1861	N25	IV	楽B 1	(17.4)	調整不明	調整不明	中～細粒1-2mm内 砂粒含む	中～細 粒	良好	黄褐色 10YR6/1	黄褐色 2.5Y7/3	灰白 10YR7/1	13線磁器/4		283
1862	R45	III	楽B 1	(13.8)	ナテ	1ナテ	板		良好	黄褐色 10YR6/4	黄褐色 10YR6/4	黄褐色 10YR6/4	13線磁器/4(小)	13線磁器片(小)	283, 89
1863	O37	IV	楽B 1	(14.2)	1ナテ	ナテ	中～細粒1-2mm内 砂粒少量含む	良好	黄褐色 7.5YR6/3	黄褐色 10YR6/4	黄褐色 10YR6/4	13線磁器/4		283	
1864	N40	III	楽B 1	13.9	ナテ	ナテ	中～細粒1-2mm内 砂粒少量含む	良好	黄褐色 7.5YR6/3	黄褐色 2.5Y7/3	黄褐色 2.5Y7/3	13線全周		283	
1865	K29	IV	楽B 1	(14.8)	1ナテ	1ナテ	板		良好	黄褐色 10YR6/3	黄褐色 10YR6/3	灰 N4,9	13線磁器/8		283
1866	K37-U38	III	楽B 1	(18.1)	1ナテ	1ナテ	板		良好	黄褐色 10YR6/3	黄褐色 10YR6/3	黄褐色 10YR6/3	13線磁器/8		283
1867	Q58	III	楽B 1	(13.0)	調整不明	調整不明	板		良好	黄褐色 10YR6/3	黄褐色 10YR6/4	灰白 10YR7/1	13線磁器/6	13線内面赤褐色、土 師製	283
1868	M28	III	楽B 1	(18.8)	1ナテ ナテ	調整不明	板		良好	黄褐色 5YR6/9	灰白 10YR7/1	黄褐色 10YR6/1	13線磁器/4	13線内面赤褐色、土 師製、13線内面 赤褐色片点文	283, 294
1869	M26	III	楽B 2	(18.4)	ナテ	ナテ	中～細粒1-2mm内 砂粒多く含む	良好	黄褐色 7.5YR7/6	黄褐色 7.5YR7/6	黄褐色 10YR7/4	13線磁器/3		283	
1870	M38	II	楽B		調整不明	ナテ	板		良好	黄褐色 7.5YR6/4	黄褐色 7.5YR6/4	黄褐色 7.5YR6/4	13線磁器/3	体部赤褐色片点文	283
1871	N38-P39	III	楽B		ナテ	ハナクエリ	板		良好	黄褐色 7.5YR6/6	黄褐色 5YR6/6	黄褐色 7.5YR6/4	13線/1-1	外表面赤褐色、黄褐色 片点文、赤褐色 片点文	283
1872	Q33	III	楽C 1	(8.8)	1ナテ	1ナテ	板		良好	黄褐色 10YR7/3	黄褐色 10YR7/4	灰白 10YR7/1	13線磁器/2	13線磁器片(小)	283
1873	P28	III	楽C 1	(8.8)	1ナテ	調整不明	板		良好	黄褐色 10YR7/2	黄褐色 10YR6/3	灰 N5,9	13線磁器/2	13線磁器片(小)	283
1874	M29	IV	楽C 1	(8.8)	1ナテ	1ナテ	板		良好	灰白 10YR7/1	灰 N4,9	灰 N5,9	13線磁器/3	13線磁器片(小)	283
1875	R45	III	楽C 2	(8.8)	1ナテ	1ナテ	板		良好	黄褐色 10YR7/6	黄褐色 10YR6/4	灰白 10YR7/1	13線磁器/3	13線磁器片(小)	283
1876	P22	III	楽C		(11.3)	1ナテ	ナテ、板	中～細粒1-2mm内 砂粒少量含む	良好	黄褐色 10YR6/3	黄褐色 10YR6/3	黄褐色 10YR6/3	13線全周		283
1877	R44	III	楽C		1ナテ	ハナクエリ ナテ	板		良好	黄褐色 10YR7/4	黄褐色 7.5YR6/6	黄褐色 7.5YR6/2	13線/2(灰土全面)	灰土赤褐色	283, 89
1878	O27	IV	楽D 1	(11.2)	1ナテ	1ナテ、ナ テ	板		良好	黄褐色 10YR6/4	黄褐色 7.5YR6/6	黄褐色 7.5YR6/1	13線磁器/8	13線磁器片(小)	283
1879	O06	III	楽D 1	(9.3)	調整不明	ハナクエリ 板ナテ	板		良好	黄褐色 10YR6/4	黄褐色 10YR6/4	黄褐色 10YR6/1	13線磁器/2	13線磁器片(小)	283
1880	M29	III	楽D 1	(14.5)	1ナテ	1ナテ	中～細粒1-2mm内 砂粒少量含む	良好	黄褐色 10YR7/4	黄褐色 10YR7/4	黄褐色 10YR7/4	13線磁器/8		283	
1881	N38	IV	楽D 1	(9.3)	調整不明	調整不明	板		良好	黄褐色 10YR7/6	黄褐色 10YR7/6	黄褐色 10YR7/1	13線磁器/5	13線磁器/4(小)	283
1882	M30	III	楽D 2	(11.2)	ナテ	板	1ナテ、赤褐色 片点文、黄褐色 片点文	良好	黄褐色 10YR7/4	黄褐色 10YR6/6	黄褐色 10YR6/6	13線磁器/4	13線磁器/4(小)	283	
1883	N29-M29	III	楽D 2	(12.1)	1ナテ	ナテ、ハテ	板		良好	黄褐色 10YR7/7	黄褐色 10YR7/3	黄褐色 10YR6/1	1/2残存		283, 89
1884	N39	IV	楽D		2.7	1ナテ	ナテ	板	良好	黄褐色 10YR6/4	黄褐色 10YR6/4	黄褐色 10YR6/4	13線全周		283
1885	Q28	III	楽D		2.8	1ナテ	ナテ	板	良好	黄褐色 10YR6/1	灰白 10YR7/1	灰白 10YR7/1	13線全周		283
1886	N38	IV	楽D		1.8	1ナテ	ナテ	板	良好	黄褐色 10YR7/1	黄褐色 10YR7/4	黄褐色 10YR6/4	13線全周		283, 89
1887	W34	IV	楽E	(9.8)	8.3	4.3	ナテ、ヌビ オキナ	ナテ	良好	黄褐色 10YR7/2	黄褐色 7.5Y7/3	黄褐色 2.5Y4/1	13線磁器/1(灰土) 28線全周		283, 89
1888	O08	IV	楽E		4.8	4.8	ハテ 赤褐色片点文	板	良好	黄褐色 10YR7/2	黄褐色 10YR7/2	黄褐色 10YR6/1	13線全周		283, 89
1889	N29	III	楽E	(4.2)	(2.8)	ナテ	ナテ	中～細粒 1ナテ、ナテ	良好	黄褐色 10YR7/6	黄褐色 10YR7/4	黄褐色 10YR7/6	1/2残存		283, 89
1890	M36	III	楽F				板		良好	黄褐色 10YR7/4	黄褐色 10YR7/4	黄褐色 10YR7/4	13線/4	赤褐色片点文	283, 89
1891	R45	III	楽F	(1.8)	(0.3)	(0.3)	ナテ	板	良好	黄褐色 7.5YR6/1	灰白 10YR7/1	灰白 10YR7/1	1/2残存	外表面赤褐色、黄褐色 片点文	283, 89

遺物番号	出土地点	器種	器					期	土	色			現在位置	備考	地区	図番
			口径	底径	高さ	外径	内径			外面	内面	断面				
1889 M39	川上ノ上土	白志瓦	13.0	12.5		ヒメオヤシ	ヒメオヤシ	黒	黒	黒	黒	黒	1704		285	89
1893 L38	川上ノ上土	白志瓦	14.1	13.1	2.0	ヒメオヤシ	ナデ	黒	黒	黒	黒	黒	底面全面白粉縁	172	285	89
1894 J16	日蓮遺跡南西	白志瓦				瓦面細線 「ナデ」	瓦面細線 「ナデ」	黒	黒	黒	黒	黒	ワタシ		285	
1895 O12-V12 V15-V18	遺跡南西	白志瓦	19.7	18.1		瓦面細線 「ナデ」	瓦面細線 「ナデ」	黒	黒	黒	黒	黒	1100		285	99
1896 K33-S33	遺跡南西	白志瓦	13.0			瓦面細線 「ナデ」	瓦面細線 「ナデ」	黒	黒	黒	黒	黒	1100		286	
1897 J19	遺跡南西	白志瓦	18.0			瓦面細線 「ナデ」	瓦面細線 「ナデ」	黒	黒	黒	黒	黒	1100		286	
1898 N26	遺跡南西	白志瓦	13.1	12.0	0.9	瓦面細線 「ナデ」	瓦面細線 「ナデ」	黒	黒	黒	黒	黒	1100		285	
1899 V48	遺跡南西	白志瓦	11.2	10.2	0.2	瓦面細線 「ナデ」	瓦面細線 「ナデ」	黒	黒	黒	黒	黒	1100		286	
1899 O22-S36 T22	遺跡南西	白志瓦	12.4	11.7	0.3	瓦面細線 「ナデ」	瓦面細線 「ナデ」	黒	黒	黒	黒	黒	1100		285	99
1901 K18-N12	遺跡南西	白志瓦	17.4	16.4	13.1	瓦面細線 「ナデ」	瓦面細線 「ナデ」	黒	黒	黒	黒	黒	1100		285	
1902 V48	遺跡南西	白志瓦	3.7	3.2	5.7	瓦面細線 「ナデ」	瓦面細線 「ナデ」	黒	黒	黒	黒	黒	1100		285	99
1903 O5	遺跡南西	白志瓦	13.3			瓦面細線 「ナデ」	瓦面細線 「ナデ」	黒	黒	黒	黒	黒	1100		286	
1903 O35-P35	遺跡南西	白志瓦	12.1			瓦面細線 「ナデ」	瓦面細線 「ナデ」	黒	黒	黒	黒	黒	1100		285	
1903 T41-V41 V43	遺跡南西	白志瓦	12.0			瓦面細線 「ナデ」	瓦面細線 「ナデ」	黒	黒	黒	黒	黒	1100		286	
1904 H22-H24 K22	遺跡南西	白志瓦	14.4	13.0	10.6	瓦面細線 「ナデ」	瓦面細線 「ナデ」	黒	黒	黒	黒	黒	1100		285	
1905 N28-P28 S28-P28 V28-N28	遺跡南西	白志瓦	12.0			瓦面細線 「ナデ」	瓦面細線 「ナデ」	黒	黒	黒	黒	黒	1100		286	99
1906 N36	白志瓦	14.5	13.4	10.0	瓦面細線 「ナデ」	瓦面細線 「ナデ」	黒	黒	黒	黒	黒	黒	1100		286	99
1906 V44-W44	白志瓦	13.0	12.0	12.0	瓦面細線 「ナデ」	瓦面細線 「ナデ」	黒	黒	黒	黒	黒	黒	1100		286	99
1907 K21-L37 L38	白志瓦	14.0	12.8	17.0	瓦面細線 「ナデ」	瓦面細線 「ナデ」	黒	黒	黒	黒	黒	黒	1100		286	99
1907 K21-K26	白志瓦	13.0	12.0	10.0	瓦面細線 「ナデ」	瓦面細線 「ナデ」	黒	黒	黒	黒	黒	黒	1100		286	99
1907 M39-N39 S39	白志瓦	12.0	11.0	11.0	瓦面細線 「ナデ」	瓦面細線 「ナデ」	黒	黒	黒	黒	黒	黒	1100		286	99
1908 K27-N27	白志瓦	13.0			瓦面細線 「ナデ」	瓦面細線 「ナデ」	黒	黒	黒	黒	黒	黒	1100		286	99
1908 K27-L37 S38-N37 V37	白志瓦	13.0		12.4	瓦面細線 「ナデ」	瓦面細線 「ナデ」	黒	黒	黒	黒	黒	黒	1100		286	99
1909 J21-J21	山系	山系	13.2	12.1	7.9	瓦面細線 「ナデ」	瓦面細線 「ナデ」	黒	黒	黒	黒	黒	1100		286	99
1910 X36-Y36	山系	山系	13.0	12.0	6.8	瓦面細線 「ナデ」	瓦面細線 「ナデ」	黒	黒	黒	黒	黒	1100		286	99
1912 Z1	山系	山系	14.0	13.0	13.0	瓦面細線 「ナデ」	瓦面細線 「ナデ」	黒	黒	黒	黒	黒	1100		286	99
1913 J20	山系	山系	13.2	12.0	13.0	瓦面細線 「ナデ」	瓦面細線 「ナデ」	黒	黒	黒	黒	黒	1100		287	
1913 W24	山系	山系	14.0	13.0	13.0	瓦面細線 「ナデ」	瓦面細線 「ナデ」	黒	黒	黒	黒	黒	1100		287	
1909 J19	山系	山系	11.9	11.2	13.0	瓦面細線 「ナデ」	瓦面細線 「ナデ」	黒	黒	黒	黒	黒	1100		287	
1909 Y18	山系	山系	12.5	11.0	13.0	瓦面細線 「ナデ」	瓦面細線 「ナデ」	黒	黒	黒	黒	黒	1100		287	

遺物番号	出土層	器種	用途	断面		形状	土質	焼成	色			観察状態	備考	図版No.
				高さ	幅				外	内	断面			
1902	W4-V2	山車陶	(12.1)	3.2	14.0	片取ナテ	片取ナテ	黒	灰白 DY7/1	灰白 DY7/1	灰白 DY7/1	1100~1150	コテロ回転方向 右	297
1903	L32-K22	山車陶	(11.6)	2.1	16.8	片取ナテ	片取ナテ	黒	灰白 DY9/3	灰白 DY9/3	灰白 DY9/2	1100(17)	コテロ回転方向 右	297
1904	G1	山車陶	7.7	2.5	8.7	片取ナテ	片取ナテ	黒	灰白 DY3/1	灰白 DY3/1	灰白 DY3/1	1147(7)	コテロ回転方向 右	297
1905	K10	山車陶	(7.3)	2.4	(3.7)	片取ナテ	片取ナテ	黒	灰白 N7/6	灰白 N7/6	灰白 N7/6	1100(11/4)	コテロ回転方向 右	297
1926	I2	山車陶	(6.8)	1.9	(4.9)	片取ナテ	片取ナテ	黒	灰白 DY3/1	灰白 DY3/1	灰白 DY3/1	1100(11/6)	コテロ回転方向 右	297
1927	I1	山車陶	(7.7)	2.2	3.4	片取ナテ	片取ナテ	黒	灰白 DY3/1	灰白 DY3/1	灰白 DY3/1	1100(11/7)	コテロ回転方向 右	297
1928	K21	山車陶	(6.0)	1.4	(3.4)	片取ナテ	片取ナテ	黒	灰白 DY3/1	灰白 DY3/1	灰白 DY3/1	1100~1150(1/4)	コテロ回転方向 右	297
1929	F37	山車陶	(8.0)	1.5	(4.9)	片取ナテ	片取ナテ	黒	灰白 DY3/1	灰白 DY3/1	灰白 DY3/1	1100~1150(1/7)	コテロ回転方向 右	297
1930	M20	山車陶	(6.0)	1.4	(3.4)	片取ナテ	片取ナテ	黒	灰白 N7/6	灰白 N7/6	灰白 N7/6	1100(11/7)	コテロ回転方向 右	297
1931	I29	山車陶	(6.0)	1.1	(4.1)	片取ナテ	片取ナテ	黒	灰白 DY3/1	灰白 DY3/1	灰白 DY3/1	1100~1150(1/7)	コテロ回転方向 右	297
1932	I23	土師器	(7.2)	(1.1)		粘土系	粘土系	黒	灰白 DY3/1	灰白 DY3/1	灰白 DY3/1	1100~1150(1/4)	コテロ回転方向 右	297
1933	I29	土師器	(7.0)	(1.1)		粘土系	粘土系	黒	灰白 DY3/1	灰白 DY3/1	灰白 DY3/1	1100~1150(1/4)	コテロ回転方向 右	297
1934	K20	管状土師	0.7	3.2		ナテ	ナテ	黒	灰白 DY3/2	灰白 DY3/2	灰白 DY3/2	1100(11/6)	縦断面	297
1935	J21	管状土師	0.7	3.2	0.7	ナテ	ナテ	黒	灰白 DY3/2	灰白 DY3/2	灰白 DY3/2	1100(11/6)	縦断面	297
1936	J21	管状土師			3.3	ナテ	ナテ	黒	灰白 DY9/2	灰白 DY9/2	灰白 DY9/2	1100(11/6)	縦断面	297
1937	K22	管状土師			1.1	ナテ	ナテ	黒	灰白 DY3/2	灰白 DY3/2	灰白 DY3/2	1100(11/6)	縦断面	297
1938	I22	管状土師			1.9	ナテ	ナテ	黒	灰白 DY3/2	灰白 DY3/2	灰白 DY3/2	1100(11/6)	縦断面	297

表41 A区水場遺構出土土製品観察表

遺物番号	出土遺構	部位	種類	法量 (cm)			形状	備考	図版No.
				長さ	幅	厚さ			
2001	水場遺構	堀内	板材	114.8	27.0	2.0	ヒノキ科ヒノキ属	一部欠損	187
2002	水場遺構	堀内	板材	75.0	7.8	2.0	ヒノキ科ヒノキ属	一部欠損	187
2003	水場遺構	堀内	板材	167.0	9.8	2.0	ヒノキ科ヒノキ属	一部欠損	187
2004	水場遺構	堀内	瓦葺い木製品	22.5	32.8	2.0	アブラコウラ属アケボノ系属		187

表42 砂丘大溝出土土製品観察表

遺物番号	出土遺構	部位	種類	法量 (cm)			形状	備考	図版No.	
				長さ	幅	厚さ				
2005	SD001E-W	03	鏡	114.5	10.6	1.0	ブナ科コナラ属アケボノ系属	刃部欠、鉄線目A4式	233	82
2006	SD001B-C	04	鏡形木製品片断	12.5	2.1	0.8	ヒノキ科ヒノキ属	柄片面欠損	233	82-84
			鏡形木製品柄	29.7	2.7	2.7	ヒノキ科ヒノキ属		233	82-84
2007	SD001B	02	刀(柄)木製品	49.5	4.0	1.1	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	片面部欠損	233	82
2008	SD001B	03	刀形木製品	(21.0)	4.0	0.4	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	一部欠損	233	82
2008	SD001C	03	刀形木製品	(14.0)	2.9	0.5	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	一部欠損	233	82
2010	SD001B-E	03	刀形木製品	(26.1)	3.2	0.4	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	一部欠損	233	82
2011	SD001B-E	03	刀形木製品	(20.8)	1.7	0.2	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	一部欠損、目録欠	233	82
2012	SD001C	02	刀形木製品	(6.3)	1.9	0.2	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	一部欠損	233	82
2013	SD001B-W	04	刀形木製品	(11.1)	1.2	0.2	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	一部欠損	233	82
2014	SD001B-C	04	刀形木製品	16.3	1.5	1.0	ヒノキ科ヒノキ属		233	82
2015	SD001C	03	刀形木製品	10.0	1.7	0.4	ヒノキ科ヒノキ属	刃部欠	233	82
2016	SD001B-W	04	鏡形木製品	9.6	4.8	0.5	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	柄部片断。径0.6mm穿孔	233	82
2017	SD001E-W	03	鏡形木製品	9.0	4.6	1.0	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	柄部片断。径0.6mm穿孔	233	82-84
2018	SD001C-E	02	鏡形木製品	6.9	5.6	0.6	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	刃部欠。径0.6mm穿孔	233	82
2019	SD001E-E	03	杖杖木製品	15.2	2.1	0.5	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	くびれ・半欠あり	234	82
2020	SD001C	03	杖杖木製品	(17.0)	1.7	0.6	ヒノキ科ヒノキ属	一部欠損、くびれあり、半欠無し	234	82
2021	SD001C	02	杖杖木製品	14.6	(1.5)	0.4	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	一部欠損、くびれ・半欠あり	234	82
2022	SD001E	03	杖杖木製品	14.5	1.6	0.5	ヒノキ科ヒノキ属	くびれ・半欠あり	234	82-84
2023	SD001E-W	03	杖杖木製品	(12.4)	2.1	(0.1)	ヒノキ科ヒノキ属	くびれあり、半欠部で割断	234	82
2024	SD001B	03	杖杖木製品	9.8	1.9	0.6	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ	くびれ・半欠あり	234	82-84

## 104 遺物観察表

遺物番号	出土遺構	層位	種別	法量 (cm)		類	備考	検出No	図録No	
				長さ	幅					
2025	SD001E-1	03	付札状木製品	9.9	1.9	0.5	コウヤク科・コウヤク属・コウヤク	くびれ・半裁あり	234	63-04
2026	SD001E-1	03	付札状木製品?	12.3	2.9	1.6	ツバキ科・ツバキ属	くびれあり・半裁無し・断面中凹形	234	83
2027	SD001F-1	03	付札状木製品?	(13.1)	2.3	0.4	ヒノキ科・ヒノキ属	くびれ無し・半裁無し	234	83
2028	SD001D-W	03	付札状木製品?	(9.2)	2.1	(9.2)	コウヤク科・コウヤク属・コウヤク	半裁部分の幅小か	234	83
2029	SD001B	03	板状木製品	18.1	1.9	0.6	ヒノキ科・ヒノキ属	木口方側断面	234	83
2030	SD001B-C	04	板状木製品	(9.3)	2.0	0.5	ヒノキ科・ヒノキ属	方部変化	234	83
2031	SD001C-C	04	分銅形木製品	16.5	3.8	1.8	コウヤク科・コウヤク属・コウヤク	両側木口方部	234	83
2032	SD001C	03	実り棒	25.1	1.4	1.0	コウヤク科・コウヤク属・コウヤク	29と同材料適合	234	83
2033	SD001C	03	実り棒	17.6	1.2	1.0	コウヤク科・コウヤク属・コウヤク	28と同材料適合	234	83
2034	SD001B-C	04	実り棒	29.1	2.0	1.8	コウヤク科・コウヤク属・コウヤク		234	83
2035	SD001B	04	棒状木製品	(18.5)	1.8	1.4	ヒノキ科・ヒノキ属	一部欠損。100.6mm穿孔	234	83
2036	SD001C-C	04	棒状木製品	25.9	2.0	1.5	コウヤク科・コウヤク属・コウヤク	断面中凹形	234	83
2037	SD001B	02	板状木製品	(14.2)	4.0	0.6	コウヤク科・コウヤク属・コウヤク	一部欠損	234	83
2038	SD001B-W	04	板状木製品	(21.5)	14.5	1.9	ヒノキ科・ヒノキ属	一部欠損	234	83
2039	SD001B	04	板状木製品	25.3	21.7	2.3	アブラコナラ属・オウゴン・オウゴン	両側1/4木製品	235	85
2040	SD001C-C	04	板状木製品	(19.5)	6.6	0.9	コウヤク科・コウヤク属・コウヤク	一部欠損	235	85
2041	SD001D-W	04	加工木片	7.9	3.3	2.1	ヒノキ科・ヒノキ属		235	85
2042	SD001B-C	04	加工木片	(9.8)	4.2	2.3	ヒノキ科・ヒノキ属	一部欠損	235	85
2043	SD001B-C	04	加工木片	7.9	3.8	1.9	ヒノキ科・ヒノキ属		235	85
2044	SD001D	03	加工木片	6.3	7.4	2.8	コウヤク科・コウヤク属・コウヤク		235	85
2045	SD001D-1	04	加工木片	4.0	4.4	1.3	コウヤク科・コウヤク属・コウヤク	一部変化	235	85
2046	SD001E-1	03	動物排泄物	(16.8)	4.8	0.6	ヒノキ科・ヒノキ属	一部欠損	234	83
2047	SD001B-W	04	板材	(102.0)	23.0	2.7	ヒノキ科・ヒノキ属	一部欠損。建築部材か	255	85
2048	SD001N-C	03	板材	146.5	18.0	2.0	ヒノキ科・ヒノキ属	2枚側に穿孔あり。建築部材か	235	

表43 住居跡出土金属製品観察表

遺物番号	出土遺構	出土層位	種別	法量				残存状態	備考	検出No	図録No
				残存長さ	残存幅	長さ	幅				
3001	SD001	床面直上	方型規形西陣織織成	(2.0)	(1.1)	1~1.5	(1.0)	一部欠損	織物断面。穿孔あり	163	64

表44 砂行1号古墳出土金属製品観察表

遺物番号	出土古墳・地点	出土層位	種別	法量				残存状態	備考	検出No	図録No
				長さ・厚さ	幅	長さ	質量				
2002	砂行1号古墳第1主体部	埴輪埋土	鉄刀片	(19.1)	2.1	0.5	(42.9)	刀身の小片	柄木質残存	199	67
2003	砂行1号古墳第1主体部	埴輪埋土	前方板半鋸形甲片	(5.2)	(4.0)	0.2	(22.0)	端部小片	穿孔有り	199	67
2004	砂行1号古墳第1主体部	埴輪埋土	前方板半鋸形甲片	(3.2)	(2.5)	0.2	(4.3)	端部小片	穿孔有り	199	67
2005	砂行1号古墳第1主体部	埴輪埋土	前方板半鋸形甲片	(3.1)	(3.0)	0.2	(6.1)	端部小片	布目反巻	199	67
2006	砂行1号古墳第1主体部	埴輪埋土	前方板半鋸形甲片	(2.2)	(2.0)	0.2	(3.1)	端部小片		199	67
2007	砂行1号古墳第1主体部	埴輪埋土	前方板半鋸形甲片	(3.5)	(2.9)	0.2	(3.5)	小片		199	67
2008	砂行1号古墳第2主体部	木柱穴埋成	虎形押銀	11.1	11.1	0.1	(62.4)	一部欠損	詳細は本文参照	200	65-66
2009	砂行1号古墳第2主体部	埴輪土	鉄板小片	(3.1)	(1.2)	0.1	(0.7)	端部小片		200	67
2010	砂行1号古墳第2主体部	埴輪土	鉄板小片	(1.5)	(2.1)	0.3	(1.0)	端部小片		200	67
2011	砂行1号古墳第2主体部	埴輪土	鉄板小片	(1.8)	(1.6)	0.1	(0.8)	端部小片		200	67

表45 砂行2号古墳出土鉄製刀子観察表

遺物番号	出土古墳・地点	出土層位	種別	法量				残存状態	備考	検出No	図録No
				刃部長さ	刃部幅	刃部厚	質量				
2012	砂行2号古墳第1主体部	埴輪埋土	鉄製刀子	7.9	1.8	0.4	(15.4)	刃部先端欠損	残存長さ13.5cm。本體残存	209	86

表46 砂行2号古墳出土鉄釘観察表

遺物番号	出土古墳・地点	出土層位	種別	法量				残存状態	備考	検出No	図録No
				長さ	頭部径	釘部径	質量				
2013	砂行2号古墳第1主体部	埴輪埋土	鉄釘	6.4	1.8	0.4	8.8	空釘	丸頭	209	86
2014	砂行2号古墳第1主体部	埴輪埋土	鉄釘	5.1	1.7	0.4	4.4	空釘	丸頭	209	86
2015	砂行2号古墳第1主体部	埴輪埋土	鉄釘	2.5	1.7	0.4	2.7	空釘	丸頭	209	86
2016	砂行2号古墳第1主体部	埴輪埋土	鉄釘	2.8	1.4	0.4	3.2	空釘	丸頭	209	86
2017	砂行2号古墳第1主体部	埴輪埋土	鉄釘	5.9	-	0.3	(2.2)	端部一部欠損	端部にヤケ目	209	86

表47 包含層出土銅鍍・鉄鍍観察表

遺物番号	出土アソート	出土層位	種別	測定値				残存状態	備考	採出No.	図版No.
				鍍厚(μm)	鍍層幅(μm)	鍍層厚(μm)	質量(%)				
3018	O40	II	銅鍍	17.20	10.71	0.45	10.80	鍍層小片		287	87
3019	O37	IV	鉄鍍	3.6	2.6	0.25	110.31	遺物片・文様	無蓋大型銅	287	87
3020	V44	IV	鉄鍍	2.7	0.8	0.2	12.0	定形	全長11.6cm方頭形鉄鍍鍍、 鍍鉄同	287	87

表48 包含層出土燧管観察表

遺物番号	出土アソート	出土層位	種別	測定値				残存状態	備考	採出No.	図版No.
				長さ(mm)	最大径(mm)	厚さ(mm)	質量(g)				
3021	M20	III	燧管燧首	5.8	0.8	0.35	4.5	定形		287	92
3022	J20	III	燧管燧首	4.6	0.8	0.8	7.5	定形		287	92
3023	K25	I	燧管燧首	4.9	0.7	0.6	6.6	定形	断面欠損形	287	92
3024	F19	I	燧管燧x11	9.8	0.95	0.6	5.3	定形		287	92
3025	X35	II	燧管燧x11	7.1	0.95	0.45	5.1	定形		287	92
3026	H22	III	燧管燧x11	7.4	1.1	0.75	5.6	定形		287	92

表49 包含層出土貨鉄観察表

遺物番号	出土アソート	出土層位	種別	測定値				残存状態	備考	採出No.	図版No.
				直径(mm)	孔径(mm)	厚さ(mm)	質量(g)				
3027	J20	III	貨鉄「寛永通寶」	7.3	6.0	1.1	2.6	定形		287	92
3028	J22	III	貨鉄「寛永通寶」	7.4	7.0	0.9	2.9	定形		287	92
3029	I22	III	貨鉄「寛永通寶」	7.4	6.0	1.2	2.5	定形		287	92
3030	F19	II	貨鉄「寛永通寶」	7.3	7.0	1.0	1.9	定形		287	92
3031	M20	III	貨鉄「寛永通寶」	7.1	7.0	0.6	1.1	定形		287	92
3032	M17	III	貨鉄「天保天寶」	7.4	7.0	1.0	2.5	定形	筆書、鍍上が片不肖	287	92
3033	X35	II-III	貨鉄「享和天寶」	7.4	7.0	1.2	2.2	定形	筆書、鍍上が片不肖	287	92
3034	J20	III	貨鉄「享和天寶」	7.4	6.0	1.1	2.1	定形	筆書、鍍上が片不肖	287	92

## 石器計測・観察表 凡例

## 1. 石器全体について

- ・法量計測については、次の器具を使用した。

長さ・幅・厚さ…カーボンファイバーノギス DIAL 15 (TAJIMA 製)

質量… ～600g : LIBROR EL 600 (SHIMADZU 製 秤量600グラム)

600g～6,000g : LIBROR EL 600 (SHIMADZU 製 秤量6,000グラム)

6kg～20kg : SD 20 (Yamato 製 秤量20kg)

- ・折損などにより、完形でない場合の法量については ( ) で示した。

- ・磨耗の有無は、ルーペ観察によるものである。

- ・石材鑑定は、鈴木が行った。

## 2. 石鎌について

- ・折損により、先端角が測定不能の場合は空欄とした。わずかに折損するが両側面の角度が安定しているものは ( ) で示した。

- ・折損により、先端部・基部の形態分類が不明なものは空欄にした。

- ・脚部の折損により、抉りの深さが測定できないものは空欄とした。また、片方の脚部を折損しても、残った方の脚部により抉りが測定できるものは ( ) で示した。

## 3. 石錐について

- ・錐部の幅と厚さは、錐部の先端から5mmの所での測定値である。

- ・錐部が折損している場合は、折損箇所での幅と厚さを測定し ( ) で示した。

## 4. スクレイパーについて

- ・刃部数のカウントは、刃部が連続していても平面形が明確に変わっている場合は別の刃部として数えた。

## 5. 石核について

- ・打面数・作業面数は、剥片剥離作業により欠損したものは含めず確認できるものの数を記した。

## 6. 打欠石錐について

- ・計測部位については、渡辺誠氏の提唱を参考とし、長さをL1、幅をW、厚み(S)の差による重心のかかる部位を下にした場合の上部の打欠き部分をa、下部のそれをbで示した。また、打欠き間の最短距離をL2で示した。

- ・表中の計測値で測定不能と記したものは、折損・潰れによりその正確な計測が困難であったことを示す。

- ・表中のL1・L2・W・S・質量の計測値で ( ) 内の表示は現存値であり、残存の度合いは完形品を完、欠損品を欠で示した。これは切目石錐についても同様に示した。

## 7. 砥石について

- ・分類は、表面の観察事項をもとに記した。

- ・(手)は手持砥石、(置)は置砥石、単は単条の溝、複は複条の溝、多は多条の溝を示す。

表50 石鑑計測・観察表

No	出土区	層位	打	材	測定				内径(mm)	先端角(°)	断面形状	平面形に よる分類	遺物番号	備考
					長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)						
1	SBA08	03	チヤート		28.0	18.3	3.0	1.9	1.5	85		5A	1	
2	SBA08	02	チヤート		28.8	18.5	4.4	7.0		85			2	本製品
3	SBA12	05	河原石		29.5	21.5	2.9	1.3	4.0	56		1G	6	
4	SBA35	04	チヤート		29.4	15.2	5.0	1.1	2.0	49		2A	21	
5	SBA35	02	チヤート		119.2	114.0	2.8	0.60	15.00	67	κ	6D	32	
6	SBA36	02	チヤート		113.0	9.6	2.4	0.21	3.9	136	κ	2D	28	
7	SBC01	01	ゴウ土質 灰山石		131.2	118.0	5.2	1.11	16.5	49	κ	4D	28	
8	SBC02	02	チヤート		114.0	118.4	3.0	0.81	12.0	41	ι	2C		
9	SBC02	02	チヤート		124.1	128.0	4.1	12.3	14.0	17	ι	3D		
10	SBC03	02	チヤート		128.2	115.6	4.6	11.0	18.0	45	κ	2F	33	
11	SBC05	03	チヤート		122.0	106.6	5.5	12.0	1.5	156	ι	1A		
12	SBC11	07	F54G		116.30	121.0	4.8	11.40	18.0	189	κ	1C		
13	SBC11	01	チヤート		28.8	121.90	6.0	12.0	13.5	41	κ	2A		
14	SBE01	02	チヤート		118.0	12.2	2.5	16.2		152	κ	1A		
15	SBE01	02	チヤート		116.5	115.2	2.7	19.2	5.0	162	κ	1E	43	
16	SBE01	02	チヤート		122.1	110.0	3.0	16.4		155	κ	1K		
17	SBE01	02	チヤート		120.4	12.0	2.9	16.0	7.0	128	κ	2I	44	
18	SBE01	02	チヤート		12.3	19.5	1.6	6.2	2.5	67	κ	1D	45	
19	SBE01	01	チヤート		121.0	15.2	4.5	13.2	7.0	166	κ	4E	46	
20	SBE01	02	F54右		19.2	11.2	3.9	8.6	1.2	46	κ	9A	47	
21	SBE01	01	チヤート		25.3	14.2	5.8	3.4		65	κ	6J	51	
22	SBE02		チヤート		21.8	26.8	4.2	2.0		82		7K	52	
23	SBE01	02	チヤート		120.0	111.0	4.2	18.2	10.0	117	κ	2E	54	
24	SDE01F	01	チヤート		116.2	12.5	2.6	19.4	4.5	119	κ	2B	58	
25	SDE01C	02	チヤート		19.2	13.6	3.2	8.5	4.5	42	κ	2E	60	
26	SDE01B	02	チヤート		21.2	18.8	5.2	2.4	2.0	79	κ	3A		
27	SDE01B	02	チヤート		12.1	6.5	2.7	9.2	2.4	48	κ	4F	61	
28	SDE01C	02	チヤート		123.6	122.0	2.7	11.0	14.0	139	ι	1		
29	SDE01E	03	チヤート		25.7	112.0	3.0	11.8	11.0	50	κ	1A		
30	SDE01C	03	チヤート		18.6	113.0	3.0	19.0	12.0	155	κ	1A		
31	SDE01C	03	チヤート		16.5	14.3	2.1	9.4	5.3	62	κ	1D	71	
32	SDE01C	03	チヤート		120.4	15.4	3.7	11.0	2.5	146	κ	1H	72	
33	SDE01C	03	チヤート		12.3	116.0	2.1	19.2	3.0	55	κ	1I		
34	SDE01C	03	チヤート		29.5	16.6	4.0	1.1	2.0	52		1J		
35	SDE01C	03	チヤート		21.9	111.2	3.3	10.0		72	κ	6E		
36	SDE01B	03	チヤート		16.7	124.0	2.9	19.0		69	κ	1		
37	SDE01C	04	F54右		19.0	121.1	3.4	16.5	13.0	50	κ	1E		
38	SDE01E	04	チヤート		16.9	112.0	3.6	15.0	5.0	82	κ	1D		
39	SDE01B	04	F54右		119.2	15.2	5.6	19.0	2.0	112	κ	2E		
40	SDE01C	04	チヤート		19.2	13.4	2.6	1.0		21	κ	3K	105	
41	SDE01C	01	チヤート		111.0	16.0	2.2	16.4	3.3	92	κ	6F	104	
42	SDE01E	06	チヤート		120.3	15.9	4.2	15.0	3.9	154	κ	1A	132	
43	SDE01E	06	チヤート		19.4	15.1	4.2	6.7	4.0	63	κ	6E	150	
44	SDE01C	06	チヤート		123.0	15.0	4.7	11.2			κ	L		
45	F34	II	F54右		16.2	16.3	5.2	1.0	1.8	39	κ	1A		
46	N27	III	チヤート		32.8	116.1	4.2	16.2	5.0	62	κ	1D		
47	M27	IV	チヤート		115.0	15.9	3.5	18.0	4.5	109	κ	1E		
48	O39	III	F54右		21.5	16.2	3.4	8.9	3.0	55	κ	1C		
49	R34	II	チヤート		17.2	13.1	2.0	6.3	2.0	36	κ	1E		
50	T34	III	チヤート		119.0	116.2	2.2	19.0	16.0	163	ι	1B		
51	P35	I	チヤート		16.1	115.0	3.9	19.2	15.0	152	κ	1E		
52	U23	III	チヤート		122.0	126.0	2.8	11.4	17.0	160	κ	1B		
53	M18	III	チヤート		19.1	17.3	3.1	6.7	3.2	96	κ	1C	175	
54	V29	III	F54右		18.9	14.3	2.2	8.5	2.2	54	κ	1C		
55	K39	III	チヤート		113.1	114.0	3.1	19.2	3.0	152	κ	1E		
56	L35	II	チヤート		18.7	17.5	4.8	6.7	4.9	52	κ	1D		
57	P34	II	チヤート		17.4	126.1	2.6	16.5	15.0	109	κ	1D		
58	H39		チヤート		19.4	125.0	2.5	18.0	6.0	56	κ	1D		
59	P40	III	チヤート		21.5	16.5	4.7	1.2	4.5	98	κ	1E	178	

No	出土区	層位	石	柱	法				坑深(m)	形造(門)	出掘部位	平面形: 上/右/分佈	遺物番号	備考
					長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)						
60	M36	Ⅲ	ナ	→	34.2	16.5	2.4	0.20	36.80	(54)	f	1E		
61	K31	I	ナ	→	17.6	(12.8)	4.4	0.40	(5.40)	57	g	1E		
62	K31	I	下石	石	21.7	(18.2)	3.6	0.60	(5.0)	57	g	1E		
63	L32	Ⅲ	ナ	→	17.1	(14.8)	3.2	0.40	(6.0)	59	g	1E		
64	I21	I	ナ	→	(15.1)	14.5	3.3	0.60	5.0	(63)	e	1E		
65	O35	Ⅲ	ナ	→	24.7	(15.5)	5.8	(1.4)	(4.8)	52	i	1F		
66	N36	Ⅲ	ナ	→	18.8	16.4	5.5	1.2	4.0	69		1G		
67	P35	Ⅲ	ナ	→	17.9	16.7	4.5	1.1	4.0	69		1G		
68	P34	Ⅱ	ナ	→	18.3	15.6	3.2	0.7	4.0	56		1G		
69	P34	Ⅲ	下石	石	21.9	15.3	3.7	1.0		56		1M		
70	K14	Ⅲ	ナ	→	18.7	19.1	3.1	0.5		57	j	1M		
71	M35	I-II	ナ	→	(22.4)	17.5	6.4	(2.4)		(47)	e	2A		
72	O17		ナ	→	(22.2)	(17.7)	5.3	(1.2)		(47)	h	2A		
73	P25	Ⅲ	ナ	→	28.9	19.2	5.3	2.1	3.0	44		2B		
74	P25	Ⅲ	ナ	→	21.3	16.5	3.7	0.9	5.0	46		2D		
75	I23	Ⅲ	ナ	→	(20.3)	(16.6)	3.1	(1.0)	(3.0)	(44)	h	2B		
76	K30	Ⅱ	ナ	→	16.4	(11.4)	4.9	0.80	(2.0)	46	i	2B		
77	P34	Ⅲ	ナ	→	(25.4)	(12.6)	5.9	(1.6)	(1.0)	(20)	h	2B		
78	S30	I	ナ	→	17.0	13.0	3.1	0.4	5.5	43		2C		
79	N35	Ⅲ	ナ	→	18.3	(14.2)	4.5	0.90	(3.0)	49	g	2C		
80	U34	Ⅱ	下石	石	(18.5)	13.1	3.7	0.70	3.0	(36)	e	2C	177	
81	I18	I	ナ	→	16.2	14.0	3.8	0.7	1.5	46		2C		
82	H22	Ⅳ	ナ	→	(21.9)	16.2	5.4	(1.2)	3.0	(41)	e	2C		
83	N39	Ⅲ	ナ	→	16.8	11.2	2.7	0.3	4.0	46		2D		
84	M35	Ⅲ	ナ	→	23.1	15.4	5.2	1.1	4.0	46		2D		
85	N23	Ⅲ	ナ	→	14.9	12.6	2.8	0.4	4.0	47		2D		
86	G21	Ⅱ	ナ	→	(18.9)	12.5	3.5	0.40	3.9	(34)	f	2D		
87	O38	Ⅳ	下石	石	16.5	(10.3)	3.0	0.30	4.0	49	g	2D		
88	T41	Ⅲ	ナ	→	20.2	12.5	4.0	0.7	3.2	49		2E		
89	T24	Ⅲ	ナ	→	(18.4)	(11.4)	3.3	0.70	(2.0)	(47)	h	2E		
90	S44	Ⅲ	ナ	→	20.5	12.9	3.4	0.7	5.0	46		2G		
91	S30	I	ナ	→	(29.1)	19.4	3.6	(1.4)	7.0	(42)	e	2G		
92	L38	Ⅲ	ナ	→	(21.8)	(15.1)	2.5	0.80	7.5	(43)	h	2I	118	
93	N35	Ⅲ	ナ	→	21.0	17.8	6.1	2.3	1.2	83		3A		
94	M38	Ⅲ	ナ	→	(17.4)	16.7	6.5	(1.4)	2.5	(29)	e	3B		
95	M37	Ⅳ	ナ	→	19.7	17.0	3.0	1.2		71		3K	179	
96	M39	Ⅲ	ナ	→	(28.4)	(22.1)	3.2	(1.7)	5.0	(46)	h	4B		
97	U44	Ⅳ	下石	石	(26.5)	13.1	4.6	(1.1)	5.0	(39)	j	4B		
98	N35	Ⅲ	ナ	→	(20.3)	14.6	3.1	0.80	(3.0)	(49)	e	4C		
99	O35	Ⅲ	ナ	→	23.8	(11.2)	2.8	0.70	(5.0)	56	h	4D		
100	Q46	Ⅲ	ナ	→	(24.8)	15.5	2.9	0.70	6.4	(33)	e	4D		
101	K49	Ⅲ	ナ	→	(21.8)	17.7	4.8	(1.9)	6.0	(47)	e	4F	180	
102	O39	Ⅳ	ナ	→	(23.4)	17.6	3.7	(1.4)	5.0	(68)	e	4F	181	
103	G29	Ⅳ	ナ	→	(19.5)	19.2	2.8	0.4	1.0	(32)	k	5A		
104	S30	I	F石	石	21.1	(13.6)	4.5	(1.0)	3.5	42	g	5B		
105	I33	Ⅱ	ナ	→	19.2	(11.9)	3.1	0.70	(3.9)	59	g	5B		
106	P36	Ⅳ	F石	石	32.4	(14.8)	4.1	0.90	(4.9)	66	i	5C		
107	K16		ナ	→	20.3	16.1	4.5	1.6		97		5K		
108	I17	Ⅱ	ナ	→	19.9	14.2	2.8	1.2		80		5K		
109	G29	Ⅳ	ナ	→	(21.5)	14.4	7.8	(2.7)		(32)	e	5M	182	
110	O38	Ⅲ	F石	石	23.8	15.2	4.0	0.8	5.0	52		6D	183	
111	O35	Ⅲ	ナ	→	27.1	16.8	4.5	1.4	3.5	61		6E	184	
112	P34	Ⅲ	ナ	→	(18.4)	(13.4)	4.2	(0.9)	(2.0)	47	k	7A		
113	N37	Ⅲ	ナ	→	21.4	15.7	3.4	1.1	3.0	74		7A	185	
114	L22		ナ	→	(21.9)	(19.8)	5.1	(2.5)	(4.9)	(67)	h	7F		
115	P23	I	ナ	→	(20.4)	(14.6)	5.7	(1.8)		59	g	8	1	
116	Q25	I-II	F石	石	(18.7)	(15.5)	3.7	0.90		(48)	a	2		
117	N34	Ⅱ	ナ	→	(14.5)	(13.3)	3.6	0.60		46	k	2		
118	K29	Ⅱ	F石	石	19.5	(18.7)	4.5	(1.4)		80	g	3		
119	M29	I	ナ	→	22.3	(18.6)	5.4	(2.1)		73	g	3		
120	M36	Ⅲ	ナ	→	(21.5)	09.5	(4.0)	(1.0)		(67)	e	D		

表51 磨製石錐計測・観察表

No	出土区	層位	石材	法 量				長さ(mm)	先端角(°)	遺物番号
				長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)			
1	SRA15	Ⅲ	珉質頁岩	63.0	34.4	4.6	12.7	9.4	82	9
2	SRE04	Ⅲ	珉質頁岩	33.7	19.9	3.4	3.0	9.5	73	55

表52 石槍計測・観察表

No	出土区	層位	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	遺物番号
1	SDD01C	Ⅲ	チャート	39.5	27.4	12.6	11.3	154
2	K30	Ⅱ	チャート	(49.3)	(19.6)	10.3	(9.7)	

表53 有舌尖頭器計測表

No	出土区	層位	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	遺物番号	備 考
1	SDD01D	Ⅲ	チャート	(33.2)	(29.2)	7.3	(7.4)	106	折損
2	SDD01C	Ⅲ	チャート	(42.5)	(17.3)	7.2	(6.3)	135	折損

表54 ナイフ形石器計測表

No	出土区	層位	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	遺物番号
1	I17	Ⅱ	チャート	32.9	12.3	7.5	2.6	180

表55 石錐計測・観察表

No	出土区	層位	石材	法 量				形 態		厚さ	素材割片	分類	遺物番号	備 考
				長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	幅(mm)	厚(mm)					
1	SBA07	Ⅲ	チャート	(15.4)	6.5	5.9	(0.8)	5.1	2.5	多角形	有	縦長割片	2#	折損(基部)
2	SBC12	Ⅲ	チャート	(29.3)	19.0	5.2	(1.4)	(3.0)	(1.5)	多角形	有	縦長割片	2#	折損(基部)
3	SDD01N	Ⅲ	チャート	37.2	17.2	6.1	3.9	6.1	2.2	三角形	有	縦長割片	3#	
4	SDD01N	Ⅲ	珉質頁岩	36.3	13.6	6.8	3.1	5.9	3.4	四角形	有	縦長割片	3#	73
5	SDD01C	Ⅲ	チャート	(39.2)	13.9	8.5	(3.8)	(8.7)	(4.4)	三角形	有	縦長割片	3#	折損(基部)
6	SDD01C	Ⅲ	チャート	(36.0)	19.6	5.9	(2.0)	(18.0)	(5.4)	多角形	有	縦長割片	2#	折損(基部)
7	SDD01C	Ⅲ	チャート	(25.9)	13.0	6.8	(1.8)	(7.2)	(3.9)	多角形	有	縦長割片	2#	折損(基部)
8	SDD01C	Ⅲ	下流石	26.1	13.3	4.7	1.1	5.1	2.6	三角形	有	縦長割片	3#	107
9	SDD01B	Ⅲ	チャート	25.1	11.7	5.0	1.3	7.7	3.8	菱形	有	縦長割片	3#	108
10	SDD01E	Ⅲ	チャート	54.2	30.0	13.0	14.9	6.4	4.8	三角形	有	縦長割片	2#	
11	SDD01E	Ⅲ	チャート	22.3	16.7	6.0	1.5	5.2	4.9	三角形	有	縦長割片	3#	
12	SDD01C	Ⅲ	珉質頁岩	44.4	23.6	9.4	9.1	7.5	5.6	三角形	有	縦長割片	3#	
13	K19	Ⅱ	チャート	34.7	20.8	5.8	5.3	10.2	3.5	菱形	有	縦長割片	1	
14	H17	Ⅳ	チャート	34.4	14.9	7.3	3.8	6.8	4.8	三角形	有	縦長割片	1	187
15	T30	Ⅱ	チャート	32.9	16.3	5.6	3.8	4.8	2.5	多角形	有	縦長割片	2#	188
16	K30	Ⅲ	チャート	33.1	23.8	4.5	4.6	6.8	4.2	多角形	有	縦長割片	2#	
17	M33	Ⅱ	チャート	32.3	18.9	7.0	4.8	6.9	3.9	三角形	有	縦長割片	2#	
18	T32	Ⅰ	チャート	25.8	16.9	3.2	2.1	3.0	3.3	多角形	有	縦長割片	2#	189
19	K31	Ⅱ	チャート	24.5	13.8	5.8	(2.2)	(8.0)	(3.0)	多角形	有	縦長割片	2#	折損(基部)
20	C35	Ⅱ	チャート	(28.3)	12.8	7.1	(2.6)	(3.8)	3.1	菱形	有	縦長割片	3#	190
21	N25	I-II	チャート	27.4	10.2	5.0	1.6	5.4	4.5	菱形	有	縦長割片	4#	
22	I34	Ⅳ	チャート	38.7	9.2	6.1	1.9	6.0	3.5	三角形	有	縦長割片	4#	191
23	S34	Ⅲ	チャート	(16.6)	7.5	4.6	(0.7)	7.0	4.2	三角形	有	縦長割片	4#	折損(基部)
24	U34	Ⅳ	チャート	(27.5)	7.4	4.3	(1.1)	6.2	3.3	菱形	有	縦長割片	4#	折損(基部)
25	P34	Ⅱ	チャート	(31.3)	10.7	6.7	(2.0)	7.1	5.2	三角形	有	縦長割片	4#	折損(基部)

表56 スクレイパー類 (つまみ部付きスクレイパー) 計測・観察表

No	出土区	層位	石材	法 量				刃 部			分類	遺物番号	備 考
				長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	刃部数	平面形	調整			
1	SRA3	03	サヌカイ石	26.1	17.5	7.7	12.5	1	外側1	凸面1	2		新編
2	SBC17	01	チャート	31.9	(41.8)	12.1	(10.0)	1	外側1	凸面1	2		新編
3	SD001C	03	チャート	23.3	25.7	7.0	5.8	1	外側1	凸面1	2	74	
4	SD001E	03	サヌカイ石	41.9	52.2	6.8	12.7	2	外側2 内側1	凸面2	2	75	
5	SD001B	03	チャート	36.8	(41.4)	8.3	(14.6)	1	外側1	凸面1	2	76	新編
6	SD001N	03	下石	28.7	(29.2)	(11.6)	(11.7)	1	外側1	凸面1	2		新編
7	SD001B	03	チャート	44.1	(33.8)	9.5	(12.0)		不明	不明	不明		新編
8	SD001B	04	チャート	28.3	29.3	5.1	6.5	1	外側1	凸面1	2		
9	SD001E	06	チャート	(51.2)	(27.3)	(6.9)	(18.1)	2	外側2	凸面2	1	156	新編
10	P32	II	チャート	17.2	22.7	4.0	1.1	1	外側1	凸面1	2	192	
11	M37	III	サヌカイ石	24.6	34.1	8.2	6.6	1	凸面1	凸面1	2	193	
12	N37	III	チャート	21.6	24.5	6.3	2.0	1	凸面1	凸面1	2		
13	N37	III	下石	29.6	(36.0)	10.4	(8.4)	1	外側1	凸面1	2		新編
14	G36	II	チャート	28.6	33.3	5.2	4.5	1	内側1	凸面1	2	194	
15	C区		チャート	26.2	(41.3)	8.0	(8.0)	1	外側1	凸面1	2		新編
16	O36	III	チャート	(28.1)	(42.9)	10.9	(11.3)	1	外側1	凸面1	2		新編
17	N35	III	チャート	28.7	(44.3)	4.9	(6.6)	1	外側1	凸面1	2	195	新編
18	D3C	III	チャート	(17.9)	(21.9)	4.9	(1.5)		不明	不明	不明		新編

表57 スクレイパー類 (削器) 計測・観察表

No	出土区	層位	石材	法 量				刃 部			分類	遺物番号
				長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	刃部数	平面形	調整		
1	SRA15	01	チャート	28.0	14.8	3.0	2.9	1	凸面1	凸面1	1-a	19
2	SBA26	02	流紋岩	33.3	24.3	4.2	2.8	1	外側1	凸面1	1-a	
3	SBC12	01	流紋岩(燧石)	37.2	39.5	8.6	10.4	1	凸面1	凸面1	1-a	
4	SBC19	01	チャート	34.3	18.3	3.6	3.0	2	凸面1 外側1	凸面1 凸面1	2-b	40
5	SD001D	02	チャート	22.0	25.7	6.0	3.8	1	外側1	凸面1	1-a	
6	SD001C	02	流紋岩	33.0	31.5	10.1	13.8	1	凸面1	凸面1	1-a	
7	SD001D	02	下石	22.6	24.0	7.4	3.8	1	外側1	凸面1	1-b	
8	SD001C	03	下石	22.4	22.0	5.4	2.7	1	外側1	凸面1	1-a	
9	SD001A	03	チャート	28.3	21.1	6.2	3.5	2	凸面2	凸面2	2-a	
10	SD001C	03	チャート	34.3	18.8	4.9	4.0	2	外側2	凸面1 凸面1	2-b	77
11	SD001C	03	流石	34.4	20.0	4.1	2.3	4	凸面1 凸面1 凸面1 凸面1	凸面1 凸面1 凸面1 凸面1	3	78
12	SD001A	04	流石	54.5	26.2	8.5	22.2	1	凸面1	凸面1	1-a	
13	SD001C	04	流紋岩	46.9	32.1	8.1	13.7	1	外側1	凸面1	1-a	
14	SD001B	04	サヌカイ石	24.5	29.5	3.4	2.8	1	外側1	凸面1	1-b	
15	SD001C	06	チャート	47.8	20.9	8.3	8.4	1	外側1	凸面1	1-a	
16	SD001D	06	サヌカイ石	32.6	40.3	9.0	11.9	1	外側1	凸面1	1-a	
17	P39	IV	流紋岩(燧石)	33.3	33.3	2.2	6.7	1	凸面1	凸面1	1-a	
18	O35	III	チャート	22.2	49.4	8.4	9.3	1	凸面1	凸面1	1-a	
19	P24	II	チャート	22.3	17.4	7.1	2.5	1	凸面1	凸面1	1-a	
20	M35	1-b	チャート	22.2	17.9	6.5	2.6	1	外側1	凸面1	1-b	

表58 スクレイパー類 (搔器 I) 計測・観察表(1)

No	出土区	層位	石材	法 量				刃 部			分類	遺物番号
				長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	刃部数	平面形	調整		
1	SBC03	04	チャート	21.5	22.5	9.1	3.9	1	凸面1	凸面1	1-a	
2	SBC12	01	チャート	33.3	44.5	8.7	15.0	1	凸面1	凸面1	1-a	38
3	SBC24	01	流紋岩	36.8	29.8	10.1	12.6	1	凸面1	凸面1	1-a	
4	SBE01		チャート	30.7	18.2	6.7	5.6	1	外側1	凸面1	1-a	
5	SBE01		チャート	23.1	34.3	5.5	6.9	1	外側1	凸面1	1-b	46
6	SD001D	02	チャート	26.2	22.2	4.1	2.6	1	外側1	凸面1	1-a	
7	SD001D	04	チャート	21.4	31.4	10.6	6.0	1	内側1	凸面1	1-a	
8	SD001B	04	チャート	33.7	28.5	11.5	19.6	1	内側1	凸面1	1-a	
9	SD001B	06	流紋岩	47.1	47.0	16.0	32.7	1	凸面1	凸面1	1-a	

表58 スクレイパー類 (掘器 I) 計測・観察表(2)

No	出 土 区 層位	石 材	法 量				刃 部				分組	遺物番号
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	刃部数	平面形	調整	調整方向		
10	SDD01C	06	チャート	29.2	22.2	10.4	6.4	1	片側1	調整		1 a
11	SDD01C	06	チャート	49.6	31.0	10.2	17.8	1	片側1	調整		1 a
12	SDD01D	06	下石石	22.0	33.5	8.0	6.0	1	片側1	調整		1 b
13	SDD01C	06	流紋岩	30.9	33.2	11.7	17.3	2	片側1 片側1	調整		2
14	SDD01C	06	流紋岩	30.0	46.7	13.5	17.6	2	片側1	調整		2
15	SDD01D	06	チャート	60.4	39.7	13.4	31.8	2	片側1	調整		2 157
16	Q37	IV	チャート	22.5	26.6	5.8	3.1	1	片側1	調整		1 a
17	P34	II	チャート	65.5	31.9	10.0	27.3	1	片側1	調整		1 a 196
18	K21	IV	チャート	25.1	27.8	3.0	2.9	1	片側1	調整		1 a
19	K21	I	チャート	33.8	49.8	9.6	20.2	2	片側1 片側1	調整		2
20	H20	IV	チャート	22.1	23.5	6.8	3.5	2	片側1 片側1	調整		2 197

表59 スクレイパー類 (掘器 II) 計測・観察表

No	出 土 区 層位	石 材	法 量				刃 部				遺物番号		
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	刃部数	刃部形状	調整	調整方向			
1	SDD01A	04	チャート	40.2	40.0	13.0	21.0	1	本端部	細欠丸	片側	表から表	109

表60 スクレイパー類 (掘器 III) 計測・観察表

No	出 土 区 層位	石 材	法 量				刃 部				遺物番号	
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	刃部数/全周	調整	調整方向	調整方向		
1	P40	II	マサカイト	22.3	27.4	16.7	5.6	8/10	両面	両方向		190
2	P34	II	チャート	39.5	24.5	9.7	8.1	8/10	片側	表から表		199

表61 スクレイパー類 (ノッチスクレイパー) 計測・観察表

No	出 土 区 層位	石 材	法 量				刃 部				遺物番号	
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	刃部数	複元半円(mm)	調整	調整方向		
1	SBE08	01	流紋岩	61.0	32.6	8.6	14.1	1	3	片側	表から表	
2	K21	I	チャート	27.3	25.2	7.8	4.6	1	2	片側	表から表	
3	H19	III	チャート	31.3	20.9	7.3	3.0	1	4	両面	両方	200

表62 スクレイパー類 (複合スクレイパー) 計測・観察表

No	出 土 区 層位	石 材	法 量				刃 部				遺物番号		
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	刃部数	刃部形状	平面形	調整		調整方向	
1	L18	IV	流紋岩	65.5	46.3	10.6	41.0	2	片側 片側	調整	調整	表から表 裏から表	201

表63 ヘラ形石器計測表

No	出 土 区 層位	石 材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	遺物番号
1	SEA18	02	チャート	38.6	31.3	10.2	9.7 11
2	K14	III	チャート	43.3	33.0	9.7	10.6

表64 楔形石器計測・観察表

No	出 土 区 層位	石 材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	遺物番号	備 考	
1	SDC03	02	チャート	30.7	13.5	12.4	6.7	34	一対
2	SDC12	01	下石石	34.8	34.0	9.8	9.5		一対
3	O37	IV	チャート	24.0	29.3	7.0	3.4		一対
4	N34	III	チャート	33.1	33.1	11.4	15.1		一対
5	O36	III	チャート	16.8	26.8	7.3	3.0		一対
6	H17	II	チャート	29.0	29.7	11.0	9.9		一対

表65 打製石斧計測・観察表(1)

No	出 土 区 解 説	石 材	測 量				最大幅 位置	片部 厚さ	自然面 の有無	背面 部位	分類	遺物番号	備 考
			長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)							
1	SBA15	02	砂岩	(7.0)	4.7	1.4	(53.4)			d	不明		
2	SBC02	04	安山岩	(7.0)	6.5	2.9	(194.0)		有	b	不明		
3	SBC28	01	安山岩	(5.9)	4.4	1.2	(49.0)	片部		b	不明		
4	SBD02	02	砂岩	(3.6)	4.9	1.7	(33.0)		有	b	不明	23	横長割片
5	SDD01B	02	安山岩	(6.4)	3.9	1.9	(73.0)	側部		d	不明		
6	SDD01D	07	流紋岩	(18.0)	6.5	3.7	(484.0)	側部	有	c	3	67	横長割片
7	SDD01A	02	流紋岩	(11.2)	5.9	1.5	(102.0)	側部	右	b	3	29	横長割片
8	SDD01N	03	玄武岩	(8.8)	4.6	1.5	(99.0)	側部	左	1	80		
9	SDD01B	03	流紋岩	(8.8)	4.9	1.4	(90.0)	側部	左	1			横長割片
10	SDD01C	03	流紋岩	(9.2)	3.7	1.7	(87.0)	側部		1			
11	SDD01C	03	安山岩	(9.9)	4.3	2.4	(112.0)	側部		1			
12	SDD01E	03	流紋岩	(8.8)	6.0	3.0	(80.0)	片部	有	1			横長割片
13	SDD01C	03	安山岩	(11.0)	5.4	2.1	(181.0)	側部	有	b	2		横長割片
14	SDD01E	03	安山岩	(7.6)	5.0	2.6	(123.0)			b	不明		
15	SDD01D	03	流紋岩	(7.5)	6.0	1.6	(99.0)		有	b	不明		横長割片
16	SDD01C	03	流紋岩	(5.0)	6.4	1.9	(77.0)	側部		b	不明		
17	SDD01D	03	流紋岩	(2.6)	4.1	1.9	(37.0)			b	不明		
18	SDD01C	03	流紋岩	(5.0)	4.1	0.6	(18.0)			b	不明		
19	SDD01H	03	流紋岩	(5.2)	3.9	1.2	(28.0)		左	b	不明		
20	SDD01E	03	安山岩	(5.5)	4.7	1.2	(42.0)		有	d	不明		
21	SDD01N	03	安山岩	(9.7)	4.5	1.6	(73.0)		有	b	不明		横長割片
22	SDD01C	04	流紋岩	(9.4)	4.7	1.4	(103.0)	側部	有	b	1		
23	SDD01B	04	ホルンフェルス	(9.7)	4.3	1.4	(91.0)	側部	有	1	110		
24	SDD01A	04	安山岩	(11.6)	4.4	1.8	(120.0)	側部	左	1	111		横長割片
25	SDD01B	04	流紋岩	(11.4)	4.3	2.1	(138.0)	側部		b	1		
26	SDD01C	04	流紋岩	(13.5)	6.2	2.9	(316.0)	側部	左	e	1		横長割片
27	SDD01C	04	流紋岩	(5.1)	5.2	1.9	(49.0)	片部		e	2		
28	SDD01C	04	安山岩	(6.7)	5.2	1.6	(75.0)	側部		b	不明		
29	SDD01E	04	安山岩	(8.3)	5.9	1.9	(107.0)		右	f	不明		
30	SDD01C	04	流紋岩	(6.9)	5.6	2.3	(91.0)		左	b	不明		
31	SDD01C	04	流紋岩(背側削取)	(16.0)	4.9	2.0	(128.0)		右	b	不明		横長割片
32	SDD01C	04	流紋岩	(9.3)	7.8	(3.9)	(109.0)		右	f	不明		
33	SDD01B	04	流紋岩	(8.9)	5.2	1.8	(129.0)			b	不明		横長割片
34	SDD01B	04	流紋岩	(10.2)	5.3	2.4	(187.0)		有	b	不明		横長割片
35	SDD01C	04	安山岩	(8.6)	5.1	1.8	(108.0)			b	不明		
36	SDD01C	04	安山岩	(5.8)	7.2	2.3	(150.0)	側部		b	不明		
37	SDD01C	04	安山岩	(8.3)	4.2	1.9	(85.0)		右	b	不明		横長割片
38	SDD01D	04	流紋岩	(3.4)	4.4	1.6	(36.0)			b	不明		
39	SDD01E	04	流紋岩	(5.7)	4.7	0.9	(33.0)			b	不明		
40	SDD01B	05	流紋岩	(9.5)	3.9	1.4	(68.0)	側部	有	1	140		横長割片
41	SDD01B	05	流紋岩	(7.5)	5.7	2.1	(106.0)	側部	有	d	不明		横長割片
42	SDD01C	06	ホルンフェルス	(4.7)	5.0	1.9	(26.0)	側部	有	1	158		横長割片
43	SDD01E	06	流紋岩	(11.5)	5.1	1.4	(122.0)	片部			2	120	
44	SDD01F	06	流紋岩	7.1	3.7	1.3	(35.0)	片部			2		
45	SDD01D	06	流紋岩	(14.4)	4.5	1.9	(130.0)	側部		b	3		
46	SDD01E	06	砂岩	(12.3)	6.0	2.2	(136.0)	側部	有	b	3	160	横長割片
47	SDD01A	08	安山岩	(9.9)	3.9	2.9	(71.0)	側部		3			
48	SDD01C	06	砂岩	(6.9)	5.1	1.4	(71.0)	側部	有	b	不明		
49	SDD01D	06	流紋岩	(4.6)	5.4	1.7	(42.0)	側部		b	不明		
50	J 20	田	砂岩	(11.0)	4.7	1.6	(116.0)	側部	有	1	202		横長割片
51	U 44	IV	安山岩	(22.5)	5.6	2.9	(252.4)	側部	有	1	203		横長割片
52	N 19	田	流紋岩	(8.0)	3.8	1.3	(49.2)	側部	有	1			横長割片
53	E 18	田	流紋岩	(12.0)	4.4	2.0	(112.0)	側部		1			
54	P 18	田	流紋岩	(11.6)	4.2	1.6	(106.0)	側部		1			
55	K 17	田	安山岩	(9.2)	4.9	2.2	(85.0)	側部	有	1			横長割片
56	K 19	田	ホルンフェルス	(11.2)	3.7	1.5	(79.0)	側部		1	204		横長割片
57	W 49	田	流紋岩	(10.5)	5.3	2.5	(177.6)	側部		b	1		
58	J 19	田	流紋岩	(9.9)	3.2	1.4	(72.0)	側部	有	b	1		
59	O 36	田	流紋岩	(8.3)	4.0	1.4	(56.0)	側部	有	b	1		横長割片
60	L 35	田	安山岩	(11.0)	4.9	1.9	(140.0)	側部		b	1		
61	P 24	田	流紋岩	(10.1)	4.9	1.9	(142.0)	側部	有	b	1		横長割片
62	T 27	田	安山岩	(11.7)	3.9	1.9	(133.0)	側部	有	d	1		
63	L 31	I	流紋岩	(5.6)	3.6	1.1	(29.0)	側部		d	1		
64	J 30	田	流紋岩	(7.8)	8.1	3.1	(662.0)	片部	有	1	205		横長割片
65	M 26	田	流紋岩	(11.5)	(7.5)	(2.5)	(285.0)	片部	有	b	2	206	横長割片

表65 打製石斧計測・観察表(2)

No	出土区	層位	石 材	法 量				最大幅 位置	刃部 厚(μ)	自然面 の有無	刃部 部位	分類	遺物番号	備 考
				長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)							
66	Q38	III	流紋岩	(11.8)	7.8	3.0	(493.0)	刃部		×	2		表面に黒 石粉石	
67	Q26	IV	流紋岩	(9.4)	4.5	1.7	(74.0)	刃部	有	f	2		横長割片	
68	H21	IV	流石	9.2	4.1	1.7	78.0	側部			3			
69	I 17	I	礫石	(9.9)	5.3	1.5	(199.9)	側部	有	w	3			
70	G22	II	流紋岩	(10.3)	4.9	2.3	(353.0)	側部	有	b	3	207		横長割片
71	G16	II	安山岩	(8.6)	4.5	1.5	(79.0)	側部	有	d	3			横長割片
72	I 17		砂岩	(5.2)	4.5	0.6	(27.0)				b	不明		
73	P25	III	流石	(6.9)	(6.4)	(2.9)	(364.0)				b	不明		
74	P18		砂岩	(9.4)	(5.2)	(2.4)	(356.0)		有	b	不明			横長割片
75	J17	IV	流紋岩	(6.3)	(5.5)	(1.9)	(83.0)		有	b	不明			横長割片
76	N17	IV	安山岩	(2.9)	(5.1)	(1.9)	(86.0)		有	b	不明			横長割片
77	J29	III	流石	(6.0)	(5.2)	(1.7)	(300.0)		有	b	不明			横長割片
78	J23	III	流紋岩貫成流石	(5.2)	(6.3)	(2.5)	(93.0)		有	w	不明			
79	L16	IV	安山岩	(4.9)	(6.0)	(2.2)	(88.0)		有	w	不明			横長割片
80	L16	I	砂岩	(6.5)	4.8	1.5	(71.0)		有	w	不明			横長割片

表66 磨製石斧計測・観察表

No	出土区	層位	石 材	法 量				最大幅 位置	刃部 部位	遺物番号	備考
				長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)				
1	SD001B	06	ホルンフェルス	(6.4)	3.9	1.6	(71.0)	側部	b	143	磨製
2	H25	III	緑色岩	(10.7)	(3.0)	(4.0)	(382.0)	底			磨製

表67 粗製石器計測・観察表

No	出土区	層位	石 材	法 量				刃 部		分類	遺物番号	
				長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	刃部数	平面形 調整			
1	SBA06	04	安山岩	82.2	75.0	8.8	77.2	1	修整	2	3	
2	SBA12	04	安山岩	67.0	26.0	20.5	111.9	1	今中内埋	6	7	
3	SBA26	02	安山岩	86.9	59.0	14.9	120.0	1	表面	1	15	
4	SBA33	03	礫石	83.3	74.5	21.3	135.0	1	修整	2	16	
5	SBA33	03	安山岩	70.0	174.0	14.7	191.0	1	修整	3	17	
6	SD008		砂岩	48.6	77.9	15.1	53.0	1	表面	2	57	
7	SD001A	03	安山岩	71.6	45.7	21.7	71.7	1	修整	1	81	
8	SD001N	03	流紋岩	61.1	117.5	24.5	162.0	1	今中内埋	2	82	
9	SD001B	04	流紋岩貫成流石	78.2	41.7	9.7	43.0	2	表面?	片面	1	113
10	SD001C	04	安山岩	66.0	60.4	18.3	89.0	1	今中内埋	片面	2	
11	SD001C	04	砂岩	95.2	41.5	11.3	69.3	1	修整(内埋)	片面	3	113
12	SD001C	04	結晶片岩	(80.8)	40.3	9.6	(56.2)	1	表面	片面	4	
13	SD001C	06	安山岩	59.2	43.4	7.3	26.3	2	表面(内埋)		1	
14	SD001B	06	流紋岩	43.0	64.5	11.4	37.0	1	修整	片面	1	
15	SD001C	06	流石	51.6	68.5	13.6	49.2	1	内埋	片面	2	162
16	SD001C	06	安山岩	68.0	82.2	18.6	107.7	1	表面	片面	2	
17	O36	III	流石	45.1	78.0	12.5	59.0	1	修整		1	
18	K17	III	流石	91.5	28.0	12.4	139.0	1	表面	片面	1	
19	I 17	IV	砂岩	60.0	103.0	17.7	147.2	1	修整	片面	1	208
20	I 17	I	流紋岩	69.2	51.8	26.7	148.6	2	表面	片面	1	
21	H18	II	流石	28.6	41.6	18.3	76.0	1	修整		1	
22	H22	II	安山岩	40.0	99.7	17.3	43.3	1	修整		2	208
23	V25	III	砂岩	100.2	28.4	26.4	395.0	1	表面		4	210
24	K22	III	砂岩	87.0	65.6	12.5	82.4	1	修整		5	214

表68 有屑扇状石器計測・観察表

No	出 土 区	層位	石 材	法 量				刃 部		遺物番号	
				長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	刃部数	平面形 調整		
1	SD001C	04	安山岩(大粒基岩)	134.5	147.8	26.0	456.0	1	修整	片面	111

表69 石核計測・観察表

No	出 土 区	層位	石 材	自然面	修理面	打面数	打 面 状 態	作業面数	分層	遺物番号	
1	SD00A	04	ナマツト	割片	有	有	2	修理面1	2	2	
2	SD00A	04	ナマツト	割片	有	有	1	修理面1	1	2	
2	SD00C	04	ナマツト	割片	有	有	1	修理面1	1	2	
4	SD00C	04	流紋岩	割片	有	有	3	自然面3	1	2	
5	SD00B	04	ナマツト	割片	有	有	1	自然面1	1	2	
6	SD00C	04	ナマツト	割片	有	有	2	修理面2	2	4	
7	SD00C	04	流紋岩割片	割片	有	有	1	自然面1	2	5	135
8	SD00B	04	流紋岩	割片	有	有	1	自然面1	5	5	
9	SD00B	05	流紋岩割片	割片	有	有	1	修理面1	2	1	
10	SD00C	05	ナマツト	割片	有	有	2	修理面1 修理面1	2	2	
11	SD00B	05	ナマツト	分節	有	有	1	修理面1	1	2	
12	SD00C	06	ナマツト	割片	有	有	1	修理面1	1	2	
13	SD00C	08	流紋岩割片	割片	有	有	1	自然面1	1	2	
14	SD00D	08	ナマツト	分節	有	有	1	修理面1	1	2	
15	SD00D	06	ナマツト	分節	有	有	1	自然面1	1	2	
16	SD00C	06	ナマツト	分節	有	有	2	修理面2	1	3	165
17	SD00C	06	ナマツト	分節	有	有	1	修理面1 修理面1	1	5	164
18	SD00C	06	流紋岩割片	割片	有	有	2	修理面1 修理面1	4	4	165
19	SD00E	06	流紋岩	割片	有	有	1	修理面1	3	5	
20	M17		流紋岩割片	割片	有	有	1	修理面1	1	1	217

表70 打欠石核計測・観察表(1)

No	出 土 区	層位	石 材	a (mm)	b (mm)	L <sub>1</sub> (mm)	L <sub>2</sub> (mm)	W (mm)	S (mm)	質量(g)	塊	遺物番号	備 考
1	SDA08	02	砂岩	23.0	26.0	62.6	62.6	47.9	19.2	66.0	完	4	打欠部遺存(肉)
2	SDA02	02	砂岩	16.0	16.0	36.7	36.6	40.2	20.4	72.6	完	23	打欠部遺存(肉)
3	SDC02	04	砂岩	6.0	16.0	33.1	33.6	43.4	10.7	37.6	完	30	
4	SDC02	02	砂岩	25.0	18.0	38.6	38.6	47.4	21.7	72.6	完	31	
5	SDH01	01	砂岩	10.0	21.0	34.9	34.5	44.3	14.8	53.0	完	49	
6	SDH09	02-03	砂岩	9.5	9.5	33.3	33.0	46.3	18.2	67.9	完	58	打欠部遺存(肉)
7	SDU01	02	流紋岩	15.0	8.0	32.5	33.0	47.5	18.8	64.6	完	63	
8	SDU01B	02	砂岩	10.0	測定不能	32.8	測定不能	39.0	14.5	38.0	欠		
9	SDU01D	02	砂岩	7.0	3.0	40.2	39.0	34.9	13.1	41.0	欠		
10	SDU01C	02	砂岩	10.0	3.0	48.9	48.0	40.2	11.3	31.8	欠		
11	SDU01C	01	砂岩	8.0	4.0	64.4	63.0	33.8	13.0	47.0	完	64	打欠部遺存(肉)
12	SDU01C	02	砂岩	9.0	9.0	49.0	47.0	27.2	10.9	31.0	完		
13	SDU01B	02	砂岩	7.0	16.0	34.9	34.0	34.4	13.0	17.0	完	65	
14	SDU01N	03	砂岩	14.0	8.0	33.9	32.5	29.1	12.3	17.8	完	83	
15	SDU01D	02	砂岩	11.5	17.0	50.7	49.5	36.2	12.2	30.9	完	84	
16	SDU01D	03	砂岩	29.5	30.0	53.4	50.5	50.4	13.1	30.9	完	85	
17	SDU01C	02	砂岩	10.0	17.0	61.6	61.0	41.4	21.1	82.0	完	86	打欠部遺存(肉)
18	SDU01D	03	ナマツト	測定不能 26.0	13.0 16.0	31.0	測定不能 34.0	37.1	7.9	128.0	欠	87	長・短軸の両端を打欠
19	SDU01B	03	砂岩	10.0	16.0	66.0	67.6	48.2	17.4	73.0	完		
20	SDU01C	03	砂岩	6.0	測定不能	58.4	58.0	46.2	20.7	64.9	完		打欠部遺存(肉)
21	SDU01A	03	砂岩	14.0	測定不能	32.7	36.3	40.1	12.0	38.0	欠		
22	SDU01B	03	砂岩	11.0	17.0	71.9	71.0	41.0	19.3	80.8	完		
23	SDU01B	03	砂岩	測定不能	11.5	36.3	測定不能	39.9	9.1	38.0	欠		
24	SDU01F	03	流紋岩	8.0	11.0	65.8	62.0	38.1	19.8	63.0	完		打欠部遺存(肉)
25	SDU01N	03	砂岩	14.0	6.0	39.6	38.0	41.1	19.7	38.0	完		
26	SDU01E	03	砂岩	7.3	測定不能	49.1	45.5	44.1	20.1	34.0	完		打欠部遺存(肉)
27	SDU01D	03	ナマツト	9.0	17.0	45.5	49.0	43.9	15.9	31.0	完		
28	SDU01F	03	砂岩	9.0	13.0	51.4	51.0	47.6	17.7	60.9	完		打欠部遺存(肉)
29	SDU01C	02	流紋岩	8.5	12.0	43.1	41.0	32.1	14.9	21.9	完		
30	SDU01D	03	砂岩	12.0	17.5	46.6	44.0	42.2	19.3	30.0	完		打欠部遺存(肉)
31	SDU01N	03	砂岩	12.5	14.0	61.8	61.0	43.0	20.8	78.9	完		
32	SDU01F	03	砂岩	9.5	9.0	36.1	36.0	35.8	16.2	30.0	完		打欠部遺存(肉)
33	SDU01E	03	砂岩	10.0	6.5	36.4	36.0	33.9	19.5	44.0	完		打欠部遺存(肉)
34	SDU01C	03	砂岩	8.0	13.0	50.6	48.6	33.0	12.4	36.0	完		
35	SDU01C	02	砂岩	13.0	15.0	53.7	51.5	27.3	16.8	43.0	完		打欠部遺存(肉)
36	SDU01N	03	流紋岩	10.0	9.0	54.2	53.0	31.5	14.8	33.0	完		
37	SDU01D	03	流紋岩	13.0	16.0	65.3	60.0	35.5	13.1	37.0	完		
38	SDU01C	03	砂岩	測定不能	11.0	36.7	52.0	43.1	14.0	30.0	完		打欠部遺存(肉)
39	SDU01F	03	砂岩	17.5	19.0	45.9	45.0	30.1	15.3	38.0	完		
40	SDU01C	03	砂岩	測定不能	測定不能	測定不能	測定不能	33.7	17.2	47.0	完		打欠部遺存(肉)

表70 打欠石錘計測・観察表(2)

No.	出 土 区 別	層 位	石 材	a (mm)	b (mm)	L.1 (mm)	L.2 (mm)	W(mm)	S(mm)	首長 (°C)	残 遺物番号	備 考
41	SD00C	03	砂岩	13.0	12.0	39.1	36.0	43.5	17.0	69.0		打欠部破れ(右)
42	SD00C	04	砂岩	測定不能	測定不能	79.1	測定不能	136.3	123.7	109.0		打欠部破れ(右)
43	SD00C	04	灰岩	11.0	測定不能	66.8	測定不能	100.4	117.4	155.0		打欠部破れ(右)
44	SD00C	04	砂岩	8.0	7.5	33.3	34.3	39.8	9.8	74.0	117	
45	SD00B	04	礫岩	15.0	23.0	52.2	52.0	43.9	17.8	81.0		
46	SD00C	04	砂岩	19.0	17.0	61.1	61.0	41.8	23.0	92.0		
47	SD00C	04	砂岩	12.3	18.5	40.4	36.0	38.4	17.2	36.0		
48	SD00A	02	砂岩	8.0	11.0	53.7	53.0	41.0	16.7	33.0		
49	SD00C	04	砂岩	11.0	14.0	62.3	60.1	36.0	15.8	71.0		
50	SD00C	04	灰岩	8.0	9.0	34.0	33.3	39.4	9.8	24.0		
51	SD00B	04	凝灰岩	10.0	13.0	60.6	59.0	47.3	19.3	66.0		
52	SD00C	04	砂岩	10.1	14.0	72.4	70.1	38.7	16.9	60.0		
53	SD00B	04	砂岩	11.5	16.0	39.8	39.0	23.9	19.3	34.0		
54	SD00C	04	砂岩	10.1	11.0	66.9	65.0	37.1	16.5	50.0		打欠部破れ(右)
55	SD00F	04	砂岩	23.0	24.5	52.0	51.5	43.3	21.5	71.0		打欠部破れ(右)
56	SD00C	04	高岩	12.0	6.9	49.3	48.0	39.1	19.8	36.0		
57	SD00C	04	砂岩	13.0	測定不能	33.7	37.0	42.8	20.7	69.0		打欠部破れ(右)
58	SD00B	04	砂岩	13.0	20.0	36.4	36.0	36.9	20.2	85.0	118	
59	SD00B	04	砂岩	12.0	10.5	47.6	47.3	43.8	19.1	89.0		
60	SD00B	04	凝灰岩	15.5	14.5	60.7	58.3	50.0	19.9	60.0		
61	SD00C	04	砂岩	13.0	14.3	43.2	43.0	40.8	20.6	50.0		打欠部破れ(右)
62	SD00E	04	砂岩	16.0	8.3	23.0	21.0	49.4	18.8	32.0		打欠部破れ(右)
63	SD00B	04	砂岩	12.5	14.0	54.0	53.0	44.1	11.2	11.0		
64	SD00C	04	灰岩	12.0	32.0	54.0	51.0	33.8	10.1	22.0		
65	SD00D	04	凝灰岩	14.0	15.0	41.0	41.5	35.0	14.9	36.0		
66	SD00C	04	砂岩	20.0	12.5	69.1	68.0	43.4	14.1	67.0		打欠部破れ(右)
67	SD00C	04	灰岩	10.0	9.0	51.8	49.0	55.1	12.2	30.0		打欠部破れ(右)
68	SD00C	04	高岩	16.0	14.0	33.2	34.0	34.0	11.0	33.0		打欠部破れ(右)
69	SD00C	04	砂岩	14.5	13.5	33.2	31.5	44.5	17.7	61.0		打欠部破れ(右)
70	SD00C	04	砂岩	18.0	13.0	47.8	47.3	47.3	13.0	44.0		打欠部破れ(右)
71	SD00F	04	砂岩	22.0	17.0	54.0	53.0	31.6	19.2	34.0		打欠部破れ(右)
72	SD00C	04	砂岩	19.0	16.0	36.8	36.0	46.1	16.6	62.0		打欠部破れ(右)
73	SD00C	04	砂岩	16.0	12.0	33.2	30.0	37.4	13.9	41.0		打欠部破れ(右)
74	SD00D	04	砂岩	12.0	25.5	53.6	53.0	43.4	20.6	66.0		上へ下回す?
75	SD00C	04	砂岩	17.0	24.3	32.8	36.0	43.6	15.3	21.0		打欠部破れ(右)
76	SD00A	01	砂岩	23.0	22.0	43.0	43.3	38.4	16.7	39.0		打欠部破れ(右)
77	SD00C	04	砂岩	14.0	12.0	44.0	43.0	36.7	18.3	41.0		
78	SD00C	04	砂岩	19.0	19.5	49.0	43.0	36.4	14.0	24.0	119	物類の両面打欠
79	SD00D	04	砂岩	12.0	11.5	51.4	49.3	45.0	13.1	44.0		
80	SD00E	04	砂岩	18.0	17.0	50.3	50.0	42.7	27.2	82.0		打欠部破れ(右)
81	SD00B	04	高岩	13.0	14.6	63.6	63.0	44.3	13.6	60.0		
82	SD00C	04	凝灰岩	12.0	17.0	40.3	39.0	35.2	11.0	27.0		
83	SD00F	04	高岩	16.0	33.5	42.3	39.6	49.4	17.4	20.0		
84	SD00A	04	砂岩	17.0	30.0	79.2	78.0	42.3	17.3	23.0		
85	SD00B	04	高岩	14.0	21.0	69.2	66.5	54.9	18.2	89.0		
86	SD00B	04	砂岩	12.0	19.0	63.4	62.0	37.9	13.2	49.0		
87	SD00B	04	砂岩	21.0	測定不能	79.3	79.6	50.2	20.2	112.0		打欠部破れ(右)
88	SD00C	04	砂岩	14.5	20.0	32.0	36.0	43.6	21.2	75.0		打欠部破れ(右)
89	SD00C	04	砂岩	13.0 14.0	19.5 9.5	63.3 -	64.0 46.0	30.6 -	19.3 -	89.0	120	左・物類の両面 全打欠
90	SD00C	05	砂岩	16.0	20.0	54.3	54.0	52.5	21.6	80.0		打欠部破れ(右)
91	SD00E	05	砂岩	11.0	36.3	62.8	60.0	49.9	24.4	112.0	142	
92	SD00B	05	砂岩	18.0	11.9	62.7	61.0	40.3	18.1	66.0	143	
93	SD00B	05	安山岩	12.0	14.3	56.6	56.0	38.1	10.4	20.0		
94	SD00D	05	砂岩	16.0	18.0	48.0	43.0	42.0	24.2	54.0		
95	SD00D	05	砂岩	23.0	19.0	58.7	58.0	45.2	19.7	64.0	144	
96	SD00B	05	高岩	12.0	8.0	63.4	59.5	40.8	13.8	26.0		
97	SD00C	05	砂岩	13.0	11.0	66.9	65.3	40.4	11.4	37.0		
98	SD00C	05	砂岩	7.8	5.0	39.3	39.0	21.8	8.4	11.0		
99	SD00C	05	砂岩	17.0	19.3	38.3	38.0	35.7	24.6	21.0		打欠部破れ(右)
100	SD00D	06	砂岩	測定不能	7.5	79.0	測定不能	60.9	17.0	62.0		
101	SD00C	06	砂岩	16.0	19.3	41.9	43.0	37.5	19.3	33.0		
102	SD00E	06	高岩	11.0	16.0	51.8	51.5	39.3	16.7	61.0		
103	SD00C	06	高岩	16.0	13.0	58.9	51.0	35.1	13.5	23.0		
104	SD00D	06	凝灰岩	14.0	16.0	71.6	71.0	53.0	13.5	75.0		
105	SD00C	06	砂岩	16.0	14.0	69.0	69.0	43.7	14.9	81.0		

表70 打矢石鑑計測・観察表(3)

No	出土区	層位	石材	a (mm)	b (mm)	L <sub>1</sub> (mm)	L <sub>2</sub> (mm)	W(mm)	S (mm)	質量(g)	残	遺物番号	備	考
106	SD001E	06	流紋岩	11.0	10.0	55.7	54.5	28.1	12.2	41.0	完			
107	SD001C	06	砂岩	21.0	16.0	37.8	37.0	39.5	12.3	42.0	完			
108	SD001C	06	砂岩	18.5	9.0	44.1	43.0	38.5	12.4	30.0	完			
109	SD001C	06	流紋岩	16.5	9.0	64.6	64.5	46.0	15.8	40.0	完			
110	SD001C	06	砂岩	16.0	12.0	66.8	65.0	56.0	18.2	101.0	完			
111	SD001C	06	砂岩	8.0	11.5	62.2	61.5	31.6	16.3	46.0	完			
112	SD001C	06	砂岩	11.0	19.0	51.5	51.0	34.9	19.7	47.0	完		打矢部遺物(片)	
113	SD001C	06	流紋岩	22.0	18.5	41.5	41.0	44.2	11.4	33.0	完			
114	SD001B	06	安山岩	8.0	5.0	54.5	54.0	36.6	13.1	24.0	完			
115	SD001C	06	砂岩	10.5	28.0	49.2	47.5	39.9	15.6	54.0	完			
116	SD001D	06	流紋岩	20.0	17.0	50.8	41.0	42.2	16.7	48.0	完			
117	SD001C	06	砂岩	8.0	測定不能	48.0	48.5	29.7	17.3	42.0	完		打矢部遺物(片)	
118	SD001D	06	流紋岩	11.0	12.6	54.8	51.0	49.5	12.3	42.0	完			
119	SD001F	06	砂岩	14.5	13.0	57.6	56.0	44.6	24.3	79.0	完			
120	SD001E	06	砂岩	19.0	25.0	57.7	54.0	42.9	14.1	49.0	完			
121	SD001E	06	砂岩	9.0	33.0	36.8	36.0	37.8	12.5	37.0	完			
122	SD001D	06	砂岩	9.5	19.0	49.7	48.5	53.3	19.1	44.0	完			
123	SD001D	06	流紋岩	16.0	13.0	32.6	49.0	48.6	16.9	48.0	完			
124	SD001E	06	流紋岩	7.0	16.6	56.9	56.0	32.1	12.8	59.0	完			
125	SD001C	06	流紋岩	4.5	23.0	55.9	56.0	33.0	15.3	37.0	完			
126	SD001E	06	流紋岩	8.0	8.0	49.4	48.0	36.4	12.2	31.0	完			
127	SD001C	06	砂岩	10.5	10.0	35.1	35.0	37.0	17.4	48.0	完			
129	SD001C	06	流紋岩	14.0	25.5	58.4	57.0	49.2	21.0	89.0	完	168	打矢部遺物(片)	
128	SD001E	06	火成岩	11.0	14.0	43.3	43.0	37.4	17.9	33.0	完	167	打矢部遺物(片)	
130	SD001D	06	砂岩	測定不能	28.0	38.1	55.5	55.2	18.4	79.0	完			
131	SD001D	06	砂岩	10.0	10.0	53.2	52.0	35.6	18.2	48.0	完		打矢部遺物(片)	
132	SD001E	06	砂岩	7.5	8.0	43.9	44.0	34.3	18.3	39.0	完			
133	SD001D	06	砂岩	11.0	14.0	71.2	69.0	47.6	18.5	30.0	完			
134	SD001D	06	流紋岩	12.0	7.0	56.6	56.0	44.6	19.9	66.0	完			
135	SD001C	06	砂岩	13.5	8.5	57.1	56.0	48.0	18.4	67.0	完			
136	SD001C	06	流紋岩	17.0	19.6	53.2	49.8	48.9	24.8	77.0	完			
137	SD001F	06	砂岩	8.0	8.5	53.5	51.0	32.3	12.0	77.0	完			
138	SD001C	06	砂岩	7.0	7.5	64.8	62.0	29.0	18.4	38.0	完		打矢部遺物(片)	
139	SD001D	06	砂岩	測定不能	測定不能	65.0	64.7	40.9	18.2	73.0	完	169	打矢部遺物(片)	
140	H22	II	砂岩	9.0	17.0	38.1	37.0	34.8	13.9	25.0	完	215	打矢部遺物(片)	
141	H22	II	砂岩	23.0	25.0	50.9	48.0	43.8	15.9	48.0	完	216	打矢部遺物(片)	
142	O20	III	流紋岩	8.5	13.6	57.1	56.0	47.6	10.7	27.0	完	217	打矢部遺物(片)	
143	G19	IV	砂岩	6.0	12.0	63.8	63.0	24.1	16.8	55.0	完	218	打矢部遺物(片)	
144	M25	I・II	流紋岩	13.0	13.0	66.0	69.0	32.0	14.0	46.7	完	219	打矢部遺物(片)	
145	I17	II	安山岩	9.5	11.0	67.0	67.0	46.1	14.5	77.0	完	220	打矢部遺物(片)	
146	L17	IV	砂岩	8.0	20.0	46.9	43.0	74.3	14.8	49.8	完	221	船舶の碇石打矢	
147	L28	III	砂岩	14.0	10.0	65.0	63.0	54.3	19.9	86.2	完	222		
148	Q28	IV	砂岩	17.0	13.0	49.0	45.0	56.0	16.0	62.2	完	223	船舶の碇石	
149	I22	III	流紋岩	15.0	17.0	55.0	54.5	37.5	17.6	50.0	完			
150	J17	IV	砂岩	6.0	5.0	45.3	46.0	41.5	15.1	45.0	完			
151	J17	IV	砂岩	15.0	11.0	73.3	73.0	29.8	15.9	64.0	完			
152	L19	IV	砂岩	14.0	14.0	48.5	46.0	44.7	12.2	39.0	完		打矢部遺物(片)	
153	M18	III	砂岩	9.0	11.0	50.5	48.0	43.9	18.2	24.0	完			
154	M18	III	砂岩	12.0	8.0	56.6	55.0	35.9	14.0	43.0	完		打矢部遺物(片)	
155	M17	III	砂岩	11.0	10.0	55.5	54.0	42.7	15.3	54.0	完			
156	M29	IV	砂岩	14.5	10.5	56.9	54.0	43.0	16.7	37.0	完			
157	M20	IV	流紋岩	8.0	22.0	72.0	79.0	39.1	11.5	45.0	完			
158	M18	III	安山岩	7.0	6.0	63.6	63.0	32.3	14.2	37.0	完			
159	M20	III	流紋岩	12.0	14.0	39.5	38.0	45.6	16.8	59.0	完			
160	L18	IV	砂岩	11.5	13.6	73.3	71.0	32.9	17.1	78.0	完		打矢部遺物(片)	
161	L18	IV	砂岩	13.5	14.5	66.9	66.0	39.1	21.2	26.0	完		打矢部遺物(片)	
162	O20	III	砂岩	9.0	8.0	65.0	64.5	58.3	13.6	75.0	完			
163	K21	III	安山岩	11.5	9.0	63.5	60.0	49.2	19.0	79.0	完			
164	L27	III	砂岩	15.0	17.0	73.2	71.0	52.5	26.0	129.0	完			
165	N18	I	流紋岩	9.0	19.0	59.5	58.0	49.9	20.9	81.0	完		打矢部遺物(片)	
166	N16	IV	砂岩	11.9	24.8	(34.1)	51.0	41.2	(15.4)	136.0	欠			
167	J21	III	安山岩	12.0	13.0	(60.3)	65.0	36.6	11.0	(30.0)	欠			
168	K19	IV	砂岩	7.5	22.5	(55.2)	32.0	(40.4)	14.5	(35.0)	欠			
169	M19	IV	流紋岩	12.0	13.0	62.6	60.0	50.8	15.4	66.0	完		打矢部遺物(片)	
170	H19	II	砂岩	10.0	9.0	61.4	59.5	33.4	16.8	50.0	完			
171	J21	III	砂岩	6.5	20.5	48.4	47.0	34.6	14.8	36.0	完		打矢部遺物(片)	



表72 凹・敲・叩・磨石類計測・観察表(2)

No.	出土区	部位	石材	法 量				機能・用途			敲打区分		印字	遺物分類	遺物番号	備 考
				長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	質量(kg)	凹	敲	磨	表	裏				
44	SD001N	03	安山岩	17.20	17.20	0.50	258.00									欠損
45	SD001C	03	砂岩	7.6	6.2	5.6	381.0				a + e					
46	SD001A	03	安山岩	8.3	7.7	5.2	455.0				a + o		a			
47	SD001A	03	輝岩	14.9	6.8	6.0	815.0				b					
48	SD001F	03	安山岩	16.80	17.40	14.50	356.00				b + R	b				欠損
49	SD001N	03	安山岩	11.4	10.3	4.8	923.0				b + i	b				
50	SD001A	03	安山岩	10.2	8.1	4.9	514.0				b + e		a			
51	SD001N	03	安山岩	9.1	8.6	5.7	214.0				c + e	a				
52	SD001D	03	砂岩	10.5	8.9	2.2	420.0				d	a				
53	SD001D	03	砂岩	12.1	6.1	2.1	412.0				d	e			88	
54	SD001N	03	安山岩	11.1	9.1	5.2	822.0				d + i	d				
55	SD001N	03	安山岩	16.20	11.1	4.5	449.60				i					欠損
56	SD001A	03	砂岩	14.0	8.2	3.2	661.0				e					
57	SD001N	03	砂岩	8.2	4.9	3.4	195.0				e			89		
58	SD001E	03	安山岩	5.1	3.4	2.1	49.0				e					
59	SD001A	03	安山岩	112.20	9.1	6.8	1325.20				e					欠損
60	SD001N	03	安山岩	16.60	14.40	3.50	1315.00				e					欠損
61	SD001C	03	安山岩	9.60	5.60	4.70	1443.00				e					欠損
62	SD001N	03	安山岩	13.8	6.3	4.1	565.0				f					
63	SD001A	03	砂岩	6.3	5.1	3.6	156.0				f					
64	SD001A	03	砂岩	14.8	5.4	5.6	389.0				f				90	
65	SD001C	03	安山岩	7.7	8.0	6.4	537.0				f				91	
66	SD001E	03	砂岩	17.5	8.0	5.1	968.0				f					
67	SD001B	03	砂岩	7.5	4.7	3.6	187.0				f + R				92	
68	SD001A	03	安山岩	11.20	8.1	5.2	758.0				f + e + b	d			93	
69	SD001N	03	砂岩	4.1	3.8	1.4	22.0				f				94	
70	SD001C	03	安山岩	12.5	5.2	4.4	434.0				f					
71	SD001N	03	砂岩	18.90	6.0	3.7	2216.00				R					
72	SD001A	03	安山岩	11.1	10.4	6.0	604.0				i					
73	SD001N	03	安山岩	10.2	9.2	4.3	678.0				i					
74	SD001D	03	安山岩	11.6	9.6	4.6	864.0				i					
75	SD001E	03	安山岩	12.7	8.20	3.9	706.0				b + e					
76	SD001N	03	砂岩	112.10	16.80	7.60	1722.00						片			欠損
77	SD001N	03	安山岩	19.80	19.20	16.00	1966.00						片			欠損
78	SD001N	03	砂岩	18.0	8.9	5.5	1369.0						片		95	
79	SD001N	03	安山岩	21.5	12.5	5.1	2784.0						片			
80	SD001D	03	安山岩	9.2	8.2	3.0	331.0							a		
81	SD001B	03	砂岩	9.7	9.4	4.1	524.0							a		
82	SD001N	03	安山岩	11.1	9.0	3.7	508.0							a		
83	SD001D	03	安山岩	10.9	10.0	5.5	992.0							a		
84	SD001C	03	安山岩	16.40	19.40	14.90	1432.00							a		欠損
85	SD001C	03	安山岩	15.40	19.60	14.10	1318.00							a		欠損
86	SD001C	03	砂岩	9.3	6.9	5.5	505.0							a		
87	SD001A	03	安山岩	17.20	16.90	14.00	2310.00				R		片			欠損
88	SD001C	03	安山岩	15.5	7.2	4.4	961.0				f		a		96	
89	SD001A	03	安山岩	14.1	10.7	5.2	1178.0				f		a		97	
90	SD001E	03	安山岩	11.5	8.1	4.9	606.0				b		b		98	
91	SD001N	03	安山岩	9.4	7.2	4.2	451.0				b		a			
92	SD001N	03	安山岩	15.40	17.40	12.50	2211.00				R		b			欠損
93	SD001D	03	安山岩	17.60	6.6	4.8	1368.00				b		b			欠損
94	SD001D	03	安山岩	16.20	7.9	5.2	1422.00				b		b			欠損
95	SD001C	03	安山岩	16.80	16.90	15.40	1526.00				b		b			欠損
96	SD001C	03	安山岩	15.60	18.90	14.20	2248.00				b		b			欠損
97	SD001N	03	安山岩	7.9	7.4	4.5	447.0				i		a			
98	SD001N	03	安山岩	17.20	18.90	14.00	1414.00				i		a			欠損
99	SD001N	03	安山岩	9.8	8.4	6.7	812.0				i + e		a			
100	SD001A	03	流紋岩	10.7	6.0	4.0	422.0				i + e		a		99	
101	SD001C	04	砂岩	10.1	8.4	4.1	350.0								123	
102	SD001B	04	安山岩	9.4	8.2	3.8	560.9				a					
103	SD001C	04	安山岩	11.3	8.6	7.2	1008.0				a	a				
104	SD001C	04	安山岩	15.80	16.60	13.70	1713.00				a					欠損
105	SD001C	04	安山岩	14.1	5.2	4.4	563.0				a + f					
106	SD001D	04	安山岩	10.20	7.1	3.1	361.0				a + f					
107	SD001C	04	砂岩	6.4	4.5	3.7	147.0				e				124	
108	SD001E	04	砂岩	5.2	3.9	1.6	49.0				f				125	

表72 凹・敲・叩・磨石類計測・観察表(3)

No	出 土 区	層位	石 材	注 意				機能・用途			磨打痕分類		形状	磨物 分類	遺物 番号	備 考
				長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	凹	叩	磨	表	裏				
109	SD001B	04	燧石	7.5	6.3	3.8	241.9	○	○	○	a + f	a				
110	SD001A	04	燧石	8.6	5.8	4.1	293.0	○	○	○	f					126
111	SD001B	04	砂岩	29.5	8.9	1.6	1291.9	○	○	○	i					127
112	SD001C	04	砂岩	8.0	5.4	3.9	156.0	○	○	○	a + f					128
113	SD001B	04	砂岩	8.3	4.9	2.6	179.0	○	○	○	b + f	d				129
114	SD001C	04	燧石	15.2	16.0	12.1	1165.0	○	○	○	b					欠損
115	SD001B	04	燧石	19.3	16.0	13.0	1367.0	○	○	○	b					欠損
116	SD001B	04	燧石	11.8	19.2	11.5	1672.0	○	○	○	b					欠損
117	SD001C	04	砂岩	7.2	16.7	3.2	199.0	○	○	○	b					欠損
118	SD001A	04	燧石	6.7	5.4	3.7	203.9	○	○	○	b + e					
119	SD001C	04	燧石	8.4	6.9	4.3	379.8	○	○	○	d + j	a				130
120	SD001D	04	燧石	19.6	8.6	6.5	863.0	○	○	○	b + b					
121	SD001B	04	砂岩	11.2	4.8	2.1	269.9	○	○	○	e + j					131
122	SD001B	04	砂岩	14.6	3.8	2.1	225.0	○	○	○	f					
123	SD001D	04	砂岩	16.8	15.6	13.0	2221.0	○	○	○	e					欠損
124	SD001B	04	燧石	12.0	17.7	15.4	1422.0	○	○	○	b					欠損
125	SD001B	04	砂岩	6.9	17.0	4.8	389.0	○	○	○	j					欠損
126	SD001B	04	砂岩	25.8	5.1	4.9	491.0	○	○	○	e					
127	SD001D	04	砂岩	15.7	6.6	3.8	563.0	○	○	○	e					
128	SD001B	04	砂岩	13.9	6.6	4.9	758.0	○	○	○	e					
129	SD001C	04	燧石	5.5	4.7	4.8	136.9	○	○	○	e					
130	SD001B	04	砂岩	5.7	2.7	2.4	147.9	○	○	○	e					
131	SD001C	04	砂岩	11.3	5.3	4.7	1096.0	○	○	○	e					欠損
132	SD001A	04	燧石	8.7	7.1	4.7	418.9	○	○	○	e					
133	SD001A	04	燧石	9.7	3.5	3.2	232.0	○	○	○	e					
134	SD001C	04	砂岩	21.0	19.2	17.2	1269.0	○	○	○						132 欠損
135	SD001A	04	燧石	7.3	6.9	5.9	406.0	○	○	○						
136	SD001E	04	燧石	11.7	9.9	4.6	803.0	○	○	○						
137	SD001C	04	燧石	10.2	7.2	2.1	368.0	○	○	○						
138	SD001B	04	燧石	11.3	4.2	2.8	295.0	○	○	○						133
139	SD001D	04	砂岩	10.5	9.6	5.4	817.0	○	○	○						
140	SD001C	04	燧石	10.2	8.9	3.6	320.0	○	○	○						
141	SD001B	04	燧石	17.0	9.8	5.8	938.0	○	○	○						a
142	SD001B	04	燧石	17.1	19.1	13.3	1338.0	○	○	○						欠損
143	SD001B	04	燧石	19.0	13.8	14.3	1398.0	○	○	○						欠損
144	SD001B	04	燧石	19.5	18.2	14.0	1289.0	○	○	○						欠損
145	SD001C	04	燧石	9.8	8.0	4.2	472.9	○	○	○	b					
146	SD001B	04	燧石	8.5	8.5	2.5	367.0	○	○	○	b					
147	SD001C	04	燧石	10.1	6.8	2.1	370.0	○	○	○	b					
148	SD001A	04	燧石	9.5	8.7	4.7	501.0	○	○	○	b					
149	SD001D	04	燧石	10.5	16.4	14.7	1427.0	○	○	○	b					欠損
150	SD001A	04	燧石	7.3	8.2	3.9	254.0	○	○	○	a					行
151	SD001C	04	燧石	7.7	6.6	3.4	272.0	○	○	○	a					b
152	SD001C	04	燧石	19.2	6.4	4.3	1291.0	○	○	○	a					欠損
153	SD001C	04	燧石	16.0	18.9	14.9	1607.0	○	○	○	b + b					欠損
154	SD001C	04	燧石	16.1	15.0	14.9	1231.0	○	○	○	b + j					欠損
155	SD001D	04	燧石	16.1	16.7	14.9	1256.0	○	○	○	b + b + k					欠損
156	SD001C	04	燧石	16.2	9.1	5.8	756.0	○	○	○	d	d				a 134
157	SD001C	04	砂岩	17.0	8.9	4.8	849.0	○	○	○	e + e'	e				a 135
158	SD001C	04	燧石	9.6	7.2	4.4	478.0	○	○	○	a + b					b 136
159	SD001C	04	燧石	9.8	9.1	4.7	638.9	○	○	○	b					b
160	SD001D	04	砂岩	15.3	18.5	13.7	1292.0	○	○	○	b					欠損
161	SD001B	04	燧石	16.3	19.8	14.7	1436.0	○	○	○	b					欠損
162	SD001B	04	燧石	18.0	9.2	4.1	1184.0	○	○	○	e					欠損
163	SD001B	04	燧石	17.2	6.2	4.2	1399.0	○	○	○	e + b					欠損
164	SD001B	04	燧石	13.6	9.2	5.9	1671.0	○	○	○	j	b				
165	SD001D	05	砂岩	9.9	5.1	4.9	391.0	○	○	○						144
166	SD001D	05	燧石	12.8	10.3	4.6	852.0	○	○	○	a					
167	SD001B	06	燧石	7.1	6.0	2.3	162.0	○	○	○	a					
168	SD001A	05	燧石	13.1	10.9	5.5	1108.0	○	○	○	a					
169	SD001E	05	砂岩	9.9	7.4	3.6	382.0	○	○	○	a	a				
170	SD001E	05	燧石	16.2	10.4	4.1	1463.0	○	○	○	a					欠損
171	SD001A	06	砂岩	13.1	4.2	3.8	345.0	○	○	○	e + e'	c				145
172	SD001D	05	燧石	10.0	6.9	3.3	273.0	○	○	○	a					
173	SD001B	05	砂岩	12.0	5.7	2.1	329.0	○	○	○	e					

表72 凹・敲・叩・磨石類計測・観察表(4)

No	出土区	層位	石種	計測				機能・用途			磨打痕分類	印字	磨面分類	遺物番号	備考
				長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	凹	敲	磨					
174	SD00 B	05	安山岩	9.3	10.4	3.0	441.0	○							
175	SD00 B	05	安山岩	16.0	16.5	14.0	1380.0	○		b				欠損	
176	SD00 A	05	安山岩	15.7	18.7	14.5	1212.0	○		b				欠損	
177	SD00 B	05	安山岩	16.0	6.7	2.7	1318.0	○		b				欠損	
178	SD00 B	05	安山岩	16.4	14.0	13.3	1286.0	○		b				欠損	
179	SD00 B	05	安山岩	19.1	8.7	4.8	1416.0	○		b + e	b			欠損	
180	SD00 B	05	砂岩	8.3	4.5	2.8	128.0	○		a + f			146		
181	SD00 D	05	砂岩	10.7	5.8	3.7	227.0	○		b + e	b			147	
182	SD00 B	05	凝灰岩	15.9	6.0	4.2	594.0	○		e + i				148	
183	SD00 D	05	安山岩	15.3	16.2	14.0	1168.0	○		e				欠損	
184	SD00 A	05	凝灰岩	6.3	4.3	3.6	144.0	○		e					
185	SD00 B	05	安山岩	10.7	3.2	3.3	564.0	○		e					
186	SD00 B	05	砂岩	10.9	3.8	3.5	371.0	○		e					
187	SD00 A	05	砂岩	8.3	7.5	3.9	353.0	○			片				
188	SD00 C	05	花崗岩	7.2	4.9	2.5	147.0	○					149		
189	SD00 A	05	安山岩	8.6	8.4	3.3	369.0	○			片				
190	SD00 B	05	凝灰岩	6.5	5.1	4.1	189.0					a			
191	SD00 B	05	安山岩	10.2	9.8	4.3	632.0					a			
192	SD00 B	05	安山岩	11.3	9.5	5.0	948.0					a			
193	SD00 B	05	安山岩	10.8	9.1	3.8	535.0					a			
194	SD00 B	05	安山岩	16.5	9.6	5.2	1568.0					a		欠損	
195	SD00 C	05	安山岩	110.2	15.8	14.2	1566.0					a		欠損	
196	SD00 A	05	安山岩	17.0	11.5	10.0	1542.0					a		欠損	
197	SD00 A	05	安山岩	14.5	16.0	14.0	1860.0					a		欠損	
198	SD00 A	05	安山岩	16.0	11.1	11.5	1313.0					b		欠損	
199	SD00 R	05	安山岩	17.0	9.4	4.6	1560.0					b		欠損	
200	SD00 B	05	安山岩	16.0	19.7	14.1	1392.0					b		欠損	
201	SD00 B	05	安山岩	12.2	11.6	4.4	1651.0	○			a		a		
202	SD00 B	05	安山岩	16.0	110.0	14.2	1389.0	○		b		b		欠損	
203	SD00 B	05	安山岩	111.0	19.3	14.0	1675.0	○		e		a		欠損	
204	SD00 D	05	安山岩	110.4	17.5	15.2	1519.0	○		e		b		欠損	
205	SD00 B	05	安山岩	10.2	7.2	3.3	397.0	○		b		b		150	
206	SD00 B	05	安山岩	17.2	8.7	5.2	1508.0	○		b		a		欠損	
207	SD00 B	05	安山岩	19.3	9.2	4.0	1421.0	○		b		a		欠損	
208	SD00 D	05	安山岩	15.4	18.1	14.2	1389.0	○		b		b		欠損	
209	SD00 E	06	安山岩	8.0	7.7	4.0	343.0	○		a	a				
210	SD00 C	06	安山岩	14.7	17.0	14.7	1237.0	○		a				欠損	
211	SD00 C	06	安山岩	19.0	19.3	14.3	1411.0	○		a				欠損	
212	SD00 B	06	安山岩	9.7	10.3	13.9	1296.0	○		a				欠損	
213	SD00 D	06	安山岩	16.4	18.0	13.7	1254.0	○		a				欠損	
214	SD00 C	06	安山岩	9.9	8.9	3.7	482.0	○		a + e					
215	SD00 C	06	凝灰岩	9.9	9.1	3.9	507.0	○		e					
216	SD00 C	06	安山岩	10.4	8.4	2.8	425.0	○		d					
217	SD00 C	06	輝岩	7.6	5.2	2.9	166.0	○		e				170	
218	SD00 C	06	安山岩	8.1	5.9	2.4	191.0	○		e					
219	SD00 C	06	安山岩	6.2	5.7	3.2	186.0	○		e					
220	SD00 E	06	安山岩	5.9	3.3	3.9	161.0	○		e					
221	SD00 C	06	砂岩	6.8	4.7	3.7	171.0	○		e				171	
222	SD00 C	06	安山岩	18.0	19.2	12.6	1271.0	○		e				欠損	
223	SD00 D	06	安山岩	16.4	8.8	4.9	1320.0	○		e				欠損	
224	SD00 D	06	凝灰岩	6.8	4.9	4.0	369.0	○		e + b					
225	SD00 E	06	安山岩	11.2	6.1	3.3	573.0	○		b					
226	SD00 C	06	安山岩	12.3	16.7	15.7	1661.0					a		欠損	
227	SD00 C	06	安山岩	15.2	18.1	14.3	1278.0					a		欠損	
228	SD00 D	06	安山岩	16.3	119.9	13.0	1510.0					a		欠損	
229	SD00 F	06	安山岩	16.0	8.2	4.5	1374.0					a		欠損	
230	SD00 C	06	安山岩	17.0	17.4	14.0	1229.0					a		欠損	
231	SD00 C	06	安山岩	110.3	9.0	3.9	1490.0					b		欠損	
232	SD00 D	06	輝岩	4.3	3.6	1.9	40.0	○		e		両		172	
233	SD00 A	06	安山岩	16.1	110.0	15.0	1444.0	○		e		a		173 欠損	
234	SD00 C	06	安山岩	9.7	8.0	4.1	507.0	○		e		b			
235	SD00 C	06	安山岩	13.0	11.0	4.6	976.0			j		b		174	
236	SD00 E	06	凝灰岩	15.7	18.0	16.0	1265.0	○		e				欠損	
237	P 36	IV	砂岩	7.4	6.0	3.4	135.0	○							
238	H 18	I	安山岩	7.5	6.0	4.1	230.0	○		a				224	

表72 凹・敲・叩・磨石類計測・観察表(5)

No.	出 土 区	層位	石 材	計 算				機能・用途			敲打痕分類		用途	断面分類	遺物番号	備 考
				長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	質量(g)	凹	敲	磨	凸	溝				
239	H24	V	灰山石	10.2	9.3	4.3	602.0	○								
240	O36	III	灰山石	11.3	8.9	5.2	888.0	○			a					
241	L35	III	灰山石	7.8	6.3	4.1	303.0	○			a					
242	K20	II	灰山石	7.7	4.7	4.1	171.0	○			a				225	
243	V32	II	灰山石	6.7	6.1	3.8	225.0	○			a					
244	U37	II	砂岩	8.8	4.0	3.6	173.0	○			a					
245	M35	III	灰山石	(5.3)	(9.5)	(4.6)	(337.0)	○			a					欠損
246	N38	IV	灰山石	9.3	7.5	4.9	513.0	○			a					
247	K21	IV	砂岩	8.4	7.2	3.2	290.0	○			a	a				
248	H19	III	灰山石	(7.2)	11.8	4.7	692.00	○			a					欠損
249	H19	II	灰山石	(7.1)	(9.5)	(4.6)	(383.0)	○			d				226	使用中大断面
250	I31	III	灰山石	(8.2)	(8.2)	(4.1)	(297.0)	○			a					欠損
251	L35	II	灰山石	9.8	8.1	3.8	480.0	○			a + e					
252	L36	III	灰山石	9.4	8.9	3.8	773.0	○			a + f					
253	N37	III	砂岩	6.8	5.8	3.0	177.0	○			b	b			227	
254	Q34	III	灰山石	8.5	7.5	3.6	369.0	○			a + e	a				
255	M36	III	流紋岩	7.1	4.5	3.9	192.0	○			a + e + f					
256	O35	III	灰山石	8.7	7.0	4.8	438.0	○			a + b					
257	N25	I	灰山石	10.3	8.4	3.0	370.0	○			d	d				228
258	H18	II	砂岩	(11.0)	6.0	4.2	(519.0)	○			d	d				229 欠損
259	H19	II	砂岩	7.6	4.5	3.5	169.0	○			e					230
260	M36	III	流紋岩	9.0	3.6	3.6	175.0	○			e					231
261	P38	IV	砂岩	14.1	6.2	3.6	449.0	○			e					232
262	H22	II	砂岩	18.0	5.5	4.0	661.0	○			e					233
263	K35	II	灰山石	5.4	3.4	3.1	81.0	○			f					234
264	J30	III	灰山石	6.1	4.0	3.7	117.0	○			f					235
265	Y39	III	灰山石	8.5	8.3	3.5	423.0	○			b					
266	N35	III	灰山石	10.4	8.6	5.2	792.0	○			b					
267	O40	III	灰山石	6.3	4.6	4.6	186.0	○			b					
268	N39	III	砂岩	6.3	4.6	3.4	140.0	○			f					236
269	N37	III	灰山石	7.7	6.8	4.4	393.0	○			b	b				
270	L38	IV	灰山石	10.3	8.9	8.1	1111.0	○			b	a				
271	M36	III	砂岩	7.9	5.9	3.8	214.0	○			b	a				
272	M37	III	灰山石	(9.8)	(12.0)	4.3	(789.0)	○			b					欠損
273	M36	IV	砂岩	(9.4)	(9.0)	(4.9)	(658.0)	○			b					欠損
274	P23	III	礫岩	(9.1)	(12.7)	(3.2)	(534.0)	○			b					欠損
275	M37	III	砂岩	6.7	5.0	4.0	173.0	○			b					
276	N36	III	灰山石	(6.6)	(6.8)	(4.9)	(269.0)	○			b					欠損
277	P37	IV	砂岩	6.0	4.9	3.7	149.0	○			f					237
278	O35	III	灰山石	9.5	6.9	4.1	453.0	○			b + e					
279	P37	IV	流紋岩	6.6	4.6	3.8	170.0	○			f					238
280	N39	III	砂岩	14.3	3.8	2.2	222.0	○			f					239
281	P23	II	砂岩	14.1	6.1	3.9	567.0	○			f					240
282	K21	III	灰山石	15.3	7.3	4.0	791.0	○			f					241
283	Q34	II	砂岩	7.9	6.0	2.4	161.0	○			b + f					242
284	M37	III	砂岩	(4.2)	4.9	(3.8)	(104.0)	○			c					欠損
285	N39	III	流紋岩	11.4	7.6	3.2	684.0	○			c					
286	M36	IV	灰山石	8.1	7.8	4.9	390.0	○			c					
287	N36	III	灰山石	9.9	5.9	3.8	741.0	○			c	b				
288	O35	II	砂岩	8.7	6.7	5.6	447.0	○			e					
289	M36	IV	砂岩	(9.1)	(7.7)	(5.1)	(547.0)	○			c + e					欠損
290	N38	IV	砂岩	7.9	4.8	3.6	179.0	○			a + i					243
291	P36	IV	礫岩	9.7	8.4	4.7	661.0	○			d					
292	N36	III	灰山石	9.8	8.3	2.9	392.0	○			d					
293	N37	IV	礫岩	7.9	5.1	3.2	168.0	○			f					
294	P37	IV	砂岩	7.3	4.3	4.1	181.0	○			f					
295	Q45	II	灰山石	(7.0)	7.9	3.8	(355.0)	○			d + e	b				244 欠損
296	N36	III	灰山石	(7.7)	7.6	5.3	(484.0)	○			d + e					欠損
297	O35	III	灰山石	(13.9)	4.0	3.8	(392.0)	○			d + e	d				欠損
298	H24	V	灰山石	11.9	8.3	6.0	873.0	○			d + b					
299	O37	IV	灰山石	6.0	5.4	3.4	153.0	○			a + i	b				245
300	O35	III	灰山石	9.9	4.7	3.8	234.0	○			b + e					246
301	N36	III	砂岩	(11.2)	7.6	(3.5)	(444.0)	○			d + i + j	d				247 欠損
302	H22	II	灰山石	2.1	7.0	1.7	312.0	○			i					248
303	H19	II	灰山石	10.4	6.3	3.2	530.0	○			e					



表72 凹・敲・叩・磨石類計測・観察表(7)

No	出 土 区	層位	石 材	測 量				機能・用途		敲打成分		叩き	磨面 分類	遺物 番号	備 考
				長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	質量(g)	凹	磨	表	裏				
369	N37	Ⅲ	砂岩	10.8	9.5	6.4	967.0						a	259	
370	H19	Ⅲ	安山岩	10.4	9.6	4.3	679.0						b		
371	H23	Ⅳ	凝灰	12.8	10.6	3.8	862.0						b		
372	H19	Ⅲ	砂岩	8.9	7.9	3.3	338.0						b	251	
373	H19	Ⅲ	安山岩	10.00	5.6	3.4	321.00						b		欠損
374	H23	I	安山岩	5.50	9.5	3.3	249.00						b		欠損
375	H19	Ⅱ	安山岩	6.40	10.0	4.7	432.00						b		欠損
376	J22	Ⅱ	砂岩	9.90	9.80	3.60	321.60						b		欠損
377	K30	Ⅱ	安山岩	4.50	7.20	14.40	275.00						b		欠損
378	L24	Ⅲ	安山岩	7.00	8.6	3.8	391.00						b		欠損
379	N36	Ⅱ	砂岩	16.10	9.20	3.30	320.00						b	252	欠損
380	N37	Ⅳ	凝灰岩	4.60	8.9	5.7	280.00						b		欠損
381	N35	Ⅲ	安山岩	15.70	10.90	4.30	420.00						b		欠損
382	O37	Ⅲ	安山岩	6.7	6.1	5.0	265.0						a		
383	X35	Ⅲ	安山岩	9.8	9.7	3.8	530.0						a		
384	N37	Ⅳ	凝灰岩	10.5	8.9	5.0	746.0						a		
385	L26	Ⅲ	安山岩	6.60	9.10	14.40	328.00						a		欠損
386	O36	Ⅲ	安山岩	9.30	19.40	4.70	362.00						a		欠損
387	O36	Ⅳ	安山岩 大目赤	7.30	16.60	4.9	426.00						a		欠損
388	H21	Ⅱ	安山岩	9.80	8.8	4.2	502.00						a		欠損
389	F19	Ⅱ	安山岩	6.50	8.9	3.5	329.00						a		欠損
390	G20	Ⅳ	砂岩	10.00	7.2	3.2	442.00						c	254	欠損 両面に二 色色料付着
391	H19	Ⅲ	安山岩	5.50	9.3	3.7	306.00						a		欠損
392	D15	Ⅲ	安山岩	4.40	8.20	3.90	374.00						a		欠損
393	J23	Ⅲ	安山岩	9.5	7.8	4.6	522.0					b			
394	O18	V	安山岩	6.1	5.9	4.8	213.0					b			
395	O36	Ⅳ	安山岩	14.5	15.0	4.3	1291.0					d			
396	O37	Ⅳ	砂岩	8.9	7.2	4.4	386.0					a			
397	I18	Ⅱ	砂岩	6.3	5.5	4.2	186.0					a			
398	O34	Ⅱ	砂岩	18.40	10.1	5.7	652.00					a			欠損
399	T34	Ⅳ	砂岩	9.0	8.8	4.3	542.0					a			
400	R33	I	安山岩	9.2	9.5	4.2	624.0					a + e			
401	R34	Ⅲ	安山岩	9.4	8.7	5.5	663.0					a			254
402	H19	Ⅱ	砂岩	11.7	4.8	3.2	234.0					d + e			255
403	O35	Ⅱ	安山岩	11.7	9.2	8.3	1066.0					d + e + c			256
404	H12	Ⅱ	砂岩	8.8	8.4	4.3	452.0					a + k			257
405	L25	Ⅱ	安山岩	9.6	7.3	4.5	450.0					d + k	d		258
406	F19	Ⅱ	安山岩	19.40	7.7	3.3	248.00					e			欠損
407	H18	I	安山岩	7.80	6.5	3.7	322.00					a			欠損
408	G22	Ⅱ	安山岩	5.40	7.7	3.7	322.00					a			欠損
409	H22	Ⅱ	安山岩	6.30	7.8	3.8	386.00					a			欠損
410	H20	Ⅳ	安山岩	18.20	7.7	4.9	432.00					a			欠損
411	O34	Ⅱ	安山岩	9.1	7.6	3.7	424.0					a			欠損
412	H20	Ⅳ	安山岩	6.30	7.5	4.4	322.00					b			欠損
413	H20	Ⅳ	砂岩	18.20	7.2	4.3	395.00					b			欠損
414	J25	V	凝灰岩	9.4	7.3	3.9	328.0					b			
415	H19	Ⅲ	安山岩	18.60	7.0	4.4	454.00					b			欠損
416	Y35	Ⅳ	安山岩	8.2	7.1	4.8	438.0					b			
417	N37	Ⅳ	安山岩	9.7	8.6	4.0	322.0					b			
418	Q34	Ⅱ	安山岩	18.80	7.8	5.2	913.00					b			欠損
419	H21	Ⅳ	砂岩	10.0	9.6	4.7	657.0								259
420	P35	Ⅱ	砂岩	14.8	8.3	3.4	741.0					a			260
421	H24	V	砂岩	10.2	8.0	4.2	511.0					b + e			261
422	H19	Ⅱ	安山岩	10.3	7.2	4.4	545.0					b			262

表73 石皿計測・観察表

No	出土区	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	分	期	保存状況	遺物番号
1	SBA05	03	凝灰岩	12.1	14.7	4.0	12.5	1		完好	27
2	SBC21	02	砂岩	(25.0)	(22.5)	(6.4)	(4.7)	1		欠損	42
3	SDD01C	03	凝灰岩	(8.6)	10.4	(7.4)	(1.6)	1		欠損	
4	SDD01D	03	安山岩	(12.3)	16.5	4.1	(1.4)	2		欠損	
5	SDD01A	03	凝灰岩	(8.3)	(16.9)	8.7	(2.6)	2		欠損	
6	SDD01C	04	砂岩	(33.4)	(19.4)	(2.3)	(0.8)	1		欠損	
7	SDD01A	04	砂岩	(9.3)	(11.3)	4.7	(0.9)	1		欠損	
8	SDD01C	04	安山岩	(9.6)	(9.9)	6.6	(1.0)	2		欠損	
9	SDD01A	04	安山岩	21.0	17.0	4.3	2.8	2		完好	
10	SDD01C	04	安山岩	(14.2)	16.3	6.1	(1.0)	2		欠損	
11	SDD01C	04	凝灰岩	(11.9)	(12.2)	8.5	(2.7)	2		欠損	
12	SDD01B	04	安山岩	(11.3)	16.0	4.8	(1.6)	2		欠損	
13	SDD01A	04	安山岩	26.5	17.5	6.7	5.1	2		欠損	
14	SDD01C	05	砂岩	(19.0)	(17.0)	14.0	(4.1)	2		欠損	151
15	SDD01A	05	安山岩	(11.9)	26.0	5.7	(3.7)	2		欠損	
16	SDD01C	05	安山岩	(16.3)	29.5	5.5	(4.6)	2		欠損	
17	SDD01B	05	凝灰岩	(11.8)	(16.5)	16.6	(2.9)	2		欠損	
18	SDD01C	06	安山岩	(9.3)	22.0	4.4	(2.0)	2		欠損	
19	R45	III	砂岩	25.0	29.5	10.7	14.0	1		完好	263
20	R33	I	安山岩	(12.3)	23.5	(4.4)	(2.2)	1		欠損	264
21	G19	III	砂岩	12.5	25.5	3.8	2.8	1		完好	
22	H21	IV	安山岩	(9.9)	22.0	6.8	(7.8)	2		欠損	

表74 磁石計測・観察表(1)

No	出土区	層位	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(kg)	分	期	研磨面	保存状況	遺物番号
1	SBA07	04	砂岩	33.3	5.9	3.0	372.0			3b多(字)	1	完好
2	SBA08	01	砂岩	4.0	3.1	1.8	26.9			3b複(字)	1	完好
3	SBA12	04	砂岩	35.7	9.3	2.9	916.0			1a(調)	2	欠損
4	SBA16	03	砂岩	(15.4)	(16.3)	(2.8)	(714.0)			1a(調)	2	欠損
5	SBA16	03	砂岩	(1.9)	(2.3)	(0.3)	(3.6)			5	1	欠損
6	SBA16	02	砂岩	19.8	(2.9)	(1.6)	(5.4)			5	1	欠損
7	SBA19	04	砂岩	(11.2)	13.9	(1.8)	(610.0)			1a(調)	2	欠損
8	SBA19	04	凝灰岩	11.8	9.1	3.4	627.0			1a(調)	3	完好
9	SBA19	01	砂岩	(4.9)	3.8	2.9	(74.0)			3b単(字)	3	欠損
10	SBA20	01	砂岩	(2.2)	(1.3)	(1.3)	(11.0)			5	1	欠損
11	SBA23	03	砂岩	(14.5)	(14.4)	(1.4)	(463.0)			1a(調)	2	欠損
12	SBA35	04	凝灰岩	8.5	4.0	2.3	90.0			2a(調)	6	完好
13	SBA35	03	砂岩	(14.0)	(12.5)	(7.3)	(1791.0)			1a(調)	1	欠損
14	SBC07	04	砂岩	23.5	12.6	6.5	1786.0			4(調)	2	完好
15	SBC05	02	砂岩	5.6	2.9	2.1	32.0			2b多(字)	2	完好
16	SBC24	01	凝灰岩	(6.6)	(6.4)	(1.9)	(169.0)			1a(調)	2	欠損
17	SBC28	04	砂岩	(5.1)	(4.3)	1.5	(52.0)			2a(調)	2	欠損
18	SBE01	01	凝灰岩	9.0	2.5	1.5	48.0			2a(字)	6	完好
19	SDD01E	02	砂岩	(5.7)	(5.5)	(2.6)	(131.0)			1a(調)	2	欠損
20	SDD01N	02	砂岩	(6.5)	(2.6)	(3.3)	(126.0)			1a(調)	1	欠損
21	SDD01E	02	砂岩	(5.9)	(2.4)	(1.7)	(43.6)			2a(字)	4	欠損
22	SDD01E	02	砂岩	(5.3)	(2.7)	(1.2)	(35.0)			2a(字)	3	欠損
23	SDD01C	03	黒川ンツル式	(6.4)	(7.8)	(1.5)	(114.0)			1a(字)	1	欠損
24	SDD01C	03	砂岩	(4.4)	(6.0)	(0.5)	(20.4)			1a(字)	2	欠損
25	SDD01C	03	凝灰岩	(3.9)	(4.2)	(1.2)	(17.0)			1a(字)	1	欠損
26	SDD01B	03	凝灰岩	(2.5)	(2.2)	(1.4)	(67.0)			1a(字)	2	欠損
27	SDD01N	03	砂岩	(6.5)	(3.2)	(1.1)	(25.0)			1a(字)	1	欠損
28	SDD01D	03	砂岩	(5.7)	(3.6)	(2.5)	(32.4)			1a(字)	1	欠損
29	SDD01A	02	安山岩	(4.7)	(5.3)	(2.7)	(103.0)			1a(字)	1	欠損
30	SDD01F	03	砂岩	(2.3)	(2.7)	(2.5)	(40.4)			1a(字)	3	欠損
31	SDD01C	03	砂岩	(6.3)	(7.0)	(1.4)	(37.4)			1a(字)	1	欠損
32	SDD01N	03	凝灰岩	(5.8)	(7.3)	(1.5)	(69.8)			1a(字)	2	欠損
33	SDD01N	03	砂岩	16.0	12.6	3.2	992.0			1b(字)	1	完好
34	SDD01C	03	砂岩	(11.9)	(8.2)	(6.9)	(356.0)			1b(調)	2	欠損
35	SDD01D	03	砂岩	7.7	4.5	2.2	96.0			2a(字)	6	欠損
36	SDD01N	03	凝灰岩	(3.3)	(5.3)	(1.7)	(22.0)			2a(字)	1	欠損
37	SDD01C	03	砂岩	(2.2)	(3.2)	(0.7)	(6.0)			2a(字)	2	欠損
38	SDD01A	03	凝灰岩	(2.6)	(1.7)	(0.8)	(6.6)			2a(字)	2	欠損

表74 磁石計測・観察表(2)

No	出 土 区	層位	石 材	長径(cm)	短径(cm)	厚(mm)	質量(kg)	分 類	備 考 備 註	遺物状況	遺物番号
39	SD001B	03	砂岩	(4.6)	(2.7)	(2.8)	(31.0)	2a (平)	2	欠損	
40	SD001N	03	砂岩	(3.2)	(7.1)	(2.2)	(51.0)	2a (平)	1	欠損	
41	SD001C	03	灰岩	(9.7)	(5.2)	(4.4)	(205.0)	3a重 (平)	3	欠損	
42	SD001A	03	砂岩	(2.9)	(3.3)	(1.1)	(13.0)	2a輕 (平)	4	欠損	102
43	SD001B	03	砂岩	(8.4)	5.6	2.9	(68.0)	3b重 (平)	3	欠損	103
44	SD001C	03	紫面岩	(12.4)	(11.4)	(1.4)	(331.0)	3 (平)	1	欠損	
45	SD001N	03	凝灰岩	(4.5)	(4.6)	(1.2)	(14.0)	不明 (平)	1	欠損	
46	SD001A	04	砂岩	(8.9)	(3.6)	6.9	(272.0)	1a (平)	4	欠損	
47	SD001B	04	灰岩	(6.2)	(2.1)	(2.1)	(65.0)	1a (平)	1	欠損	
48	SD001C	04	灰岩	(4.8)	(3.4)	(2.6)	(65.0)	1a (平)	1	欠損	
49	SD001C	04	灰岩	(5.1)	(4.2)	(3.1)	(57.0)	1a (平)	3	欠損	
50	SD001B	04	灰岩	(5.6)	(3.0)	(1.8)	(32.0)	1a (平)	3	欠損	
51	SD001B	04	灰岩	(3.2)	(2.8)	(5.0)	(90.0)	1a (平)	1	欠損	
52	SD001B	04	灰岩	(1.6)	(3.7)	(2.3)	(36.0)	1a (平)	2	欠損	
53	SD001B	04	凝灰岩	(6.3)	(5.6)	(3.1)	(169.0)	1a (平)	2	欠損	
54	SD001C	04	砂岩	(11.4)	(8.2)	(7.4)	(461.0)	1a (平)	1	欠損	
55	SD001C	04	灰岩	(5.3)	(2.8)	(6.7)	(14.0)	2a (平)	1	欠損	
56	SD001N	04	砂岩	(5.8)	(2.8)	(1.2)	(49.0)	2a (平)	3	欠損	132
57	SD001C	04	砂岩	7.9	6.4	3.4	(83.0)	3b重 (平)	1	欠損	
58	SD001C	04	砂岩	3.5	4.4	3.0	(66.0)	3b輕 (平)	2	欠損	138
59	SD001D	05	灰岩	(2.7)	(4.7)	(2.5)	(64.0)	1a (平)	2	欠損	
60	SD001D	05	砂岩	(4.1)	(7.9)	(3.4)	(115.0)	1a (平)	1	欠損	
61	SD001B	05	砂岩	(2.5)	(4.3)	1.1	(31.0)	不明 (平)	1	欠損	
62	SD001C	06	凝灰岩	(5.1)	(4.6)	3.2	(142.0)	1a (平)	2	欠損	
63	M36	III	砂岩	17.5	14.4	2.8	(256.0)	1a (平)	2	欠損	
64	S28	I	十一号	8.1	6.7	4.7	(87.0)	1a (平)	1	欠損	
65	M17		凝灰岩質凝灰岩	(5.5)	(5.1)	(3.2)	(43.0)	1a (平)	1	欠損	
66	W48	III	砂岩	(12.1)	7.7	1.8	(233.0)	1a (平)	1	欠損	
67	R45	III	凝灰岩	(6.4)	8.5	3.0	(499.0)	1a (平)	1	欠損	
68	I17		砂岩	(14.0)	(7.5)	(2.4)	(499.0)	1a (平)	1	欠損	
69	G18	III	凝灰岩	(8.8)	(6.9)	(7.2)	(288.0)	1a (平)	1	欠損	
70	M16		砂岩	(4.5)	(2.4)	(6.9)	(39.0)	1a (平)	1	欠損	
71	I11	IV	砂岩	(3.8)	(1.4)	(6.3)	(5.0)	2a (平)	5	欠損	265
72	Q34	II	砂岩	9.4	2.0	1.4	(32.0)	2a (平)	6	欠損	
73	I49	I	灰岩	13.3	2.0	1.6	(94.0)	2a (平)	3	欠損	
74	V41	IV	灰岩	6.1	1.8	0.5	(9.0)	2a (平)	5	欠損	266
75	T42	III	砂岩	16.5	3.0	5.1	(396.0)	2a (平)	1	欠損	
76	N29		凝灰岩	(7.4)	(3.4)	(1.3)	(46.0)	2a (平)	1	欠損	
77	N36	III	凝灰岩	(5.9)	3.1	1.3	(47.0)	2a (平)	3	欠損	
78	W48	III	灰岩	(3.7)	2.2	0.6	(9.0)	2a (平)	1	欠損	
79	U32	I	凝灰岩	11.7	3.3	1.9	(144.0)	2a (平)	4	欠損	267
80	R45	III	砂岩	18.7	2.8	4.5	(379.0)	2b (平)	1	欠損	
81	U31	II	砂岩	(4.3)	2.5	0.4	(16.0)	2b (平)	4	欠損	
82	L38	III	砂岩	(17.0)	(7.6)	(6.3)	(1607.0)	3b重 (平)	1	欠損	
83	R45	III	砂岩	16.9	6.9	5.8	(473.0)	3b重 (平)	1	欠損	268
84	L18	V	砂岩	6.0	4.0	2.1	(87.0)	3b輕 (平)	1	欠損	269
85	M29	III	砂岩	5.1	2.9	1.7	(25.0)	3b輕 (平)	2	欠損	270
86	K22	III	砂岩	3.1	3.8	1.6	(6.0)	3b輕 (平)	1	欠損	
87	O35	III	砂岩	8.9	2.9	1.8	(75.0)	3b重 (平)	4	欠損	271
88	U29	II	砂岩	14.4	8.6	4.4	(989.0)	3b重 (平)	2	欠損	272
89	K30		砂岩	(18.4)	(11.0)	6.3	(1956.0)	3b重 (平)	1	欠損	
90	L21	I	灰岩	(3.1)	(3.1)	(6.4)	(11.0)	3 (平)	1	欠損	
91	M17		凝灰岩質凝灰岩	(4.3)	(2.3)	(6.9)	(15.0)	3 (平)	2	欠損	
92	R45	III	灰岩	(8.8)	(4.0)	(4.1)	(183.0)	3 (平)	2	欠損	

表75 石棒計測表

No	出土区	層位	石 材	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	質量(g)	遺物番号
1	S0001B	94	結晶片岩	(127.0)	33.2	20.2	(127.7)	139
2	L19	IV	結晶片岩	(68.0)	(24.0)	(14.7)	(31.2)	273
3	K21	III	結晶片岩	(26.8)	(13.5)	4.9	(2.8)	
4	C18		結晶片岩	(72.0)	(27.9)	(18.1)	(49.4)	274

表76 勾玉計測表

No	出土区	層位	石 材	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	質量(g)	遺物番号
1	S35	III	結晶片岩	32.0	12.0	10.1	8.0	275

表77 有孔円盤計測表

No	出土区	層位	石 材	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	質量(g)	遺物番号
1	S0001D	91	結晶片岩	22.3	20.9	4.3	4.0	69
2	S0001C	91	結晶片岩	23.4	20.8	3.1	5.0	70

表78 異形部分磨製石器計測表

No	出土区	層位	石 材	長 (mm)	幅 (mm)	厚 (mm)	質量(g)	遺物番号
1	H19	IV	ナモト	25.4	19.5	5.0	2.7	276

表79 1 期土器観察表

遺物番号	地区・遺構	層位	器種	部位	整調		胎土	色調		その他	種別	
					外面	内面		外面	内面			
1940	T44	IV	深鉢	口縁部	染灰	染灰	粗砂 少ない	良好	黒 7.5YR6/6	ニオイ黒 7.5YR5/4		202
1941	M35	III	深鉢	胴部	ナテ	ナテ	粗砂 少ない 長石含む	普通	黒 7.5YR6/6	ニオイ黒 7.5YR6/4	内外面に織 痕あり	*
1942	J28	V	深鉢	口縁部付近	ナテ	ナテ	粗砂・礫 少ない 長石、石英含む	良好	黒褐 10YR3/1	灰黄褐 10YR5/2	内面に指痕 あり	*
1943	J26	IV	深鉢	口縁部付近	ナテ	ナテ	粗砂 少ない	良好	ニオイ黄褐 10YR6/4	ニオイ黄褐 10YR6/4		*
1944	N37	III	深鉢	口縁部付近	ナテ	ナテ	粗砂 少ない	良好	ニオイ黄褐 10YR7/3	灰黄褐 10YR4/2		*
1945	M18	III	深鉢	口縁部	ナテ	ナテ	粗砂 少ない 長石含む	普通	ニオイ黄褐 10YR6/3	灰黄褐 10YR6/2		*
1946	O39	IV	深鉢	口縁部	ナテ	ナテ	粗砂 普通 長石含む	やや 甘い	灰黄褐 10YR7/2	ニオイ黄褐 10YR7/4	外面に炭化 物付着	*
1947	L19	IV	深鉢	口縁部	染灰	ナテ	粗砂・礫 普通 長石、石英含む	普通	灰黄褐 10YR5/2	ニオイ黄褐 10YR5/3		*
1948	J20	VI	深鉢	胴部	ナテ	ナテ	粗砂 普通 長石含む	普通	黒灰 10YR4/1	黒灰 10YR4/1		*
1949	I18	IV	深鉢	口縁部	ナテ	ナテ	粗砂 普通	甘い	黒 7.5YR4/3	黒 7.5YR4/3		*
1950	J20	IV	深鉢	口縁部	ナテ	ナテ	粗砂 多い 長石含む	普通	ニオイ黄褐 10YR6/3	ニオイ黄褐 10YR6/4		*
1951	I23	IV	深鉢	口縁部	ナテ	ナテ	粗砂 普通 長石含む	普通	ニオイ黄褐 10YR6/3	ニオイ黄褐 10YR5/3		*
1952	J20	IV	深鉢	口縁部	ナテ	ナテ	粗砂 普通 長石含む	普通	ニオイ黄褐 10YR7/3	ニオイ黄褐 10YR7/2		*
1953	L19	IV	深鉢	口縁部付近	ナテ	ナテ	粗砂 少ない 長石含む	普通	ニオイ黄褐 10YR6/3	ニオイ黄褐 10YR6/3		*
1954	M38	II	深鉢	口縁部	染灰	ナテ	粗砂 普通 長石含む	普通	ニオイ黄褐 10YR6/3	ニオイ黄褐 10YR6/3		*
1955	U38	III	深鉢	口縁部	染灰	ナテ	粗砂 普通 長石含む	普通	ニオイ黄褐 10YR7/4	ニオイ黄褐 10YR6/4		*
1956	M18	III	深鉢	口縁部	染灰	ナテ	粗砂 少ない	普通	黒褐 10YR3/1	黒褐 10YR3/1		*
1957	I21	IV	深鉢	口縁部	染灰	ナテ	粗砂 非常に少ない 長石、石英、雲母含む	良好	ニオイ黄褐 10YR7/3	ニオイ黄褐 10YR7/2		*
1958	I21	IV	深鉢	胴部	染灰	ナテ	粗砂 普通 長石、雲母含む	良好	ニオイ黄褐 10YR6/3	ニオイ黄褐 10YR6/3		*
1959	L19	VI	深鉢	胴部	染灰	ナテ	粗砂・礫 多い 長石、石英含む	普通	黒 7.5YR2/1	黒 7.5YR2/1	内外面に炭 化物付着	*
1960	M18	III	深鉢	口縁部	染灰	ナテ	粗砂 普通 長石、雲母含む	普通	黒灰 10YR4/1	灰黄褐 10YR5/2		*
1961	T44	III	深鉢	口縁部	染灰	ナテ	粗砂 少ない 長石含む	良好	ニオイ黒 7.5YR6/4	ニオイ黒 7.5YR7/4		*
1962	U44	IV	深鉢	口縁部	染灰	ナテ	粗砂 少ない 長石、石英、雲母含む	良好	ニオイ黒 7.5YR6/4	ニオイ黒 7.5YR6/4		*

# 图 版



砂行遺跡全景



砂行遺跡東側の遺構群



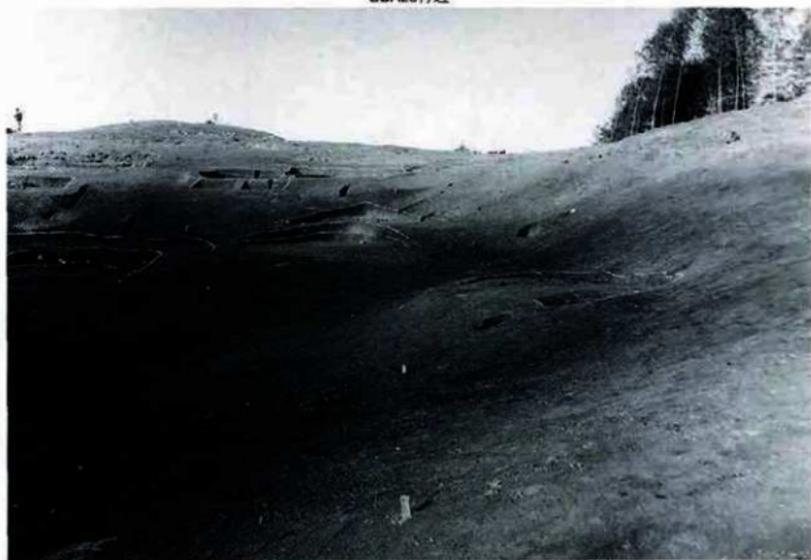
遺跡西側に展開する谷底平野 (砂行1号古墳から)



砂行大溝作業風景 (中央上は砂行1号古墳)



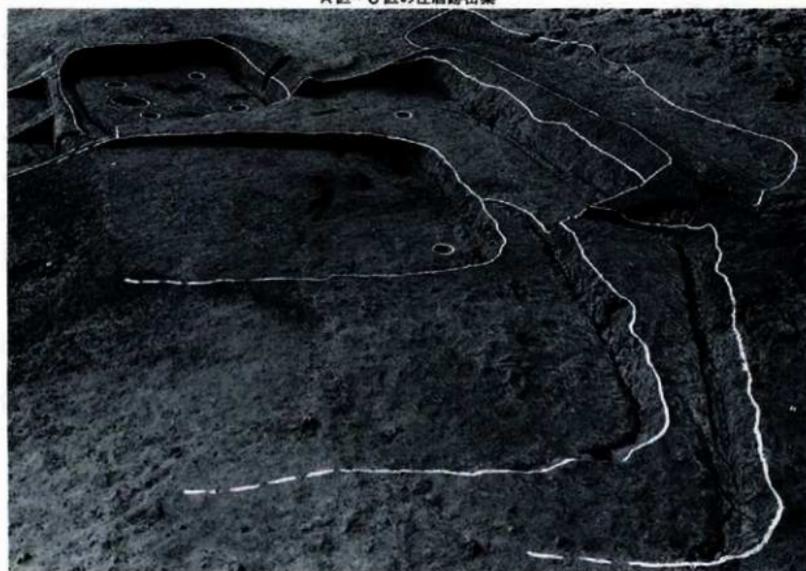
SBA26付近



SBA35付近



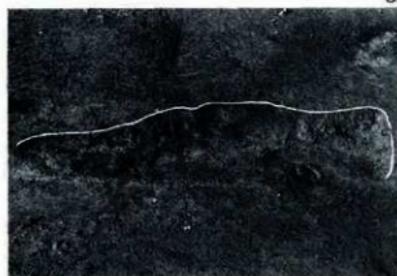
A区・C区の住居跡密集



右手前から SBA22・SBA07・SBA12・SBA08・SBC02



SBA01



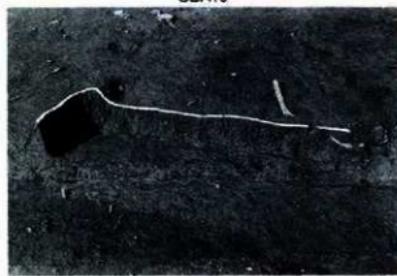
SBA03



SBA10



SBA11



SBA13



SBA12 · SBA08



SBA15



手前から SBA15・SBA35・SBA26・SBC19



SBA19



SBA23



SBA28



SBA31



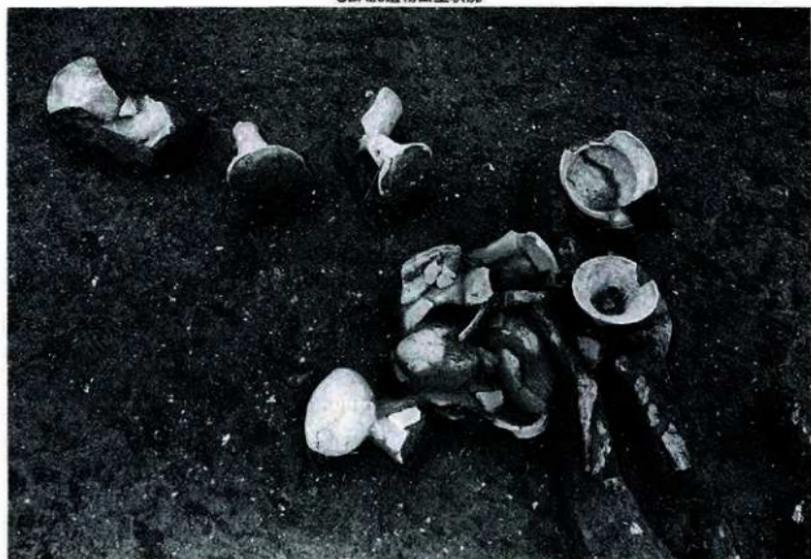
SBA26



SBA26



SBA26遺物出土状況



SBA26遺物出土状況



SBA30周辺



SBA30



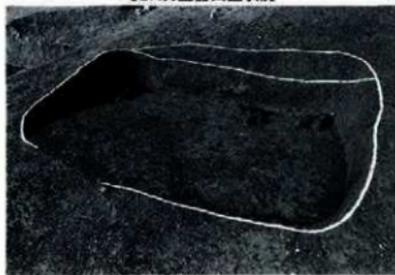
SBA33



SBA33土器出土状況



SBA32



SBA34



SBA39



SBC19附近



SBC01



SBC02



SBC03



手前から SBC05・SBC17・SBC06



SBC10



SBC12



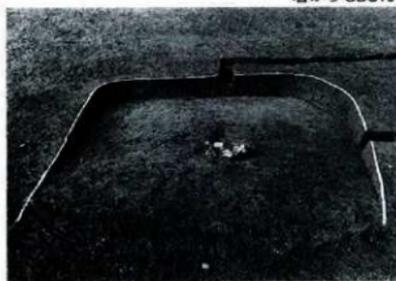
SBC14



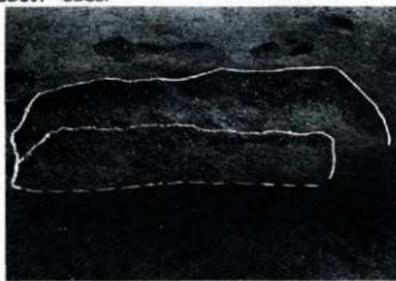
SBC12遺物出土状況



右から SBC16・SBC31・SBC27



SBC19



SBC23



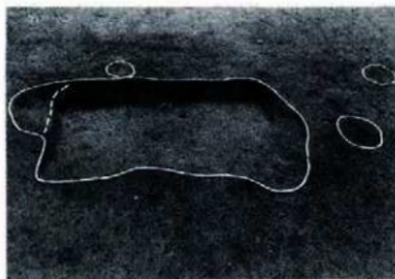
SBC24



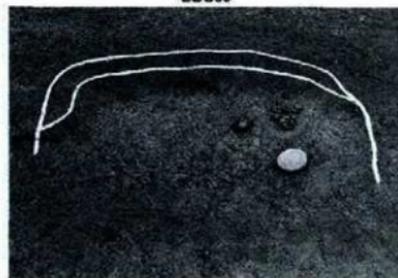
SBC25



SBC30



SBC33



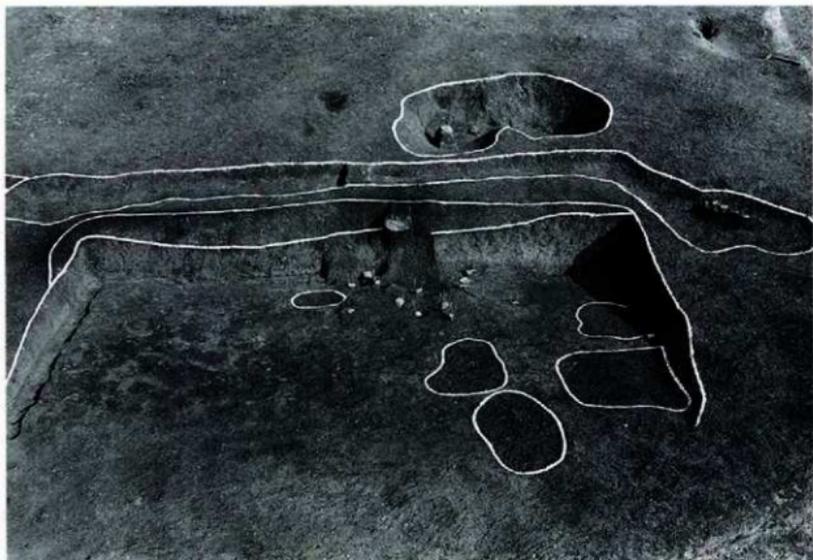
SBC34



SBC35



SBC37



SBC37



SBC37圖



SBC37内 SK 5



SBC38



SBE01周边



SBE01周边



SBE01



SBE01炭化材出土状況



SBE01遺物出土状況



SBE01破鏡出土状況



SBE01破鏡出土状況



SBE03



SBE03竈



SBE04



SBE04磨製石礫出土状況



SBE05



SBE07



SBE08



SBE08地床炉



SHA01



水場遺構



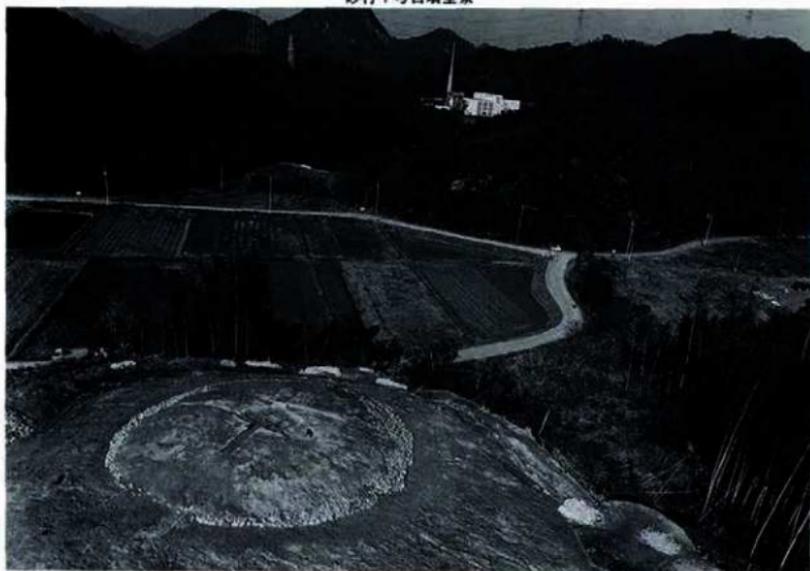
砂行1号古墳調査前



砂行1号古墳調査後



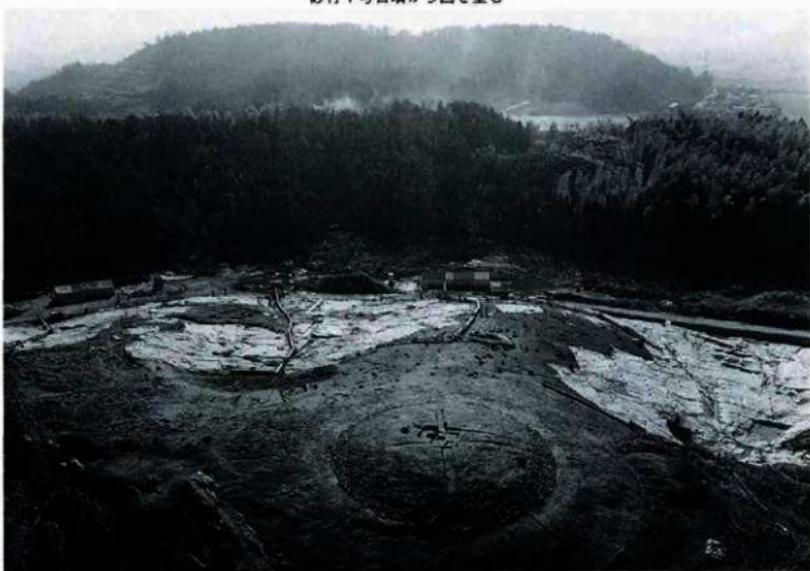
砂行1号古墳全景



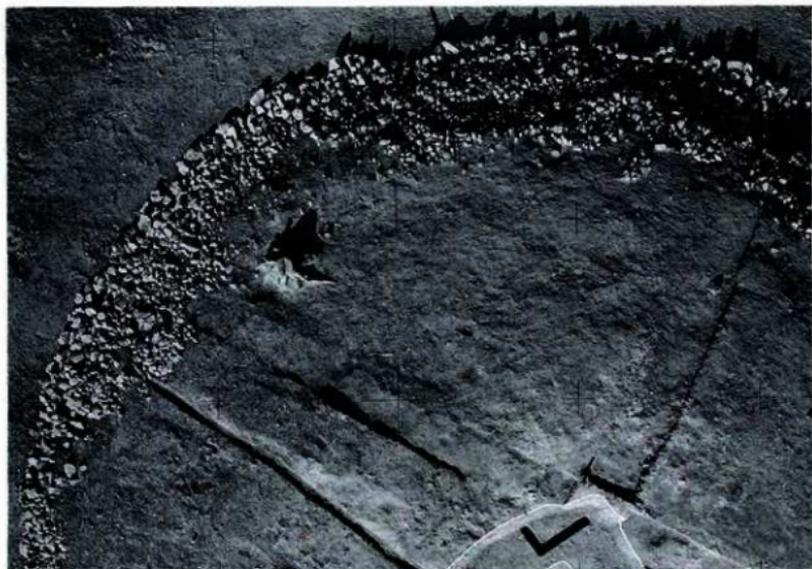
砂行1号古墳から北を望む



砂行1号古墳から西を望む



砂行1号古墳から南を望む



砂行1号古墳西側墓石



砂行1号古墳北東側墓石



砂行1号古墳第5列区画石列付近



砂行1号古墳第5列区画石列



砂行1号古墳第6列区画石列



砂行1号古墳第16列区画石列付近



砂行1号古墳造り出し部



砂行1号古墳造り出し部東くびれ部



砂行1号古墳墳頂部盜掘坑



砂行1号古墳墳頂部盜掘坑断面



砂行1号古墳西側墳丘断面



砂行1号古墳東側墳丘断面



砂行1号古墳第2主体部掘削前



砂行1号古墳第2主体部掘削後



砂行1号古墳第2主体部銅鏡出土状況



砂行1号古墳第2主体部出土銅鏡



砂行大溝掘削前



掘削途中の砂行大溝



砂行大溝全景



砂行大溝（手前）と砂行1号古墳（上中央）



掘削途中の砂行大溝湧水点



Ⅲ期砂行大溝湧水点



砂行大溝上流部



砂行大溝N区



砂行大溝湧水点付近の石敷き



砂行大溝湧水点脇の立石



掘削後の砂行大溝 N 区



掘削後の砂行大溝 N 区



砂行大溝 N 区遺物出土状況



砂行大溝 N 区遺物出土状況



砂行大溝 N ベルト・A ベルト



砂行大溝 B ベルト



砂行大溝 D ベルト



砂行大溝 E ベルト



砂行大溝屈折点堤状施設（上流から）



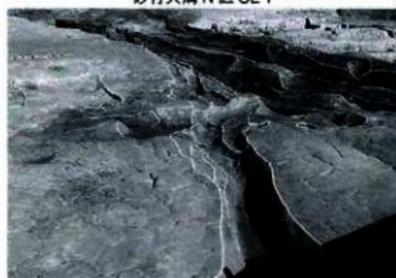
砂行大溝屈折点堤状施設（下流から）



砂行大溝 N 区 SE 1



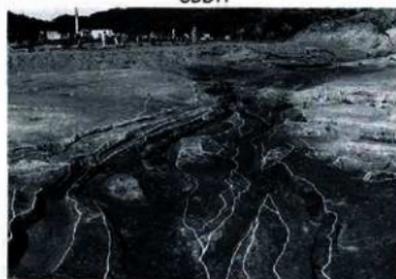
砂行大溝 A 区 SE 3



SDD11



SDD11断面



砂行大溝下流部



砂行大溝左岸瓦粘土探掘坑群



砂行大溝 B 区03層遺物出土狀況



砂行大溝 B 区03層遺物出土狀況



砂行大溝屈折点右岸04層遺物出土狀況



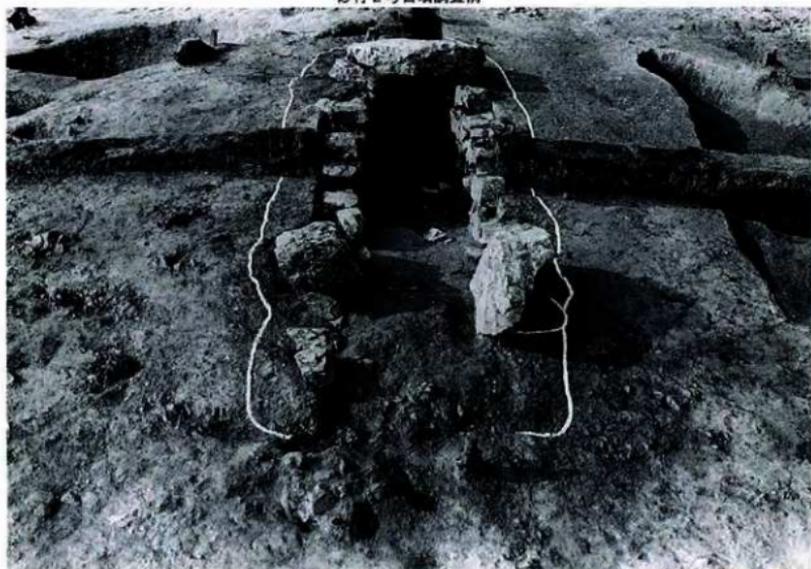
砂行大溝屈折点右岸04層遺物出土狀況



砂行大溝 E 区掘出土狀況



砂行2号古墳調査前



砂行2号古墳調査後



砂行2号古墳全景



砂行2号古墳横穴式石室



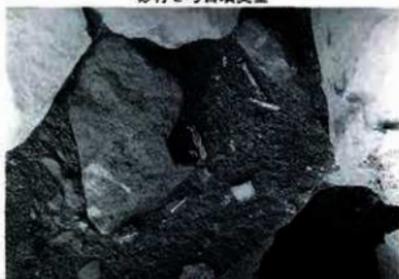
砂行2号古墳横穴式石室



砂行2号古墳奥壁



砂行2号古墳玄室遺物出土状況



砂行2号古墳玄門部人骨・遺物出土状況



砂行2号古墳東側壁構造



砂行2号古墳玄門部人骨・遺物出土状況



砂行3号古墳全景



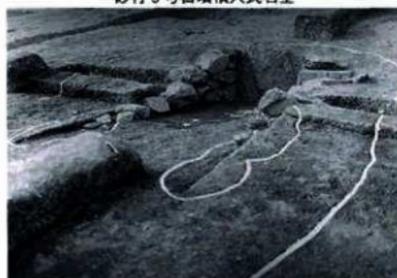
砂行3号古墳調査前



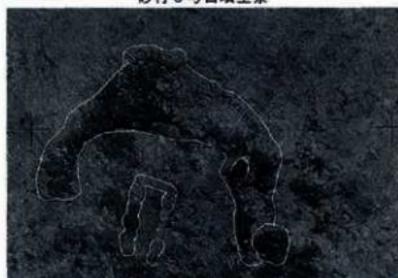
砂行3号古墳横穴式石室



砂行3号古墳全景



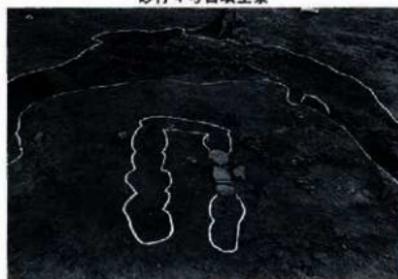
砂行3号古墳横穴式石室



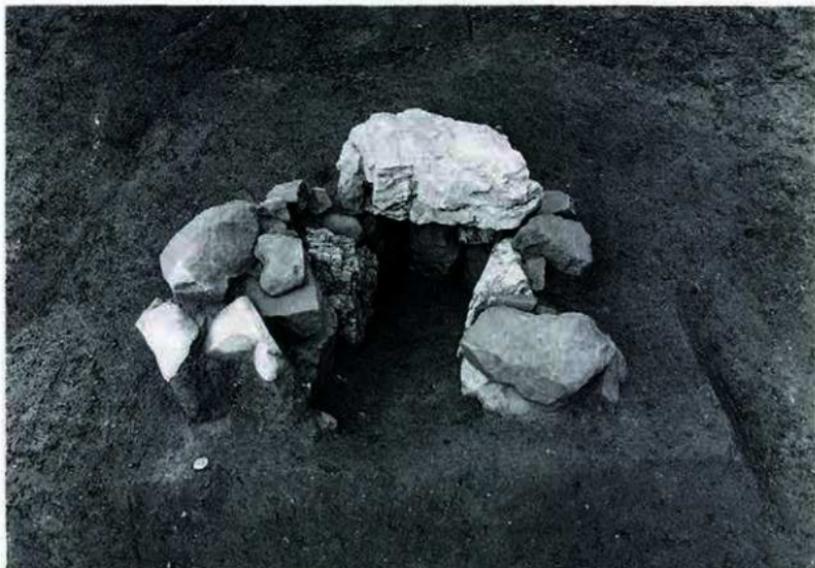
砂行4号古墳全景



砂行4号古墳全景



砂行4号古墳横穴式石室



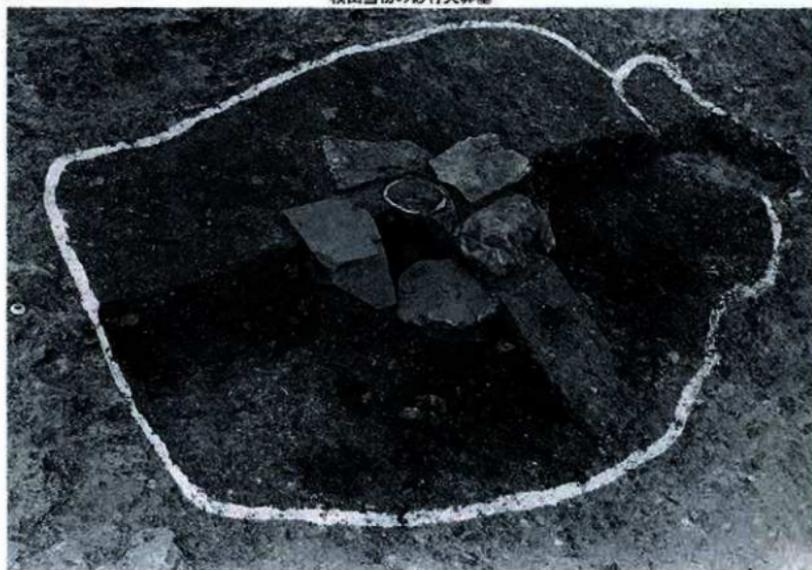
砂行5号古墳全景



砂行5号古墳横穴式石室



検出当初の砂行火葬墓



砂行火葬墓全景



砂行火葬墓全景



砂行火葬墓石組み



砂行火葬墓石組み



砂行火葬墓石組み



砂行火葬墓閉塞石除去後



砂行火葬墓石組み



砂行火葬墓閉塞石除去後の甕骨器



D区中世水田 (東から)



D区中世水田 (北から)



D区中世水田 (西から)



SKE15



SKE17



SBA01 (1001)



SBA01 (1002)



SBA01 (1003)



SBA01 (1004)



SBA01 (1005)



SBA01 (1006)



SBA04 (1009)



SBA07 (1011)



SBA07 (1014)



SBA12 (1037)



SBA12 (1028)



SBA12 (1054)



SBA12 (1049)



SBA15 (1063)



SBA15 (1065)



SBA15 (1067)



SBA15 (1068)



SBA15 (1069)



SBA15 (1070)



SBA15 (1077)



SBA15 (1081)

住居跡出土土器(3)



SBA15 (1074)



SBA15 (1078)



SBA15 (1079)



SBA16 (1090)



SBA16 (1096)



SBA16 (1097)



SBA16 (1092)



SBA26 (1119)



SBA26 (1120)



SBA26 (1121)



SBA26 (1122)



SBA26 (1124)



SBA26 (1125)



SBA26 (1127)



SBA33 (1144)



SBA33 (1145)



SBA26 (1128)



SBA33 (1146)



SBA26 (1129)



SBA33 (1150)

住居跡出土土器(6)



SBA33 (1151)



SBA33 (1153)



SBA33 (1155)



SBA33 (1157)



SBA33 (1159)



SBA33 (1160)

住居跡出土土器(7)



SBA33 (1164・1174)



SBA33 (1166)



SBA33 (1167)



SBA33 (1169)



SBA33 (1168)



SBA33 (1170)



SBA33 (1172)

住居跡出土土器(8)



SBA35 (1190)



SBA35 (1191)



SBA35 (1192)



SBA35 (1197)



SBA35 (1198)



SBA35 (1199)



SBA35 (1200)



SBA35 (1203)

住居跡出土土器(9)



SBA35 (1204)



SBA35 (1205)



SBA35 (1206)



SBA35 (1210)



SBA39 (1213)



SBA39 (1214)



SBA39 (1215)



水場遺溝 (1405)



水場遺溝 (1409)



SDA11 (1177)



SBC03 (1231)



SBC01 (1220)



SBC03 (1234・1232)

住居跡出土土器(11)・水場遺溝出土土器



SBC03 (1239)



SBC12 (1261)



SBC12 (1262)



SBC12 (1263)



SBC14 (1270)



SBC14 (1272)



SBC14 (1275)



SBC14 (1276)



SBC19 (1296)



SBC14 (1279)



SBC19 (1299)



SBC19 (1294 · 1295)



SBC19 (1298)



SBC19 (1304)



SBC19 (1303)



SBC28 (1323)



SBC29 (1331)



SBC33 (1344)



SBC36 (1352)



SBC37 (1353)



SBC37 (1359)



SBC37 (1360)



SBC38 (1364)



SBC38 (1365)



SBE01 (3001)



SBE02 (1384)



SBE01 (1371)



SBE03 (1386)



SBE01 (1377)



SBE03 (1387)



3008鏡背



3008鏡面

砂行1号古墳第2主体部出土銅鏡(1)



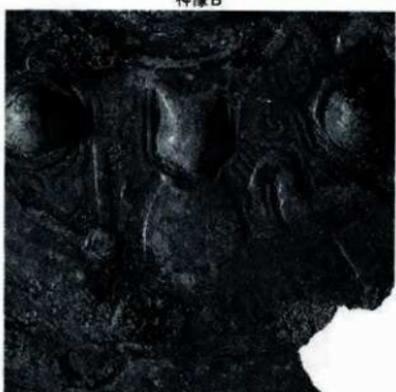
神像 A



神像 B



神像 C



神像 D



砂行 1 号古墳第 2 主体部出土銅鏡(2)



砂行1号古墳出土鉄製品



1411

1413



1412



1416



1414



1417



1419



1420



1421



1422



1424



砂行大溝出土土器(2)



1439



1443



1449



1454



1455



1465



1489



1491



1492



1504



1505



1506



1517



1527



1515



1522



1542



1532



1547



1548



1550

砂行大溝出土土器(5)



砂行大溝出土土器(6)



1558



1563



1561



1562



1564



1559



1563



1561



1562



1564



1565



1565

砂行大溝出土土器(7)



1566



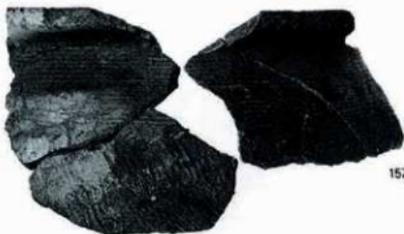
1567



1569



1570

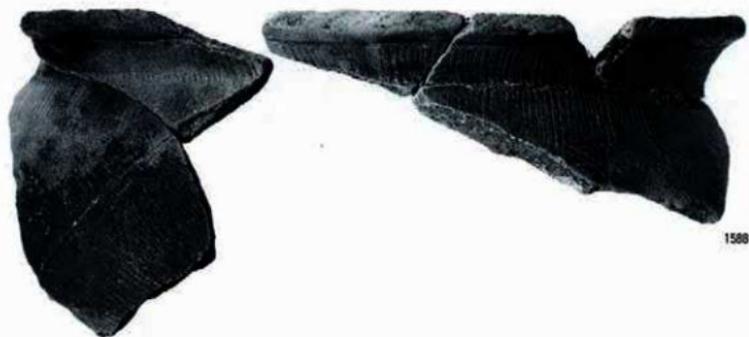


1571



1575

砂行大溝出土土器(8)



1588



1622

1623

1624



1625



1626



1627

砂行大溝出土土器(9)



砂行大溝出土土器(10)





1743



1752



1744



1753



1745



1754



1746



1757



1758



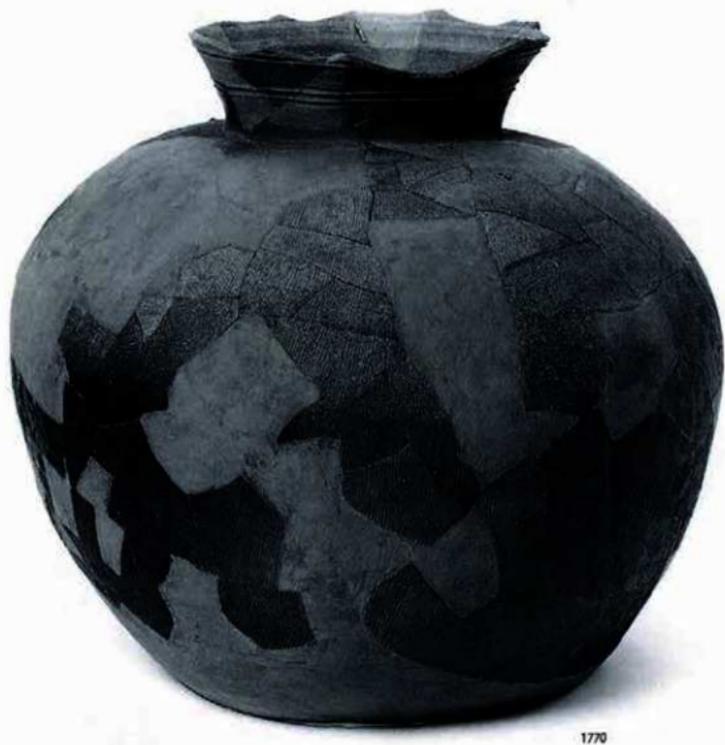
1763

1762



1764

砂行大溝出土土器(12)



砂行大冢出土土器(13)

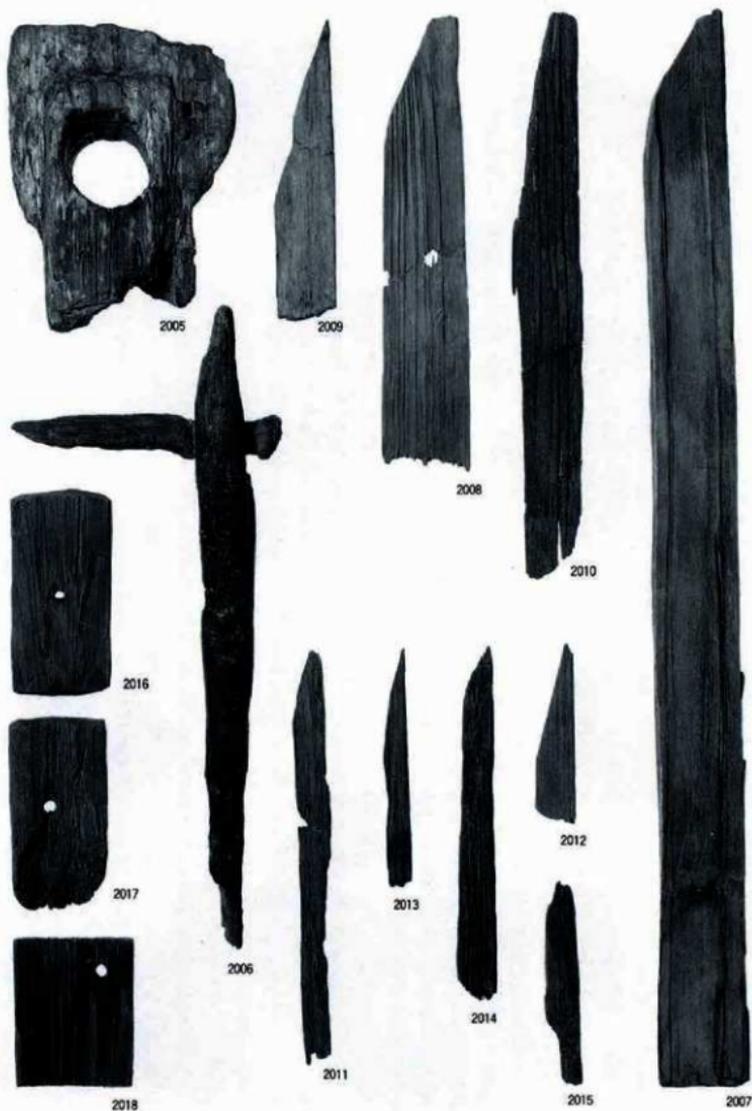


1771

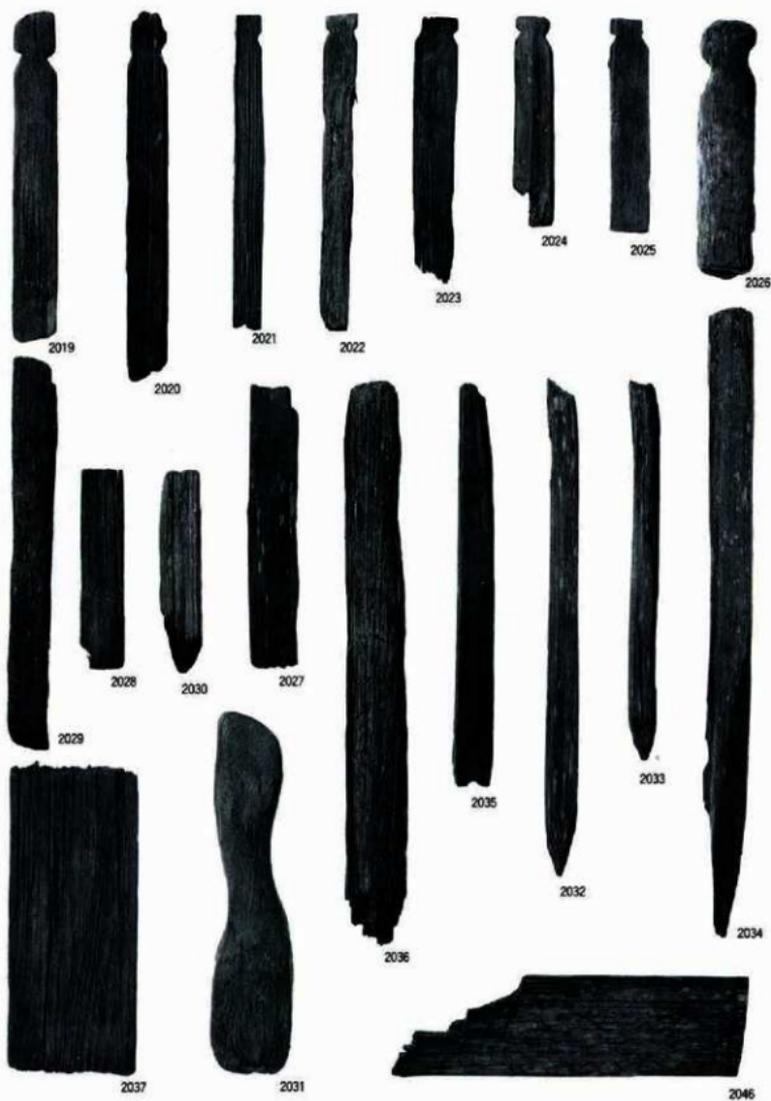


1772

砂行大溝出土土器(4)



砂行大溝出土木製品(1)



砂行大溝出土木製品(2)



2006柄部



2006刃部



砂行大溝出土木製品(3)



2019側面



2025側面



2022側面



2024側面



2038



2041



2042



2043



2044



2045

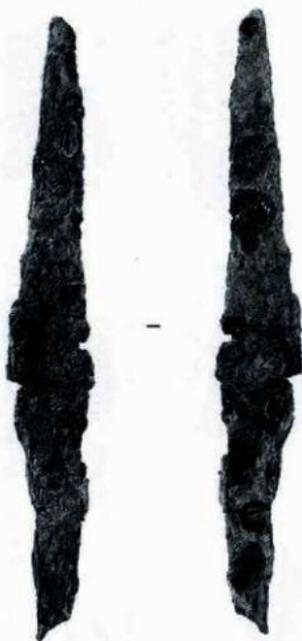


2039



2040

砂行大溝出土木製品(4)



砂行2号古墳出土刀子 (3012)



3013

3015

3016



3014

3017

砂行2号古墳出土鉄釘



砂行2号古墳 (1774)



砂行2号古墳 (1775)



砂行3号古墳 (1776)

砂行2・3号古墳出土遺物



砂行火葬墓藏骨器蓋



1780

砂行火葬墓藏骨器



1784



1789



3020



3018



3019

包含層出土金屬製品



1800

1798

1793

砂行火葬墓・包含層出土金屬製品・包含層出土土器(1)



1801



1814



1804

1803



1827



1807



1830



1809



1834



1856



1877



1859



1883

1886



1862



1867

1868



1889



1890



1891



1892



1893



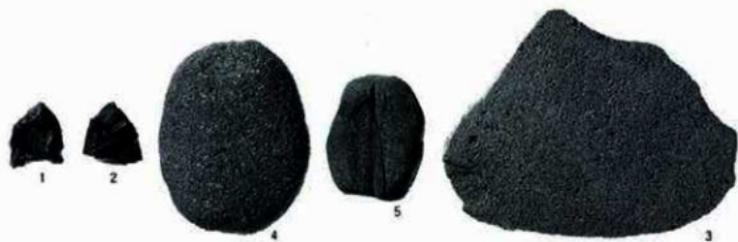
包含層出土土器(4)



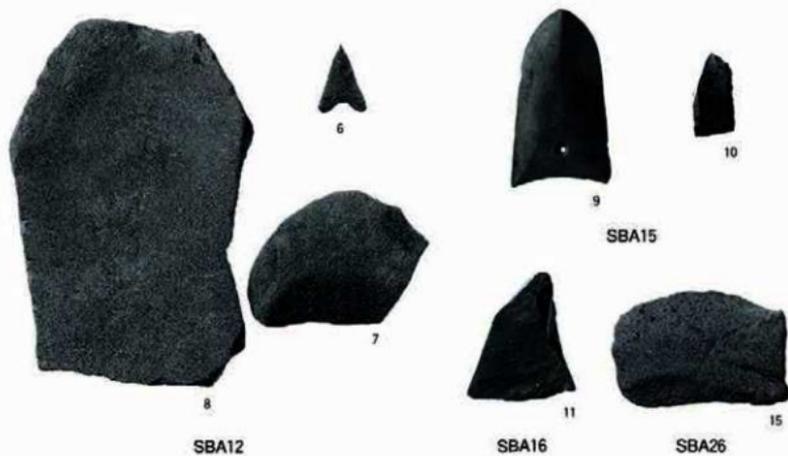
包含層出土土器(5)



包含層出土金屬製品



SBA08



SBA12

SBA15

SBA16

SBA26



SBA19  
住居跡出土石器(1)



16



19



17



18

SBA33



21



22



23



25



20



28

SBA34

SBA36



24



26

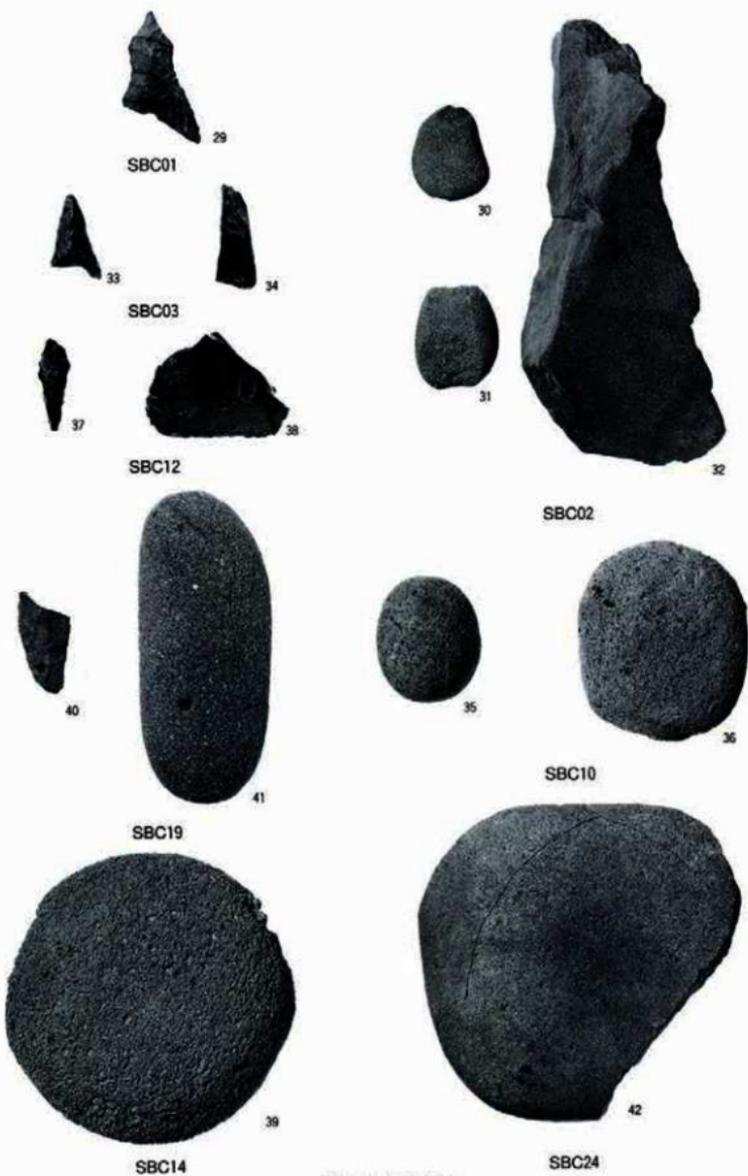
SBA35



27

SBA35

住居跡出土石器(2)



住居跡出土石器(3)



43



44



45



47



46



48



49



50

SBE01



51



52



53



54



55

SBE02

SBE04



56

SBE05



57

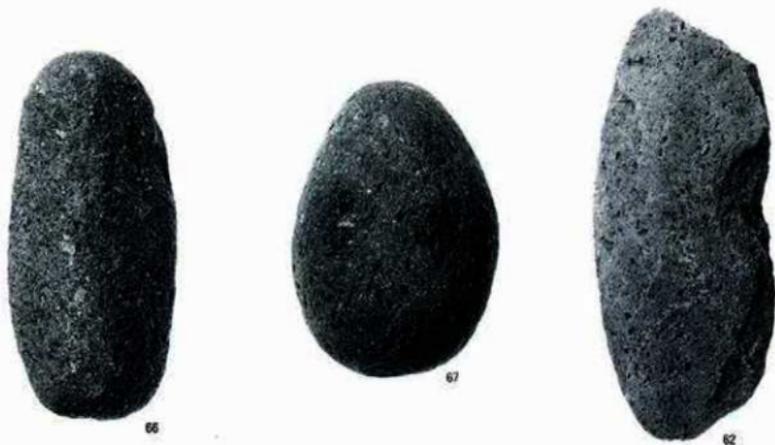
SBE08

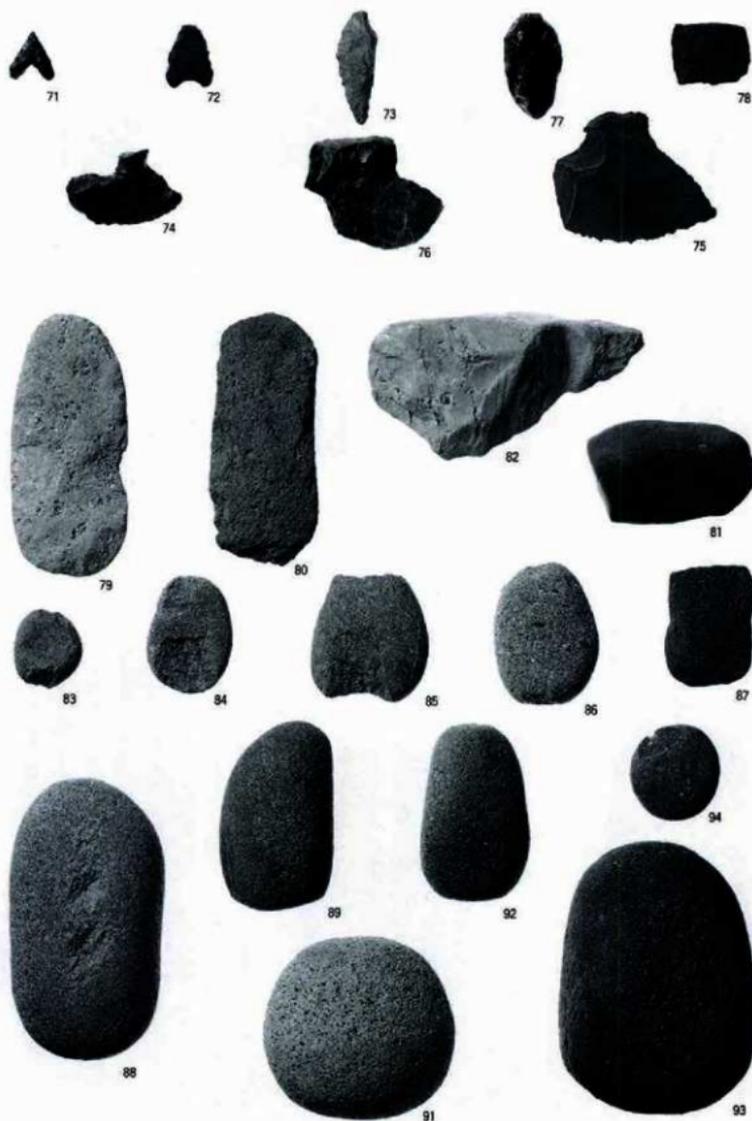


58

SBE09

住居跡出土石器(4)





砂行大清出土石器(2) 03層(1)



90



95



96



99



97



98



100



102

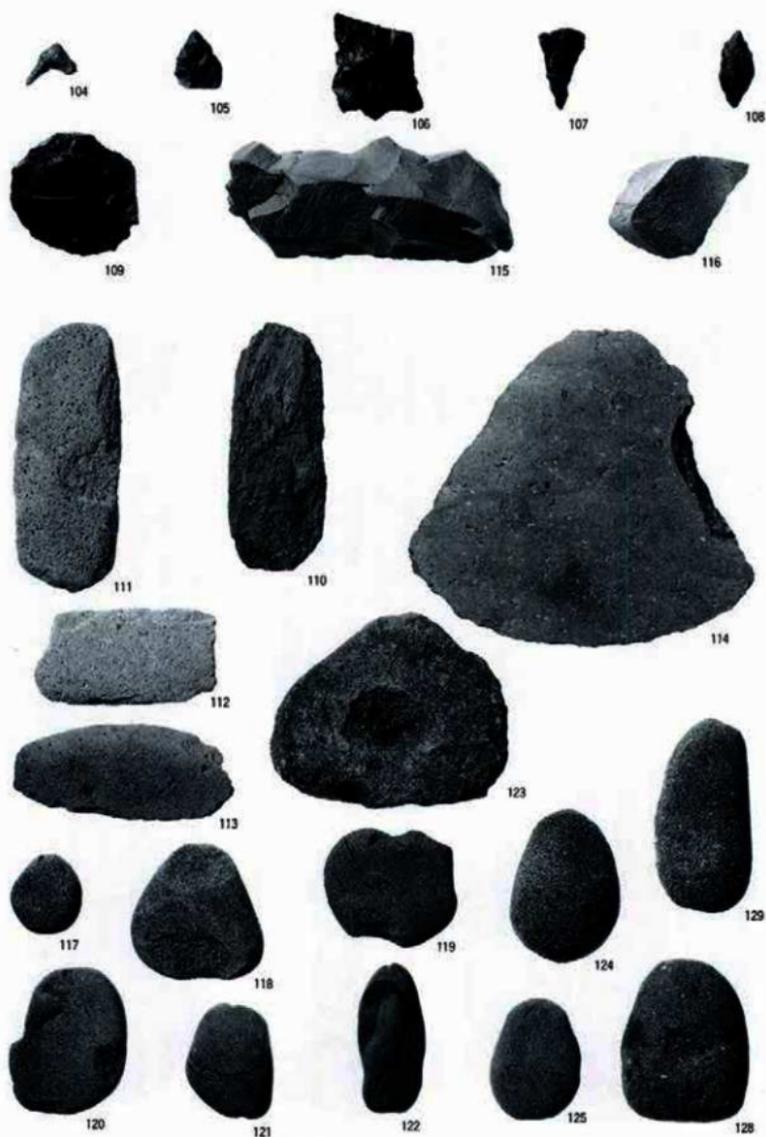


101



103

砂行大溝出土石器(3) 03層(2)



砂行大溝出土石器(4) 04層(1)



砂行大溝出土石器(5) 04層(2)



140



141



142



143



144



146



148



148



145



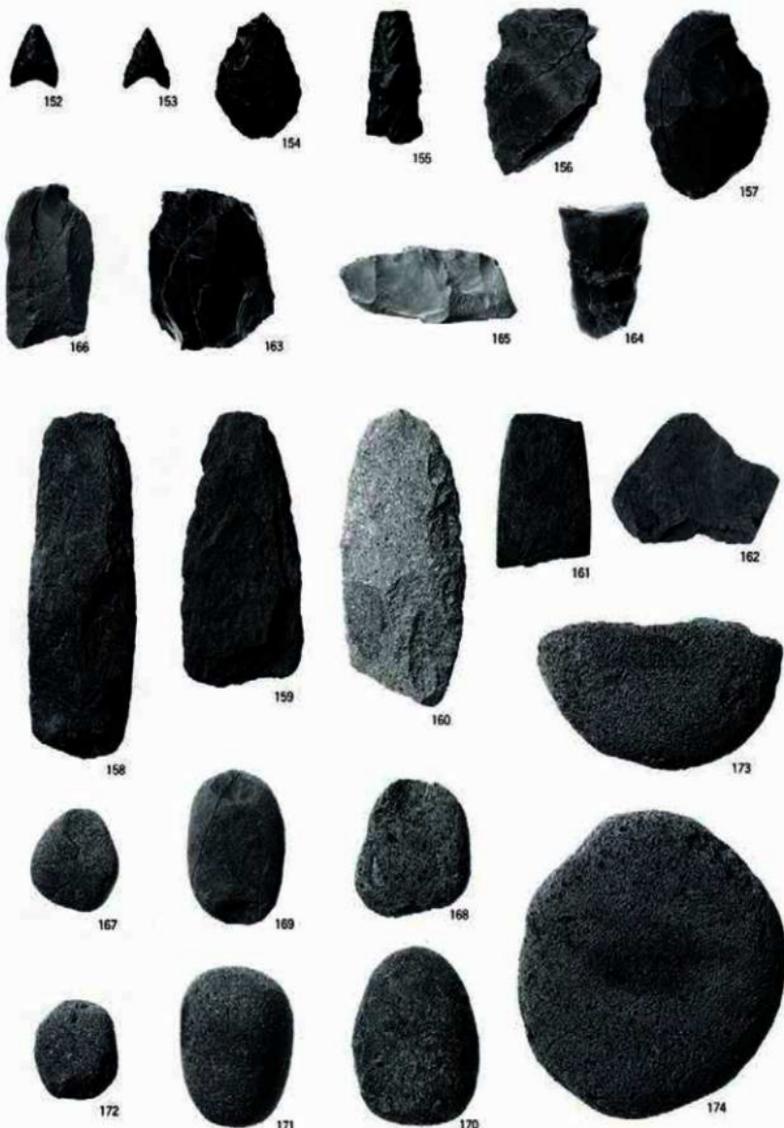
147



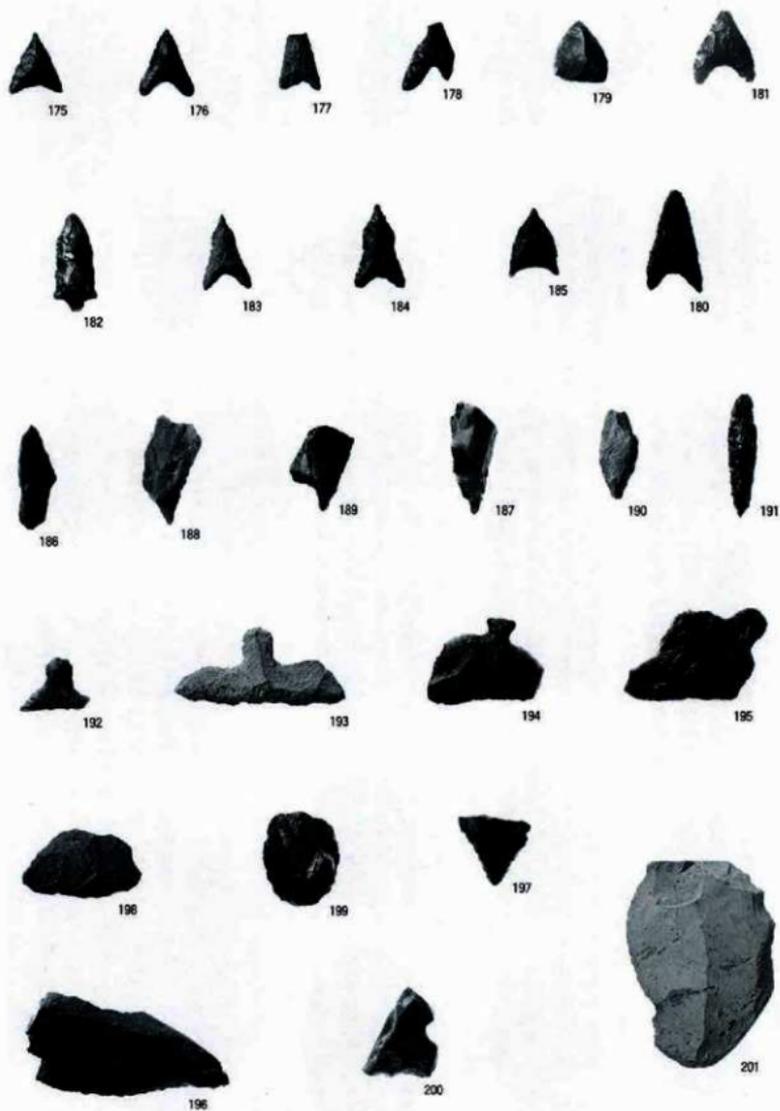
150



151



砂行大溝出土石器(?) 06層



包含層出土石器(1)



212



213



214



202



204



203



205



206



207

包含層出土石群(2)



208



209



210



211の腹面



215



216



217



218



219



220



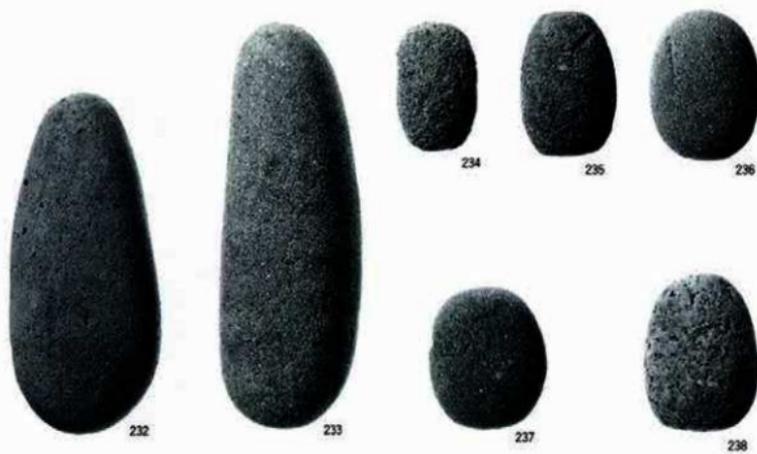
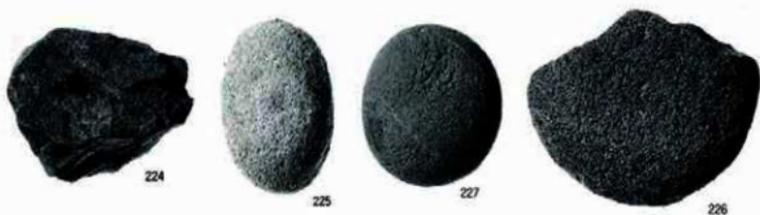
221



222



223



包含層出土石器(4)



242



243



244



239



240



245



248



246



247



241



包含層出土石器(6)



258



262



260



261



259



263



264

包含層出土石器(7)



273



274



275



276



285



266



267



270



269



271

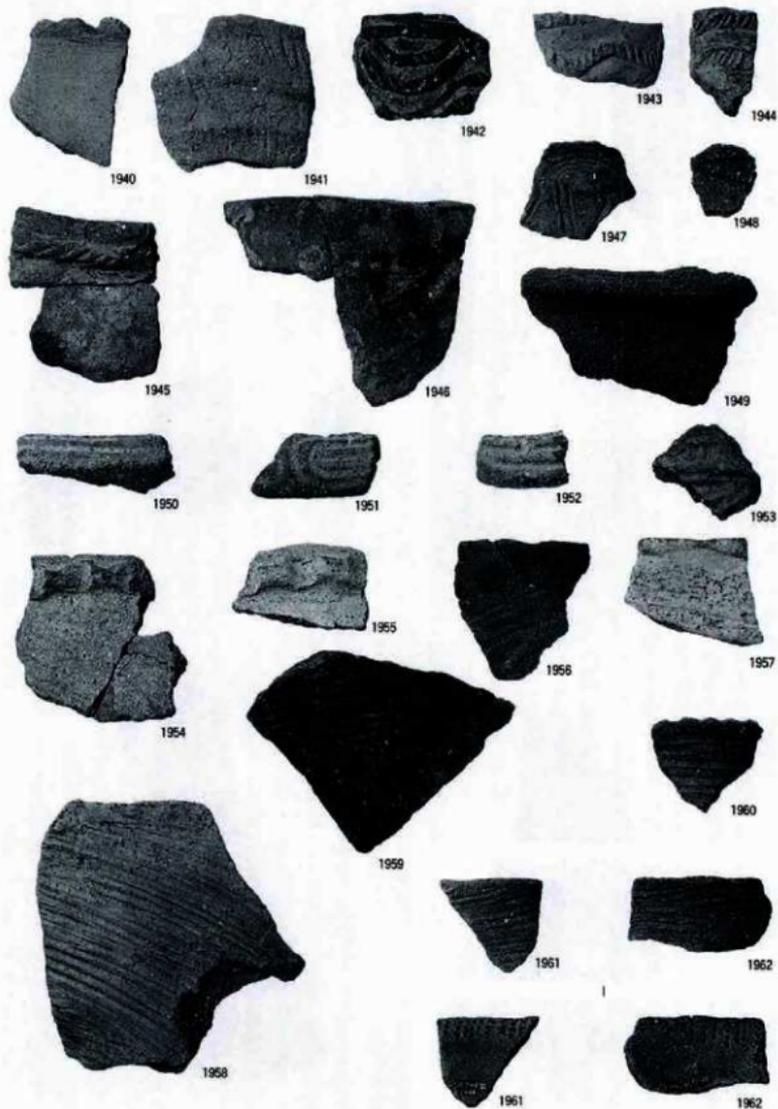


272

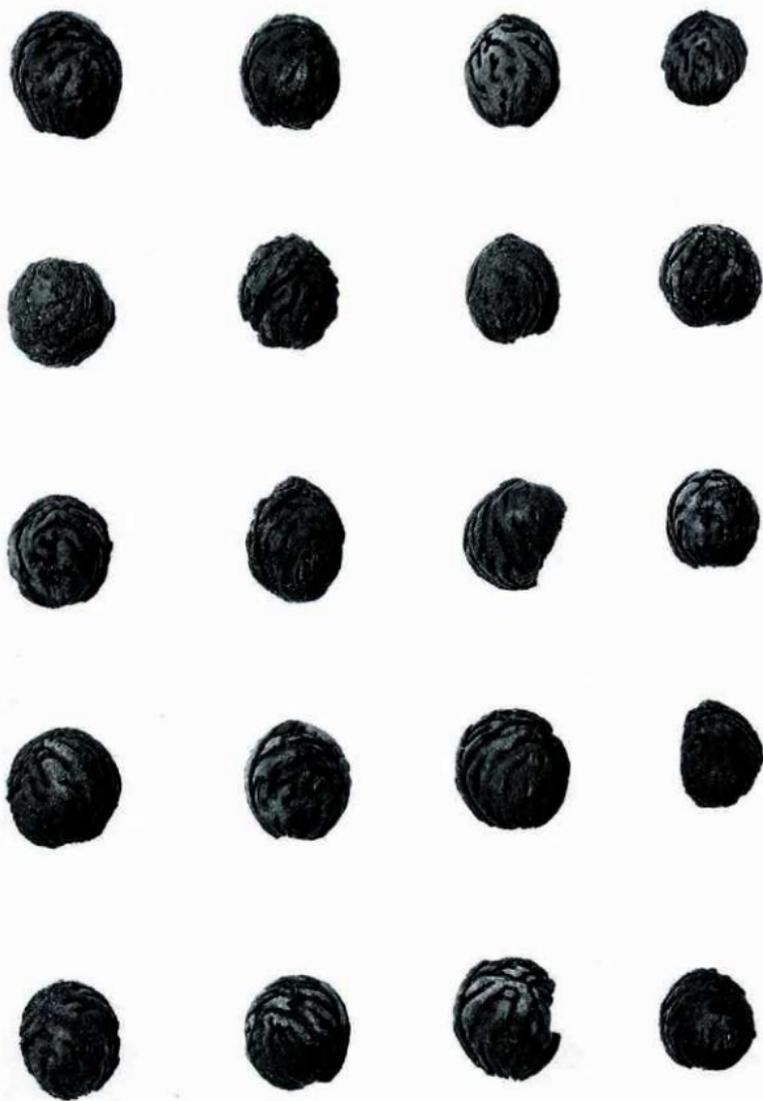


268

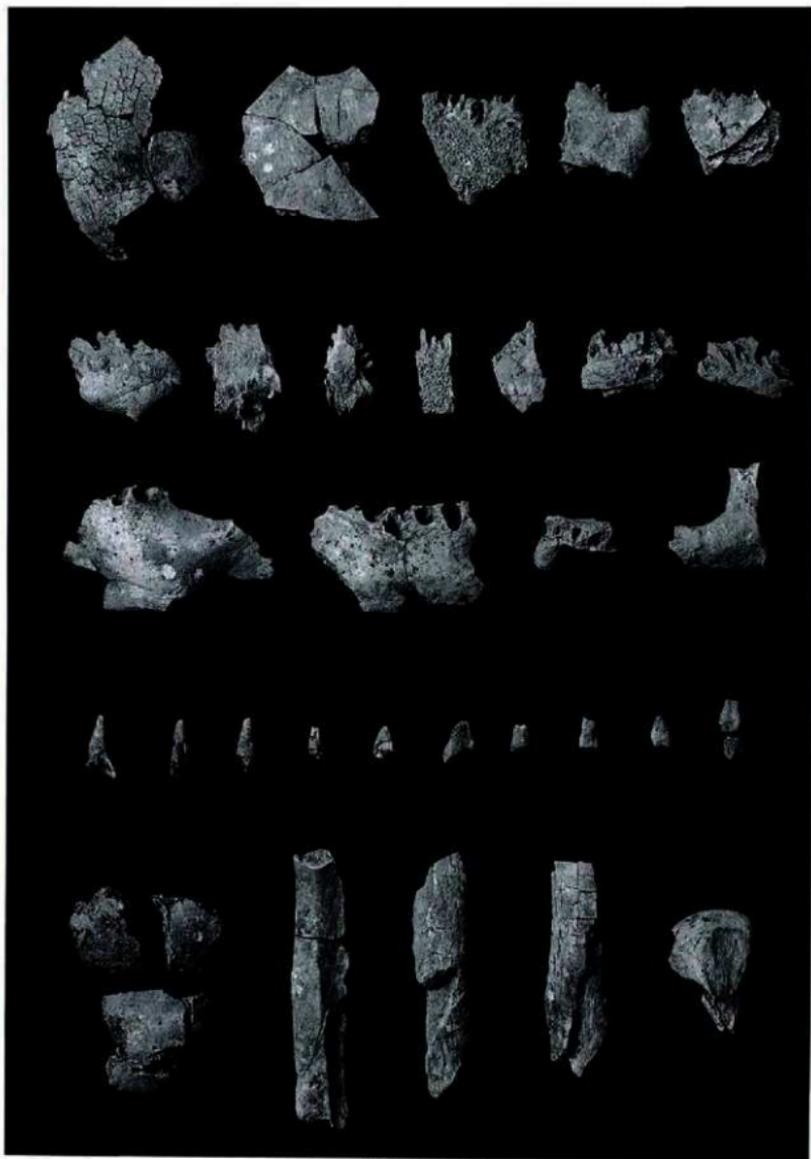
包舍層出土石器(8)



包含層出土 I 期の土器



砂行大溝D区03層出土桃核



砂行火葬墓出土人骨（一部）



1 a. スギ (横断面)  
SBA26 C35 bar: 0.5mm



1 b. 同 (接線断面) bar: 0.1mm



1 c. 同 (放射断面) bar: 0.05mm



2 a. コナラ節 (横断面)  
SBC05 C1 bar: 1.0mm



2 b. 同 (接線断面) bar: 0.1mm



2 c. 同 (放射断面) bar: 0.1mm



3 a. クヌギ節 (横断面)  
SBC24 C1 bar: 1.0mm



3 b. 同 (接線断面) bar: 0.1mm



3 c. 同 (放射断面) bar: 0.1mm

砂行遺跡の竪穴住居跡出土炭化材(1)



4 a. クリ (横断面)  
SBA26 C47 bar:1.0mm



4 b. 同 (接線断面) bar:0.1mm



4 c. 同 (放射断面) bar:0.1mm



5 a. シイノキ属 (横断面)  
SBC05 C7 bar:1.0mm



5 b. 同 (接線断面) bar:0.1mm



5 c. 同 (放射断面) bar:0.1mm



6 a. ツブラジイ (横断面)  
SBA12 C5 bar:1.0mm



6 b. 同 (接線断面) bar:0.1mm



6 c. 同 (放射断面) bar:0.1mm

砂行遺跡の堅穴住居跡出土炭化材(2)



7 a. クスのノキ科 (横断面)  
SBA12 C 7 bar: 1.0mm



7 b. 同 (接線断面) bar: 0.1mm



7 c. 同 (放射断面) bar: 0.1mm



8 a. イヌエンジュ (横断面)  
SBA12 C 2 bar: 1.0mm



8 b. 同 (接線断面) bar: 0.1mm



8 c. 同 (放射断面) bar: 0.1mm

砂行遺跡の竪穴住居跡出土炭化材(3)

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	すぎょういせき						
書名	砂行遺跡						
副書名							
巻次							
シリーズ名	岐阜県文化財保護センター 調査報告書						
シリーズ番号	第65集						
編著者名	成瀬正勝 鈴木隆雄 藤根 久 新山雅広 植田弥生 今村美智子 杉原麻記						
編集機関	財団法人 岐阜県文化財保護センター						
所在地	〒502-0003 岐阜県岐阜市三田洞東1-26-1 Tel058-237-8550						
発行年月日	西暦2000年12月25日						
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間 調査面積	調査原因
所取遺跡名	所在名	市町村	遺跡番号				
砂行遺跡 砂行古墳群 砂行火葬墓	岐阜県関市下 有知字砂行	21205	07253 08837～ 08843 09248 09249	35° 30′ 44″	136° 55′ 30″	19970224～ 19970328 19970425～ 19980312 15,800㎡	関テクノハイラ ンド開発事業に 伴う
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項	
砂行遺跡 砂行古墳群 砂行火葬墓	集落跡 古墳 火葬墓 祭祀遺構	弥生～ 奈良	竪穴住居 掘立柱建物 大溝 古墳 火葬墓	66軒 2軒 1条 7基 1基	弥生土器 土師器 須恵器 白瓷 石器 木器 銅鏡 鉄製品	弥生時代末の急斜 面集落と方格規矩 四神鏡破鏡 古墳時代中期の造 り出し付き円墳と 特殊な銅鏡および 水辺の祭祀遺構 古墳時代後期末の 群集墳と奈良時代 の火葬墓	

岐阜県文化財保護センター調査報告書 第65集

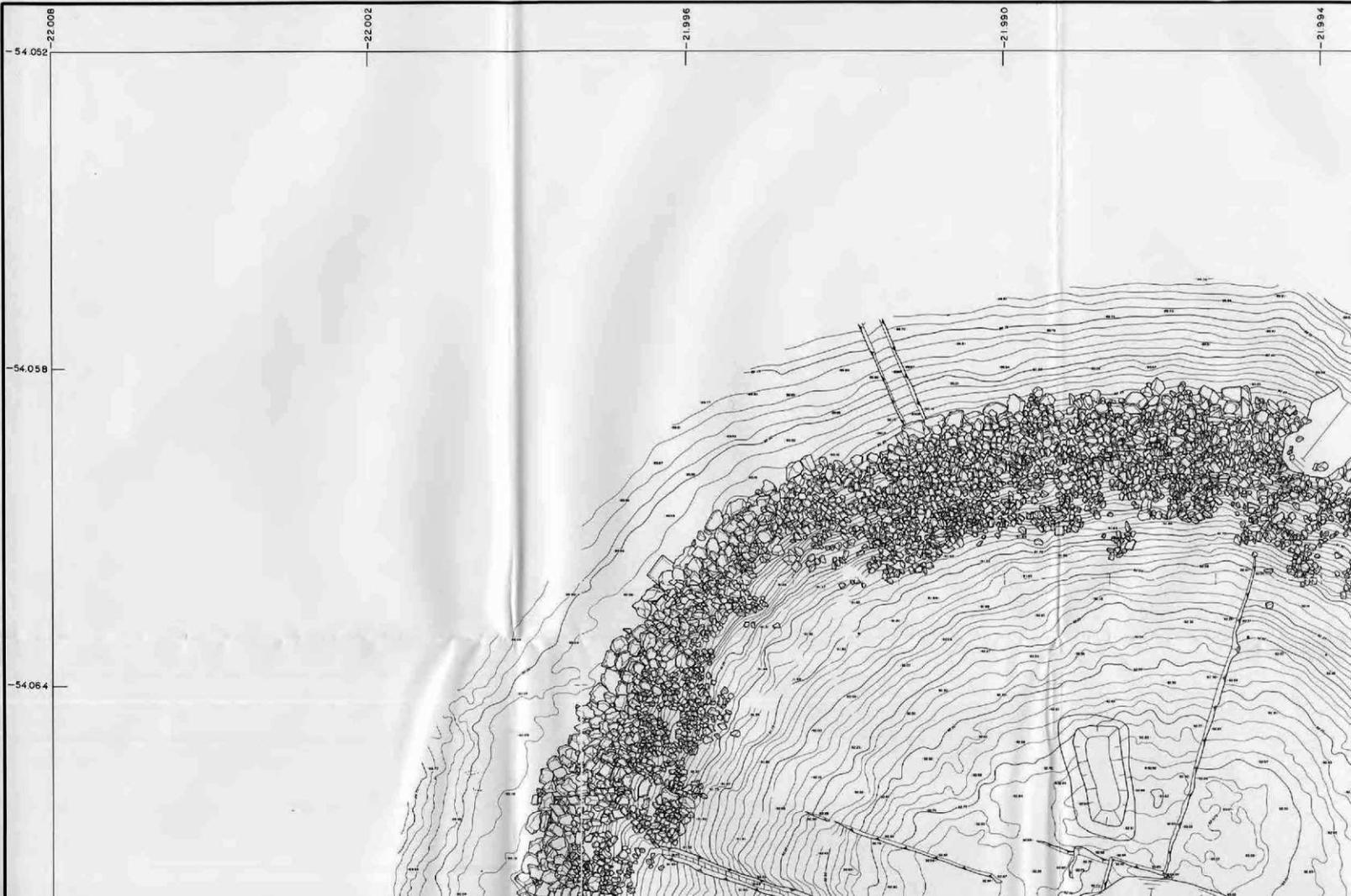
# 砂 行 遺 跡

2000年12月25日

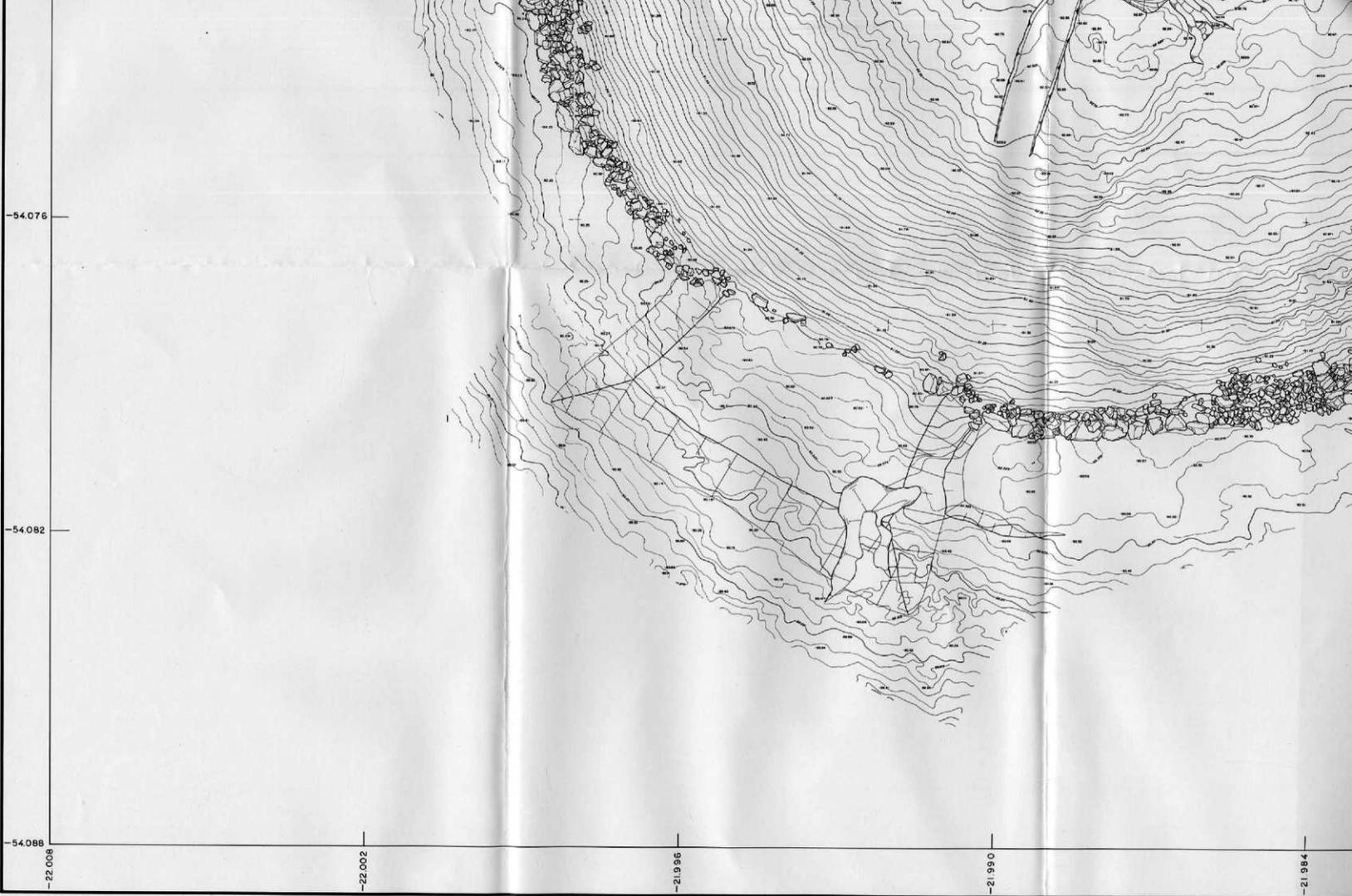
編集・発行 財団法人 岐阜県文化財保護センター  
岐阜市三田洞東1-26-1

印 刷 西濃印刷株式会社

# 砂行 1 号古墳平面図

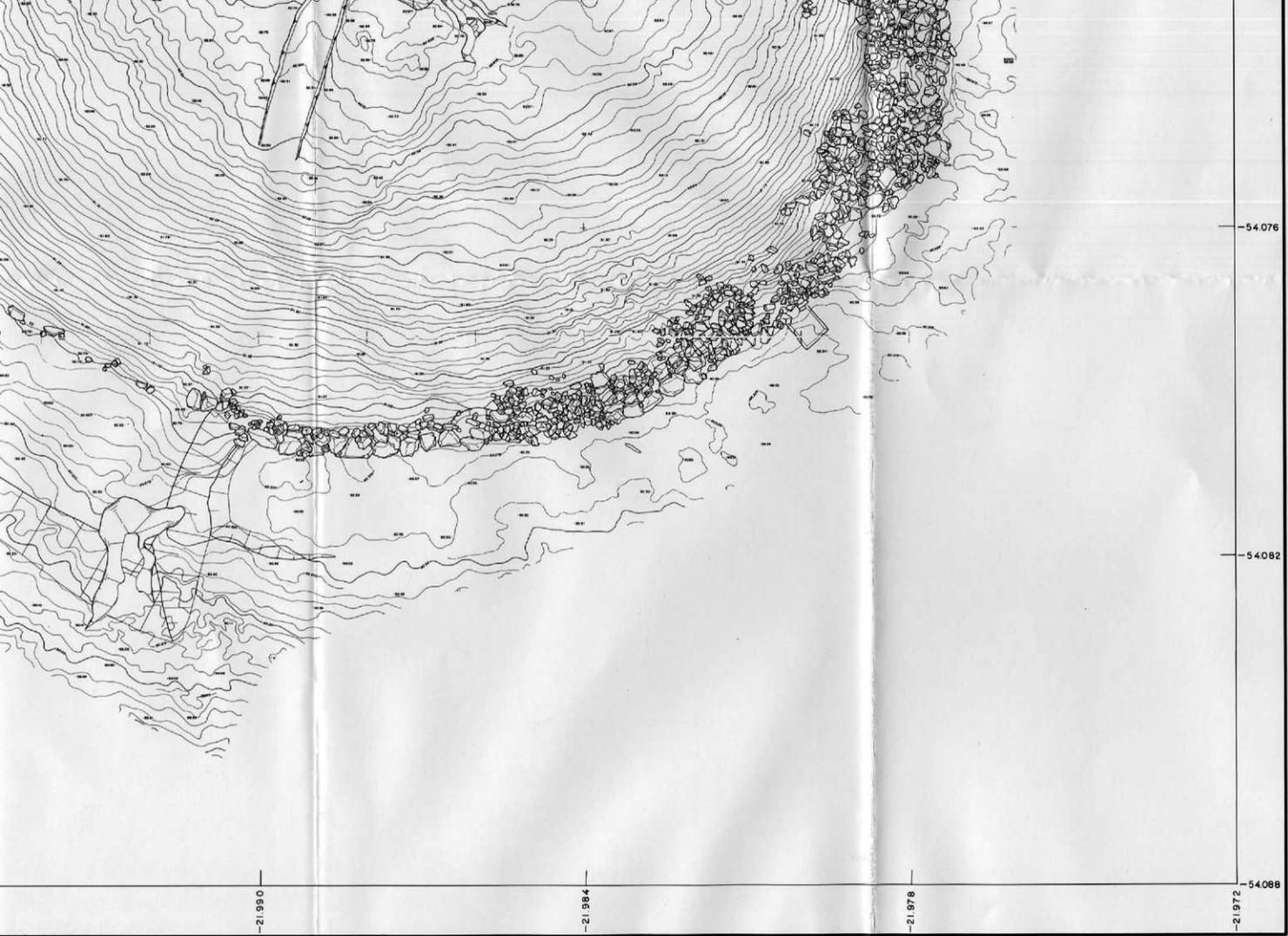






1 : 60

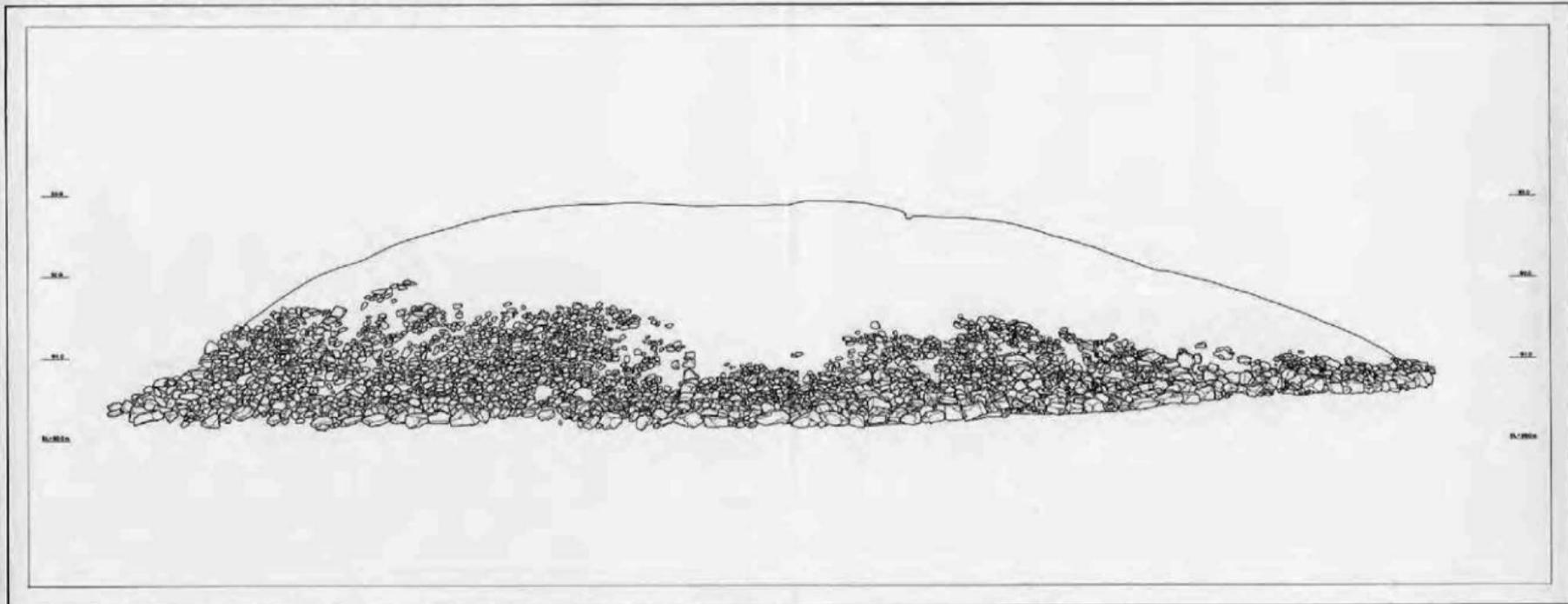




0 1 3 6m

1 : 60

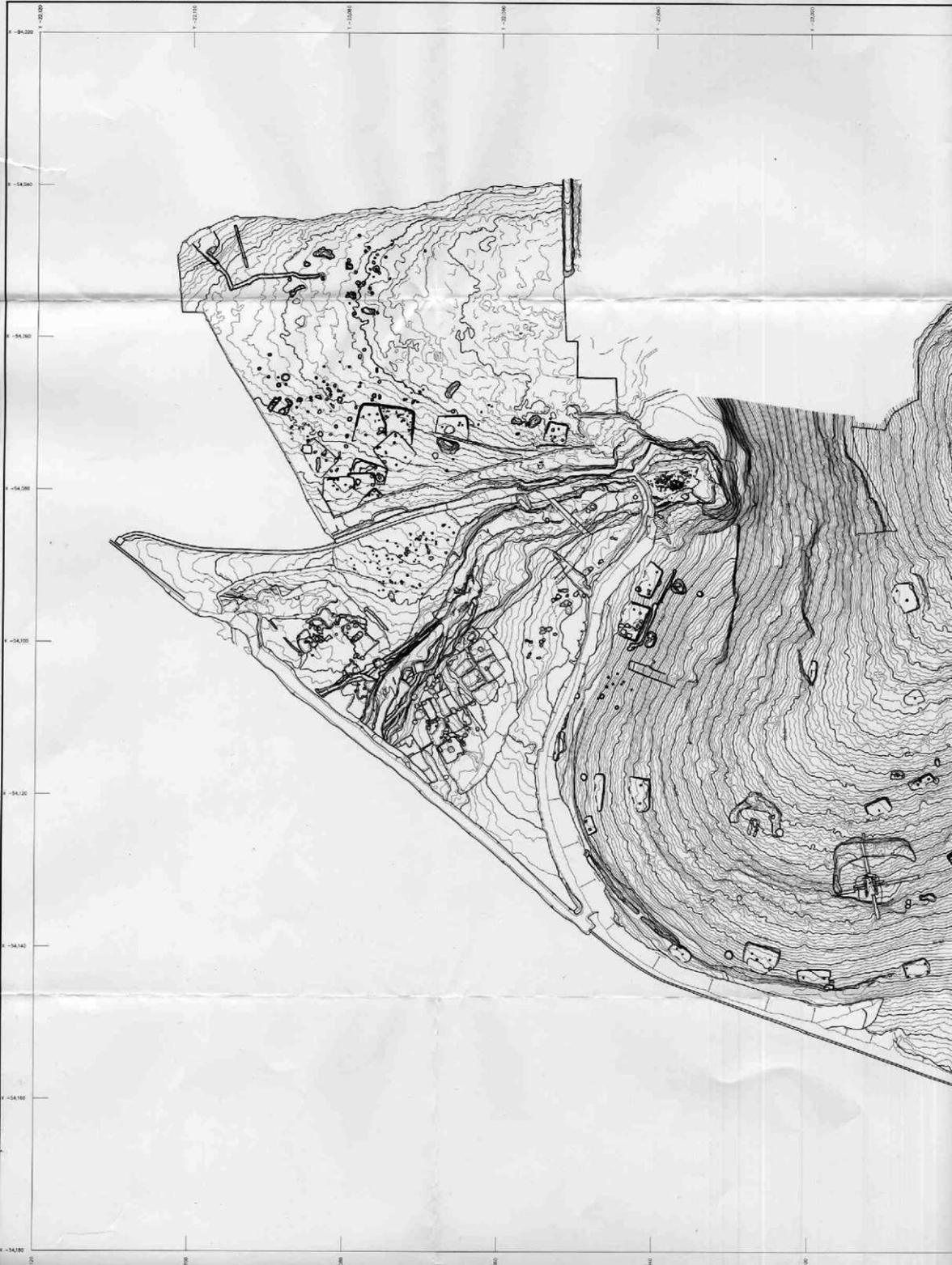
# 砂行 1 号古墳西側面図



1 : 60



# 砂行遺跡平面図





7-21,000

7-21,000

7-21,000

7-21,000

7-21,000

7-21,000

7-24,250

7-24,250

7-24,250

7-24,250

7-24,250

7-24,250

7-24,250

7-21,000

7-21,000

7-21,000

7-21,000

7-21,000

7-21,000